

小林よしのり「思想漫画」の特徴

—「公論ナショナリズム」と娯楽—

Kobayashi Yoshinori's *Shisō-manga*:
“Public Opinion Nationalism” and Entertainment

国際基督教大学 大学院
アート・サイエンス研究科提出博士論文

A Dissertation Presented to
the Graduate School of Arts and Sciences
International Christian University
for the Degree of Doctor of Philosophy

2018年4月5日

本間 光徳
HOMMA, Mitsunori

小林よしのり「思想漫画」の特徴

—「公論ナショナリズム」と娯楽—

Kobayashi Yoshinori's *Shisō-manga*:
“Public Opinion Nationalism” and Entertainment

国際基督教大学 大学院
アート・サイエンス研究科提出博士論文

A Dissertation Presented to
the Graduate School of Arts and Sciences,
International Christian University,
for the Degree of Doctor of Philosophy

2018年4月5日

April 5, 2018

本間 光徳
HOMMA, Mitsunori

審査委員会メンバー

Members of Evaluation Committee

主査 千葉 眞
Chief Examiner

特任教授

承認署名
Signature

Shin Chiba

副査 STEELE, M. William 名誉教授
Examiner

承認署名
Signature

M. W. Steele

副査 KRISTEVA, Tzvetana I. 教授
Examiner

承認署名
Signature

Tzvetana I. Krsteva

副査 菊池 秀明
Examiner

教授

承認署名
Signature

菊池 秀明

目次

序章

1. 序論	8
2. 研究動機	11
3. 本稿の主題と目的	14
4. 主題の説明	16
5. 研究方法	22
6. 表記法と語句・語法	22
6. 1. 引用文の表記法	22
6. 2. 漫画について	23
6. 3. 戦争呼称について	24
7. 本稿の構成	26

第一章 漫画分類に於ける「思想漫画」の特徴

1. 序論	29
2. 小林よしのり略歴	30
3. 漫画の娯楽性と反権威性	33
4. 日本漫画の系譜	36
5. 漫画の分類	38
6. 戦争漫画	40
7. 政治漫画	42
8. 思想漫画	47
9. 小林よしのりのエッセイ漫画の特徴	49
10. 小林よしのりの漫画分析	54
11. 小林よしのりの言語としての「思想」	59

12. 結論	63
--------	----

第二章 『戦争論』の特徴

1. 序論	65
2. 小林よしのり『戦争論』に見る「思想漫画」の特徴	65
3. 『戦争論』は「戦争漫画」か	72
4. 『戦争論』は「政治漫画（政治マンガ）」か	78
5. 『戦争論 2』は「戦争漫画」／「政治漫画（政治マンガ）」か	81
6. 『戦争論 3』は「戦争漫画」／「政治漫画（政治マンガ）」か	86
7. 結論	92

第三章 小林よしのり批判論

1. 序論	98
2. 先行研究	98
2. 1. 偏狭な国家主義：趙景達による『戦争論』批判	99
2. 2. 情の論理：宮台真司による小林批判	100
2. 3. 虚構：山田朗による『戦争論』批判	102
2. 4. 虚妄：姜尚中による『戦争論』批判	108
2. 5. 吉本隆明『私の「戦争論」』対小林よしのり『戦争論』	111
2. 6. 犠牲者の意識の積極肯定：庄司潤一郎による『戦争論』の位置付け	114
2. 7. 吉本隆明『超「戦争論」』対小林よしのり『戦争論 2』	115
2. 8. 死とは「非意味」「非価値」：宮崎哲弥による『戦争論 3』批判	119
2. 9. 高橋哲哉『靖国問題』対小林よしのり『靖国論』	121
2. 10. 懐古趣味：坂本るみによる『戦争論』批判	127
2. 11. 宗教的修正主義：ジェームス・マーク・シールズによる『靖国論』批判	131
2. 12. ローマン・ローゼンバウムによる『戦争論』批判	132

3. 結論	133
-------	-----

第四章 小林よしのりの思想とゴーマニズム

1. 序論	137
2. エッセイ漫画から「思想漫画」へ	137
3. 本研究の特徴	139
4. 現代社会に於ける漫画	143
5. 靖国神社と「靖国問題」	145
6. 小林よしのりの漫画作品と思想性	152
6. 1. 小林よしのり初期作品	152
6. 2. ゴーマニズム宣言	159
7. オウムから『戦争論』へ - 政治思想性の深化	173
8. 『戦争論』の時代背景	177
9. 『戦争論』と『靖国論』	180
10. 『靖国論』の時代背景	181
11. 『靖国論』のデザインと構成	183
12. 小林よしのりの戦没者観	183
12. 1. 霊	183
12. 2. 英霊	187
13. 小林よしのりの「公」と「私」	194
14. 小林よしのりの天皇観	204
15. 小林よしのりの靖国神社観	210
16. 結論：ゴーマニズムの総括 - その理論批判と影響力の根源	216

第五章 小林よしのりと水木しげる - その世界観と戦争観

1. 序論	223
2. 水木しげる	224
3. 小林善範と武良茂 - デビュー前の小林と水木	232
4. 武良茂青年の同時代的苦悩	233
5. 南方最前線経験 - 陸軍第 38 師団ズンゲン支隊	234
6. 終戦後の生活と最初の戦時回想	241
7. 鬼太郎	244
8. 鬼太郎に再現される楽園世界と水木の現実生活	245
9. 日本人の「魂」と「血」	247
10. 水木しげるの戦争観	248
11. 宇宙人と鬼	253
12. テレビの時代と批判精神	258
13. 反米漫画作品	261
14. 公害問題	263
15. 水木しげる「戦争論」と小林よしのり『戦争論』	265
16. 結論	269

第六章 小林よしのりと松本零士 - 生と死、継承と断絶

1. 序論	276
2. 松本零士	277
3. 死の意味づけと戦死	277
4. 松本零士による戦争否定	278
4. 1. ナショナリズムの断絶	278
4. 2. 「死」の表現	284
5. 小林よしのりによる「死」の表現	293

6. 結論	305
-------	-----

第七章 近代日本のナショナリズムと「公論」

1. 序論	308
2. ナショナリズム	312
3. 幕末から明治期の「公」とナショナリズム	313
4. 祭祀の主体と信教の自由	320
5. 小林よしのりの「ナショナリズム」	322
6. 結論	328

終章 娯楽としての「思想」 - その危険性と可能性

1. 序論	333
2. 小林よしのりによるナショナリズム批判	333
3. 「公論ナショナリズム」の危険性	334
4. 「情の論理」と「思想漫画」	336
5. 活字表現と画像表現	337
6. 「思想漫画」作品の娯楽性	340
7. 結論：成熟社会に於ける「思想漫画」の危険性と可能性	343

付録	356
----	-----

文献目録	363
------	-----

あとがき	373
------	-----

序章

「思想漫画」の研究

1. 序論

本稿は、漫画を、思想を伝達し得るメディアのひとつとして捉え、そのメディアを介して語られる思想の検証を目的とする。¹ わけても、自己陶醉を演じつつ「思想漫画」と称する作品を通し公共性を問い続けてきた小林よしのりに注目し、作品に描かれてきた共同体、国家、戦争、宗教、天皇を分析し、他の漫画作品と比較研究する。² つまり、本稿は小林よしのり漫画作品を漫画「思想書」として捉え、個々の作品評価をするのではなく、作品と作者の社会活動を通して作者の思想 - 筆者は「公論ナショナリズム」と呼称する - を論ずる。³ 従って、本稿は「思想漫画」の研究ではあるが、いわゆる漫画論ではない。しかしながら、娯楽と「思想」、即ち漫画に表現される「思想」と、漫画から発せられるメッセージの想定される受け手の印象・理解を、画像表現と言語表現の一致や相違に注意を払いつつ論じるものである。⁴ 小林よしのりの「思想漫画」とは如何なるもので、読者は如何なる「思想」を読んだのだろうか。その影響と将来の展望を論じたい。

はじめに、何故漫画作品を研究対象とするか、また何故「右翼漫画化」と酷評される小林よしのりを研究対象とするか、その理由を述べておきたい。⁵

¹ 漫画に限らずメディアは思想を伝達し得るが、漫画の場合娯楽性の陰に見落とされぬよう注意されたい。

² 漫画として描かれた小林よしのりは自己陶酔的で傲慢（ゴーマニスト）である。

³ 「小林よしのりの思想」とは、身体的思想、思考過程を含むものである。

⁴ 小林は旧来の「思想」概念の硬直性を批判しており、議論に於ける論者間の「思想」観の相違に発するフラストレーションが議論を白熱させ、観察者にエンターテインメント提供する側面が認められる。

⁵ 例えば、中国新聞網は「日本右翼漫画家」、マシュー・ペニーは「極右小林」と表現。胡楠「日本右翼漫画家痛批安倍拜鬼：简直让人哭笑不得」中国新闻网、2014年2月8日、2014年2月8日、www.chinanews.com/hb/2014/02-08/5813294.shtml（アクセス日：2018年5月28日）（参考）。Matthew Penney “Abe and History – The Kobayashi Yoshinori Interview 安倍晋三の歴史認識－小林よしのりとの対談” The Asia-Pacific Journal: Japan Focus、2013年6月3日、<https://apjif.org/Matthew-Penney/4760/article.html>（アクセス日：2018年4月5日）（参考）。

第一に、漫画が今日主要なメディアとなり、ソフト・パワーとしてその影響力が注目されるのは周知の事実であろう。本稿執筆中、2014（平成 26）年 1 月 31 日付産経新聞は、前日 30 日にフランスで開催したアングレーム国際漫画祭に於ける「慰安婦漫画」の取り扱いを一面トップに報じた。また、文化の消費財化が進行し、伝統文化（「メインカルチャー」）と「サブカルチャー」の境界が消滅、1991（平成 3）年には、ジャクリーヌ・ベルントが、漫画は「完全に現代日本文化の一角を担うにいたっている」と既に指摘しているところである。⁶ また、2016（平成 28）年 8 月 21 日、リオデジャネイロオリンピック閉会式に於ける五輪旗引き継ぎ式では、人気漫画キャラクター、ドラえもんの秘密道具を使い、ゲームキャラクターであるスーパーマリオに扮した安倍晋三首相がステージに登場するという演出が用いられた。いわば、J ポップを前面に出した引き継ぎ式であった。

第二に、小林よしのりは、時事問題を扱ったエッセイ漫画、「ゴーマニズム宣言」を 1981（昭和 56）年に発表以来、読者の身体的思想を刺激しつつ議論性を強化し、今日小林は同シリーズを「思想漫画」と呼称している。⁷ また、小林の思想は「パトリオティズム」に基盤を置いており、活動目的として「公論の立ち上げ」を掲げている。⁸ 従来の小林批判は、権威主義に基づいた漫画批判、或いは個人的非難が散見された。⁹ パトリオティズムに基づく社会価値を公論として立ち上げようとする小林を、新しいメディア - 「思想漫画」作品 - による社会運動として批判し、小林の説く「公論」を思想として検討することは意義ある研究であろう。

⁶ ジャクリーヌ・ベルント『マンガの国ニッポンー日本の大衆文化・視聴文化の可能性』花伝社、2007 年、11 頁。尚、三島由紀夫は「文化防衛論」に於いてサブカルチャーの対義語に「ハイカルチャー」を使用している。

⁷ 吉村和真は『マンガの教科書』臨川書店、2008 年に於いて「ゴーマニズム宣言」を「作者である小林自らが主役となり、マンガという形式を通じて、作者が社会に対して言いたいことを主張するマンガ」と定義している。吉村和真（編）『マンガの教科書』臨川書店、2008 年、187-188 頁。

⁸ 2010（平成 22）年 4 月、「ゴー宣道場」立ち上げ。その活動目的に『「公論」立ち上げ』がある。小林よしのり『ゴー宣道場』WAC、2011 年（参考）。

⁹ 海外の批判は個別作品批判の傾向が強く、国内の批判は小林批判・小林思想批判の傾向が強い。後者は紙上やインターネット上で議論の応酬が継続するためと思われる。

小林は自らの政治的基本思想を「左寄り」と告白しつつ保守を標榜している。また、ネオコン（Neo Conservative 新保守主義）に対しては、伝統文化を破壊するとして反対を表明しており、小林の思想を従来の「保守」と位置付けることは困難である。

小林は皇室を尊重する日本の伝統文化を説きつつも、天皇を「崇拝しない」と書き、「公論」を問うている以上、リベラルを標榜する者はそれに向き合うべきではなかろうか。¹⁰ 現代日本の「リベラリスト」が小林よしのりを否定するあまり、小林の主張する「公論」を否定するようであれば、「戦後民主主義」の、民主主義としての真偽を疑わざるを得ない。¹¹ 小林よしのりの言論を鋭く批判する姜尚中は、小林が「引き受けている『情』という要素」に注目し、「学問的にはどうしようもない代物だと無視するのではなくて、きちっと引き受けて批判していくべき」と書いている（第三章4節）。¹²

第三に、小林の負の影響としてインターネットと結託した差別的言論の発生が認められる。小林自身、不本意ながらその批判を甘受しているが、思想の普及という観点から思考するに、負の影響は正の影響の可能性を示唆するものとも考え得る。

本研究の主要比較対照作品として、筆者は水木しげると松本零士の漫画作品に注目する。

水木は自らの過酷な戦争体験に基づいた、平和主義的、反戦的漫画作品を発表しており、戦争を主題とした作品も多い。¹³ 戦後生まれの小林と比較することにより、小林の戦争観、生死観念との差異を明白にしたい。また、小林、水木は、両者

¹⁰ 小林よしのり「国民主権は国体にあらず」『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 天皇論』小学館、2010年、357-379頁（参考）。

¹¹ 小林自身は「民主主義」を否定し「公民主義」を提唱している。小林よしのり「言論の覚悟」『ゴーマニズム宣言 1』小学館、2007年、5-12頁（参考）。

¹² 姜尚中「東北アジアの戦後史と日本のナショナリズムー小林よしのり『台湾論』を手がかりに」『東北アジア共同の家をめざして』平凡社、2001年、187-205頁。

¹³ 水木しげるのマネージャー（弟・幸夫氏）による注意喚起は、「水木は戦争反対とは決して言いません」である。その解釈には意見が分かれるが、株式会社水木プロダクションの公式見解は「戦争について賛成でも、反対でもなくどちらか決まった意見をもっているということがない」である。（2018年6月4日メール回答）。（第五章15節参照）。

とも作品の中に作者自身を主要登場人物として描き、更に、作品外に超然としての「客観的」視線をさまざまな手法で加えている作品上の共通点が認められる。

松本零士は「軍国少年」世代の漫画家である。その代表作と見做されてきた『宇宙戦艦ヤマト』に描かれた死と小林が描く死を比較し、小林の「思想漫画」に於ける「死」の意味を問うとともに、ナショナリズムの取り扱いの差異を論じる。¹⁴

各者思想性の高い作品を世に問うており、各者の漫画作品と思想は共に比較し得る。漫画と思想の二方向から研究に本稿の特色がある。本研究は小林よしのりが「思想漫画」を以て社会に問うているものは何であるか、ナショナリズム、公共性の視点から解明を試みるものである。

2. 研究動機

筆者は戦後高度経済成長期の後半に生まれ、幼児期は両親が多忙であったため、多くの時間を母方の祖父母のもとで叔父や叔母たちと過ごした。それ故、子供の世界にはあまり馴染めない子供となった。幼少の頃からテレビアニメや漫画に興味を示さず、微かに記憶に残るアニメ番組は『昆虫物語みなしごハッチ』と『ゲゲゲの鬼太郎』だが、擬人化された昆虫や、水木しげるが描く妖怪の不気味さに不快感を持っていた。

本稿第六章にて扱う『宇宙戦艦ヤマト』は、テレビアニメが小学生の頃流行していたようだが、戦艦が宇宙を飛ぶ荒唐無稽さが受け入れ難く、一回の放送分さえ観なかった。松本の『銀河鉄道 999』は何回か観たが、それは筆者が鉄道ファンであったためで、番組は数回観て飽きた。爾来長期間アニメや漫画とは疎遠になった。

この頃、小林よしのりはギャグ漫画を描いていたのであるが、筆者は子供文化に親しみが無かったため、ドキュメンタリーやニュースを好む一方、アニメや漫画が「ニセモノ」の世界のようで嫌いであった。また、子供向けのアニメや漫画に含まれる教育的要素、メッセージが読めてしまい、素直に楽しむことが出来なかったの

¹⁴ 『宇宙戦艦ヤマト』の著作権問題は後章にて言及する。

である。従って、小林よしのりを知る由も無かった。

小林よしのりは、1992（平成 4）年に社会問題を題材にしたエッセイ漫画、「ゴーマニズム宣言」を発表し、翌 1993（平成 5）年 7 月には単行本化、以降『ゴーマニズム宣言』は変化を重ねつつ今日もなお継続している。当時の「ゴーマニズム宣言」は短編作で、筆者は雑誌に掲載された作品を学部在学中に一、二回読んだ程度で、殆ど関心が無かった。実際、内容的には関心があったが、小林の画風に親しみが持てなかったため、敢えて読もうとは思わなかったのである。

小林よしのりの漫画作品を本格的に読んだきっかけは、大学院修士課程以降である。シンガポール共和国立の大学教職を経て、国際平和学専攻修士課程に進学したのであるが、修士課程在学当時、現職航空幕僚長（当時）が「政府見解と異なる」「論文」を発表し世間の話題となった。¹⁵ 実際のところ、同「論文」は個人的主張が書かれたものに過ぎず、航空幕僚長たる公的地位により取得される情報を根拠にしたものではなかったが、小林よしのりが同「論文」支持しているとの噂を耳にした。¹⁶ これをきっかけに小林の『ゴーマニズム宣言』を読み始めたのである。

「ゴーマニズム宣言」シリーズは「エッセイ漫画」であり、子供向け漫画作品に見受けられる奇妙な擬人化が無く、筆者は強い拒否感を持たなかったが、正直なところ、絵が汚いと思った。しかし、『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論』（以下『戦争論』）を読むに至ってはこのような感想を抱くことなく、「ゴーマニズム宣言」の作風を継承した完成度の高い娯楽作品として理解した。¹⁷ かねてより近現代史には深い興味を持ってきたのであるが、小林の漫画作品群を通読し、メディアとしての漫画の魅力を感じた次第である。小林よしのりの社会問題への取り組み、漫画を以てする権力との戦い、作品全体を貫通する反権力精神は、徳川幕府の強大な権力を風刺した風刺画家たちの精神と通じる。漫画作品は、庶民の娯楽であるとともに、

¹⁵ 第 29 代航空幕僚長の田母神俊雄が「アパ日本再生財団主催真の近現代史観懸賞論文」に応募、最優秀藤誠志賞を受賞。

¹⁶ 小林は自身が責任編集長を務める雑誌『わしズム』29 号、2009 年 3 月 25 日発行に平成 21 年 1 月 20 日付で「田母神論文を補強、擁護する！」と題する小論を発表している。

¹⁷ 『戦争論』同様、続巻も『戦争論 2』、『戦争論 3』、『新戦争論 1』等、略称を使用する。

その嗜好を反映したメディアでもあるのだ。

小林の反権力姿勢の明示的保持は、小林の主張する「公論」をナショナリズムとして理解するにあたり留意すべき点である。庶民の視点から体制を批判し、同時に大衆をも批判する小林の「公論ナショナリズム」は、国家主義的ナショナリズムにあらず、市民主義的ナショナリズムの呼び水となる可能性がある。¹⁸

そこで、今日のナショナリズムを顧みるに、本来国益とは直接的利害関係を見出し難い一般庶民が、何時、如何にして、ナショナルなものにまともろうとするのか。戦後民主主義教育下に於けるナショナリズム批判は、国家主義批判、軍国主義批判など差異はあるものの、「上からのナショナリズム」を否定しているのであるが、権力から最も遠くに位置する、社会的に最下層に位置する人々もナショナリズムの主体になり得るのではなかろうか。

自己同一性（アイデンティティ）を確認し難い現代社会に於いて、2011（平成23）年には实际的国難として震災とそれに続く原発事故に遭遇しつつも、無力と思われた「個」が「絆」をつくる現実が注目された。また、被災地には目立った略奪や暴動は確認されなかった。未だ避難生活を余儀なくされている人々はあるのだが、壊滅的被害を受けた地域に共同体が再生している。そして、被災地以外の地域から赴任した公務員、民間人、ボランティア市民が、被災地勤務を希望するのは、一種のナショナリズムに基づく感情によるものではなかろうか。何故なら、被災地は彼ら外来者にとり郷土（パトリ）ではないからである。

また、天皇が被災地を訪問することにより、住民が感激し励まされる例は枚挙にいとまがない。¹⁹ 天皇が憲法解釈上の象徴に過ぎないのであれば、この現象は何であるのか、説明し難い。憲法典を超越した「象徴」としての天皇と共にあることを希望する感情、天皇と共にある喜び、理屈抜きの「有り難さ」、「勿体なさ」を感

¹⁸ 「公論ナショナリズム」とは筆者による呼称であり、小林は「公民主義」と呼称する。国権派のナショナリズムではなく、民権派のナショナリズムと換言し得る。しかし、市民主義的ナショナリズムの主体（ひとびと）が排他的公共性に向かう危険性がある点を後章で指摘する。

¹⁹ 昭和天皇巡幸及び今上陛下沖縄巡幸に関するまとまった書籍として、昭和天皇巡幸編纂委員会『昭和天皇巡幸』創芸社、2012年がある。

じるからではあるまいか。筆者は天皇に内在する、国家主義とは異なる、ナショナリズムの象徴機能を認めるところである。

小林はその漫画作品「ゴーマニズム宣言」に於いて、差別問題、宗教問題、歴史認識、生死観、戦争、など凡そ娯楽とは縁遠い題材を漫画化し議論を喚起してきた。漫画である以上、娯楽（エンターテインメント）性は不可欠の要素であるが、「公論」を喚起するという明確な目的が提示されている以上、その漫画化の歴史は真摯な公論喚起活動として検討する必要があるだろう。本稿では、小林よしのりの活動を公論運動として捉え、その思想を論じるものである。²⁰

3. 本稿の主題と目的

本稿の主題は「思想漫画」である。小林よしのりの「思想漫画」の特徴から「思想漫画」の範疇を明確にし、「思想漫画」作品に描かれた「個」と「公」、その存在空間である「郷土」と、その保守を志向する「パトリオティズム」を、天皇、国家、「ナショナリズム」との対比により、小林の議論の展開を明確化する。

小林よしのりの「思想漫画」が、商品として社会に受容される背景には、それを求める草の根的なナショナリズムが存するのではないか、即ち、草の根的ナショナリズムが小林的「ナショナリズム」を受け入れるのではないか、との仮説の下、「思想漫画」の危険性と可能性を論究する。もし、小林の「思想漫画」作品がナショナリズムを鼓舞するのであれば、そこで問われるところの「ナショナリズム」とは何たるかを明確にしたい。

また、小林は『戦争論』以降、生死観に踏み込んだ価値論を展開している。小林の議論の特筆すべき点のひとつとして、死自体への肉迫による生命の普遍価値に対する疑義を挙げ得る。戦争に死は避け難く、戦死者を顕彰する行為は各国に認められるが、戦死者の顕彰は生命の価値を前提とした行為である。つまり、戦死者顕彰

²⁰ 「小林よしのりの活動」とは、創作活動を主とした言論活動、市民運動、政治活動等への参加を意味する。

の背景には、「価値ある生命を捧げるべき更に価値ある国家」なる論理が存在する。その論理を然りとするならば、筆者は小林同様、生命自体の価値に疑義を呈せざるを得なくなる。²¹ しかし、国家はそのような至高のものでなく、その存在も相対的である。

今日、娯楽は多様化し、漫画作品数も減少傾向が予想される。公益社団法人全国出版協会によると書籍の出版販売額は1996（平成8）年をピークに長期低落傾向が続き、月刊誌は1997（平成9）年、週刊誌1995（平成7）年をピークに減少している。しかし、同協会によると、コミック市場全体がマイナス成長しているものの、単行本漫画（コミックス）の販売額はほぼ横ばいで、2005（平成17）年以降は漫画雑誌（コミック誌）の販売額を上回っている。紙媒体のコミックの後退に対し電子（電子コミック＋電子コミック誌）は大幅伸長を見せており、2015（平成27）年度の集計によると、前年比31.8%増の1,169億円で、「紙の落ち込みを電子が補完して、コミック市場は4,000億円を超える規模を保っている」。²² 同協会によると、漫画雑誌市場は、紙、電子を合わせ前年比1割減であるが、その内訳は紙が前年比88.8%であるのに対し、電子400.0%である。単行本漫画の場合、その市場は、紙が前年比93.2%、電子130.3%で、全体としては拡大傾向を示している。

同協会は、「戦後のベストセラーズ」として1946（昭和21）年から2015（平成27）年までの「ベストセラー」書籍を紹介しているが、2003（平成15）年に小林よしのりの『戦争論3』が17位を獲得しており、2009（平成21）年には小林の新書『日本を貶めた10人の売国政治家』が25位、『ゴーマニズム宣言SPECIAL 天皇論』（以下『天皇論』）が28位を獲得している。²³ 更に、2015（平成27）年、社会分野に於ける主な売れ行き良好書、政治・行政・国防関連8書の中に『新戦争論1』が挙げられている。

²¹ 筆者は生命の価値を否定するのではなく、直前の論理を否定していることを了解されたい。

²² 全国出版協会出版科学研究所『出版指標年報2016年版』全国出版協会出版科学研究所、2016年、220頁。

²³ 『天皇論』同様、『昭和天皇論』、『新天皇論』等、略称を使用する。

小林よしのりの過激な表現方法が現代日本社会の嗜好に合致しているのか、表現方法ではなく過激な思想が合致しているのか、或いは一段高い視点で小林を俯瞰しているのかは議論の余地があるが、ベストセラー化の事実は小林の「思想漫画」作品の社会的受容を反映しており、同時に社会の嗜好傾向を反映しているのではなかろうか。

4. 主題の説明

小林の「思想漫画」を通しての主張は、「ナショナリズム」の主張として批判される。²⁴ しかし、小林の主張は政府を擁護し国家政策を喧伝するものではない。従って、明治期に見られる近代国家主義とは明確に異なり、戦後日本の親米保守的ナショナリズムとも明確に異なる。寧ろ、反米、反権力、反権威主義たる点に於いては、左派的ナショナリズムとの共通点が見出せるであろう。小林自身、「わしの局部は左よりじゃーい！」とトランクス姿のギャグを描いている（第一章 10 節、55 頁、図 8 参照）。²⁵ 同画の詳細は後章に譲るが、意味するところは、小林自身、思想的には左派であるという告白である。²⁶

一方、小林は「パトリなきナショナリズム」を批難し、パトリオティズムを擁護する立場をとっている。²⁷ 小林の主張するパトリオティズムは公共心を重視する価値観が共有される空間、郷土、クニの再生 - 存在を前提にした場合 - であり、その最大範囲を国家と想定しているに過ぎない。

小林は「世間」に生きる「私」の集合体である大衆を批判し、「公」に生きる「個」を称賛する。例えば、代表作の『戦争論』に於いては、誰でも死を欲しないことを

²⁴ 詳細は本稿第三章「小林よしのり批判論」にて論じる。

²⁵ 小林よしのり「ホロコーストの原罪を反日でごまかすドイツ人」『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 平成攘夷論』小学館、2007 年、239-254 頁。

²⁶ このような娯楽（エンターテインメント）は随所に挿入されており、駄洒落に紛れた小林の本意に注意を要する。

²⁷ 「パトリなきナショナリズム」は以下のように書名にもなっている。小林よしのり『ゴーマニズム宣言 EXTRA パトリなきナショナリズム』小学館、2007 年。

前提とした上で、葛藤の末に「公」を「選択した」特攻隊の精神は称賛されるべきものとして描く。小林の言う「選択」の背景には、小林が嫌う「世間」の圧力もあったであろうし、現代的意味での「強制」もあったであろうことは、当然事として描かれており、「選択」を一様に理解することは適切ではない。

しかし、死者のいかなる心情にもかかわらず、近代国家に於いては、戦死者はその死亡理由が「戦死」であるが故に顕彰される。死者の意思を関知しない国家による一方的な顕彰が、いわゆる靖国問題の一つの重要要素であるが、一方、村の有志や遺族により建立された戦没者の個人碑も多く存在する。²⁸ これら個人碑の存在は、戦死者の遺家族、近親者が、戦死者の死を崇高で意義あるものであって欲しいと願う自然な心情の表現ではなかろうか。然らば、このような心情を反映した行為は、慰霊、追悼にとどまらず、顕彰の性格を付帯する結果となる。即ち、「死」なる出来事の属性は死者本人のみに認められるのではなく、家族、親族、共同体などの生存者にも存するのである。この、「顕彰」的遺族感情を理解する人々の範囲を同心円状に拡大した場合、国家との一致はひとまず措くとしても、共同体(パトリ)を想定することは妥当ではなかろうか。

小林よしのりは本来ギャグ漫画家であるが、1998（平成 10）年 7 月 10 日、「思想漫画」としていわゆる「大東亜戦争肯定論」漫画『戦争論』を出版した。²⁹ 同年は 1 月、米国がイラク単独攻撃の可能性を示唆し、第二次橋本龍太郎内閣の下、日本政府はそれに支持表明をした。橋本は 7 月 30 日に首相の座を小渕恵三に譲るが、12 月には米・英軍によるイラク空爆が実行され、米軍主導によるイラク侵略が開始される。このような時期に出版された『戦争論』は社会的に注目され、また

²⁸ 国立国会図書館調査立法考査局は 1976 年、国内問題として、日本政府と靖国神社のかかわり方の問題であると簡潔に説明しているが、1980 年以降は、いわゆる「A 級戦犯合祀問題」が国際問題として顕在化した。国立国会図書館調査立法考査局『靖国神社資料集』国立国会図書館、1976 年、15 頁、（参考）。宗教的解釈では、合祀後の祭神（ヤスクニノオオカミ）に個人性は無い。第四章 5 節参照。

²⁹ 林房雄『大東亜戦争肯定論』番町書房、1970 年（改訂初版）（参考）。

国内外から多くの批判を受けた。³⁰

姜尚中は小林の『戦争論』を「戦争の物語を国民の記憶として立ち上げ、国民の場所的な同一性をもう一度確認したいという」「ナショナリズムのわかりやすい表現」と批判すると同時に、崩壊する中間層が『戦争論』的なものにひかれる」か否かという「論争点を提供」したと評している。³¹ 姜の批判は、『戦争論』を戦争美化論として批難するにあらず、小林が後に展開する「個」と「公」の議論を既に視野に入れている。

姜の他、論壇では、宮台真司、ジャーナリズムでは田原総一郎、歴史学では趙景達、山田朗等が論難している。また、吉本隆明による『戦争論』批判は量的にも多い。³² 海外の研究者では、坂本るみ、レベッカ・クリフォードが『戦争論』を批判している。また、論壇誌「世界」の特集記事には『戦争論』により若者が感化される事への危惧が示唆されている。³³ 教育学の立場からは高嶋伸欣が『戦争論』を題材に、学生に「語りかける」形式をとり、導入に漫画を利用しつつ同書を批判している。³⁴

数多い批判の中で、『戦争論』を「天皇抜きのナショナリズム」とであると批判したのは大塚英志である。³⁵ この指摘は『戦争論』の主張を思想として評したと言い得る。後に小林は大塚の批判に応えるかたちで『天皇論』、『昭和天皇論』、『新天皇論』と出版するが、『戦争論』の段階で既に個人に優先する公共性を問う思想性を含んでいる。³⁶

³⁰ ニューヨークタイムズ紙は、小林の『戦争論』が歴史修正主義の運動を活気づけたと批判している。Howard W. French “Japan’s Resurgent Far Right Tinkers With History” Yew York Times、2001年3月25日（参考）。

³¹ 姜尚中『『戦争論』の虚妄』宮台真司・姜尚中他『戦争論妄想論』教育資料出版会、1999年、57-84頁。

³² 結果、吉本に反論する小林が吉本を漫画化した量も多い。

³³ 「世界」岩波書店、1998年12月号。

³⁴ 高嶋伸欣『ウソとホントの戦争論ーゴーマニズムをのりこえる』学習の友社、1999年。

³⁵ 大塚英志「W杯の日の丸・君が代に見た無邪気なナショナリズム」『少女たちの「かわいい」天皇』角川書店、2003年、59-64頁。

³⁶ 小林は『新天皇論』に於いて、大塚の批判に応える旨をイラスト付で書いているが、大塚の批判を「天皇なきナショナリズム」と表記している。

『戦争論』出版の3年後、2001（平成13）年11月には『戦争論2』が出版された。そこで小林は先の『戦争論』を現代の安全保障の問題と関連付けるとともに、『戦争論』批判である「歪められた戦後の言論空間」を漫画で論じている。³⁷ 小林は同書巻末のあとがきに「前作の『戦争論』は、戦後の歪んだ言論空間の中で、それと知らずに育った自分との決別の書だった」と書いている。³⁸ 同書は戦後民主主義の「虚妄をはっきり否定するために、敢えて『大東亜戦争肯定論』の立場も採った」ものである。³⁹ 小林は『戦争論』の主題が「公」であることを明言するとともに、「本の主題すら読み取れない知識人に心底失望した」と嘆いている。⁴⁰

『戦争論』が約380頁、『戦争論2』が約530頁の大著であるが、『戦争論2』に収まらなかった内容が、『戦争論3』として2003（平成15）年に出版されている。同書で小林は、戦後民主主義の日本が米国のイラク攻撃を支持している点を批判、「道義なき戦争に加担することは決して日本の国柄に沿うものではな」と述べている。⁴¹ その上で、『戦争論3』の内の一章は、戦争を論ずることなく生命自体の価値を論じ、「生命至上主義」の至当性を問うている。即ち、生命の価値はその存在環境が前提ではないかというのである。これら戦争論三部作は、戦争肯定論ではなく、小林が「敢えて『大東亜戦争肯定論』の立場も採った」理由は、読者に強い印象を与え、その結果として読者をして思想せしめる為である。⁴²

戦争論三部作を通じて思想性は強化され、その議論の中心が「個」と「公」が実現されるパトリオティズムであることが明確に主張される。後に小林は『戦争論』

³⁷ 小林よしのり『戦争論2』幻冬舎、2001年の第2部の題が「歪められた戦後の言論空間」である。

³⁸ 小林前掲書、「あとがき」532-535頁。

³⁹ 筆者下線。小林前掲「あとがき」。1998年9月20日のシンポジウムに於いては、創作過程での戦没者への感情移入の結果、予期せず結果的に「大東亜戦争肯定論」になった旨を述べている。

⁴⁰ 小林前掲「あとがき」。

⁴¹ 小林よしのり「あとがき」、『戦争論3』幻冬舎、2003年、312-315頁。

⁴² 『戦争論』で「大東亜戦争肯定論」の形式を採用しつつ、『戦争論2』では戦争を相対化、『戦争論3』では生命の価値論を展開している。作品毎の思索のみならず、書籍毎、或いはシリーズ全体としての論旨を観る必要がある。

を描いた理由を『戦争論』を描いて若者に、強烈に「国」を意識させ、「公」復権を説いた。ナショナリズムを意識させなければ「公心」は育たないと思ったからだ」と述べている。⁴³

更に、小林は2005（平成17）年に『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 靖國論』（以下『靖國論』）を出版する。⁴⁴ 同書中の描き下ろしは三篇であるが、そこでは英霊思想に基づき小泉純一郎の靖国神社参拝姿勢を批判し、無宗教の慰霊追悼施設の荒唐無稽さを、宗教概念に基づき「国がカルト宗教をつくるという話にしかない」と論難している。⁴⁵ 同書は現代政治を宗教概念から批判したもので、「靖国問題」の詳細な解説を含んでいる。また、祭祀王としての天皇が意識され、後の『天皇論』への布石となっている。

『靖國論』以降、『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 挑戦的平和論』で小林の思想と天皇制の論点の繋がりが開示される。小林は、皇太子（徳仁）殿下の「人格否定発言」の場を描き、「公」の存在たる皇太子殿下が私事を述べている事を批判する。⁴⁶ 天皇に関する作品は、『天皇論』、『昭和天皇論』、『新天皇論』と続くが、『戦争論』からの論理展開として、「戦争」の対立概念である「秩序」、それを共有する社会、即ち「公」の、中心的存在としての天皇が想定されての議論である。⁴⁷ 「公」が実現されるべき具体的な場として、小林は故郷、クニの大切さを説く。その為の具体的

⁴³ 小林よしのり『ゴ－宣・暫2』小学館、2007年、109頁。

⁴⁴ 靖国神社自身による表記及び小林よしのりの『靖國論』表紙の表記では、「靖」も旧字が使用されている。

⁴⁵ 小林よしのり『「武の精神」と慰霊の心』『靖國論』幻冬舎2005年、101-104頁。小泉純一郎（こいずみ じゅんいちろう 1942－）自由民主党衆議院議員、第87、88、89代内閣総理大臣。小林は小泉の靖国神社参拝自体に反対している訳ではなく、参拝姿勢、即ち政治利用としての靖国参拝を批判している。

⁴⁶ 皇太子徳仁親王の2004（平成16）年5月10日の記者会見に於ける以下の発言が「人格否定発言」と呼ばれる。「雅子にはこの10年、自分を一生懸命、皇室の環境に適応させようと思いつつ努力してきましたが、私が見るところ、そのことで疲れきってしまっているように見えます。それまでの雅子のキャリヤや、そのことに基づいた雅子の人格を否定するような動きがあったことも事実です」。宮内庁「おことば・記者会見」、「デンマーク・スペイン・ポルトガルご訪問に際し（平成16年）」

<http://www.kunaicho.go.jp/okotoba/02/gaikoku/gaikok-h16az-europe.html>（アクセス日：2016年3月3日）。

⁴⁷ 『天皇論』は2017年2月に増補改訂版が出ている。

意見が 2011（平成 23）年の『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 国防論』（以下『国防論』）、2012（平成 24）年の『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 反 TPP 論』（以下『反 TPP 論』）、同年出版『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 脱原発論』（以下『脱原発論』）である。『脱原発論』は漫画作品でありながらページの大半を活字が占めている。

2013（平成 25）年の『ゴーマニズム宣言 RISING ニセモノ政治家の見分け方』では、石原慎太郎、橋下徹を批判、「原発ムラ」に依存する政財界を批判する。⁴⁸ 同書は『脱原発論』の続編的性格であるが、同時に「ネット右翼」を批判し、彼らと協調する安倍晋三や櫻井よしこを新保守主義として批判する。⁴⁹ 同年中には更に「ナショナリズムの扱い方」に疑問を呈した『ゴーマニズム宣言 RISING 開戦前夜』（以下『開戦前夜』）とアイドルグループを通じて「世間」を批判した『ゴーマニズム宣言 SPECIAL AKB48 論』（以下『AKB48 論』）が出版される。

『AKB48 論』では、同グループの震災復興への取り組みや、アイドルの厳しい競争世界が描かれている。同書の書名の上に注目すれば、単なる流行に便乗した駄作なのか、アイドルグループの名称に「論」を付けた作品自体が洒落なのか、と困惑するであろう。しかし、『戦争論』からの一連の作品を踏まえて読むと、流行であろうと洒落であろうと、漫画作品の出版自体が小林の社会活動の表現手段であると推察される。⁵⁰ それは、『戦争論』に於いて、ナショナリズムを「公心」を育てるための手段に用いた前例と同様である。小林の議論の本質は「個」と「公」の価値論であり、それを実現する思想としての「道徳」、「習慣」、「伝統」、実現する場所としての「郷土」の保持が主張されているのである。

⁴⁸ 石原慎太郎（いしはら しんたろう 1932－）：元政治家、作家。橋下徹（はしもと とおる 1969－）：元政治家、タレント、弁護士。

⁴⁹ 安倍晋三（あべ しんぞう 1954－）：自由民主党衆議院議員、第 96、97 代内閣総理大臣。櫻井よしこ（さくらい よしこ 1945－）：ジャーナリスト。

⁵⁰ 小林は AKB の被災地に於ける慈善活動を称賛、子供たちを喜ばせる点に於いて自身の漫画作品も「到底及ばない」と書きつつ、「AKB バッシング」の公共心の無さを批判している。全体として、アイドルとしての公的振る舞いが称賛されている点是指摘しておく。小林よしのり「AKB の公共心 VS. アンチのエゴイズム」『AKB48 論』幻冬舎、2013 年、23-36 頁。

5. 研究方法

本研究は、小林よしのりの呼称するところの「思想漫画」を分析し、従来の漫画との比較・対照研究により「思想漫画」を定義付けた上、「思想漫画」を通して主張される「ナショナリズム」の意義を論究、小林よしのりの社会的活動（運動としてのナショナリズム）と照合し、最終的に小林の「(思想としての) ナショナリズム」を批判する。

その方法として、第一に、漫画分類の観点から「思想漫画」を検討し、小林の呼称する「思想漫画」が如何なるものを明示する。第二に、小林が「思想漫画」として位置付けた草分け的代表作『戦争論』を精査し、その特徴を指摘する。第三に小林よしのり批判論を分析研究し、第四に小林よしのりの思想漫画の分析、批判論の検証を行う。第五に小林よしのりと水木しげるの漫画作品の比較・対照研究、第六に小林よしのりと松本零士の死の表現の比較・対照研究を行う。第七に小林よしのりの思想と近代日本のナショナリズムを比較し、小林の「ナショナリズム」を定義する。最後に小林よしのりの漫画作品に示唆された娯楽中の現代日本の思想性を提示し、その危険性と可能性を指摘する。

6. 表記法と語句・語法

6 - 1. 引用文の表記法

本稿は漫画作品からの引用が多い。漫画作品の特性上、文章を絵から分離させて引用した場合、ニュアンスが伝わり難くなる恐れがあるため、これを避けるべく画像を合わせて引用する。引用画像は「図」として示し、書籍の題と頁を明示するが、個々の作品の題と頁は示さない。その理由は、個々の作品が複数の書籍に所収され、頁も書籍ごとに差異が認められるからである。また、同理由により、「ゴーマニズム宣言」特有の漫画作品ごとに付された「第～章」は、扶桑社刊『ゴーマニズム宣言』にのみ示す。吹き出しなど漫画（コマなど）からの引用文については、わかり

易さを優先に、必要に応じて改行箇所を「／」で示す（例参照）。文意が明確であり、「／」を付す事により却って読みにくくなると筆者が判断する場合は、通常の文献引用と同様の表記方法とする。

例. 「なんで／きたんだっ」⁵¹

6 - 2. 漫画について

漫画論では、現代漫画を片仮名で「マンガ」と表記し、従来の漫画と差別化をはかるケースが認められる。竹内オサムは、特に戦後その表記方法が多様化した旨を述べた上、総称としては漢字表記の「漫画」が適当ではないか書いている。⁵²

論拠を明示した「漫画」に、情報提供、意見交換、参考文献リストを含み、他のメディアともリンクした小林作品の場合、片仮名表記の「マンガ」の概念を既に超えているのではなかろうか。このような現状認識と竹内の示唆に従い、本稿に於いては、片仮名表記に別段意味を持たせず、小林の漫画や著述全体の内、「漫画」と「漫画」を含んだ作品を「漫画作品」と呼称し、活字著作と区別する。また、小林よしのりの作品と比較する水木しげるの作品も同様に「漫画作品」と呼称する。小林、水木、ともに活字著作を多数発表しており、呼称による区別は有効であろう。対照目的で扱うその他の作品も、繁雑性を避ける目的で同様に「漫画作品」と呼称する。しかし筆者の用法は、いわゆる従来の漫画、劇画、カートゥーン、コミック、或いは片仮名表記のマンガを含むものと解されたい。また、漫画作品内の個々の図画は、「絵」、「図」、「写真」などと適宜呼称し、原則的に枠に囲まれた図画等を「コマ」と呼称する。⁵³

⁵¹ 小林よしのり「東大一直線」『小林よしのりのゴーマンガ大事典』イースト・プレス、1993年、334-345頁。

⁵² 竹内サム「introduction」竹内オサム・西原麻里『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2016年、2-3頁。

⁵³ 枠に囲まれていない絵や図も「コマ」とするが、コラージュのある絵などは全体で1コマとする。

6 - 3. 戦争呼称について

本研究の対象は小林よしのりが「思想漫画」と呼称するところの漫画作品が中心であり、本稿は小林の思想内容を論ずるのであるが、本論に入る前に聊か長くはなるが戦争呼称とその表記方法について述べておきたい。

戦争呼称が問題とされる原因は、呼称により想起される付加的理念と社会思想（イデオロギー）による。即ち、「大東亜戦争」を用いるか「太平洋戦争」を用いるかにより、政治的に異なる意味合いを負わされるのである。⁵⁴ その為、戦争呼称に関する議論を一時回避し、公的には「先の大戦」、一部新聞では「あの戦争」とも表現される。⁵⁵

「第二次世界大戦」なる呼称は、戦争呼称問題を回避し得るが、1939（昭和 14）年 9 月 1 日の独軍ポーランド侵攻を起点とする包括的呼称である。

小林よしのりも、田原聡一郎に「第二次世界大戦」観を問われた際、「第二次世界大戦といっても、満州事変、日華事変、大東亜戦争、太平洋戦争とあって、それぞれ違って来る」と応じている。⁵⁶ 小林は包括的意味に於いては「第二次世界大戦」を使用しており、筆者もその使用法は適切と考えるが、「第二次世界大戦」なる呼称は通常満州事変を含む概念ではない。⁵⁷

「大東亜戦争」という呼称は、敗戦後、日本が掲げた大東亜新秩序の建設なる理念と共に GHQ により否定され、「太平洋戦争」が占領下の公式名称となった。今日、一般的に「太平洋戦争」が広く用いられているが、近年、連合国側の呼称であった「太平洋戦争」のイデオロギー性が指摘されることは論理的に首肯し得る。⁵⁸

⁵⁴ 戦争呼称は 1942（昭和 16）年 12 月 12 日の閣議に於いて「大東亜戦争」と決定された。

⁵⁵ 「あの戦争」は産経新聞社が特集記事のタイトルとして使用。小林よしのりは『天皇論』に於いて「先の大戦」を併用している。2015 年 8 月 14 日の内閣総理大臣談話は「先の大戦」を使用している。

⁵⁶ 小林よしのり・田原聡一郎『戦争論争戦』文化社、1999 年、21 頁。

⁵⁷ 小林の発言では満州事変を含んでいる。小林よしのり『ゴーマニズム戦歴』KK ベストセラーズ、2016 年、40 頁（参考）。

⁵⁸ 戦争呼称に関する近年の論考としては、庄司潤一郎「日本における戦争呼称に関する問題の一考察」『防衛研究所紀要』13 巻 3 号、2013 年 3 月、43-80 頁がある。

筆者は第二次世界大戦中、日本が直接的に関係した部分の呼称としては「大東亜戦争」が地理的概念を反映し適切と考える。その理由は第一に、陸戦の主戦場が中国大陆であり、「大東亜」は東アジアである日本、満州、中国に東南アジアを加えた広範囲の地理的概念であるからである。⁵⁹ 1941（昭和16）年12月10日の閣議決定に於いても、「支那事變ヲモ含メ大東亞戦争ト呼稱ス」と、中国を含む事を明言した点を重要視したい。⁶⁰ 第二に、「太平洋戦争」と呼称した場合、「太平洋」に中国大陆を含むと理解するのは不合理であり、また、中国大陆を含まないと理解した場合、実態と乖離するからである。⁶¹

後藤乾一は戦争呼称を巡る議論を概観した上、以下のように述べ、括弧付きの「大東亜戦争」を使用する。⁶²

筆者自身は、前大戦は東南アジアに対し「タテマエとしての崇高な理念」を提示はしたが、現実としては欧米列強に代わる支配者として君臨した侵略的色彩の濃い戦争であった、との基本理解をもっている。またその「理念」はそれ自体「崇高」な目的であったというよりも、一定の目的を達成するための手段に過ぎなかったのではないか、と考える。⁶³

後藤はその上で「加害者として、そして被害者として——当時の『大東亜戦争』に“こだわる”」必要性を訴えるとともに、「いわゆる『肯定論』とは明確な一線を画」し、括弧付き「大東亜戦争」を使用している。⁶⁴

一方、漫画に於ける日本史描写を研究するローマン・ローゼンバウムは「大東亜戦争」、「太平洋戦争」共にその使用を避け、「アジア・太平洋戦争」を使用してい

⁵⁹ 従って、地理的概念は1931（昭和6）年の満州事変も含むことを示唆し得る。

⁶⁰ 筆者下線。

⁶¹ 吉本隆明は、太平洋で米国に負けた戦争という意味で、「太平洋戦争」という呼称に抵抗感が無いと言う。吉本隆明『私の「戦争論」』筑摩書房、2002年（参考）。

⁶² 後藤乾一：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科名誉教授。

⁶³ 筆者下線。後藤乾一「『大東亜戦争』の意味」矢野暢『講座東南アジア学10 東南アジアと日本』弘文堂、1991年、166-183頁。

⁶⁴ 前掲論文、169頁。

る。⁶⁵

筆者の立場は、後藤同様、いわゆる大東亜戦争肯定論とは一線を画す。⁶⁶ そこで、イデオロギー性の排除を図りつつ地理的概念を踏まえ、且つまた漫画を題材とした本研究の性格を考慮し、ローゼンバウムがの表記に従い「アジア・太平洋戦争」を使用することとする。

7. 本稿の構成

本論文は、漫画作品の今日的意義、及び小林よしのりを研究対象とする理由を簡単に述べた上で、本研究が漫画作品を通し「思想」を論じる点を明言する。次いで、聊か個人史的ではあるが筆者の研究動機を述べる。

次に本稿の主題を明示し、主要研究対象の作者である小林よしのりを紹介した上で主題の説明を行う。主題の説明とは、即ち本研究対象漫画作品群の「思想」と作品群の時系列的概略を述べる事である。

序章の最後に本研究に於ける表記法と語句・語法を明示する。漫画作品には独特の表現方法、固有の文章形式が存在し、論文への引用にあたっては形式を変換する必要が生じる場合があるからである。また、特に戦争呼称の問題については一項を設け、筆者がいわゆる大東亜戦争肯定論者ではないことを明示しておく。小林よしのりは、公論喚起の手段として大東亜戦争肯定論を採用した旨を述べるが、『戦争論』に於ける「大東亜戦争」の解釈に関する限り、筆者は小林の『戦争論』と意見を異にする点がある。⁶⁷

第一章「漫画分類に於ける『思想漫画』の特徴」に於いては、日本の漫画の分類方法を検討した上、「戦争漫画」、「政治漫画」、及び「思想漫画」を定義し、「思想漫画」特徴を明示する。

⁶⁵ ローマン・ローゼンバウム：シドニー大学名誉アソシエイト。

⁶⁶ 人種差別反対、平等の理念に関しては、筆者は「崇高」な理念が認められると考える。

⁶⁷ 筆者は「大東亜戦争」の理念を実践した先人に対し畏敬の念を持つが、「アジア解放史観」はアジアの主体性を過小評価していると考ええる。

第二章『戦争論』の特徴」に於いては、小林よしのりが「思想漫画」と呼称する『戦争論』三部作の構成要素を分析研究し、その特徴を明示する。

第三章「小林よしのり批判論」では、その代表的なものを時系列で検討する。各論毎に批判を加え、今日なお有効な論点をまとめる。

第四章「小林よしのりの思想とゴーマニズム」に於いては、小林「思想漫画」の構成を研究し、影響力となり得る要因 - 普遍性並びに現代性 - を検証する。小林の漫画作品中に表現された思想としての「ナショナリズム」を念頭に置き、まず、小林のデビュー作『東大一直線』、次期ヒット作『おぼっちゃまくん』、次いでエッセイ漫画である初期『ゴーマニズム宣言』を検討し、その共通点から小林漫画作品の底流思想を論究する。次に、小林の社会活動と漫画作品を通し小林の行動原理を探求する。更に『戦争論』並びに『靖國論』が描かれた時代背景を検証し、小林の各話題に関係する観念を論究する。最後に近代日本のナショナリズムと小林「思想漫画」の主張を比較し、「公」概念を明確にしたい。小林の「公」主張には如何なる特徴が認められるのであろうか。その価値概念及び空間概念の有効性と限界を述べる。

第五章、「小林よしのりと水木しげる - 世界観と戦争観」は、共に子供向け作品から成人向け作品までを広く手掛け、思想性の高い漫画作品を世に問うている小林よしのりと水木しげるの漫画作品を比較する。小林、水木両者共に漫画作品により社会批判をするにとどまらず、活字や映像メディアを通し発言しており、漫画作品の思想性を補完する。水木はアングレーション国際漫画祭に於いて『のんのんばあとオレ』で最優秀コミック賞、『総員玉砕せよ！』で遺産賞を受賞し、国際的評価の高いのみならず、小林の『戦争論』を題材に自身の「戦争論」を描いている。そこで、両者の漫画作品を比較し戦争観の差異を論究する。

第六章「小林よしのりと松本零士 - 生と死、継承と断絶」は、小林よしのりによる死の描写と松本零士によるそれを比較する。松本零士は、陸軍軍人でテストパイ

ロットであった父親が、戦後自衛隊への入隊を拒否したことを誇りとする漫画家である。その代表的作品に描写された死と小林漫画作品に於けるそれを比較することにより、小林の戦争に対する漫画家としての姿勢を検証する。

第七章「近代日本のナショナリズムと『公論』」に於いては、ナショナリズムの文脈から「公論」を捉え、日本的「公」と小林よしのりの言う「公」を明確にし、小林批判論の有効点を再検証する。

終章「娯楽としての『思想』 - その危険性と可能性」は、小林よしのりの「ナショナリズム」の本質をまとめ、そこから小林「思想漫画」の本質へ遡及する。漫画作品という娯楽メディアを通し発せられる「ナショナリズム」の危険性と可能性を指摘し、娯楽としての現代日本の思想性を述べ結論とする。

第一章

漫画分類に於ける「思想漫画」の特徴

1. 序論

小林よしのりは、初期の『ゴーマニズム宣言』を「エッセイ漫画」と呼称していたが、次第に「思想漫画」と呼称するようになった。⁶⁸ 殊に、『戦争論』の発表に至ってはその傾向が強くなり、小林は2001（平成13）年の『戦争論2』の冒頭に、自己の「直観と常識をたよりに…思いを思想化した」と書くと共に、あとがきでは『戦争論』の主題を知識人が理解していない旨を嘆いている。⁶⁹

小林漫画作品の独自性は、呉智英、四方田犬彦、竹内オサム等が評価しているが、「思想漫画」という呼称は小林独自のものであり、筆者の知見では、漫画分類上の一分野として確立していない。⁷⁰ そこで、本章に於いては、「エッセイ漫画」とは何であるか、「思想漫画」とは何であるか、漫画の分類方法を検討し、小林よしのりが呼称するところの「思想漫画」の特徴を、「エッセイ漫画」との比較により明確にしたい。小林自身は『ゴーマニズム宣言』を説明し、「私小説的な要素」のあるエッセイ漫画であると共に「思索を深めた」「思想漫画」、且つ「現実を巻き込むノンフィクション漫画」、読者と「共に成長する漫画」であり、その形式的原型は「梶原一騎の『四角いジャングル』である」と述べている。⁷¹

また、「ゴーマニズム宣言」の影響を強く示唆する漫画作品が発表されるとともに、その漫画作品に対抗する作品が発表されている点是指摘されねばならない。これらは漫画作品としての構成に小林作品との類似点が認められ、本稿に於いては終

⁶⁸ 例えば『ゴーマニズム宣言 1』巻頭のエッセイに明記している。

⁶⁹ 筆者下線。小林よしのり『戦争論 2』幻冬舎、2001年、6頁。

⁷⁰ 呉智英（くれ ともふさ）：評論家、漫画評論家、京都精華大学マンガ学部客員教授、日本マンガ学会第2代会長。四方田犬彦（よもだ いぬひこ）：比較文学者、元・明治学院大学教授。竹内オサム：漫画家、漫画研究家、同志社大学社会学部教授。

⁷¹ 梶原一騎（かじわら いっき 1936-1987）：漫画原作者、小説家、映画プロデューサー、川崎のぼる作画による『巨人の星』で第8回講談社児童漫画賞受賞。小林よしのり『『絵解き』と情念の表現について』『ゴー宣・暫 1』小学館、2007年、21-28頁。

章で言及するにとどめるが、既存の漫画範疇（ジャンル）に括れない共通性が認められるならば、新たな漫画分類範疇を設定することも可能であろう。

2. 小林よしのり略歴

小林よしのり（本名、小林善範）は、1953（昭和 28）年、小林携次郎氏の長男として、母方の実家、福岡県大野城市所在の真言宗寺院法照寺で誕生した。⁷² 同寺は当時、小林の祖父が住職をつとめており、幼少期から虚弱体質で喘息に悩まされていた小林は、同寺でひとり遊びをすることがよくあった旨を回想している。

漫画内では、郵便局員だった父携次郎氏はマルクス主義者で、「共産主義への理想を熱く語っていた」一方、母は「ドライで個人主義で密教系の快樂主義者」で、携次郎氏とよく議論していたと書いているが、小林はインタビューでも同様に語り、小林は白熱した両親の議論をよく聞いていたと言う。⁷³ 後年小林は自身の理想主義的な思考を父親の影響だろうと語りつつ、いわゆる保守派や新自由主義を「優生学的」で「大乘（仏教）の道じゃない」と批判し、母親の影響も示唆している。⁷⁴

長じた小林は、福岡大学でフランス語を専攻し、同大学在学中の 1976（昭和 51）年、「東大一直線」によりギャグ漫画家としてデビューしたが、学生時代には授業よりも哲学書の読書に耽った旨を折に触れて述べている。同デビュー作の他、小林の代表作としてはギャグ漫画『おぼっちゃまくん』と一連の「ゴーマニズム宣言」が挙げられる。

1986（昭和 61）年、児童対象の漫画雑誌『月刊コロコロコミック』に発表されたギャグ漫画「おぼっちゃまくん」は 1994（平成 6）までの長期連載を果たし、その間にテレビアニメ化、また、小林は小学館漫画賞を受賞している。デビュー作以

⁷² 小林携次郎氏に関しては以下の記事がまとまっている。北井亮「偉大なる平凡人」小林よしのり『ゴー宣・暫 1』小学館、2002 年、123-127 頁。法照寺については『ゴーマニズム宣言 4』の巻末に紹介記事がある。

⁷³ 小林よしのり「論理ある個の芽生え」『戦争論』幻冬舎、1998 年、65-74 頁。渡邊直樹（編）『私と宗教』平凡社、2011 年（参考）。

⁷⁴ 括弧内筆者補注。渡邊直樹（編）前掲書、49 頁。

降ヒットに恵まれたかった小林は、「おぼっちゃまくん」により子供達の人気を得、一躍人気漫画家の地位を獲得したのである。

1992（平成4）年の「ゴーマニズム宣言」単行本化以来、小林作品は「ゴーマニズム宣言」のもとに発表される傾向が強い。初期の『ゴーマニズム宣言』は、時事問題や世相を扱うエッセイ漫画、軽妙な社会風刺漫画であった。しかし、1994年（平成6）から小林は薬害エイズ問題に関わり始める。小林は問題を漫画作品に描くにとどまらず、薬害エイズ訴訟を支える会の代表も引き受け、厚生省や製薬会社を相手にいわゆる市民運動を展開した。また、同時期にオウム真理教事件とも関わり始め、教団教祖の麻原彰晃（本名：松本知津夫）を評価する吉本隆明や中沢新一ら「知識人」と意見対立する。⁷⁵ 小林は同教団に拉致殺害された坂本弁護士一家の救出を訴える漫画作品を発表し、教団信者の犯行と推論、そのために小林自身が同教団の暗殺対象となった。

1994年には既に戦争責任を扱った「大それたことに戦争責任」を発表している。

⁷⁶ 同作品で小林は、アジア・太平洋戦争をアジアの独立を促す一面があったと評価する産経新聞の記事を紹介し、当該記事は、強盗を追い出した後に土足で上がり込み、「感謝されてもいいくらいじゃないか！」と言う程度に「デリカシーがあるようには聞こえない」と批判するとともに、戦没した「兵隊は『犠牲者』そのもの」と位置付けている。⁷⁷

このような小林は、従来の思想的左右対立の概念ではいわゆる左翼的と理解されていたのである。

⁷⁵ 吉本隆明：第三章2節5項参照。中沢新一（なかざわ しんいち 1950－）：思想家、宗教学者、明治大学特任教授。吉本は麻原逮捕（1995年5月16日）後の9月、麻原を「思想家」と呼び、「修行者として高く評価している」、「たぶん中沢新一さんのように…仏教を知っている人よりも、麻原さんの存在を重く評価している」、「現存する仏教系の修行者の中で世界有数の人ではないか」と評価している。「宗教・こころ－吉本隆明氏に聞く（1）弓山達也氏と対談」『産経新聞』（東京夕刊・宗教面）、1995年9月5日（参考）。また、吉本が中沢を引き合いに出すほど、宗教学者・中沢の麻原評価は高く、教団の宣伝にも利用された。

⁷⁶ 小林よしのり「大それたことに戦争責任」『ゴーマニズム宣言4』扶桑社、1994年、63-70頁。

⁷⁷ 前掲作品、66-67頁。

1995（平成7）年3月の地下鉄サリン事件により首謀者麻原彰晃他教団幹部の逮捕、収監、教団解散により、事件は一応の解決を見た。しかし、教団幹部の弁護士などのいわゆるエリート層の若者や麻原を評価する知識人と論戦したのみならず、暗殺を狙う教団と実際に戦った小林は、事件の背景に共同体の崩壊による「個」の浮遊を見出す。

小林は1994年8月には既に「従軍慰安婦問題」を取り上げていたが、若者たちの運動姿勢批判が中心であった。しかし、1996（平成8）年「新しい歴史教科書をつくる会（以下、つくる会）」に呼びかけ人の一人として参加、以降、歴史問題に深く関わっていくとともに小林の主張は歴史修正主義的となる。

そこで1998（平成10）年に発表された作品が『戦争論』である。同作品は「大東亜戦争肯定論」を採用し、「タカ派」や「右翼」、歴史修正主義者には絶賛される一方、いわゆる左翼やリベラリスト、従来の小林ファンからは「転向」と見做され、以降、小林は世間的に右翼扱いされるようになる。海外の反響はほぼ後者に属し、小林論評には「極右」や「超国家主義者」といった紹介が常套句となる。⁷⁸

しかし、2001（平成13）年の『戦争論2』で、イスラム原理テロリストへの心情的理解を示し、「ブッシュの戦争」を批判するとともに、戦争自体は否定している。翌2002年には日米同盟を重視するつくる会を「思想が語れない」と批判し退会する。さらに、2003（平成15）年発表の『戦争論3』では日米同盟に明確に反対し「道義」を語る。『戦争論』発表当初より、一部の批判者は小林の議論の中心に「公論」があると読んでいたが、『戦争論3』以降、「公論」が前面に押し出されてきたのである。これと同時に小林はインターネット上の「右翼」、いわゆるネトウヨから批判されるようになった。

以降小林は共同体としての日本の伝統を説きつつ、右翼的言論に反対、原発に反

⁷⁸ 前章脚注9の中国新聞網及びThe Asia-Pacific Journal、脚注31のNew York Times 他、カナダのオタワシチズン紙はカリフォルニア大学教授・ジョーン・ナサンの小林評として「超国家主義扇動者」と書いている。Robert Sibley “Nothing stand still: Advance reading offsets romantic images of Japan: [Final Edition],” The Ottawa Citizen, Eggheads & Intelligentsia, 2004年8月22日（参考）。

対、「共謀罪」反対、2017（平成 29）年 10 月には立憲民主党の応援演説に参加し、自民党を単なるアメリカ追従勢力であると批判している。⁷⁹

3. 漫画の娯楽性と反権威性

小林よしのりの漫画作品を漫画であることを大前提に「思想書」 - 思想と強い関係を持つ漫画の一分類、カテゴリーとして - と看做すが、その娯楽性を否定するものではない。そもそも娯楽性を否定しては漫画として成立し難いのではなかろうか。

漫画の原初的なものとしては平安時代の『信貴山縁起絵巻』や『鳥獣人物戯画』、近世では錦絵・浮世絵に風刺画が認められるが、モチーフのデフォルメや構図による強調、或いはまた写実性、言語表現の妙味が庶民を魅了し、印刷技術の発展に伴い庶民の娯楽として浸透した歴史がある。⁸⁰ また、権威や権力を風刺した江戸風刺画は、それに対抗手段を持たない庶民に笑いを提供する娯楽として人気を博した。例えば、歌川国芳[1798 - 1861]「東都三股の圖」に異常に高く描かれた櫓は江戸幕府の権威に対する庶民的挑戦と理解し得る（図 1）。⁸¹ また、作者不明、鳥羽伏見の戦いを描いた「鳥羽画卷物之内屁合戦」は、旧幕府軍に勝利した新政府軍に対する揶揄であるが、「兵力」の差を「屁力」と表現した点は、新政府の正当性に対する批判精神と理解して良い（図 2）。

⁷⁹ 伊吹早織「小林よしのりが立憲民主党を応援する理由【演説全文】」BuzzFeedJAPAN、2017 年 10 月 14 日、（参考）<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20171014-00010005-bfj-pol>（アクセス日：2017 年 10 月 15 日）

⁸⁰ 四方田犬彦は『信貴山縁起絵巻』、『鳥獣人物戯画』の手法を評し、「優れて八世紀後の漫画の文法を先取りしているというべき」と書いている。四方田犬彦『漫画原論』筑摩書房、1994 年、29 頁。

⁸¹ 1806 年、江戸幕府は建築物の棟高を 2 丈 4 尺（約 7.2m）に制限。



図 1. 東都三股の圖

歌川国芳 1831 年頃

砂子の里資料館（2016 年 9 月閉館）所蔵

©2017COP - 11

purebands.blog136.fc.com/blog-entry-1073.html



図 2. 鳥羽画巻物之内屁合戦

作者不明 1868（慶応 4／明治元）年

M・ウィリアム・スティール氏蔵

小林「思想漫画」作品の場合、その娯楽性はまず低俗な言葉遊びに認められる。次に、極端な事例の漫画化である。また、後期「ゴーマニズム宣言」に於いては、娯楽性の高い表現部分には異なる画風が採用されており、その部分が読者サービスである事に疑いの余地は無い（本章 10 節、57 頁、図 9 参照）。即ち、「思想漫画」作品には、小林漫画本来の要素であるギャグ - 小林は本来ギャグ漫画家である - が挿入されているのである。

次に、「思想漫画」作品の娯楽性として、権威に対する挑戦が指摘し得る。小林自身、「そもそも『ゴ宣言』は、形骸化した権威への挑戦として始まった」と説明しているが、デビュー作『東大一直線』並びにその続編である『東大快進撃』にそ

の思想的原型が認められる。⁸² また、小林が『おぼっちゃまくん』で小学館第 34 回漫画賞を受賞した際、小林に「賞を与えたくなかった年寄りの審査員」に絵をこき下ろされた小林は、自身のスピーチに怒りを込め、更にそのエピソードを漫画化している。⁸³ 当該エピソードは、小林が 2016（平成 28）年に自身の漫画家人生を解説した書籍『ゴーマニズム戦歴』に引用した漫画作品の筆頭を飾り、「わし（小林）が漫画の中で最初に戦った『権威』は、漫画賞の審査員だった」と書いている点から判断し、屈辱的経験が漫画家としての原動力となった以上に、「権威」に対する挑戦が「攻撃化」し、以降の小林作品の基盤になったと理解して良いだろう。⁸⁴ 小林は同書に「攻撃の対象は、主に知識人やマスコミだ」と書いていており、実際、その後の小林作品の内容展開はその言葉通りであるが、批判対象は形骸化した権威、即ち権威主義であり、攻撃対象が知識人やマスコミである点を留意しておきたい。⁸⁵

4. 日本漫画の系譜

今日われわれが「漫画」と呼ぶものは概して次の 2 種類であろう。即ち、風刺画の系譜に繋がるひとつの絵としての「漫画」と、ひとつのストーリーを持つ「漫画」である。前者は、伝統的な形式だが、現代の日本では衰退している。その呼称は必ずしも適切とは思われないが、「ひとコマ漫画」と呼称される場合があり、本稿に於いても便宜的にその呼称を使用したい。⁸⁶ 後者の一例として、新聞の 4 コマ漫画が挙げられるが、4 コマ漫画はひとコマ漫画の変形とする説と異質とする説がある。⁸⁷

⁸² 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、8 頁。

⁸³ 前掲書、29 頁。

⁸⁴ 前掲書、30 頁。

⁸⁵ 前掲書、8 頁。小林は天皇の権威を伝統に裏付けされた本物の権威と位置づけ、権威と権威主義を区別する。

⁸⁶ 水野良太郎は「ひとコマ漫画」に「一枚マンガ」と原注を付している。水野良太郎『漫画文化の内幕』河出書房新社、1991 年、15 頁。

⁸⁷ 例えば前者は清水勲、後者は水野良太郎。清水は 4 コマ漫画の起源を『北斎漫画』に求めて

いずれにせよ、そのストーリー性を強調し、自らの漫画作品を「ストーリー・マンガ」と呼称した漫画家が手塚治虫[1928 - 1989]である。⁸⁸ 今日われわれが広く「漫画」なる語から想像するものは概して「ストーリー・マンガ（物語漫画）」の系譜ではなかろうか。石子順は、1945（昭和 20）年の終戦から 2006（平成 18）年までの戦争漫画の足跡をまとめた『漫画は戦争を忘れない』に於いて、「ここでの戦争漫画は…ストーリー漫画と一コマ漫画である」と書き、戦争漫画をコマ割り概念で二分して論じている。⁸⁹

手塚的なストーリー漫画に対し、最初に「劇画」を主唱した漫画家は辰巳ヨシヒロ[1935 - 2015]である。ローゼンバウムによると、辰巳は 1959（昭和 34）年に「劇画運動」を始動したのであるが、1968（昭和 43）年に『劇画大学』を出版するに至った。⁹⁰ その際、辰巳と共に活動した作家として、ローゼンバウムはつげ義春[1937 -]と水木しげる[1922 - 2015]の名を挙げている。⁹¹

小山昌宏によると、本稿で小林よしのりと比較する水木しげるは「手塚マンガを『おやつマンガ（おもちゃマンガ）』と批判し、乗り越え可能な幼いマンガと意味づけ」、自らは「見る小説」、「新しい漫画」、大人が楽しめる読む漫画としての「劇画」の確立を目指した。⁹² 慥かに、1964（昭和 39）年発表の『テレビくん』以前

いる。

⁸⁸ 竹内オサムによると、1961 年、弘文堂から出版された「児童文化講座」の第 3 巻で、手塚治虫はストーリー漫画を戦後自身で創始した旨を書いている。竹内オサム「ストーリーマンガー長編の物語が誕生」竹内オサム・西原麻里『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2016 年、20-23 頁。水野良太郎は、手塚治虫以前にストーリー漫画を大きく発展させた人物として、北澤楽天門下の松下井知夫を高く評価しつつ、本格的ストーリー漫画の作者としては、手塚を筆頭に、石ノ森章太郎、ちば・てつや、松本零士を挙げている。水野前掲書、44-49 頁。一方、清水勲は 1896（明治 29）年『団団珍聞』に 3 回連載された田口米作[1864-1903]の 6 コマ漫画を日本初のストーリー漫画と評価している。清水勲『年表 日本漫画史』臨川書店、2007 年、78-79 頁（参考）。

⁸⁹ 石子順（いしこ じゅん）：漫画・映画評論家、元和光大学表現学部教授、日本漫画家協会理事。石子順『漫画は戦争を忘れない』新日本出版社、2016 年、18 頁。

⁹⁰ Roman Rosenbaum 'Introduction' "Manga and The Representation of Japanese History" pp.1-17, Routledge, 2013（参考）。

⁹¹ 前掲書（参考）。

⁹² 小山昌宏『戦後「日本マンガ」論争史』現代書館、2007 年、28 頁。また、水木の妻・武良布枝は、「水木はログセのように『オレは大人も読むに耐えるものを描く』とっていました」と回顧している。武良布枝『ゲゲゲの女房』実業之日本社、2010 年、124 頁。

の水木作品は、手塚作品と比較し概して大人向けであるが、コマ割り概念に基づくコマ数に従って分類するならば、水木の「劇画」も形式的には「ストーリー・マンガ」の系譜に位置付けられる。⁹³

5. 漫画の分類

前節に於いては「漫画」をコマ割り数により分類した。これに従うと、小林よしのり漫画作品は、「エッセイ漫画」、「思想漫画」、共に「ストーリー・マンガ」に分類されることとなる。しかし、小林よしのりの『ゴーマニズム宣言』を「ストーリー・マンガ」の範疇に入れることは、聊か乱暴な分類で、何らかの抵抗感を禁じ得ないのではなかろうか。

その抵抗感の原因として、漫画作品に認められる多様な表現形式をコマ数の単複により二分化した点に加え、内容による分類を行っていない点が指摘されよう。しかし、水野良太郎によると、「日本では表現形式ごとの名称があいまい」であり、また、水野自身その著書内に「＜ストーリー漫画／劇画＞」と表記し、ストーリー・マンガと劇画を同義に扱っている。⁹⁴

水野は内容による分類の有効性を述べているが、形式論を基盤にした各派の意見と、日本と欧米の用語の差異、日本に於けるひとコマ漫画の衰退を指摘するにとどまっている。そこで本項では、表現形式による分類以外の漫画作品の分類方法を考察したい。

通常、大学図書館或いは学校図書館に於ける漫画作品の分類は、他の書籍と同様、日本十進分類法に基づいており、基本的に漫画作品は「726 漫画・挿絵・童画」に分類される。⁹⁵ しかし、作品評価の場合には、これとは異なった一定の分類の上に行われている。例えば、講談社漫画賞に於いては、1977（昭和 52）年の第 1 回

⁹³ 水木の妻布枝は、1965 年の「少年マガジン」デビューを期に水木が画風を変える決意をしていた旨を記述している。武良布枝前掲書、121 頁。

⁹⁴ 水野前掲書、22 頁、32 頁。

⁹⁵ 国立国会図書館では「319 外交・国際問題」。

から少年部門と少女部門に分化されており、第6回の1982（昭和57）年に一般部門が追加された。第27回の2003（平成15）年には更に児童部門が追加されている。

⁹⁶ また、第34回小学館漫画賞に於いて、小林よしのりの『おぼっちゃまくん』が受賞した部門は「児童部門」である。⁹⁷ 実際、ギャグ漫画、学園漫画、スポーツ漫画（スポーツ根性漫画）、戦争漫画…等など多様な「ジャンル」を前提に議論、評価が行われているのである。⁹⁸

前者、即ち出版社の漫画賞に於ける部門設定は、想定される読者層に因る分類である。水木しげるが手塚治虫のストーリー漫画との差別化を図った際の着眼点は、成人の「読書」に耐え得る作品の創作であった（本章4節参照）。水木の手塚作品批判の言、「おやつマンガ（おもちゃマンガ）」は、想定される読者の年齢層の差異を示唆していると共に知的程度の相対的差異を示唆している。

一方、後者、即ち漫画作品の評価や議論に於いて実際に認められる多様なジャンルは作品内容に因る分類であり、漫画作品が扱う範囲の拡大と表現の多様化の現状に鑑み、有効な分類基準であろう。実際、漫画作品を比較的多く収蔵する図書館では作品内容により分類する事例が認められると共に、2016（平成28）年には「漫画日本十進分類法」の試みが認められる。⁹⁹

最後に、構成規模は小規模であるが、教育漫画の範疇が挙げ得る。当該範疇の作品に於いては、窺知や風刺等、漫画の本質的部分は最小限に抑えられ、漫画は絵とくとして機能する。子供に人気のキャラクターが算数や理科を解説するものの他、

⁹⁶ 講談社漫画賞児童部門は2014年の第38回以降休止。

⁹⁷ 小学館漫画賞は、1955年の第1回から1974年の第20回まで部門の設定は無かったが、その後部門の設定、追加、分割・名称変更を経て、2003年の第49回以降は「児童向け」、「少年向け」、「少女向け」、「一般向け」の4部門を設定している。

⁹⁸ 竹内オサムと西原麻は、赤本漫画、戦記漫画、スポ根漫画、ラブコメ、三流劇画、学習漫画、ロリコンマンガ、ヘタウマ、レディスコミック、エッセイコミック、ガールヒーローの11ジャンルに分類し、漫画ジャンルの多様性を論じている。竹内オサム・西原麻『マンガ文化55のキーワード』ミネルヴァ書房、2016年、第二章「ジャンルの多様性」（参考）

⁹⁹ 実際の分類は各図書館の判断に委ねられる場合が多く、例えば、石ノ森章太郎の『漫画日本経済入門』は「726」と「332 経済史・事情」のいずれか、小林よしのりの『戦争論』は「726」と「390 国防・軍事」または「391 戦争・戦略・戦術」、或いは「319 政治・社会」のいずれかに分類される。公立図書館の場合、各範疇の蔵書数と予算が分類決定に影響する。

成人読者を想定したハウトゥーものや啓蒙ものもこの範疇に入れて良いであろう。この分類は、教育、解説、啓蒙など、即ち、目的による分類と言える。

さて、以上で四つの分類方法、即ち、形式、内容、想定読者、目的に加え例も挙げた。しかし、例示したものは一部に過ぎず、「ジャンル」と称される範疇は、メジャーなものからマイナーなものまで広汎である。例えば、石子順がその著書『漫画は戦争を忘れない』の第一章「戦争漫画とは -」を、「戦争漫画は漫画の一つの分野であるが」と書き起こすよう、「戦争漫画」なる概念は既に確立されたメジャーなものである。¹⁰⁰ 一方、筆者の手元にある鈴木みそ著『僕と日本が震えた日』の表紙には「東日本大震災 ルポルタージュコミック」と書かれているが、「ルポルタージュコミック」、「ルポルタージュ漫画」は比較的マイナーな範疇であろう。¹⁰¹ 加えて、近年は「デジタル・コミック」と呼称される新たなメディア形式が出現し、漫画作品を従来の紙とデータに二分する分類方法が認められる。漫画作品の分類、細分化は一層進行していると言える。

6. 戦争漫画

本研究は、小林よしのりの「思想漫画」作品の内、『戦争論』三部作と『靖国論』、『天皇論』三部作の内『天皇論』と『昭和天皇論』を中心に置き、2015（平成 27）年発表の『新戦争論 1』までを射程に入れている。『戦争論』は、その題名が明示するよう、戦争が主題ではないかと考えられ、「戦争漫画」の範疇に入るであろうと推定し得る。そこで、『戦争論』の分析に先立ち、本節では「戦争漫画」の範疇を考察したい。

石子順著『漫画は戦争を忘れない』は、1946（昭和 21）年以降 2015（平成 27）

¹⁰⁰ 石子前掲書、8 頁。

¹⁰¹ 鈴木みそ『僕と日本が震えた日』徳間書店、2014 年。ルポルタージュ漫画の古い例では六浦光夫[1913-1969]作品に「マンガ・ルポルタージュ」がある他、富田英三（編）『漫画ルポ穴場ニッポン』集団形星、1962 年、近年では、福島第一原発の作業員ルポルタージュ、竜田一人『いちえふ』講談社、2015 年がある。『いちえふ』は講談社第 34 回 MANGA OPEN 大賞受賞作品である。

年までに出版された「戦争漫画」を年代順に紹介した上、手塚治虫、水木しげる、中沢啓治[1939 - 2012]には各 1 章の紙幅を割いて批判をするのみにとどまらず、現代の米軍基地問題まで扱っている。しかし、同書の一節「1990 年代」は「戦後生まれの比嘉遯」に反復言及するも、同じく戦後（1953 年）生まれの小林よしのりには言及がない。¹⁰²

石子は「戦争漫画」を定義し、「紙の上の戦争であり、ペンによって描かれる図上での戦争がもたらす生と死とを凝視する漫画である」、「戦争漫画とは、陸、海、空で展開された戦争の激しさむなしさを描く」と書いている。¹⁰³ また、戦争漫画に対する作家に因る呼称の差異を指摘し、「水木しげるは戦記漫画といい、松本零士は戦場漫画と呼」び、「ほるぷ出版で出した戦争漫画シリーズは平和漫画という名称」であると書いている。¹⁰⁴ 更に石子は、田河水泡[1899 - 1989]の『のらくろ』を「軍隊漫画」、中沢啓治の『はだしのゲン』を「原爆漫画」と呼称しており、戦争漫画の内容の多様性を示唆している。¹⁰⁵ また、石坂啓は 1991（平成 3）年、「反戦漫画傑作集」として『正しい戦争』を出版しており、呼称の差異は作者や編集者、出版社の思想と解釈を示唆している。¹⁰⁶

石子は戦争漫画を反戦メディアとして捉えており、「漫画全体からみると…主流ではないが長く深く水脈となって 70 年つながってきた」が、戦争世代の漫画家や編集者の減少により「戦争を真剣に考える風潮も弱くなっている」との現状認識を示している。¹⁰⁷ この石子の現状認識には小林よしのりが含まれないのである。

一方、2015（平成 27）年 6 月、京都国際マンガミュージアム・京都精華大学国際マンガ研究センター主催の「マンガと戦争展 - 6 つの視点 3 人の原画から」は、

¹⁰² 石子前掲書、68 頁。比嘉遯（ひがすすむ 1951ー ）：沖縄県那覇市出身の漫画家。

¹⁰³ 前掲書、8 頁。

¹⁰⁴ 前掲書、11 頁、136 頁。

¹⁰⁵ 前掲書、12 頁、136 頁。また、中沢啓治自身、『はだしのゲン』を「原爆漫画」と呼称している。中沢啓治『はだしのゲン わたしの遺書』朝日学生新聞社、2012 年、（参考）。

¹⁰⁶ 筆者下線。石坂啓『正しい戦争』集英社、1991 年。

¹⁰⁷ 石子前掲書、232 頁。

『戦争マンガ』を読み解くこと」の意義を主張し、小林よしのりの『戦争論』他、「戦争マンガ」29 作品を紹介した。¹⁰⁸ 同展は、小林の『戦争論』を含め 24 作品を「6 つの視点から」に分類展示すると共に、「3 作家の原画による新しい『戦争マンガ』の紹介」も行い、戦後生まれの女性漫画家 3 名 - おざわゆき、今日マチ子、ここの史代 - の原画展示を行った。¹⁰⁹ また、同展は開催を記念として、同展監修者である呉智英と小林よしのりとの公開対談を行っている。¹¹⁰

7. 政治漫画

戦争は政治の延長である。然らば、「戦争漫画」も「政治漫画」の延長として理解することも可能ではなかろうか。前節に於いては小林よしのり『戦争論』が「戦争漫画」の範疇に入る可能性を指摘したが、同時に「政治漫画」の範疇に入る可能性も検討する必要がある。

茨木正治は「政治漫画」を定義し、広義には「政治についての戯画」と書いている。¹¹¹ しかし、「政治漫画」は「時の権力者を攻撃するだけでなく、政治状況を一般の人々に簡易な形で伝えるという役割」を果たしていた。¹¹² 茨木の定義に従えば、幕末の風刺画も「政治漫画」に含めて良いのではなかろうか。例えば、1868（慶応 4）年発行の風刺画「当世三筋のたのしみ」は「江戸を三味線の稽古場として表している」が、「和宮と天璋院が師匠として描かれており、最も熱心な弟子として会津藩（蠟燭柄の着物）」が描かれている（図 3）。外には「天皇を抱く長州藩、

¹⁰⁸ 「マンガと戦争展－6 つの視点と 3 人の原画から」、2015 年 6 月 6 日～9 月 6 日、京都国際マンガミュージアムにて開催。同展に先行し、「マンガと戦争展－6 つの視点と 3 人の原画から+α」が 2015 年 2 月 11 日から 6 月 5 日まで明治大学米沢嘉博記念図書館で開催されている。

¹⁰⁹ おざわゆき（おざわ ゆき 1964－）：2012 年、『凍りの掌 シベリア抑留記』で第 16 回文化庁メディア芸術祭マンガ部門新人賞受賞、2015 年同作品及び『あとかたの街』で第 44 回日本漫画家協会賞コミック部門大賞。今日マチ子（きょう まちこ）：2014 年、『あつあみの神様』で第 18 回手塚治虫文化賞新生賞受賞、2015 年、『いちご戦争』で第 44 回日本漫画家協会賞大賞受賞。ここの史代（ここの ふみよ 1968－）：2004 年、『夕風の街 桜の国』で第 8 回文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞、第 9 回手塚治虫文化賞新生賞受賞。

¹¹⁰ 「小林よしのり×呉智英対談」、2015 年 7 月 19 日、京都国際マンガミュージアムにて開催。

¹¹¹ 茨木正治『「政治漫画」の政治分析』芦書房、1997 年、6 頁。

¹¹² 前掲書、6 頁。

土佐藩」、内には背を向けた慶喜が描かれ、その「手にしている本には『をれは今やるとそうぞうしいからよく見てあとでやるよ』と書かれている。¹¹³ 「やる」とは大政奉還実行の暗示であり、当該風刺画が江戸幕府末期の政治風刺たることは明白である。

一方、日本初の職業漫画家とされる北澤楽天[1876 - 1955]は、1902（明治 35）年、茨木による「政治漫画」の定義を満たす漫画を「時事漫画」に発表している。しかし、「時事漫画」は福澤諭吉主宰「時事新報」の漫画特集欄であり、1921（大正 10）年に新聞日曜版別冊として独立、『時事漫画』となるも、その経緯を考慮すれば、単に元の新聞名に因んだ名称と理解するのが妥当であろう（図 4）。¹¹⁴

¹¹³ M. ウィリアム・ステイール『幕末から明治の風刺画』国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館、2012 年、24 頁。

¹¹⁴ さいたま市「観光・スポーツ・文化」

www.city.saitama.jp/004/005/002/003/001/002/index.html（アクセス日：2017 年 7 月 16 日）（参考）。さいたま市によると、楽天の家系は大宮宿の旧家である。



図3. 「当世三筋のたのしみ」

1868（慶応4）年

M・ウィリアム・スティール氏蔵



図 4. 『時事漫画』大正 10 年 3 月 13 日号

右から西園寺公望、山縣有朋、松方正義

清水勲編『時事漫画 1』国書刊行会、1986 年、8 頁より転載

「政治漫画」の役割、或いは機能に着目すると、『戦争論』にも同種の機能が認められないであろうか。茨木は、一コマ漫画を「カートゥーン」と、二コマ以上の漫画を「コミック」と呼称し、政治カートゥーンを「政治漫画」、政治コミックを「政治マンガ」と分別呼称しているが、茨木の分別に従えば、小林よしのりの『戦争論』は「政治マンガ」に該当する可能性がある。¹¹⁵

また、副田義也は「政治マンガ」を3種の「領域」に分類する。即ち、第一の領域が「政治家たちの似顔絵」、第二の領域が「政治力学の象徴的表現」、第三の領域が政治を「民衆の生活レベルにまでおりてとらえる」作品である。¹¹⁶

第三領域の定義の意味するところは、漫画化の範囲が政治家（第一領域）及び政治（第二領域）にとどまらず、読者の実生活への影響まで及ぶということである。

副田は、第一の領域を日本の「政治マンガの古典」と位置づけ、代表的漫画家として、近藤日出造[1908 - 1979]並びに清水崑[1912 - 1974]を挙げている。¹¹⁷ 第二領域の漫画家としては横山泰三[1917 - 2007]を挙げているが、副田は当該領域も「もはや古典化して」と述べている。¹¹⁸ 最後は副田が「政治マンガのようやく展開したこの第三の領域」と期待を込めつつ、複数の漫画家名を列挙しているが、その共通点として以下の4点を挙げている。¹¹⁹

一、1960年代後半以降活躍

二、ナンセンス漫画或いはギャグ漫画を描く

三、性風俗を素材にすることが多い

四、作品のストーリー性が高い

¹¹⁵ 茨木正治「政治漫画と政治マンガ」茨木正治（編）『マンガジャンル・スタディーズ』臨川書店、2013年、259-283頁。

¹¹⁶ 副田義也『現代マンガ論』日本経済新聞社、1975年、92-93頁。

¹¹⁷ 前掲書、92頁。

¹¹⁸ 同上。

¹¹⁹ 前掲書、94頁。

副田が政治漫画を論じた当該書籍『現代マンガ論』は 1975（昭和 50）年の著作で、副田は「政治マンガの第三の領域に、これから、私たちは、めざましい収穫が期待できるようにおもいます」と結語を書いているが、副田の列挙した共通点は、多分にして小林よしのりにも共通するのではなかろうか。¹²⁰

呉智英は『マンガ学入門』所収の「戦争とマンガ」に於いて小林の「ゴーマニズム宣言」を「一種のエッセイマンガ」としつつ、「全く新しい形式の政治マンガである」と評している。¹²¹ 呉の「ゴーマニズム宣言」評価を然りとするならば、小林よしのり作品は今日、政治マンガ第三領域の最先端に位置すると言える。

8. 思想漫画

漫画作品が作者の思想を反映することは当然である旨、筆者は反復して述べてきたが、括弧無しの思想漫画という範疇を設定する場合、筆者が指摘した四つの分類方法、即ち、形式、内容、想定読者、目的のうち、内容と目的の二点から差別化し得るのではなかろうか。

まず、内容が思想的である点が想起されるが、思想的内容を以て思想漫画と認めることは、思想性があらゆる文芸作品の前提である以上、その程度で判断せざるを得ず、客観的基準を設定することは不可能であろう。従って、それを避けつつ内容による差別化を行う場合、思想紹介、思想解説、及び思想のパロディが考え得る。

次に、目的を以て思想漫画を認める場合、読者の思想を促進する漫画作品となる。

例えば前者の例として、樋口雅一『まんがキリスト教の歴史』を挙げ得る（図 5）。

¹²² 同書は紀元前 2000 年から現代までのキリスト教の歴史を描いた作品である。

当然としてキリスト教思想、宗教観が表れており、キリスト教思想漫画であると共に歴史漫画である。また、宗教に焦点を絞るならば、宗教漫画と呼称し得ると同時

¹²⁰ 前掲書、95 頁。

¹²¹ 呉智英「戦争とマンガ」夏目房之介・竹内オサム『マンガ学入門』ミネルヴァ書房、2009 年、163-167 頁。

¹²² 樋口雅一『まんがキリスト教の歴史』いのちのことば社、2006 年（参考）。

に、読者にキリスト教及びその歴史を学ばせるという目的に立脚すれば、学習漫画でもある。

一方、小泉吉宏『ブッタとシッタカブッタ』は、シッタカブッタなる豚を主人公とした仏教思想漫画である（図 5）。¹²³ 同書は書名が仏陀と豚を掛けている点、豚を主人公としている点が示唆するよう、仏教思想の紹介や解説ではなく、読者に学習させるような作品ではない。しかし、主人公のシッタカブッタが日常生活に苦悩しつつ、仏教的真理に気付くという内容で、読者はシッタカブッタの悩みを笑いつつも、いつの間にかその姿に自己を投影し、自己を客観視することができる作品である。即ち、作品を読む行為が読者の立場と主人公の立場を思想的に逆転させ、最終的に読者の立場に立ち返るまでに思想的体験をもたらすのである。従って、当該作品は、後者、読者の思想を促進する意味の思想漫画作品と言える。¹²⁴



図 5. 思想漫画

筆者撮影

¹²³ 小泉吉宏『ブッタとシッタカブッタ 1』メディアファクトリー、2003 年（参考）。

¹²⁴ 読者側の目的から言えば、自己啓発漫画とも換言し得るだろう。

また、いしいひさいち『現代思想の遭難者たち』は、ハイデカーを始めに 34 人の現代思想家をパロディ化した漫画作品であり、基本的には前者に該当する(図 5)。

¹²⁵ 同書は、パロディのもとである思想家を知らなければ作品理解も困難であり、編集者による膨大な注釈が附された異色の作品で、所収作品の殆どが 4 コマ漫画の形式を採っている。例えばハイデカーの場合、4 作品全てが 4 コマ漫画で、合計 16 コマ中 15 コマに注釈が附されている。パロディ作品ではあるが、思想家毎に冒頭に於いて、人物、著作の紹介、思想の特徴が書かれており、筆者が内容による差別化に想定した 3 様式、即ち、思想紹介、思想解説、及び思想のパロディの全てに該当する漫画作品である。

9. 小林よしのりのエッセイ漫画の特徴

以上本章は、漫画の分類方法と呼称の多様性を論じたが、小林よしのりによる「エッセイ漫画」、『ゴーマニズム宣言』の位置付けには、漫画作品の意味内容からの考察が有益であろう。

小林作品以外にも「エッセイ漫画」、或いは「コミック・エッセイ」等と称し作者の日常や過去の経験を描いた漫画作品は数多存在し、その内容は家庭生活、学校生活、異文化体験、業界内輪話等など例を挙げれば枚挙にいとまが無い。しかし小林の場合、自身の漫画作品をギャグ漫画、エッセイ漫画、思想漫画、ストーリー漫画の四種に分別呼称しており、小林が「エッセイ漫画」と称する場合、「エッセイ」という語に何らかの意味合いが込められていると考え得る。「エッセイ漫画」なる用語に於ける「漫画」とは、コマ割り漫画の意味である。では、小林の言う「エッセイ漫画」とは何か、主題は何であろうか。漫画自体、そぞろ(漫)画であるから、本質的に随筆的要素があるのは当然である。

まず、小林エッセイ漫画作品の特徴としてストーリーの短さとフィクション性の低さが指摘し得る。例えば、『ゴーマニズム宣言』第 1 巻の場合、序章を含め 49

¹²⁵ いしいひさいち『現代思想の遭難者たち』講談社、2002 年(参考)。

章（49 作品）中 48 章が見開き 1 頁の短さである。¹²⁶ また、同巻第 5 章「小指の思い出」は、冒頭に「学生の頃、わしは福岡の／繁華街でサ店のウェーター／やっていた……」と書かれており、作者小林と読者は、「現在」、「この場」を共有し、読者は小林の回想を読むのである（図 6）。¹²⁷ 同作品は上部余白（↓）に「この実話を 30 ページくらいで、もっと細部のエピソードまで漫画にしたい」と書かれており、続けて「希望する雑誌社はキャッシュをトランクにつめて、料亭で芸者呼んで、わしをくどきにきなさい」とゴーマンなメッセージが書かれているものの、それは小林一流の読者サービスであり、ストーリー自体の事実性は非常に高いと判断して良からう。¹²⁸

見開き 1 頁の同作品には 3 つの小林よしのり像が描かれている。第一に、題名下部に描かれた、学生時代の小林である。この小林像は、当該作品の登場人物として 25 コマ中 17 コマに描かれている。第二に、最後の 2 コマに描かれた「現在」の小林像である。第二の小林像は、暴力団幹部たる「兄ィ」に関わる回想に合わせ任侠映画風に描かれたエンターテイメントである。第三の小林像は、上部余白部分に描かれた、中世ヨーロッパ貴族風の衣装を纏ったものであり、周囲に描かれた十字の記号は輝きを表現しているのみならず、形容装飾記号として、作者小林よしのりが作品中の「作者」であるにとどまらず、特別な存在たることを示唆している。

¹²⁶ 小林よしのり『ゴーマニズム宣言 1』扶桑社、1994 年。

¹²⁷ 小林よしのり「小指の思い出」前掲書、16・17 頁。

¹²⁸ 前掲作品、17 頁上部余白（筆者矢印）。



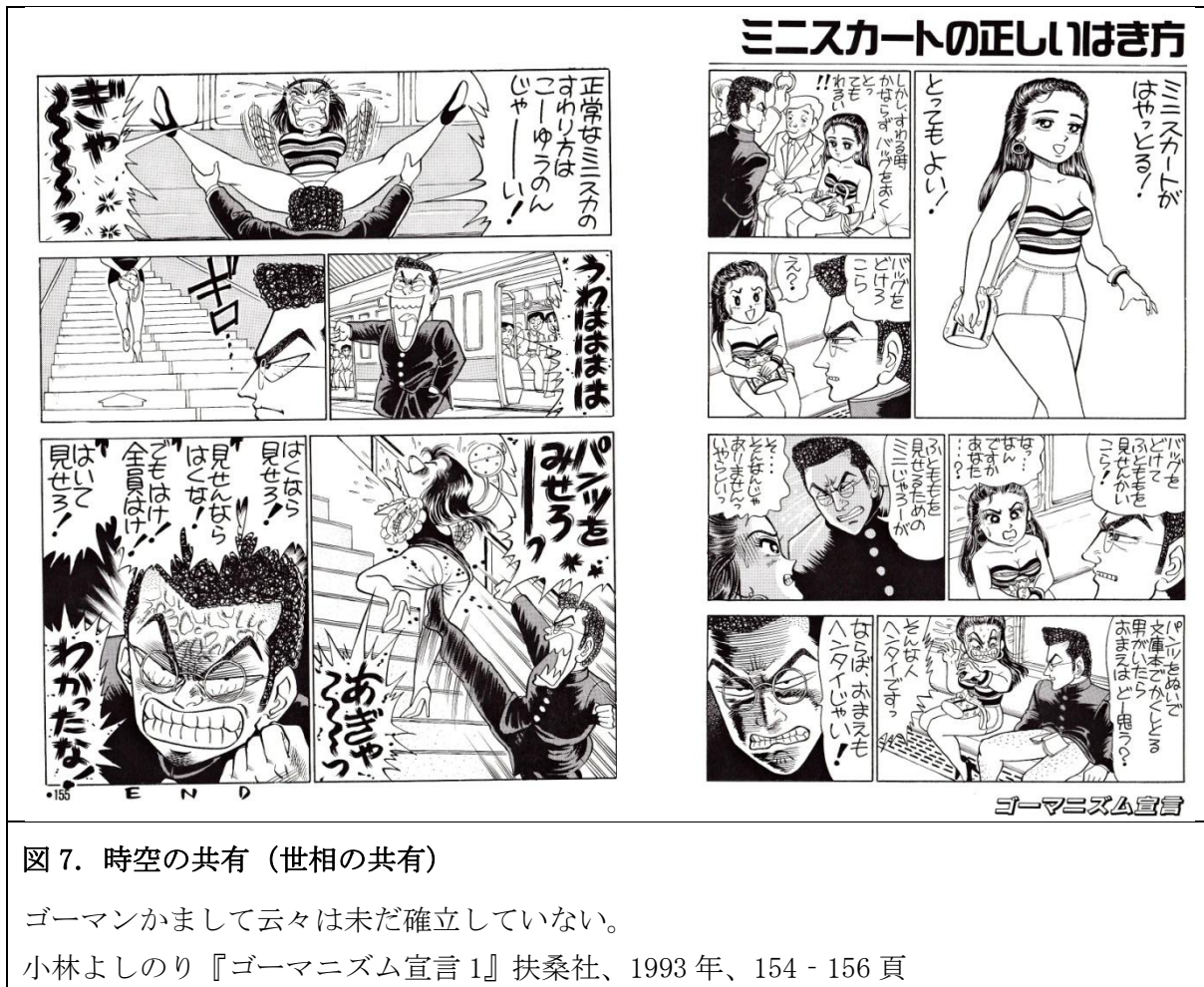
図 6. 変幻自在の小林よしのり

任侠映画風の小林像はエンターテインメントだが、刺青に『おぼっちゃまくん』の主人公を描くことにより、小林が漫画家となった「現在」たることを示唆している。

小林よしのり『ゴーマニズム宣言 1』扶桑社、1993 年、16 - 17 頁

一方、同巻所収の「ミニスカートの正しいはき方」は、第 1 コマに「ミニスカートが／はやっとる!」、「とってもよい!」と書かれ、作者と読者が世相を共有するが、そこに続くストーリーは、小林が電車内にミニスカート姿で座る女性の股を手で広げ、階段を上る女性の股間を蹴り上げるといったもので、当然創作である（図 7）。¹²⁹

¹²⁹ 小林よしのり「ミニスカートの正しいはき方」前掲書、154-156 頁。



例に挙げた 2 作品を含め、小林よしのりの『ゴーマニズム宣言』に共通した最大の特徴は、作者たる小林自身が作品内に主人公として自在変化に出現している点である。そこには、自在に変化させ得る作者として小林よしのりが隠されており、後の「思想漫画」では頻繁に作品内に登場する。上部余白の小林自画像は、例示した読者サービスの為の冗談の他、呟き、情報、呼びかけなど、多様な小文と共に用いられ、脇役的存在である。しかし、その脇役は道化としての「作者」ではなく、作品外に超然と立つ絶対者小林よしのりの化身と言えるものである。

エッセイ漫画作品に於いて、作者が自身を作品中に描いた例は多い。しかし、その場合の「作者」は、物語の話者或いは単なる一登場人物など、概して作品中の脇役である点を四方田犬彦は指摘している。¹³⁰ 四方田は「作者が脇役であることを

¹³⁰ 四方田犬彦『漫画原論』筑摩書房、1994 年、202-206 頁。

止め、語り手兼主人公としてはっきりと作品の冒頭から登場し、…彼の地の声を響かせているとき、漫画は物語を語るというよりも、むしろエッセイ風のモノローグといった形態をとる」と述べた上、小林が『ゴーマニズム宣言』に於いて「一登場人物である以上に、作品全体を統括する特権的な自己演出に耽っている」と指摘している。¹³¹ しかし、同時に四方田は『ゴーマニズム宣言』で見せた小林の手法が「漫画における話者の全能者としてのあり方を、あらためて読者に思い起こさせた」点を「ラディカル」と評している。¹³²

小林のエッセイ漫画の場合、作者と読者の時空の共有が前提となっており、ストーリーは作者に問題意識を支える限りそのフィクション性は問題外と言える。「現在」、「この場」を共有した上での想像や比喩として、エッセイ漫画が異界や宇宙を描くことはあり得る。しかし、作品根底の現実性を抜きにして、エッセイ漫画に於いて小児型原子力ロボットが空を飛翔したり、はたまた死んだ母親の墓穴から子供が生れ出することは無い。¹³³

筆者は漫画の本質性として随筆的要素を指摘したが、そこに作者の思想が反映されるは当然の結果で、全く反映されなければ、それは商業主義(売れば良いのか)との批判を受けよう。小林よしのりは、初期『ゴーマニズム宣言』を「エッセイ漫画」と呼称したが、その内容は小林の日常生活に於ける見聞とそれに対する意見表明である。「創作者と読者の間の問い」の存在という水木の先見性に対し、問題を提起し、作者の直感的意見表明を主題に据えた漫画作品が小林よしのりの「エッセイ漫画」であると言える。即ち、小林よしのりのエッセイ漫画は、日常自体が主題にあらず、日常を見る小林の問題意識が主題なのである。小林自身、インタビューに答え「ゴーマニズム宣言」開始直後の迷いを、「本当にこういうヘンテコな漫画

¹³¹ 前掲書、206 頁。

¹³² 同上。

¹³³ 「小児型原子力ロボット」とは手塚治虫『鉄腕アトム』或いはその原作『アトム大使』のアトム、「死んだ母親の墓穴から生まれ出た子供」とは水木しげる『ゲゲゲの鬼太郎』或いはその原作『墓場鬼太郎』の鬼太郎を指す。

を描いていいのか、わからなかった」と告白している。¹³⁴ 小林は当時を回顧し「ゴーマニズム」と命名すること自体が、「本当にゴーマンだったら『ゴーマニズム』なんてつけるわけがない。それはある客観性を以て、自分を演出しようという戦略」であったと述べるとともに、その点を誤解されることが多かった旨を合わせて述べている。¹³⁵

小林の問題意識は時事問題を主題に差別問題、宗教問題など広汎に及び、竹内オサムは「ゴーマニズム宣言」を「従来のマンガの枠から一步も二歩も踏み出す作品」、「連載への批判に対して連載作品のなかで応えるなど、異色」、「これまでのマンガや他のメディアがふれなかったことを問題提起した点で、マンガ史に残る作品である」と評価している。¹³⁶

評価内容の差異はあるにせよ、『ゴーマニズム宣言』を異色のエッセイ漫画と評すことに異論は無いのではなかろうか。

10. 小林よしのりの漫画分析

本稿は、小林が思想と呼称するところの意味を明らかにし、その主張を分析するため、いわゆる漫画論にあらざる点を冒頭に断っているが、漫画を通しての研究である以上、小林の代表的と思われる絵の分析を試みたいと思う。そこで、『ゴーマニズム宣言』の漫画としての最大の特徴と言い得る小林自身の絵（自画像）のコマを数コマ抽出、分析し、その機能を述べることにする。

筆者が、小林作品中最も小林の特徴が表出していると思うコマは、序章にて言及したトランクス姿の絵、「駄洒落と本意」である（図8）。

当該コマには二つの小林像が描かれており、漫画の手順としては右のコマ内コマを先に読む。

¹³⁴ 新保信長「仕事も恋愛も人生も人をおそれるな!」『新ゴーマニズム宣言 14 勝者の余裕』小学館、2004年、158-165頁。

¹³⁵ 同上。

¹³⁶ 竹内オサム：漫画家、同志社大学社会学部教授。竹内オサム『戦後マンガの50年史』筑摩書房、1995年、189-190頁。



図 8. 駄洒落と本意

「極右」なる「レッテル貼り」的批判を批判している。

「局部」は思想的局部と肉体的局部をかけている。

小林よしのり『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 平成攘夷論』小学館、2007 年、242 頁

コマ内コマの中世ヨーロッパ貴族風、或いは宝塚風に描かれた小林の半顔像は、実像より美男に描かれている点は指摘するまでもなく、寧ろ漫画に於ける美の形容装飾記号である星が、作者小林よしのりの自己パロディ化した絵であることを明示している。¹³⁷ 当該小林像は、『ゴーマニズム宣言』発刊当初から描かれており、初期の使用方法是本稿前節に指摘したところである（51 頁、図 6 参照）。また、当該小林像が、漫画家小林よしのりの単なる自画像にあらず、絶対者である点も前節に述べたが、決め台詞「ごーまんかまして／よかですか？」と共に作品終幕直前に挿入される明白な自己パロディは、読者をして作品が娯楽（エンターテインメント）であることを再確認させるのである。

次に、当該コマの主要部分を精査したい。こちらの小林像は、漫画家小林よしのりの自画像である。小林作品内の漫画家小林よしのり自画像は、『ゴーマニズム宣

¹³⁷ リンダ・ハッチオンはパロディの形態の一つとして、「自らの正体を問題視する」「自己パロディ」を挙げている。リンダ・ハッチオン（著）辻麻子（訳）『パロディの理論』未来社、1993 年、25 頁（参考）。

言』以前より、「よしりん」として度々欄外に登場していたが、『ゴーマニズム宣言』では作品の主要登場人物となった。

漫画家自画像としての小林は、『ゴーマニズム宣言』発表当初から実像に比較し多少美化されているかも知れないが、当時の小林本人はやや神経質な印象を与えるも子供に人気の好青年然としていたと言っても過言ではなかろう。意見表明のコマの小林像は明確なパロディ画像ではなかったのではあるまいか。しかし、『ゴーマニズム宣言』の発表から既に約 25 年が経過したにも関わらず、小林像には変化が乏しく、実年齢、実像を反映していないようである。¹³⁸ 従って、形容装飾記号の無い点、及び近年の自画像を示唆する贅肉の描写を考慮すると、当該小林像の自己パロディ性は、コマ内コマと比較し相対的に低い。

このトランクス姿の小林像は、眉間に皺を寄せ、眼と眉はつりあがり、怒りの表情を見せている。鼻にも皺を寄せ、歯をむいて叫んでいるのであるが、その左手が股間を指している点から、「わしの局部は左よりじゃーい！」と叫んでいると理解して良からう。当該コマに於ける小林の怒りは誰に向けられ、誰に向かって叫んでいるのであろうか。

そこで、当該コマの吹き出しに注目したい。「極右／極右」とは、『戦争論』以降の小林に対する世間の批判の声である。その世評に対し、小林は「わしの局部は左よりじゃーい！」と怒りの表情で反論しているのである。従って、怒りの対象は世間、批判の言葉が「極右」である点から、世間的には左派の人々と推察し得る。小林の社会活動および思想については順次以下本稿で述べるのであるが、従来の思想的左右判別を行うならば、小林の思想の根底部分はいわゆる左翼的と考えられ、2003 年の『戦争論』完結記念インタビューでは、「最初に『戦争論』を描いたとき」を回想し、『『これを出したら右翼だって言われて、もうゴーマニズム宣言も終わりじゃないか』というリスクを背負いながら勝負した』と語っている。¹³⁹ 従って、

¹³⁸ 漫画のキャラクターとしては当然である。

¹³⁹ 金森由利子（聞き手）「著者・小林よしのり語る。 “『戦争論 3』は、こう読め！”」 「わ

局部左より云々は小林自ら思想的局部は左派なる旨を宣言しているのである。

絵としては、小林の身体的局部が「左より」に描かれており、思想的「左より」と意味を掛けたギャグ漫画である。このギャグ表現により、小林像の怒りの表情が小林よしのりの生の怒りにあらず、小林を右翼と位置付ける単純な論調に対し、怒るべきとのメッセージが込められるのではなかろうか。つまり、単純なフラストレーションの表明ではなく、世論に批判される側に立った一種の義憤なのである。

もう一点、小林の明白な自己パロディの例を挙げたい。次の一コマは、小林が戦争否定を当然の前提としている旨を表現したコマで、次コマには『軍国主義』なんか嫌いに決まっている！」と続く（図9）。



図9. 自己パロディの描き分け

小林よしのり『戦争論 2』幻冬舎、2001 年、42 頁

当該コマに描かれた小林像は、円を基調として描かれており、輪郭は丸みを帯びている。先に引用した「駄洒落と本意」の小林像と比較すれば、その差異は明白であろう。円を基調としたキャラクターは子供向け漫画の定番であり、当該コマの右三像は小林の『おぼっちゃまくん』の主人公と類似点が（第四章 6 - 1、155 頁、図 34 参照）、四番目の興奮した小林像は『東大一直線』の主人公との類似点が指摘し得る（同、153 頁、図 32 参照）。また、当該コマの 6 つの吹き出しの字体を比較す

ると、右の三つはポップ体、次ぐ二つはゴシック体、最後が明朝体と思われ、字体の相違は明白である。

その意図するところは、当該コマが描かれた『戦争論 2』に先行する『戦争論』に於ける小林の真意を、いわゆる戦争美化であると批判することに対する幼稚性、好戦的であると批判することに対する単純性を強調した皮肉である。¹⁴⁰

筆者は、一連のゴーマニズムは小林の自己パロディが基盤になっていると考えるが、自己パロディをゴーマニズム全体の基盤とすることにより、作品内の自己パロディ性が相対的に低下する。そのため、読者をしてパロディ性を明白に認識せしめるためにはこのような絵、字体並びに記号による言語表現（もだえちゃう〜ん♡）による強調が必要となるのではなかろうか。当該コマに強調された自己パロディによるメッセージは、『戦争論』批判は幼稚、単純、一笑に付すべきとの意味であろう。幼稚性、単純性を強調した絵と文字の効果は、読者をして『戦争論』批判者、延いては小林批判者に対する優越性を喚起させるであろう。

最後に指摘しておきたい点は、当該コマに於ける作者小林よしのりを表現した像は左端の像のみで、「…なんて思うはずがない」が小林の反論であるのだが、当該コマ内の小林像は、いずれも漫画家小林よしのり本人そのものではないことである。先に引用した「駄洒落と本意」に於ける小林像も、小林本人ではない。当然のことながら、作者である小林は、作品外に超然と存在する。漫画として描かれた小林像を以て、「小林よしのりは云々」なる批判を述べるのは、正に批判者自身が小林よしのりの作品に取り込まれていると言えるのではなかろうか。

しかしながら、小林作品の絵に関する、下品、差別等の諸般の批判も無視すべきではなく、その点に関しては後章にて場面毎に言及したい。

¹⁴⁰ 小林は『戦争論 3』の発表に際し、『戦争論』完結記念インタビューに於いて『戦争論 2』が、一作目『戦争論』に対する批判への反論が多くなった点を語っている。金森由利子・小林よしのり「著者・小林よしのり語る『戦争論 3』は、こう読め!」『わしズム』Vol.7、2003年7月25日、幻冬舎、8-15頁（参考）。

11. 小林よしのりの言語としての「思想」

小林の主張内容は後章で論ずるが、小林は「思想漫画」作品に於いて持論を展開しており、当座、日本の「伝統」を重視する保守主義と言えよう。¹⁴¹ 然らば、小林「思想漫画」は「保守イデオロギー漫画」ではなかろうか。そこで、本節に於いては、日本思想とは、或いは「日本思想」とは何たるかを考察し、小林よしのりの言語としての「思想」の意味を究明する。

吉本隆明は「政治と文学という問題の立て方が気に入らず」、制度と個人、外部と内部、政治と文学の「両方がからまった領域」を「思想」なる語で表現した。¹⁴² 吉本は、日本では思想自体を体系的或いは象徴的に述べたものは少なく、茶や演劇など、何らかの具体性ととも述べられる傾向を指摘している。その上で、それらに共通すべき「曖昧な思想のマトリックス」を想定しているのである。¹⁴³

また、梅原猛は歌論に着目したという。梅原は「感情の論理という新しい論理をこしらえねば日本の文化は把握できない」と断言しつつ、感情の論理による日本研究が「うまくいきませんでした」と告白した上、吉本の先の指摘に同意している。¹⁴⁴ 梅原は、「日本思想」を純粹に思想として抽出する困難さを指摘し、宗教や文学、「習俗の中にある思想的なもの」として把握している。¹⁴⁵

吉本と梅原は日本思想の曖昧性を前提に論じていると言えよう。「感情の論理」という梅原の表現は、小林作品の理解に示唆的である。¹⁴⁶

小林よしのりはエッセイ漫画、初期「ゴーマニズム宣言」に於いて、自身の直感で断言する故に、傲慢な姿勢を「ごーまんかまして」云々と断りつつ自己主張を漫画作品化したのであるが、直感を判断基準とする宣言は、論理の放棄と理解し得る。

¹⁴¹ 「伝統」の何たるかは措くとして、少なくとも戦後の親米派「保守」とは異なる。

¹⁴² 吉本隆明・梅原猛他「日本人の『思想』の土台」『日本人は思想したか』新潮社、1995年、7-61頁。

¹⁴³ 前掲書、12頁。

¹⁴⁴ 前掲書、14頁。

¹⁴⁵ 同上。

¹⁴⁶ 宮台真司は小林を「情の論理」と批判している。(第三章2節2項参照)。

しかし一方で、或る意味では、論シリーズと比較し、より日本思想的と言えるのではなかろうか。小林が、『戦争論』以降、論シリーズに御製歌や辞世の句を引用している点も、梅原的「感情の論理」による理解が必要な要素である。¹⁴⁷

小林よしのり自身、「思想」なる語句を如何なる意味で使用するかの説明はしていないのであるが、「政治」の対立語句として使用している事実が認められる。小林は、2002（平成14）年2月7日開催の第18回「つくる会」シンポジウムを漫画作品化しているが、田久保忠衛、田中英道、八木秀次、西尾幹二が小林の米国多発テロ認識に批判的で、田久保、八木、西尾は「『思想と政治は分けて考えるべきだ』という発言を呪文のように繰り返した」という。¹⁴⁸ 小林は政治的選択としては「日米同盟に従って参戦するしかない」とした上で、言論人として「語るべきことは、思想しかないではないか！」と反論している。¹⁴⁹ 小林は漫画作品内で言論人が「バッジをつけていない政治家と化した！」と書き、「彼らの思想は、政治に、従属してしまった」と批判するにとどまらず（図10）、活字著作では「政治と思想は別だと言いながら、実際には『思想より政治を優先すべきだ』と言っている」と自己の解釈を書いている。¹⁵⁰ 小林は、「政治的意見」とは別に「思想的意見」があると述べ、「わし（小林）は政治家でもなければ官僚でもない。単なる言論の徒である」と自身の立場を明確にした上で「思想的にテロリズムを語る」のである。¹⁵¹

¹⁴⁷ 小林による『戦争論』三部作、『靖國論』、及び『天皇論』三部作への和歌、辞世句等の引用は巻末の一覧表を参照されたい。

¹⁴⁸ 田久保忠衛（たくぼ ただえ）：政治学者、杏林大学社会学部・総合政策学部客員教授。田中英道（たなか ひでみち）：美術史家、元東北大学大学院文学研究科教授、ボローニャ大学客員教授。八木秀次（やぎ ひでつぐ）：法学者、麗澤大学経済学部教授。小林よしのり「テロリアンナイト、ブルカ脱ぐか物語」『新ゴーマニズム宣言 11 テロリアンナイト』幻冬舎、2002年、259-277頁。（初出：『正論』2002年5月号所収、「『思想』は『政治』の前に沈黙せねばならぬのか」）。同著は活字著作であり、小林は政治的選択として日米同盟の尊重と集団的自衛権の明言を主張している。

¹⁴⁹ 小林よしのり「さらば『つくる会』、思想を語るために。」小林前掲『新ゴーマニズム宣言 11 テロリアンナイト』、251-258頁。

¹⁵⁰ 小林前掲「テロリアンナイト、ブルカ脱ぐか物語」（論文）、268頁。

¹⁵¹ 前掲論文、262頁。

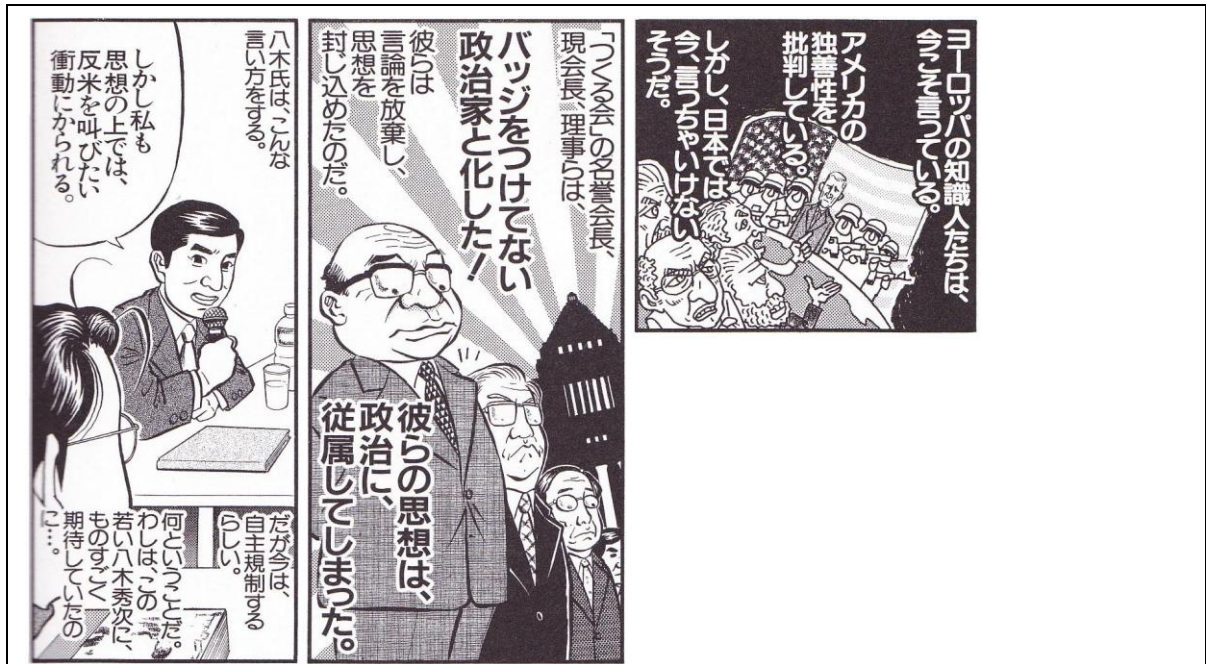


図 10. 「政治」と「思想」

小林よしのり『新ゴーマニズム宣言 11 テロリアンナイト』小学館、2007 年、254 頁

以上の議論から小林の言うところの「思想」は「政治」的なものではなく、従って、政治により導出されるべき国益に直結するものではないようだが、その実態、本質は何であるか、小林の道德・倫理論から考察したい。

小林は、岡田斗司夫との対談に於いてインターネット上のモラル形成の可能性を議論した際、ネット上の匿名性が道德形成を阻害する故に、道德にあらざる倫理が必要であると説いている。¹⁵² 岡田に道德と倫理の相違を問われ、小林は以下のように明快に答え岡田を感心させている。¹⁵³

道德と倫理の違い

それは簡単だよ。物事をためらうときに、「人様にはずかしいから」という理由だったら道德、「お天道様が見ているから」が理由だったら倫理。

¹⁵² 岡田斗司夫・FREEex『僕らの新しい道德』朝日新聞、2013 年、99-131 頁（参考）。

¹⁵³ 前掲書、104 頁。

小林、岡田ともに道德の低下を論じるが、小林はその前提として、日本に於ける倫理感の低さを指摘している。その上で、他者の視線を気にする「道徳的感觉から」特攻隊に志願した者と「本当に捨て石になればいいという気持ちで志願した」者の両者の存在を指摘しているのである。¹⁵⁴ 後者は、精神的にも物理的にも自己の損得を度外視した価値基準に基づく「滅私」行動である。価値とは即ち「公」と呼称されるものであり、判断基準が「正義」の有無となろう。

小林の道德・倫理観を政治・思想観に置換すれば、「日米同盟」に従い「対テロ戦争」参加に同意しつつオサマ・ビン・ラディン他テロリストに共感を示す態度を理解し得るのではなかろうか。小林は、「テロリズムによって建国したイスラエル」をポール・ジョンソン『ユダヤ人の歴史』を引用しつつ紹介、メナヘム・ベギン [Menachem Begin 1913 - 1992] 元イスラエル首相がテロリストであった事実を指摘しながらも、以下のように書いた上、親米保守派に「イスラエル建国を承認しないのか？」と迫る。¹⁵⁵

わしはイスラエルがこのようにテロによって国家を建設した事実を非難しない。結果として国家建設に成功したから、テロリスト・ベギンも首相にまでなった。テロリスト・アラファトもノーベル賞を受賞している。国家建設が成ったら首相になれるだろう。われわれの生きる不条理な人間社会にあって、善と悪は常にその所を変えているのである。¹⁵⁶

上記の引用文は、テロ自体を道徳的に非難されるべきものとする小林の認識を示すが、善悪を相対化することにより、「感情の論理」を以て「正義」の存在を示唆しているのではなかろうか。その答えを「否」と仮定しても、同情の余地を否定することは困難ではなかろうか。

小林よしのりの用語としての「思想」には、「正義」の要素が多分に認められ、それは常に変化する善悪の外に超然と存在すべきもの、認められるべきもののなので

¹⁵⁴ 小林は「道德」が同調圧力になる可能性も指摘している。前掲書、110 頁。

¹⁵⁵ 小林前掲論文、266 頁。

¹⁵⁶ 筆者下線、前掲論文、266 頁。

ある。小林の「思想」は、倫理観に基づいた「正義の思索」と換言し得る。

12. 結論

漫画作品を含め文芸作品にその作者の思想が反映されることは当然の前提である。¹⁵⁷ しかし、小林よしのりは自身の代表作の一つであるエッセイ漫画『ゴーマニズム宣言』を敢えて「思想漫画」と呼称しており、筆者の知見では他に例が無い。そこで、日本に於ける漫画作品の分類が形式分類とジャンルを混合した曖昧なものである点を踏まえた上で、思想漫画という概念を設定すると、以下のようになる。

まず、内容による分類に従い、1. 思想紹介、2. 思想解説、3. 思想のパロディ作品である。次に、目的を以て思想漫画を認める場合、4. 読者の思想を促進する漫画作品である。

小林作品の場合、話題の導入及び事実関係の解説、批判対象の思想を紹介・分析し批判や反駁をパロディにより行う形式が通例となっており、コマ毎、或いは場面毎で見れば、思想紹介、思想解説、思想のパロディのいずれにも該当し得る。

しかし、小林の「思想漫画」の特徴は上述の三点にあるのではない。作者小林自身が主人公として作品内で試行錯誤するのである。小林自身が主人公である点は「エッセイ漫画」と呼称していた当初より『ゴーマニズム宣言』の特色であるが、同作品が、短編時事エッセイ漫画集にとどまらず、時事問題の背景を掘り下げ、社会正義を論ずるようになり、読者は小林と共に試行錯誤をするようになった。つまり、作品の議論深化にともない読者の精神活動が軽妙な笑いから、思考、思想へと移行したのである。

登場人物（漫画キャラクター）の小林は感情を激しく表現し、また読者に直接語りかける。時に読者は小林の激しい喜怒哀楽に嫌悪感を持つ場合もあるだろう。しかし、それは漫画作品が読者の身体的思想を刺激していると言え、当然だが、実存

¹⁵⁷ 反意的表現も当然含むべきである。虚偽内容を仮定しても、背後には読者を騙すべき思想が想定される。

の小林よしのりは作品外に存在するのである。

従って、小林よしのりの「思想漫画」は、第4点の「読者の思想を促進する漫画」である点に最大の特徴が認められる。また、読者が小林と共に思考し、善悪の判断にあたっては、その基準として「思想」が要求される。基準としての「思想」は「政治」に対峙され、小林的「正義」に置換し得るものである。従って、小林の言う「思想」とは、従来の左右対立的な政治理解を「思想」と規定するような硬直した思想理解を否定するもうひとつの「思想」なのである。¹⁵⁸

¹⁵⁸ 硬直した政治的思想にとらわれなかった言論人として、福田恒存（ふくだい つねあり 1912－1969）、西部邁（にしべ すすむ 1939－2018）を挙げたい。

第二章

『戦争論』の特徴

1. 序論

前章に於いては、漫画作品の分類方法の基準として、表現形式、内容、想定読者、目的の4点を指摘した。

「戦争漫画」を定義し、「紙の上の戦争であり、ペンによって描かれる図上での戦争がもたらす生と死とを凝視する漫画」で、「陸、海、空で展開された戦争の激しさむなしさを描いた作品を狭義の「戦争漫画」、銃後の生活、原爆被害、占領下の生活までを含め広義の「戦争漫画」とした場合、定義の基準は内容である。¹⁵⁹

小林よしのりが「思想漫画」と呼称する『戦争論』は、前述の内容基準定義を満たしており「戦争漫画」と呼称し得るのではなかろうか。¹⁶⁰

しかし同時に『戦争論』は「政治についての戯画」を構成に含みつつ「時の権力者を攻撃するだけでなく、政治状況を一般の人々に簡易な形で伝えるという役割を果たしていると言え、政治を「民衆の生活レベルにまでおりてとらえる」点から考慮し「政治漫画」と呼称すべきではないかという疑問も生ずる。¹⁶¹

そこで本章に於いては、小林が「思想漫画」と呼称する『戦争論』三部作を中心に、その「思想」性 - 読者の思想促進と正義 - を検証しつつ、作品の特徴を述べたい。

2. 小林よしのり『戦争論』に見る「思想漫画」の特徴

後期『ゴーマニズム宣言』とは、1998（平成 10）年の『戦争論』発表以降の漫画作品で、題名に「ゴーマニズム宣言」が含まれ、一部の例外を除き題名には『戦争論』、『靖國論』のように「論」が付されているもの指し、その原点は『戦争論』

¹⁵⁹ 石子前掲書及び京都精華大学前掲展を参考に定義。前章第6節参照。

¹⁶⁰ 戦意高揚を目的とした漫画作品は、目的基準による分類から「戦争漫画」と呼称し得る。

¹⁶¹ 茨木前掲書並びに副田前掲書の定義による。前章第7節参照。

である。筆者はこの「論」が付された小林漫画作品を「論シリーズ」と呼称する。論シリーズこそ、小林が「思想漫画」と呼称するところの作品群である。¹⁶²

論シリーズの特徴は、所収の各作品（小林は章としている）が一つの「論」を形成している点である。¹⁶³ 例えば、『戦争論』は第1章から21章と最終章、全22章から成立しているが、第1章「平和をサービスと思う個人」は冒頭から現代の日常生活を描き、ワイン教室、省庁と業界の接待癒着、少女買春等を例挙し「ただれてくるよな／平和さ」と表現、現代社会を批判している。¹⁶⁴ ところが全体の間にあたる第11章「反戦平和のニセ写真を見抜け」に於いてはプロパガンダ写真の虚構指摘を展開している。¹⁶⁵ しかし、同作品の結論部、即ち、「ごーまんかまして／よかですか？」の後には「銃火を交える戦闘だけが『戦争』ではない」、「『情報戦』『宣伝戦』という戦争もある」、「平和といわれる／現在でも／この戦争は／常に続いている」と書かれており、戦争を軸に平和とプロパガンダ写真を有機的に連結させている。¹⁶⁶ 最終章の後には「あとがき」、「引用文献一覧」、「参考文献一覧」が続き、この形式は基本的に以降の論シリーズに引き継がれ、後続の作品では「あとがき」に前作との関連等が記述されるようになる。¹⁶⁷

論シリーズの第二の特徴は、題名の異なる各書籍が関連しており、章や「あとがき」に小林の意図が述べられている点である。例えば、『戦争論』第15章「痛快な戦争体験」が『戦争論2』に描かれ、主人公の高村武人氏が『戦争論』を読む姿が『戦争論2』の1コマに描かれている（図11）。更に同作品は『靖国論』の第8章として再録されているのである。『戦争論』を読む高村氏の描写は、読者に『戦争論』を客観視するような錯覚を与える。図11は『戦争論2』から1頁、連続5コ

¹⁶² 『大東亜論』は「論」が付すものの、頭山満を主人公としたストーリー漫画になっている。

¹⁶³ 同一作品が異なる章として各書籍に所収される場合がある。

¹⁶⁴ 小林よしのり「平和をサービスと思う個人」『戦争論』幻冬舎、1998年、7-18頁。

¹⁶⁵ 小林よしのり「反戦平和のニセ写真を見抜け」前掲書、151-171頁。

¹⁶⁶ 前掲作品、171頁。

¹⁶⁷ 『戦争論』の「あとがき」は謝辞である。文献リストの有無が「思想漫画」を決定づけるものではないが、筆者は論シリーズに於ける文献リストの機能に客観性の主張を認める。『戦争論3』以降は引用文献と参考文献がまとめられている。

マの引用だが、当該図には長期間に亘り『戦争論』に取り組んできた小林ならではの工夫が認められる。即ち、図 11 には 4 つ（厳密には 5 つ）の異なる時間が描かれているのである。¹⁶⁸ 第一に上右コマ内右に描かれた『戦争論』内部の時間が戦時中、第二に同コマ全体の時間が現代で武村氏入院前、第三に連続 3 コマで武村氏入院中（小林電話中）、第四に同氏入院中（面会時）である。

読者は、上右コマ内に描かれた『戦争論』第 15 章の一部を「マンガ」として認識するであろう。また、下左コマ内の武村氏が手にする『戦争論』を「マンガ本」として認識すると思われる。漫画化された入院中の武村氏が『戦争論』を読み、「この／とおりで」、「おお／あの時の／ままだ」と発言し、女性秘書同伴の小林がその光景を見守る和やかなコマである。¹⁶⁹ 当該コマに武村氏、『戦争論』、小林が描かれていることにより、読者は恰も実際の場面を目撃しているかのような印象を受けるのではなかろうか。当該効果は、小林の長期に亘る取材活動と漫画家としての技術が成すものと言えよう。しかし、読者として留意すべきは、当該コマも漫画であるという事実である。コマ内に描かれた小林は一登場人物たる作者（キャラクター）であり、全能の作者たる小林が作品外に存在するのである。¹⁷⁰ このような第三者を主人公として『戦争論』を読ませる表現は客観性の主張と理解し得るのではなかろうか。

¹⁶⁸ 上右コマ内に描かれた第一作には、1941（昭和 16）年 12 月ミンダナオ島、1942 年 3 月ボルネオ島に於ける各戦闘場面が描かれている。

¹⁶⁹ 小林よしのり「カミの国は死者の国でもある」『戦争論 2』幻冬舎、2001 年、499-530 頁／『靖國論』、157-188 頁。

¹⁷⁰ 『靖國論』を批判するジェームス・マーク・シールズは、漫画作品内登場人物としての小林を「アバター K」と呼称し、作者小林よしのりと区別している。シールズについては第三章 2 節 11 項を参照されたい。



2009（平成 21）年発表の『天皇論』を見ても、同様の手法が認められる。同書第 18 章にあたる「天皇は差別の元凶ではない」には小林自身が『戦争論』を手に

した絵が描かれ、『戦争論』の最終頁が引用されている（図 12）。当該頁に於ける「自分を一番自由にしてくれる束縛は何か？」なる問いに対し、『天皇論』は「公」なる答えを示唆しているのである。

また、『天皇論』の「あとがき」には『戦争論』執筆当時の天皇に関する知識不足が告白されるとともに、『戦争論』批判への回答という位置付けがされている点も、小林の主張を「思想」として理解する上で重要である。論シリーズに於いては小林の「思想」が各書を有機的に関連付けているのである。¹⁷¹



図 12. 『天皇論』に引用される『戦争論』

小林よしのり『天皇論』小学館、2009 年、314 頁

論シリーズの第三の特徴は作品毎の主題に対する論及と情報の量である。初期『ゴーマニズム宣言』の各作品が書籍内で有機的に結合せず、散文的（故に「エッセイ漫画」）であり、書籍は個別の作品の集合体であるのに対し、論シリーズに於

¹⁷¹ 小林よしのりの「思想」については、本章 13 節で定義する。

いては作品間の有機的結合性が認められる。結果として、論シリーズは概して 1 冊の頁数が多い。例えば、『ゴーマニズム宣言』第 1 巻から 9 巻までの平均頁数が 184 頁であるのに対し、『戦争論』三部作の平均頁数は 413.6 頁、『天皇論』三部作の平均は 378.6 頁である。¹⁷²

初期『ゴーマニズム宣言』と論シリーズに於ける頁数の差異は何を反映しているのであろうか。初期『ゴーマニズム宣言』が、小林の問題意識に基づきつつも、説得力ある根拠を提示せず、小林の直感的感想や意見を随意表明しているに過ぎないのに対し、論シリーズは小林の思考過程の描写を加えている点を指摘し得る。

例えば『戦争論』の場合、第 4 章「東京裁判洗脳されっ子の個人主義」に於いて小林の高校時代が回想されているが、当時小林が、戦争を同時代的に経験している両親の世代と、経験していない小林の世代の差異を「別人種のような気がして不思議だった」と表現している。¹⁷³ 続けて、漫画家となって以降の小林自身も「多くの知識人・言論人・進歩的文化人・小説家・スポーツマンたち」と同様に「個の確立」を志向した旨が「わしも／そうだった」と告白される。¹⁷⁴ 小林は、日本人としての自己アイデンティティを深化させ、続く章では、個人を超越した公の価値を「わしは『ゴ宣言』を描いていく中でそれを悟ってしまった」と、創作と思索の同時進行を告白している。¹⁷⁵ ここでは、小林の「個」の認識から「公」の自覚への思考過程が描かれているのである（図 13）。

¹⁷² 奥付までを頁数とする。

¹⁷³ 小林よしのり「東京裁判洗脳されっ子の個人主義」小林よしのり『戦争論』、39-56 頁。

¹⁷⁴ 小林前掲作品、53 頁。

¹⁷⁵ 小林よしのり「南の島に雪が降る」小林前掲書、57-64 頁。



図 13. 思考過程

小林よしのり『戦争論』幻冬舎、1998 年、277 頁

第 4 章同様、小林の思考過程を描いたコマは論シリーズ所収の各作品に認められ、恰も読者が自身で思考しているような錯覚を誘う。この錯覚は真剣に読むほどに引き起こされ、読者自身の思考との混合される小林よしのりの「思想漫画」の娯楽的特徴のひとつと理解し得るのではなかろうか。各作品（章）の結論で提示される小林の解答が、恰も読者が自ら試行錯誤した結果、結論に到達したような達成感を得

るのである。¹⁷⁶ しかし、この娯楽性は時として小林の提示する解答への疑念や反発、或いはまた、小林よしのりに対する疑念、反発、敵愾心まで引き起こす可能性を秘めている。それがまた読者の身体的思想に影響を与える「思想漫画」の最大の特徴に貢献していると言えよう。

3. 『戦争論』は「戦争漫画」か

以上本章では、小林よしのりが「思想漫画」と呼称するところの漫画作品の特徴を述べた。そこで本節に於いては、「思想漫画」の先駆作である『戦争論』に限定し、これが「戦争漫画」に該当するか否かを検討する。前章6節に挙げた石子順の定義では、「戦争漫画」とは「紙の上の戦争であり、ペンによって描かれる図上での戦争がもたらす生と死とを凝視する漫画で」、「陸、海、空で展開された戦争の激しさむなしさを描」いた作品である。¹⁷⁷

石子は1963（昭和38）年に発表された「戦場を描く…ちばてつやの『紫電改のタカ』」を筆頭に「女性漫画家のはじまりとなった上田トシコの少女時代から漫画家として名をなしていくまで」を描いた村上ともかの『フィチン再見！』やこの史代2007（平成19）年発表の「もっとも典型的な“銃後生活漫画”」である『この世界の片隅に』など、近年の作品まで「戦争漫画」と呼称している。¹⁷⁸ そこには水木しげるの「戦記漫画」や中沢啓治の「原爆漫画」も含まれている。従って、石子の用法に於ける「戦争」は戦闘行為に限定されるものではない。石子が小林よしのり漫画作品を除外した理由は不明だが、呉智英が注目したように「戦争漫画」として焦点を当てて然るべきではなかろうか。¹⁷⁹

¹⁷⁶ 一種の思考誘導であるが、読者の主体的読み（真剣さ）が肝要であり、読者の思考を放棄させるものではない。

¹⁷⁷ 石子前掲書、8頁。

¹⁷⁸ 上田トシコ（うえだ としこ 1917－2008）：女性漫画家の草分け。第5回小学館児童漫画賞、第18回日本漫画家協会賞優秀賞受賞の他、全作品で第32回日本漫画家協会賞文部科学大臣賞を受賞。石子前掲書、11頁、183頁、209頁。

¹⁷⁹ 本章5節参照。

小林よしのりの『戦争論』の第1章「平和をサービスと思う個人」は「平和である」の一言から始まる。3頁に亘る平和な様子の描写の後、小林自身の電車内の様子が2頁続く。オウム真理教事件を戦争イメージを以て描いたコマがあるものの、第1章を構成する全12頁には、戦闘行為はおろか戦争を想起させる絵は認められない。唯一描かれた自衛隊機は、若いタクシー運転手が戦争の危機に際してはそれに搭乗し逃亡する旨を小林に語った内容を想像して描いた絵であり、完全な平和状態の描写である。

続く第2章「空気に逆らえぬだけの個のない論調」は全7頁に亘り世間を批判しており、ここにも戦争を想起させる絵は1コマたりとも認められない。

第3章「若者のためにスケールのデカイ日本の戦争の説明」は、小林の現在の視点から「大東亜戦争」を説明し、当時の国際関係を述べ、戦争を政策として説明している。描かれた戦争は図式的であり、戦闘を描いたコマも絵が小さく象徴的である。出血の描写も、上官に殴られ口から出血する若い兵士を小さく描いた1コマのみである。最終コマではデフォルメされた小林の背景に落下傘降下と行軍が描かれているが、これは小林の心象風景である。しかしながら、広義に解釈すれば作品全体として「戦争漫画」に相当するであろう。

第4章全17頁も東京裁判に於ける証言の内容描写中の1コマと、読者からの手紙の内容を描いた1コマ以外に、直ちに戦争を想起させる絵は無い。

第5章「南の島に雪が降る」は、小林の祖父が戦時中、ニューギニアで芝居をしていたときの逸話で、戦線兵士の観劇の様子が描かれている。¹⁸⁰ 因って5章は「戦争漫画」に分類し得る。

第6章は小林の少年時代の喧嘩が話題であり、戦争は全く描かれていない。虚弱体質であった小林少年が、「特攻精神」を以て相撲大会に臨む場面で章を終えている。

¹⁸⁰ 同題名の『南の島に雪が降る』は俳優加東大介の手記で、小林の祖父は加東と戦地で慰安芸を行っていた。

ところが、7 章「特攻精神」に於いて戦闘場面が激増する。全 22 頁中、戦闘行為や戦争中の場面が全く含まれない頁は 3 頁のみで、第 7 章が「戦争漫画」であることに疑念の余地は無かろう。

第 8 章「公から離脱した個は人ではない」は、公共性の低下した社会の腐敗を描いており、戦争場面は無い。

第 9 章「承認された暴力、されない暴力」は私闘と戦争の差異を描き、全 17 頁中 9 頁に戦闘や進軍の場面が描かれている。激しい戦闘場面を描き、戦争の場合は暴力が承認されるという論旨である。従って、第 9 章は戦争自体が主題ではないが「戦争漫画」に該当する。

第 10 章「他国の軍との残虐度を比較する」は日本軍と中国、欧米、ソ連軍の戦闘を比較しており、残虐な絵が連続する。¹⁸¹ 明白に「ペンによって描かれる図上での戦争がもたらす生と死とを凝視する漫画」である。

第 11 章は「ニセ写真」を扱った作品で、戦場や殺害場面の写真や描写が全体に亘っている。しかし、写真の鑑定が当該作品の前提であり、「戦争漫画」とは言い難い。

第 12 章『証言』というものは証拠の無い証言の虚構性を論じており、戦争を想起させる絵は無い。

第 13 章「洗脳されている自覚は無い」は、中国の戦犯管理所に於ける「思想教育」を描いており、戦後の旧日本兵の生を凝視した作品と言えるため、「戦争漫画」と呼称し得る。

第 14 章「置き去りにされた祖父」には徴兵検査と行軍が描かれ、虚弱体質であった小林では行軍についていけなかったであろうとの想像が描かれている。加えて、小林の祖父が戦後に戦地での体験を語る場面と、その内容の想像画がある。また、終戦後に祖父がマラリアを再発した場面も描いている。因って、仮に行軍場面を全

¹⁸¹ 作者小林自身が「残虐」と書いている故、筆者は「残虐な絵」として扱う。残虐か否かの判断は見る者の主観に委ねる以外になく、以後本稿では筆者の主観により「残虐」の語を使用する。

て小林の想像であるとしても、元兵士の戦後生活が描かれており、「戦争漫画」との理解が可能である。

第15章「痛快な戦争体験」は『戦争論』中最長の章である。元・陸軍将校「高村武人さんの痛快な戦争体験」を漫画作品化したもので、63頁に及ぶ大作である。内60頁が高村氏の体験談のため、章の主人公は高村氏であり、小林自身の登場は最初の2頁に4コマ、最終2頁の7コマのみである。¹⁸² 高村氏の戦場における活躍は、「戦争がもたらす生」である。「むなしさ」は主題から外れているが、一応、公職追放による戦後の失職描写に5コマが使用されており、「陸、海、空で展開された戦争の激しさむなしさを描」いた作品と言える。因って、第15章が「戦争漫画」たることは明白である。

第16章「自己犠牲の戦争体験と正義」には象徴的図画を含め全12頁中8頁に戦闘や戦地が描かれている。同作品には15章の主人公、高村氏帰国後の戦況悪化時期の描写があり、「戦争がもたらす生と死とを凝視」し、「戦争の激しさむなしさ」を描写している点は「戦争漫画」の要件を満たしている（図14）。

¹⁸² 小林よしのり「痛快な戦争体験」小林前掲『戦争論』、209-272頁。



図 14. 石子順の要件を満たす『戦争論』第 16 章「自己犠牲の戦争体験と正義」

小林よしのり『戦争論』幻冬舎、1998 年、277 頁

第 17 章「クニを護るための物語」は、小林が海上自衛隊幹部候補生学校を訪問した話題である。しかし、小林らが特攻隊員の展示を見た後、ストーリーは、小林の想像の世界に変わる。全 13 頁中 7 頁に亘り飛行訓練の様子を描かれている。しかしながら、当該作品の飛行訓練の様子は、特攻隊員の展示を見た後の小林の思考展開を画像化したものであるため、これを以て「戦争漫画」とは言い難い。

第 18 章「軍部にだまされていたのか？」は、戦中の軍部と国民の関係を、統一教会とその信者の関係に例え、国民の責任を追及した作品である。¹⁸³ 軍部、或いは政策に騙されていたのではなく、信じていたという論旨であり、戦闘描写を含めた戦時中の社会描写と戦後の東京裁判の描写が含まれるものの、「戦争漫画」とは言い難い。18 章は、現代の視点に立脚し、当時の状況を騙されていたと看做すか、信じていたと看做すか、という思想問題が当該作品の基幹である。

第 19 章「悪魔の戦争」は、いわゆる戦略爆撃、東京大空襲と広島・長崎への原爆投下を非難している。全 25 頁中 24 頁が戦争描写で、一般市民の犠牲者の描写に大きく紙面を割いている。従って、本作品は「戦争漫画」に該当する。

第 20 章「個と公」は、その概念の説明に終始している。唯一の戦闘が描かれたコマはポル・ポト[1928 - 1998]、スターリン[1878 - 1953]、毛沢東[1983 - 1976]の肖像と共に描かれている。当該作品は概念説明の為の漫画作品であり、「戦争漫画」ではない。

第 21 章「個を超える勇気と誇り」は、「愛する者の為に死ぬるか」という読者への問いを冒頭に掲げ、特攻隊員は愛する者の為に個を捨てたという旨の理論を展開する。特攻の描写に大きく紙幅を割いており、「戦争漫画」の要件を満たす。特攻を、個を超越したものとして描いており、多分に思想性は高い。

最終章「自由と束縛」は、小林が秘書の女性と徒歩で事務所へ帰る場面で始まる。歩道に咲いている桜を見ながら「戦時中の若者たちが郷里で見ていたのはヤマザク

¹⁸³ 統一教会：ソウルに本部を置く宗教法人世界平和統一家庭連合。

ラだろう」と想像し「平和はしみじみありがたい」と続く。¹⁸⁴ この平和とは即ち秩序であり、秩序を守らせる束縛が必要であるという論旨である。小林自身を描いたコマ2つにそれぞれ「平和はしみじみありがたい」と書かれており、唯一の戦闘描写は、北朝鮮から難民が流入し、「日本国内で／戦争を開始した時／あなたは／どうするのだろうか？」と読者に問いかけるコマである。¹⁸⁵ 従って、当該作品を「戦争漫画」とは呼称し困難い。

以上の分析から、『戦争論』について以下の点が言える。まず、『戦争論』所収作品22作品中広義の解釈を含め最大で9作品（章） - 3、5、7、9、10、13、14、15、16章 - が「戦争漫画」に相当する。しかし、第15、16章を除き、各作品の題名（章名）が示唆するよう、戦争場面の描写の殆どが各章に於ける小林の主張を補助する例示や反駁の為のもので、戦争自体を物語るものではない。9作品中最大の第15章「痛快な戦争体験」と第16章「自己犠牲の戦争体験と正義」は、「戦争がもたらす生と死とを凝視」しており、「戦争の激しさ」を描いた「戦争漫画」である。従って、『戦争論』は「戦争漫画」を主要な構成要素として成立した漫画作品と言え、全体として「戦争漫画」と呼称する妥当性は高い。

4. 『戦争論』は「政治漫画（政治マンガ）」か

前節で『戦争論』が「戦争漫画」であるか否かを検討したよう、本節に於いては、『戦争論』が「政治漫画」であるか否か、或いはその性質があるか否かを検討したい。前節で既に各章を概観しており、重複を避けるべく該当箇所のみ指摘するが、茨木が「時の権力者を攻撃するだけでなく、政治状況を一般の人々に…」と指摘したよう、作品創作と政治状況が並行している必要がある。¹⁸⁶ 従って、『戦争論』の場合、小学館の雑誌SAPIOに初掲載された1995（平成7）年9月前後以降の政治

¹⁸⁴ 小林よしのり「自由と束縛」小林前掲『戦争論』、372頁。

¹⁸⁵ 前掲作品、372-377頁。

¹⁸⁶ 筆者下線、茨木前掲書6頁。

状況の漫画化がこの要件を満たすことになる。

第4章「東京裁判洗脳されっ子の個人主義」に、1996（平成8）年1月から1998（平成10）年7月まで政権に在った首相橋本龍太郎[1937 - 2006]を描いた1コマが認められる。¹⁸⁷ 当該コマは橋本が英国大衆紙に謝罪文を書いたことを揶揄した第10章「他国の軍との残虐度を比較する」中の1コマを、中国・韓国を主眼に置いた国際関係を擬人化した複数の黒い人影が手にしている絵である（図15）。小林による橋本龍太郎首相（当時）の漫画化は、茨木正治が提示した「時の権力者を攻撃するだけでなく、政治状況を一般の人々に簡易な形で伝えるという役割」を果たしており、「足元総理」（図16左下）は、政治カートゥーン、即ち「政治漫画」である。¹⁸⁸

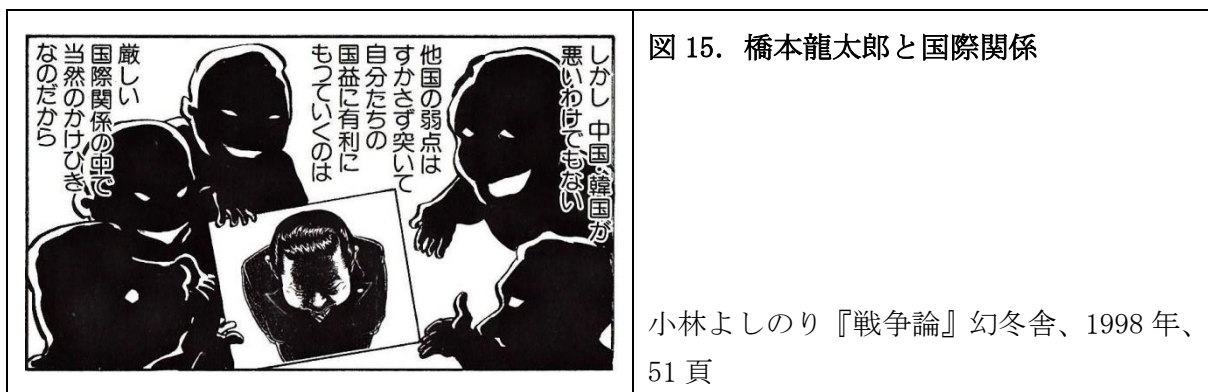


図 15. 橋本龍太郎と国際関係

小林よしのり『戦争論』幻冬舎、1998年、51頁

¹⁸⁷ 橋本龍太郎（はしもと りゅうたろう 1937－2006）：自由民主党衆議院議員、第82代、83代内閣総理大臣。

¹⁸⁸ 茨木前掲書、6頁。（前章7節参照）。



図 16. 「足元総理」

小林よしのり『戦争論』幻冬舎、1998 年、144 頁

他に、第 9 章「承認された暴力、されない暴力」にジョージ・H・W・ブッシュ [George Herbert Walker Bush 1924 -] 米国大統領（当時、以下略）、コリン・パウエル、ノーマン・シュワルツコフと思しき 3 名と航空機動部隊をコラージュさせた 1 コマがある。¹⁸⁹ しかし、ジョージ・H・W・ブッシュの大統領在職期間は 1989（平成 1）年 1 月から 1993（平成 5）年 1 月までである故、『戦争論』に 2 年 8 カ月先行して

¹⁸⁹ コリン・パウエル：米国陸軍大将、ジョージ・H・W・ブッシュ政権下で第 12 代統合参謀本部議長、ジョージ・W・ブッシュ政権下で第 65 代国務長官。ノーマン・シュワルツコフ：米国陸軍大将、中央軍司令官、NATO 軍参謀。

いる。また、同コマには「戦争の目的も／始め方も／やめ方も／国益から考えて／政治的に／完遂させるのが／他の国の／常識である」と書かれており、政治の延長としての戦争を表現した「絵とき」にとどまると言えよう。¹⁹⁰

『戦争論』に「政治漫画」と言い得るコマは先に挙げた全5コマが認められ、第10章の「政治漫画」は4コマの複数であるから「政治マンガ」の要件を満たす。しかし、当該作品の4コマは橋本の謝罪たる1場面を4コマに表現したものに過ぎず、連続するストーリーを形成するものではない。

従って、『戦争論』にはカーゥーンたる「政治漫画」、即ち政治が描かれたコマが含まれているものの、『戦争論』全体を「政治漫画」と呼称するためには「政治漫画」の再定義が必要となる。¹⁹¹ 即ち、戦争を政治の延長線上に捉えるのと同様、戦争漫画を政治漫画の延長線上に把握する必要が生ずる。

5. 『戦争論 2』は「戦争漫画」/「政治漫画（政治マンガ）」か

小林よしのりは1998（平成10）年の『戦争論』単行本化に続き、2001（平成13）年『戦争論 2』を、2003（平成15）年『戦争論 3』を刊行している。本章3節並びに4節で検討したよう所収の全作品の検討結果を全て記述することは冗長に過ぎるため、これを避け各部毎に述べることとする。

『戦争論 2』は4部とエピローグで構成され、第1部「戦争と現在と歴史編」、第2部「否められた戦後の歴史空間編」、第3部「情報戦争・冤罪対策編」、第4部「大東亜戦争・歴史検証編」にエピローグ「カミの国は死者の国でもある」が付随している。

第1部は5章構成で、2011（平成23）年9月11日の米国同時多発テロに始まる、いわゆる「対テロ戦争」を以て戦争概念に迫った「戦争漫画」である。戦争は止む

¹⁹⁰ 文が絵の説明に止まり、コマとしての風刺性や政治説明性に乏しい。

¹⁹¹ 呉智英は2009年の段階で1992年からの「ゴーマニズム宣言」を「政治マンガ」と呼称している。呉智英「戦争とマンガ」夏目房之助・竹内オサム『マンガ学入門』ミネルヴァ書房2009年、163-167頁（参考）。

を得ざる選択肢であり、戦争自体を悪とする思想を個人主義として批判する論理展開である。

当該部第5章では、連合国による「軍事裁判」を「復讐」とであると告発し、その犠牲者の存在を読者に知らしめている。¹⁹² 国際法上、日本と連合国との戦争状態は、1952（昭和27）年4月28まで継続中である故、連合国による「復讐」の描写も「戦争漫画」と理解してよい。¹⁹³

また、第1部には、小林の作品創作当時、国家権力ないしは相応の権力を掌握していたジョージ・W・ブッシュ[George Walker Bush 1946 -]米大統領（当時、以下略）、コリン・パウエル、オサマ・ビン・ラディン、小泉純一郎[1942 -]首相（当時、以下略）、サダム・フセインが描かれたコマが10ないし11コマ認められる。¹⁹⁴ 各コマは前述の人物を揶揄した描写ではないが、前後のコマとの構成により「政治状況を一般の人々に簡易な形で伝えるという役割」を果たしている（図17）。¹⁹⁵ 従って、第1部は「戦争漫画」とすると共に「政治漫画」と言える。

¹⁹² 極東国際軍事裁判、いわゆる「東京裁判」の他、連合国各地で実施された「B・C級」裁判を描いている。

¹⁹³ 日本国との平和条約、1951（昭和26）年9月8日署名、1952年4月28日発効。

¹⁹⁴ オサマ・ビン・ラディン：イスラム過激派指導者。サダム・フセイン：イラク大統領。

¹⁹⁵ 茨木前掲書、6頁。（前章7節参照）。



図 17. 戦争へ向かう米国

右コマ上からジョージ・W・ブッシュ、オサマ・ビン・ラディン、コリン・パウエル
小林よしのり『戦争論 2』幻冬舎、2001 年、24 頁

第 2 部も 5 章構成である。当該部は冒頭で「左翼」を定義付け、続けてマスコミの左翼化による国民の左翼化、政権の「サヨク」化を批判している。¹⁹⁶

第 2 部第 8 章は、小林が自身で執筆し「検定意見が付き書き直さざるを得なかった」『新しい歴史教科書』の「大東亜戦争の記述」を、「削除されてしまった記述も復活させ」漫画作品化したものである。¹⁹⁷

第 2 部の特異点であり、且つ『戦争論 2』の特異な点でもあるのは、第 9 章並びに 10 章に於いて「靖国問題」を扱っている点である。両章は 2005（平成 17）年発表の『靖国論』の第 1 章、2 章として再度所収される。

第 2 部には、中国によるベトナム侵とソ連のアフガニスタン侵攻を描いたコマがあり、最も広義に解釈すれば「戦争漫画」であるが、これは「左翼」批判に用いた

¹⁹⁶ 小林は、社会主義、マルクス主義、共産主義の各信奉者を漢字で「左翼」と記述し、「精神まで／社会党となれ合い／左翼に浸食された／心情を持った人物」を片仮名で「サヨク」記述している。小林よしのり「社会主義と言うカルトに占領された戦後」『戦争論 2』、139-185 頁。

¹⁹⁷ 小林よしのり「本当はこう書きたかった新しい歴史教科書」『戦争論 2』、203-224 頁。

1 コマに過ぎず、これを以て「戦争漫画」とは言い難い。

絵の内容的に判断すると、第 8 章「本当はこう書きたかった新しい歴史教科書」は、真珠湾攻撃、銀輪部隊、南方に於ける玉砕、特攻などが大きく描かれ「戦争漫画」に該当しそうである。しかし、当該作品はあくまでも教科書の再現である旨が最初の 2 頁で述べられている故、作品としては「戦争漫画」ではない。寧ろ「教科書問題」を題材に国際政治の状況を伝える「政治漫画」である。

第 2 部第 9 章では、堤ツルヨ、菅直人、大平正芳の各議員が描かれるも、彼らの発言場面の描写に過ぎず、その絵に風刺性も説明性も認められない。¹⁹⁸ また、第 10 章には、吉田繁[1878 - 1967]以後の歴代首相が描かれているが、彼らの殆どは小林の創作と同時進行的に政権に在った者ではない。しかし、唯一「時の権力者」であり、8 月 15 日の靖国神社公式参拝を 13 日に前倒しにした小泉純一郎首相を描いたコマが 3 コマあり、内 2 コマは、仮令文字を削除したとしても「時の権力者を攻撃するだけでなく、政治状況を一般の人々に簡易な形で伝えるという役割」を果たした「政治漫画」である (図 18)。¹⁹⁹

¹⁹⁸ 堤ツルヨ (つつみ つるよ) : 日本社会党衆議院議員。菅直人 (かん なおと 1946 -) : 民主党衆議院議員、第 94 代内閣総理大臣。大平正芳 (おおひら まさよし 1910 - 1980) : 自由民主党衆議院議員、第 68 代、69 代内閣総理大臣。

¹⁹⁹ 茨木前掲書、6 頁。(前章 7 節参照)。

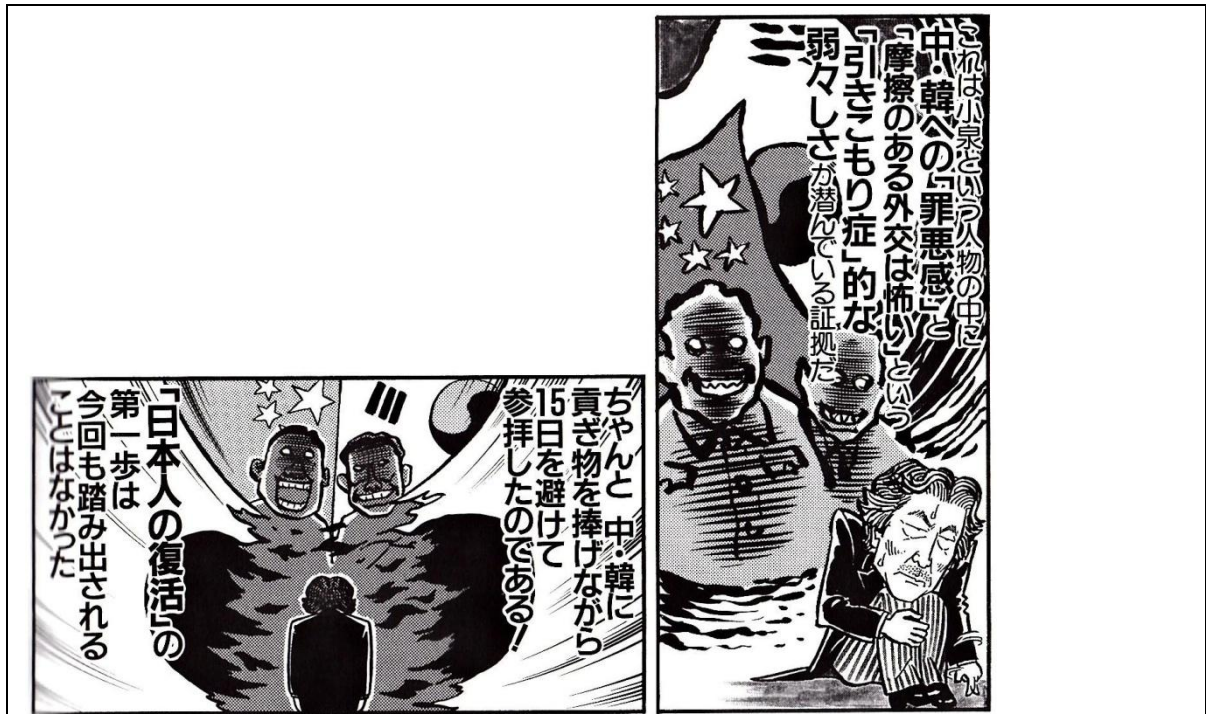


図 18. 小泉純一郎首相と中国・韓国

小林よしのり『戦争論 2』幻冬舎、2001 年、234 頁

第 3 部は、証言の証拠性から「慰安婦問題」と「南京大虐殺」に迫っており、加えて戦時中の「ニセ写真」の指摘を行っている。女子挺身隊の工場労働の様子や当時の生活状況も描かれており、「戦争漫画」の要素は否定できない。また、中国保安隊による朝鮮民族を含む「日本人」住民の虐殺とされる「通州大虐殺」が残酷に描写されており、これを以て「戦争漫画」と呼称することも可能である。

第 4 部は、第 15 章で華夷秩序の下で東アジアを近代化した日本を描き、戦争の背後にある思想を述べている。小林は、中国・朝鮮の国内体質と欧米列強との権益摩擦が対米戦争の要因であると説明している。政治状況の説明に多数のコマが使用されているが、当時の政治と小林の創作活動は同時進行しておらず、風刺性無く、説明性も低い。従って、当該作品は「政治漫画」としてではなく、戦争当時の政治活動、社会活動を描写した「戦争漫画」として解釈したい。

第 16 章「パールハーバー」は、1941（昭和 16）年 8 月 4 日の大本営政府連絡懇

談会から同年 12 月 8 日の真珠湾攻撃までを全 42 頁で描いており、内 21 頁以上に亘り戦闘場面の描写がある。同作品は戦闘の激しさに加え、零式艦上戦闘機による米軍格納庫への突入、無線封鎖による攻撃機の未帰還不時着水、特殊潜航艇と葬儀が描かれており、戦争の悲壮さも併せて描写された「戦争漫画」である。

『戦争論 2』は、終盤の第 17 章で現代的視点により過去を評価する行為を批判し、最終章「カミの国は死者の国でもある」となる。小林はこの最終章冒頭の 1 コマで「日本人は『無宗教』になりうるか？」と読者に問いかける。²⁰⁰ 当該作品には、キリスト教布教当時の原住民虐殺や共産党による虐殺を描いたコマがあり、航空特攻の 1 コマは 1 頁全面を使用している。従って、広義では「戦争漫画」に含め得るが、当該作品はその題名が暗示するよう、宗教を通じて死者と共存する「日本の国柄」が説かれており、「戦争漫画」と呼称するのは聊か困難である。尚、当該最終章は『靖国論』に第 8 章として所収されている。

『戦争論 2』は参考文献一覧を含め奥付までで 539 頁に及び、各部の内容は関連し合うも独立性が高い。第 16 章を「戦争漫画」と見做すことに異存はなかろうが、他章を「戦争漫画」と見做すにはその概念を最大限に解釈することを要求するであろう。

6. 『戦争論 3』は「戦争漫画」/「政治漫画」か

2003（平成 15）年に発表された『戦争論 3』は最終章を含み 16 章構成で、これを以て小林よしのりの『戦争論』は一旦終結する。²⁰¹

『戦争論 3』は、第 1 章に於いて、小林は従来の「サヨク」の概念を親米保守にまで拡大させる。²⁰² 当該作品にはフランス革命のコマと、黒船来航と陸軍歩兵と小林のコラージュ、イラク攻撃とイラク人の横顔のコラージュがあるが、これを以て「戦争漫画」とは言い難い。

²⁰⁰ 小林前掲「カミの国は死者の国でもある」、499 頁／157 頁。

²⁰¹ 2015（平成 27）年 1 月、『新戦争論 1』が発表されている。

²⁰² 「サヨク」概念については前節注 196 を参照されたい。

第2章も同様に戦争に関するイメージ画像が多いのであるが、戦争概念を説明する為のイメージ図であり、作品として「戦争漫画」とは言い難い。一方で「政治漫画」は認められる。例えば、3コマ連続した小泉純一郎首相のコマが認められるが、中央コマは小泉に米兵の血液がコラージュしており、小林が書いた小泉の無邪気な台詞 - 「アメリカの青年がいくらでも日本人のために血を流してくれるんです」 - は風刺性が高い（図19）。²⁰³



図19. 小泉純一郎首相の風刺

小林よしのり『戦争論3』幻冬舎、2003年、15頁

続く第3章にも戦争、戦闘、またその背景描写は無い。しかし、日米同盟を批判する同作品は、小泉純一郎首相、福田康夫官房長官（当時、以下省略）、ジョージ・W・ブッシュ米大統領を描いたギャグ政治漫画で、「政治マンガ」である（図20）。

²⁰³ 小林よしのり「覚悟なき卑怯者の米国『支援』」『戦争論3』幻冬舎、2003年、13-22頁。



第 4 章は、国内の新米保守派を揶揄するために、米国によるイラク攻撃を描いている。当該作品はサダム・フセインイラク大統領（当時）の絵が加わった「政治漫画」であると共に、「戦争漫画」である。

第 5 章は、「勝者の裁き」の野蛮性を追及した作品で、「東京裁判」の背景に在った過去の戦争と、小林の創作と同時進行するイラク戦争をコラージュさせた構成である。戦闘を描いたコマは全て象徴的であるため、激しさや悲哀は感じ難い。しかし、1 コマで「東京裁判」の無力さとジョージ・W・ブッシュ政権の横暴さを表現した伝統的「政治漫画」が認められる（図 21）。



図 21. 「政治漫画」

一コマで正義なき米国の攻撃が表現されている。

小林よしのり『戦争論 3』幻冬舎、2003 年、59 頁

第 6 章は、戦後日本の「復興神話」への告発と戦前の日本経済の豊かさを述べており、1938（昭和 13）年から 1948（昭和 23）年までの GNP を示す折れ線グラフも含まれている。また、戦後の貧困の原因を、米国の対日経済政策と都市攻撃にもとめており、空襲を受ける都市や焦土と化した東京と推定される絵が認められる。従って、当該作品は「戦争漫画」の要素を含んだ「経済漫画」と理解するのが至当であろう。

第 7 章は米国流の「自由」と「民主」の価値観に疑義を呈した作品である。小林は、「自由」と「民主」に替わるべき「公」の観念を訴えており、「戦争漫画」、「政

治漫画」双方に該当する要素は認められない。

第8章は、日本軍が米国を解放する架空の戦争を小林の仮眠中の夢として描いており、現代社会と「解放史観」に対する皮肉である。戦闘場面も戦闘服の女性報道者をいわゆる萌キャラで描き、「日本人が開発した『兵器だけを破壊する』という新型爆弾で、米軍は一瞬にして武装解除させられました。」という漫画的表現で、「戦争漫画」とは言い難い（図 22）。しかし、作品全体としては「解放」、「自由」、「正義」が主題であるが、「正義」を標榜しアフガニスタンの民間人を殺害する米軍を描いており、広義では「戦争漫画」に該当する。



図 22. 「解放軍」の幻想

小林よしのり『戦争論 3』幻冬舎、2015 年、79 頁

第9章は、オウム真理教を世論に喩え、その教祖麻原を米国に喩えた短編作品で、「戦争漫画」或いは「政治漫画」の要素が認められるコマは無い。北朝鮮を示唆する「北の煩惱教団」に対しイラクを示唆する「イラツク煩惱教団」が対敵するパロディ調の作品である。両教団とも麻原の強い影響下にあるのみならず、周辺他教団

も麻原に解決を期待するという内容である。つまり、米国追従の日本世論を麻原信奉のオウム真理教信者に比喻しているのである。2003（平成 15）年当時既に当該教団は分裂衰退しているため、作品は教団のパロディではなく、世論の風刺と理解すべきである。

第 10 章で、小林はトマス・ホッブスの『リヴァイアサン』を引用し、米国を怪物リヴァイアサンとして描く。小林は当該作品で国際法の尊守を説き、象徴的戦闘場面を描いているが「戦争漫画」とは言い難い。また、ジョージ・W・ブッシュ大統領が描かれたコマがあるが、絵のみで内容を象徴的に理解することは困難である。説明的にあらず、風刺性も無いため、「政治漫画」とも言い難い。

第 11 章は沖縄戦を描いており、「戦争漫画」に該当する。しかし、当時の価値観として玉碎思想があったことが論旨である。

第 12 章は『戦争論』三部作の中でも生命の価値自体に肉迫した特異な漫画作品である。小林は現実的に生命の価値は経済格差による相対的なものとなっていると指摘し、その原因として欧米の植民地支配を示唆している。当該作品は「戦争漫画」、「政治漫画」の双方に該当しない。

第 13 章は、世界史を白人による世界侵略史として描き、資本主義発達と植民地取得の関係を説明し、その文化的背景に言及している。古くは 8 世紀のバイキングまで遡り戦闘場面を描いている。従って「戦争漫画」の要件を満たすが、内容的には経済史、ないしは世界史である。

第 14 章は、13 章の記述を継承し、1853（嘉永 6）年のペリー来航やアジア侵略の思想的根拠を「マニフェスト・ディステイニー」に求め「侵略と収奪の世界史」を描いている。²⁰⁴ 多分に戦争描写を含んでおり、「戦争漫画」の要件を満たす作品であるが、議論の中心は白人による人種差別思想の批判であり、いわゆる「戦争漫画」とは内容を異にするものである。

第 15 章は小林の特攻隊員の精神に対する畏敬の念が表現された作品である。作

²⁰⁴ 小林よしのり「解放と逆転の日本史」『戦争論 3』幻冬舎、2003 年、195-254 頁。

品全体に亘り、航空、水上の各特攻描写があり、「戦争漫画」の要件を満たす作品であるが、特攻隊員辞世の句 1 首毎に 1 頁を割き、全 9 首を収録した特異な作品でもある。²⁰⁵

最終章には「道德」により外交を行うべきとする小林の理想が語られている。戦闘描写は心象図やテレビ画面の絵として認められるのみである。従って、最終章は「戦争漫画」、「政治漫画」の双方に該当しない作品である。

以上全 16 作品中、最大限に解釈し 7 作品が「戦争漫画」に該当し 5 作品が「政治漫画」に該当する。しかし、『戦争論 3』の全体像は、世界史を描いており、個々の戦争或いは戦闘の背後にある思想を戦前・戦中の日本人の行動の背後にある思想と対比させている。従って、『戦争論 3』は、「戦争漫画」含んだ思想史、「歴史漫画」と言える。

7. 結論

『戦争論』三部作を検証した結果、『戦争論』は、「戦争漫画」を含んでいると言える。『戦争論』に於ける最大の「戦争漫画」のストーリーは、小林が取材した一個人、高村武人氏の戦争体験を紙上で再現したものであり、小林が一事例を示しているに過ぎない。しかし、『戦争論』三部作全体を見るに「戦争がもたらす生と死とを凝視」しており、「戦争の激しさ」を描いている。²⁰⁶ 従って、『戦争論』は全体としても石子順が提示した「戦争漫画」の要件を満たしている。

また、『戦争論』は政治権力者を風刺する「政治漫画」の要素を含んでいる。当該要素は、初期「ゴーマニズム宣言」に於いても認められ、権力に対する反発を笑いに転換表現する庶民精神が認められよう。しかし、その姿勢が政治的、或いは経済的に日本の国益に資するか否かは別問題である。つまり、政治的目的を以て描かれているとの解釈を否定する意味を以て、小林は米国支持の是非を「思想の問題と

²⁰⁵ 辞世の句は巻末付録参照。

²⁰⁶ 石子順が提示した「戦争漫画」の要件を満たしているが、石子は『戦争論』を「戦争漫画」に含めていない。

して」問うているのである。²⁰⁷

小林は『戦争論』の主題が「公論」である旨を『戦争論 2』に明記し、それを理解しない知識人を批判している。小林が『戦争論』以降の後期「ゴーマニズム宣言」論シリーズを「思想漫画」と呼称し得る論拠は、一書籍内の複数ジャンルの作品の底流にある思想を、小林自身の倫理観に基づいた思考展開の示唆をヒントに、読者に思考させる点に認められる。

しかし、個々の「思想漫画」作品（章）の多くは断定的な結論で終わっている。「ごーまんかまして云々」に続く断定的結論は「ゴーマニズム宣言」の定型であり、一連作品の娯楽性を保証する部分である。²⁰⁸ よって、形式的には異論との対話が僅少にならざるを得ないところである。²⁰⁹ しかし、内容的に考察した場合、主張内容対主張内容の対話が認められる。例えば、「特攻隊」に批判的な高木俊朗『特攻基地知覧』を「特攻隊の『負』の部分に光を当てた力作」と評価した上で、「祖国愛の強い者、少年飛行兵出身でひたすら特攻を志した者、明るい声で…叫んでいた者、…仲間と一緒に死ねなかったことを本気で悔いている者」に対する言及が僅少で、且つ彼らが「軍国主義に洗脳されていた者」としか扱われていない」と批判している。²¹⁰ しかし、一方で小林は、毛利恒之『月光の夏』並びに佐藤早苗『特攻の街 知覧』に基づき、「負の部分」即ち、精神に異常をきたす者、士気低下を防ぐために帰還隊員の処理に悩む者（図 23）、出撃前に「酒に酔って猥雑な調子で流行歌を歌う」者を描いている。²¹¹ 続けて「負の部分」への対比として、いわゆる

²⁰⁷ 小林よしのり「同時多発テロはアイデンティティ・ウォーである」小林前掲『戦争論 2』、9-31 頁。前掲書所収改題「テロリアンナイト、ブルカ脱ぐか物語」にも同一の主張が認められる。

²⁰⁸ 例えば娯楽時代劇「水戸黄門」の印籠のようなものである。

²⁰⁹ 『新天皇論』に於いては所収 2 作品に亘り小谷野敦の批判に対し誠実・丁寧な回答を描いており、決め台詞の後には「ニセ尊皇派」、「ニセ右翼」、皇位男系男子継承を主張する「ファナティック男系主義者」に対し不快感を叫ぶコマで終わっている。

²¹⁰ コマ内に書いた短い批評としては簡潔でまとまっているが、評価のバランスの点では、小林に対しても同様の批判が適当であろう。小林よしのり「生命より尊い価値」小林前掲『戦争論 3』、276 頁。

²¹¹ 毛利恒之（もうり つねゆき 1933— ）：脚本家、放送作家。佐藤早苗（さとう さなえ 1934— ）：ノンフィクション作家。小林前掲作品、282 頁。

戦時美談を描いているのだが、「優れた上官の下では例外が発生したのである…」と前置きし、「美談」を「例外」と明記している点は指摘しておきたい。²¹² 小林の論旨は、死と隣り合った状況下で平常心を崩すことは理解し得るとし、仮令そのようにあろうとも、突撃の最後の瞬間の境地は荘厳であった筈だと主張するのである。



図 23. 特攻の「負」の側面

振武寮に於ける暴言、精神的抑圧が表現されている。

小林よしのり『戦争論 3』幻冬舎、2003 年、279 頁

従って、作品としては「ゴーマニズム宣言」の形式を保持し「ごーまんかまして／よかですか？」と書かれるものの、特攻の一側面の主張をせず、「感じるのだ、歴史を！」と、読者に対し「小林直感流」理解を訴えている（図 24）。²¹³

²¹² 小林前掲作品、279 頁。

²¹³ 「小林直感流」とは筆者による命名。小林前掲作品、298 頁。



図 24. 「小林直感流」

小林よしのり『戦争論 3』幻冬舎、2003 年、298 頁

また、『戦争論』三部作を俯瞰した場合、アジア・太平洋戦争が中心の『戦争論』とイラク戦争が中心の『戦争論 3』の戦争批判は正反対である。従って、書籍毎に評価した場合、「戦争批判」の視点からは異論との対話が認められる。²¹⁴


正負両面の存在を前提とする議論は小林の誠実さとして評価されるべきであろう、また、娯楽（エンターテインメント）としての視点から、結論として納得し得る

²¹⁴ 小林の「正義」の主張に対し没対話性は批判し得る。

であろう。しかし、娯楽性を無視し純粋な議論として見た場合、「小林直感流」は思考の放棄と非難されることを了解せざるを得ないのではなかろうか。

しかしながら、結論部に於ける小林の主張に娯楽性を認めるか否かは難問である。

²¹⁵ この点に関する議論は後章に譲るが、「小林直感流」を以てしても小林は弱者に対して攻撃せず、攻撃対象は常に「権威主義」、多数派である点には留意する必要がある（図 25）。

	<p>図 25. 攻撃対象外</p> <p>パソコンを操作するよしりん企画従業員（スタッフ）の時浦氏に注意を与える小林。事実性は措き、漫画作品に描く行為は小林のポリシー表明と理解し得る。</p> <p>小林よしのり『新ゴーマニズム宣言 14』小学館、2004 年、170 頁</p>
--	--

前章では小林よしのりの「思想漫画」の特徴を「読者の思想を促進する漫画」と結論したが、その「思想漫画」の嚆矢である『戦争論』及び同三部作の特徴として以下の 4 点を指摘したい。

一、作者自身の倫理観に基づいた思想過程を描いており、読者の思考を促す。

（作者の思想過程を描かなければ思想の紹介であり、思想の学習漫画である。）

²¹⁵ 例えば、オウム真理教信者に対し坂本弁護士の解放を訴えるコマ（第四章、167 頁、図 40）に娯楽性は認め難い。

二、作者の思想が作者の言葉として文字で明示されている。

（序やあとがき、作者自身が登場人物として語るなどの方法がある。）

三、情報提供や情報源の明示など、何らかの形式により客観性が主張されている。

（根拠が示されることにより、創作自体の娯楽性への疑念を最大限否定している。）

四、異論との対話が認められる。

（思想・主張の転換は、説明により転換自体の娯楽性が否定されるが、説明は同一作品内に限定されず、後発の作品に於いてなされる場合がある。）

第三章

小林よしのり批判論

1. 序論

小林よしのりの『戦争論』発表は各方面に衝撃を与えた。ギャグ漫画に示唆された小林の反権威主義を理解していた者や HIV 患者を積極的に支援した小林の社会貢献活動を知る者は『戦争論』を小林の転向の書と看做し、それまで漫画に取り合わなかった者は『戦争論』を戦争賛美の右翼の書と看做した。²¹⁶ 研究者の間に積極的な『戦争論』評価は少なく、小林の孤軍奮闘の感があった。²¹⁷

そこで、小林の漫画作品の検証に先立ち、本章では、『戦争論』批判、『靖国論』批判を中心に、小林よしのりの「思想漫画」批判及び小林よしのり批判を検討したい。『天皇論』に関する批判としては中川洋八の『小林よしのり「新天皇論」の禍毒』が挙げられるが、同書は皇位継承問題を論じており、本稿の主題からは外れる。

2. 先行研究

『戦争論』以来、小林作品を日本のいわゆる右傾化の兆候と見る向きがあり、文藝論的批判、漫画論的批評は多数存在し、雑誌「世界」、或いは一般書籍に於いても『戦争論』は十分批判されている。²¹⁸

海外の学術論文としては、坂本るみによる『戦争論』に関する研究が挙げられる。

²¹⁹ 坂本は、2008（平成 20）年 1 月、英文による『戦争論』批判論文 ‘Will you go to war? Or will you stop being Japanese?’ : nationalism and history in Kobayashi Yoshinori’ s *Sensoron* をアジア・パシフィック・ジャーナルに発表し

²¹⁶ 小林自身、漫画作品に於いては「サヨク」からの「転向」を認めている。小林よしのり「商売のために描いているが、何か？」『本家ゴーマニズム宣言』WAC、2010 年、171-178 頁（初出：「Will」 2010 年 8 月号）（参考）。

²¹⁷ 積極的評価者としては哲学者の長谷川三千子（はせがわ みちこ）がいる。

²¹⁸ 他にオピニオン誌としては「統一論評」、「月刊日本」などが批判論文を掲載。

²¹⁹ 坂本るみ（さかもと るみ）：オークランド大学アジア学部日本学上級講師。

た。

また『靖國論』に関しては、ジェームス・マーク・シールズによる 2012（平成 24）年発表の論文 “ ‘Land of kami, land of the dead’ Paligenesis and the aesthetics of religious revisionism in Kobayashi Yoshinori’ s Neo - Gomanist Manifesto: On Yasukuni” が挙げられる。²²⁰ シールズは日本人の宗教観を論じており、『靖國論』批判を通じ靖国信仰を批判している点が異彩を放っている。

以下、本章に於いては、小林よしのり『戦争論』三部作並びに『靖國論』批判を時系列で検討する。

2 - 1. 偏狭な国家主義 - 趙景達による『戦争論』批判

趙景達は、小林の『戦争論』発表直後に批判の論陣を張った研究者のひとりである。²²¹ 趙は 1998（平成 10）年 12 月、雑誌「世界」の特集、「新『国粋主義』の土壌」に『戦争論』批判論文「ユートピアなき世代の国家主義」を発表している。

趙は『戦争論』の読後感を一言で「時代錯誤」と表現しているが、小林がアジアとの一体感を謳いつつ、「同じくアジアの一員である中国に対する排外主義的な言説を公然と述べている点」に疑問を呈している。²²²

趙は、「何故に小林氏は、かくも国家主義を鼓吹するのであろうか」と問いかけつつ、小林自身の危機意識が『公』への回帰を謳わせていると回答している。²²³ 詳細は次章で述べるが、小林の危機意識とは、公共性を持たない世相から生じたものである。

ユートピアを説く趙の批判は、小林が「公」の範囲を「国」としている点に集中

²²⁰ James Mark Shields : バックネル大学助教授（現・国際日本文化研究センター国際交流基金フェロー）。

²²¹ 趙景達（ちょう けいたつ／チョ キョンドル）：千葉大学文学部・大学院人文社会科学研究所教授。

²²² 趙景達「ユートピアなき世代の国家主義」『世界』656 号、講談社、1998 年 12 月号、86-93 頁。

²²³ 趙前掲論文、88 頁。

する。趙は「(小林は) 公共心の在り方は『国』によって異なる」と言い、民族は問題とされない」と批判、小林の世界観を「牢固な単一民族信仰からなる」「偏狭な世界認識」と断じている。²²⁴ 趙は小林がオウム真理教の「洗脳」を糾弾した事実を踏まえ、小林の議論を「共同性を排他的に鼓吹した幻想国家による『洗脳』」と批難し、「若年層がユートピアを語り得るような状況を作り上げていくことが必要」とも述べている。²²⁵

趙の説く「ユートピア」とは民族的共同体である。「国」の概念の外周に「民族」を置く趙の議論は、国家により分断された状態におかれた朝鮮民族である趙らしい発想とも言えるが、「民族」が「国」の内部に「ユートピア」を形成している例や、国内少数民族の対立を国家が調停している事例があるのも中国を見れば明らかであろう。

趙の表現を借用して問うならば、何故に趙氏は、かくも民族主義を鼓吹するのであろうか。おそらく 1998 年当時の趙は、朝鮮半島の平和的統一に一定の期待をかけていたのであろう。しかし、北朝鮮が核保有を宣言した今日の視点で見ると、趙の主張は「地上の楽園」による韓国征服を想像させるのではなかろうか。また、民族的共同体の強化推進は、朝鮮半島に於いては悲願の民族統一達成に帰結する可能性があるが、日本国内に於いては、在日外国人と日本人の分断を招来する危険性を孕むのではあるまいか。

2 - 2. 情の論理 - 宮台真司による小林批判

宮台真司は『戦争論』の「新しい対抗軸」を示す目的で編纂、出版された『戦争論妄想論』に於いて、小林批判 - 「『情の論理』を捨て、『真の論理』を構築せよ」 - を展開している。²²⁶

²²⁴ 同上。

²²⁵ 趙前掲論文、91-92 頁。

²²⁶ 宮台真司（みやだい しんじ）：東京都立大学人文学部社会学科助教授（現・首都大学東京教授）。

宮台は小林の議論を、ニヒリズム、或いは無知に基づく「戦争正当化の議論」と評している。²²⁷ 宮台は、小林が危惧する共同体の衰退を認めつつも、その復興に関しては二つの疑問を呈している。第一に、その復興は「国民的」共同性であるべきか否か、第二に、日本に於ける国民的共同性は天皇以外に認めるか否か、という点である。宮台は国民的共同体に代わる中間集団を模索しつつ、「むしろ三島由紀夫が言うように、天皇というシンボルなくして国民的共同性はありえなかった。だが、小林氏は天皇に言及しない」と小林を批判している。²²⁸

また、宮台は小林が「公」と「共同性」を互換的に使用していると指摘し、「公」は共同体の「間」に認められると概念であると説明する。宮台は自立した「個」による共同体衰退の克服を説き、『情の論理』をうち破る、豊かな知性と結びついた『真の論理』の必要性を訴える。²²⁹

宮台が小林の思想を「情の論理」と喝破した点は正鵠を得ている。²³⁰ しかし、自立した「個」の選択による中間的共同体と、その中間に存する「公」なる概念は、現状との差異が不明である。例えば、学生が私企業を選択し就職する場合、当該行為は「個」による中間的共同体の選択である。また、当該私企業の活動は企業外の諸制約を受け、最大限の自由を想定しても、当該法人の設置された国家の法律の制約下に置かれるのである。

宮台の言語に於ける「公」は、個人の持つ価値観としての「公」ではない。しかし個による選択と言う以上、何らかの価値観に基づく選択 - 例えば、私利私欲に基づくか、公共心に基づくか - が想定される。加えて、個人が常に自由意思の下に中間的共同体を選択できるか否か、疑問が残る。

²²⁷ 宮台真司『『情の論理』を捨て、『真の論理』を構築せよ』宮台真司他『戦争論妄想論』教育史料出版会、1999年、11-56頁。

²²⁸ 宮台前掲論文、18頁。

²²⁹ 前掲論文、56頁。

²³⁰ 梅原猛は「感情の論理」なる表現を使用している（第一章11節参照）。

2-3. 虚構 - 山田朗による『戦争論』批判

山田朗はその『戦争論』批判論文『『戦争論』の虚構と歴史の真実』に三つの目的を設定している。²³¹ 即ち、第一に「大東亜戦争肯定論の虚構性を明らかにすること」、第二に『『戦争論』に欠落している真の戦争論を提示すること』、第三に「戦争描写の個別事例を検討し、その誤りを明らかにすること」である。²³²

山田が掲げた目的で興味深いのは第三の目的である。その理由は、画像表現は小林の専門であり、「ニセ写真」の指摘も小林の得意とする批判手段であるからである。山田はまず、小林が「朝日新聞による捏造キャプションものの迷作」と批判する「毒ガス誤報写真」批判に対する反駁を試みる。²³³ 次に小林が描いた戦闘場面の絵に対し皮肉を込めた言辞で批評している。

「毒ガス誤報写真」とは、朝日新聞が1984（昭和59）年10月31日付朝刊の1面写真である。キャプションは『『これが毒ガス作戦』と元将校』で、「紙面によると元将校のAさんが朝日新聞社に」持ちこんだ写真だが、写真自体は煙幕の写真である（図26）。²³⁴

²³¹ 山田朗（やまだ あきら）：明治大学文学部教授（日本近代史）。

²³² 山田朗『『戦争論』の虚構と歴史の真実』大日方純夫・山田朗他『君たちは戦争論で死ぬるか!小林よしのり『戦争論』批判』大月書店、1998年、57-97頁。

²³³ 小林よしのり「反戦平和のニセ写真を見抜け」小林前掲『戦争論』、151-171頁。

²³⁴ 小林前掲作品、160頁。



図 26. 「毒ガス誤報写真」

山田は左頁三コマ目を無視している。

小林よしのり『戦争論』幻冬舎、1998 年、160 - 161 頁

小林は、一、比重が重い毒ガスは掲載写真の如く立ち昇らない。二、写真に明確に写る程色が濃い毒ガスは敵に気付かれ易く役に立たない。三、掲載写真のように日照の強い白昼はガスが上昇するため作戦を行わない。故に、毒ガス写真ではないと結論する。

小林の結論に対し、山田は「大陸指第三四五号」を引用し、大本営が煙幕と毒ガスの混用を指示しており、「煙幕と併用することが多い」故「毒ガスではないと言ってしまふと間違い」であると批判している。²³⁵ しかし、小林は当該写真が「毒ガス作戦」の写真にあらざる旨を述べた上で、写真が「毒ガスの写真などではなかった」と書いているのであり、山田の批判はやや的が外れている。²³⁶ 山田は小林

²³⁵ 山田前掲論文、92-93 頁。

²³⁶ 小林の記述も聊か言葉不足の感が否めないが、そもそもガス自体の撮影は不可能である。小林前掲「反戦平和のニセ写真を見抜け」小林前掲『戦争論』、161 頁。

を批判しつつ、結果として写真が煙幕であること認める形になっている。山田の小林批判に於いて指摘しておきたい点は、その後当該写真は産経新聞が贛湘作戦に於ける渡河作戦時の煙幕を撮影したもので、朝日新聞もそれを認めたという旨の記述を無視している点である（図 26、左中）。²³⁷

山田が「もし漫画のプロであるということなら、…少しは意味のわかる絵を描いてもらいたいもの」と皮肉を込めて批判する絵は『戦争論』第 10 章「他国の軍との残虐度を比較する」の最終頁の絵である（図 27）。²³⁸

²³⁷ 贛湘作戦：1939 年 9～10 月、湖南省。

²³⁸ 小林よしのり「他国の軍との残虐度を比較する」小林前掲『戦争論』、125-150 頁。



当該漫画（絵）に対する山田の指摘の要点は以下の3点である。

一、日本軍の銃の不携帯は非合理。

二、銃不携帯の場合、落下傘部隊であると推定可能だが、その場合、背景の日本軍の戦車は非合理。

三、自軍の戦車に対する手榴弾投擲は非合理。

しかし、小林が描いた当該の漫画には元絵が存在し、それは高光一也画「イナンジョンの戦」と推定される（図28）。

「イナンジョンの戦」は、1942（昭和17）年初夏から同年10月までの期間に描かれ、11月29日には「天覧を賜わ」っている。²³⁹ 高光の同絵は他の画家による20作品と共に全国各地で公開展示され、翌1943（昭和18）年9月、陸軍美術協会から複製刊行された。²⁴⁰ 小林はそれを参考に漫画化したと思われる。

元絵に描かれている日本軍兵士の武器は手榴弾にあらず、火炎瓶であるが、画面中央よりやや右に描かれた背面を向ける兵士の顔の部分、小林自身のキャラクターに描き替えた以外はほぼ同じと言って支障無かろう。

²³⁹ 高光一也（たかみつ かずや 1907－1986）：洋画家、浄土真宗大谷派専称寺前住職、1941年、陸軍報道班員として徴用されインドシナ半島に派遣される。谷萩那華雄、無題、陸軍省報道部監修『大東亜戦異争陸軍作戦記録画 解説』陸軍美術協会、1943年、2-3頁。

²⁴⁰ 「イナンジョンの戦」は、富士書苑、1954年刊行の『大東亜戦争写真史』に所収され、更に、明石書店、1996年刊行の『日本の侵略とアジアの子供』に「イエナンジョンの戦」として再収されている。



図 28. 高光一也画「イナンジョンの戦」

筆者撮影・会津若松市立会津図書館蔵

陸軍省報道部監修『大東亞戦異争陸軍作戦記録畫集』陸軍美術協會、1943 年

「イナンジョンの戦」が描かれた詳細な状況は不明であり、描かれている内容の事実性に対する疑問は否定し得ない。しかし、高光は陸軍報道班員として現地に行っており、大本営陸軍報道部長・陸軍少佐谷萩那華雄によると、1942（昭和 17）年の初夏、高光らは「命を受くるや感奮、直ちに激戦の跡を訪ねて實地に構想を練り、また一々参加部隊に就いて當時の状況を質すなど、一木一草、天候の微細至るまで之を忽せにせず、至高の藝術的良心をもってこれが製作に當られた」のである。

²⁴¹ 従って、高光は現地に於ける説明、見聞をもとに、想像、脚色表現したものと理解するのが妥当であろう。

山田が指摘するよう、漫画のコマ右端の兵士が投擲した手榴弾の軌道は戦車に向いており、小林の左側の兵士は地面に向かって手榴弾を投擲しつつあるかのように

²⁴¹ 谷萩那前掲無題、陸軍省報道部監修『大東亞戦異争陸軍作戦記録畫 解説』陸軍美術協會、1943 年、2-3 頁。

見える。しかし、戦車が日本軍のものと理解する山田の解釈が間違っているのである。高光は自身の絵を以下のように説明し、署名入りで戦況を伝えている。

機甲兵團を根幹とする、我に數倍する優勢な敵軍は、唯一の退路を斷たれた結果この附近に血路を求め、一方重慶軍を交えた敵有力部隊は北方より我を反撃し、我が軍はこゝに挾撃さるゝの苦戦に陥つたが、剛毅不屈の作間部隊は兵力装備共に劣勢にも拘らず、敵鬪五晝夜、巧な**兵力の機動**によつて敵を完全に撃破した。²⁴²

従って、描かれている戦車は敵軍のものであり、敵戦車に対し、軽装で、機動によって奮闘する作間部隊が描かれているのである。

2 - 4. 虚妄 - 姜尚中による『戦争論』批判

姜尚中は、『戦争論』の虚妄」に於いて、『戦争論』が「場所的同一性」の回復を説いていると指摘、その排他性を批判している。²⁴³ また、姜は『戦争論』に表現された小林の思想を「極端なように見えながら、…文化保守主義、あるいは戦後から続いている日本型共同体主義とつながっていると思」う、と思想的連続性を指摘している。²⁴⁴

姜は『戦争論』の本質を、場所的同一性、即ち国家の存在意義を、防衛を通してわかりやすく説いたものと理解しており、後に小林が『戦争論』が公論を喚起する手段であった旨を告白する事実を既に暗示している。姜は『戦争論』の特徴的な理由を素朴なパトリオティズムに求めているがだから」と書いているが、『戦争論』への対抗軸としてアイデンティティの多層化を示唆し、従来の対抗軸としての平和主義の脆弱さを認め自省している点が、他の論者と一線を画するところである。²⁴⁵

²⁴² 筆者下線。高光一也「20イナンジョンの戦」陸軍省報道部前掲書、24頁。

²⁴³ 姜尚中(カン サンジュン):東京大学大学院社会情報研究所教授(現・東京大学名誉教授)。当該論文は、『戦争論妄想論』教育史料出版会、1999年、57-84頁及び姜尚中『反ナショナリズム』教育史料出版会、2003年、34-55頁に所収されている。

²⁴⁴ 姜前掲論文、『反ナショナリズム』、41頁。

²⁴⁵ 姜尚中「東北アジアの戦後史と日本のネオナショナリズムー小林よしのり『台湾論』を手

『戦争論』発表当時の小林は、新しい歴史教科書をつくる会（以下、つくる会）の活動に参加しており、今日小林が批判するところとなる親米保守派の論者とも活動を共にしていた。姜は、東西冷戦体制の崩壊と昭和の終焉を起点とし、湾岸戦争を経て、自衛隊の国連平和維持活動参加を志向しつつ「日米同盟の非対称性を清算し、防衛・安全保障・外交の面で日米同盟の対等なパートナーシップの確立」を目指す姿勢を、「冷戦後の世界秩序形成の主要プレーヤーに脱皮しようとする『国際化』されたナショナリズムが本格的に台頭しつつあった」と評価し、「過去の歴史的清算をふまえた未来志向の日韓関係」にも期待を寄せている。²⁴⁶

姜は、「しかしそうした『国際化』されたナショナリズムの出鼻をくじくような『逆流』」であると、つくる会「にみられるようなネオ・ナショナリズム」を批判し、『『国としての誇り』(national pride) を喧伝するようになった』と書いている。²⁴⁷ 姜は、「季節はずれの『日本回帰』の現象」が「さまざまな組織やメディア、資金力を通じて大衆的な共鳴を獲得する」と懸念を表明しているが、姜が批判する「国としての誇り」を喧伝するメディアのひとつに小林よしのりの漫画作品が念頭に置かれていると理解するのが至当であろう。²⁴⁸ 姜の理想である『『国際化』されたナショナリズム』とは、国家の枠を超越した市民的連帯のナショナリズムであり、それと「摩擦を繰り返す」批判対象として、姜は「エキセントリックな周辺化された集団や知識人（漫画家）、メディア」等を列挙しているが、姜が「知識人（漫画家）」と書き批判する人物は小林以外に無い。²⁴⁹ その論拠は、姜が小林よしのり『台湾論』の批判に際し、小林のナショナリズムの特徴描写を目的に『戦争

がかりに」『東北アジア共同の家をめざして』平凡社、2001年、187-205頁。姜は別書で、素朴なパトリオティズムを超えたところに「ジャパン・アズ・オンリーワン」を標榜する思想家として松本健一と中西輝政を挙げ、また「ネオ・ナショナリズムのもう一つの代表的な極」として小林よしのりを挙げ、「心情化されたパトリオティズムによって国家の歴史」の聖化を標榜すると指摘している。姜尚中『ナショナリズム』岩波書店、2001年、viii頁。

²⁴⁶ 姜尚中『東北アジア共同の家をめざして』平凡社、2001年、10頁。

²⁴⁷ 前掲書、10-11頁。

²⁴⁸ 同上。

²⁴⁹ 前掲書、11頁。「(漫画家)」は姜による原注である。

論』批判並びに小林よしのり批判を書いている点に求め得る。

姜は日本のネオ・ナショナリズムを動向分析し、構造改革により生じる社会的落後者 - 姜の言語では『余計者』としての「アンダークラス」 - の「アイデンティティの拠り所としてのナショナリズムへの回帰」の強化現象を指摘しているが、小林は新保守主義（ネオコン）と構造改革に対しては伝統を破壊するものとして反対の立場を明言している。²⁵⁰ 小林はつくる会を「アメリカに媚びへつらう親米保守」と批判し、「この運動から手を引き」ている。²⁵¹ 従って、姜が批判すべき対象は「知識人（漫画家）」にらず新保守主義の筈ではなかろうか。今日の視点で姜の日米関係見直し論を検討すると、現在の小林の親米保守批判と重複する点が多分に認められ、共に理想主義的である。

姜は小林の主張するナショナリズムを国体論と見做しており、その理解は筆者の同意するところである。姜は日本のナショナリズムを、民衆の「下からの国体へのシンパシー」と、伊藤博文に代表される「上からのベクトル」の相反方向運動が「あやをなしながら形成されてきた」と説明した上、「小林よしのり氏という人は、後者の、上からのベクトルのものをよく理解していないのではないのでしょうか」と小林批判の言を書いている。²⁵² しかし、姜は続けて「小林氏は、情動的なパトリオティズムを下から立ち上げていくことで、国家へと連続できるかのような幻想を紡ぎ上げていきます」と書いており、いわば、小林よしのり確信犯論である。²⁵³ 小林自身、国民の物語の必要性を訴えており、姜による小林非難の可否は措き、後半の指摘は正鵠を得ている。小林は国家がフィクションであることを承知の上で、その必要性を訴えているのである。

「ヨコの対等な関係からなる地域主義」の構想の必要性を説く姜は同時に「国際化」により発生する「アンダークラス」対策として「セーフティネット」の必要性

²⁵⁰ 前掲書、11-12 頁。

²⁵¹ 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、279 頁。

²⁵² 姜前掲「東北アジアの戦後史と日本のネオナショナリズムー小林よしのり『台湾論』を手がかりに」姜前掲書、187-188 頁。

²⁵³ 姜前掲論文、188 頁。

を説いており、それは今日の日本に実現している経済二極構造を予見していると言えるが、姜の言論は二極化を前提とした国際化論であり、その正否は措くとし、従来の共同体の崩壊を当然の結果として承認するものである。²⁵⁴ この点に於いて姜の主張は現実主義的となり、弱者に対する情を行動原理とする小林の承服するところではなかろう。

2 - 5. 吉本隆明『わたしの戦争論』対小林よしのり『戦争論』

吉本隆明は1999（平成11）年9月、田中伸和を相手に口述した『私の「戦争論」』を発表、その第一章は「小林よしのり『戦争論』を批判する」である。²⁵⁵

吉本の『戦争論』の感想は、小林の言説が「東京裁判」に於けるインド代表判事、ラダビノード・パール[Radhabinod Pal 1886 - 1967]の思考に類似しているというものである。その上で、アジア・太平洋戦争がもたらした植民地解放の側面は認め、「小林よしのりがいうように、日本が戦争をしたその余波として、アジア諸国の独立が促されたことは確か」、「結果的にはアジア諸国の独立を促したというのはその通り」と述べている点は注目に値するであろう。²⁵⁶

吉本の問題意識と小林理解は如何なるものであろうか。吉本が問題視する点は、現場レベルに於いて日本軍が民衆に対し如何に接したか、という点に加え、日本軍の「好意」が民衆に理解されたか、という点である。吉本は、このような視点が無ければ「小林よしのりのように全面肯定になっちゃう」と述べ、小林の議論を全面肯定として捉えている。²⁵⁷ 後に小林は、公論喚起の目的を以て「あえて大東亜戦争肯定論」を書いた旨を述べるのであるが、吉本の小林批判時点に於ける理解は正しく、小林の想定通りとも言い得る。²⁵⁸

²⁵⁴ 姜尚中「『東北アジア共同の家』構想について問う」姜前掲書、133-169頁。

²⁵⁵ 吉本隆明（よしもと たかあき 1924-2012）：詩人、評論家、東京工業大学特任教授。

²⁵⁶ 吉本隆明『私の「戦争論」』筑摩書房、2002年、17頁、19頁（初出、ぶんか社1999年）。

²⁵⁷ 吉本前掲書、20頁。

²⁵⁸ 小林は1998年9月の段階では予期せず「大東亜戦争肯定論」になった旨を述べている。（序章4節、19頁、脚注39参照）。

吉本と小林の戦争観に共通点は見出せないであろうか。吉本の「侵略」認識は、交戦国の領土内に於ける戦闘行為は全て侵略とするものである。本節後項で述べるが、吉本は対テロ戦争も否定する絶対平和論の立場をとり、小林の主張とは対立する。しかし、「戦後民主主義」に対しては激しく批判している。例えば、田中伸和に広島原爆慰霊碑の文言 - 「…過ちは繰り返させぬから」 - に関し問われ、吉本は「こんな言葉づかいをするやつは『なんて野郎だ!』って」思った、「こんな言葉づかいをするやつは、戦後民主主義者に決まっています」と答えており、小林のパール判事の真意に仮託した碑文批判 - 「過ちは誰の行為を指しているのか」 - と軌を一にしている。²⁵⁹

1945（昭和20）年8月15日、学徒動員先の富山県魚津市、日本カーバイトの工場前広場にて終戦の詔勅をラジオで聴いた聞いた吉本は「敗戦」を実感したという。吉本はその敗戦感を説明し、「どこに負けたか」というと、『アメリカに負けた』というのが僕の実感、「太平洋をはさみ、太平洋の島々で日本はアメリカと戦って負けた…」というのが僕の実感」と述べている。²⁶⁰ 加えて、「アメリカさえいなければ、戦争に勝っていたかもしれないと思うところがある」と、現在の率直な心情を吐露している。²⁶¹

戦後民主主義者の米国迎合を批判する吉本隆明の言論の痛快さは、小林よしのりの『ゴーマニズム宣言』の持つそれと、迎合批判に於いて通底する。吉本の言葉では、当時は左翼も戦争を肯定していたという。それに対し「小林よしのりが『戦争論』で憤っている心情というのは、よくわかる」と、吉本は小林の心情に一定の理解を示している。²⁶²

また、特攻隊については、公に殉じる「覚悟をもったように見えた青年」と「本当に嫌々死んでいった青年」の両者の存在を前提に、吉本本人は前者に憧れた旨を

²⁵⁹ 吉本前掲書、189頁。小林よしのり「パール博士の合掌」『ゴーマニズム宣言 SPECIAL いわゆる A 級戦犯』幻冬舎、2006年、209-226頁（参考）。

²⁶⁰ 吉本前掲書、25頁。

²⁶¹ 同上。

²⁶² 前掲書、32頁。

語っている。²⁶³ いわゆる無駄死に論に対しては、それを否定する小林に共感し、「共産党をはじめとする戦後左翼」に対し、『これは絶対にゆるせないぞ』という当時の」思いを語るとともに、「それは今も同じです」と付加している。²⁶⁴

しかし、吉本の言説には小林の「公」尊重思想を誤解している点が見受けられる。吉本は、特攻隊の「青年たちが『祖国のために』とって飛び立っていったのには、なるほど“ごもつとも”というところがあったでしょうけれど、個人としては…いろいろ思い悩みながら死んでいった」のではないかといい、小林も、もし特攻隊員として出撃を迫られた場合、『もっと漫画を描きたかったな』とか、いろいろ思い悩みながら」出撃するのではないかと想像している。²⁶⁵

吉本の議論は尤もであり、当時の小林は「個を超えた勇気ある英霊たちに感謝」と書くものの、個人の心的葛藤を十分に描いていない点を考慮すると、吉本の指摘はやむを得ないであろう。²⁶⁶

更に吉本は、例として、小林が仕事を犠牲にして親戚の子供を助けた場合、小林が個を超えたと言いきい難いと言う。²⁶⁷ 吉本の論自体は尤もである。しかし、小林もそれを以て個を超えたとは言わないのではなかろうか。小林が親戚の子供を助ける行為は個人的、或いは私的であり、漫画家たる小林は、漫画を描いてこそ公的なものではなかろうか。吉本は、小林の主張するところの「公」を理解していないのではあるまいか。

吉本の『私の「戦争論」』に於ける特異な点は、天皇の制度を「生き神様信仰」といい、天皇や国家を個人の上位に置く思想的根拠と見做している点である。²⁶⁸

吉本は「天皇制というのは、アジアの極東地区の辺境国家に見られる『生き神様信仰』が制度化された」「前アジア的段階」のものに過ぎぬから、それより導き出

²⁶³ 前掲書、31 頁。

²⁶⁴ 前掲書、32 頁、33 頁。

²⁶⁵ 前掲書、37 頁。

²⁶⁶ 小林よしのり「個を超える勇気と誇り」小林前掲『戦争論』、368 頁。

²⁶⁷ 吉本前掲書、49 頁（参考）。

²⁶⁸ 前掲書、56 頁。

される個人を超越する価値観は否定されるべきだと言う。²⁶⁹ 吉本の言説には、欧米と比較し、日本を含めたアジア全体を劣等視する思想が示唆されているのではなかろうか。

2 - 6. 犠牲者の意義の積極肯定 - 庄司潤一郎による『戦争論』の位置付け

庄司潤一郎は、2002（平成 14）年 2 月、「戦後日本における歴史認識：太平洋戦争を中心として」を防衛研究所紀要に発表した。²⁷⁰ 庄司は同論文に於いて「東京裁判史観」の形成から「昭和史論争」を経て「15 年戦争論」に至る経緯を述べた上、遠山茂樹らの『昭和史』と家永三郎『太平洋戦争』の日本に於ける歴史認識への多大な影響を指摘、歴史観のひとつの原型をつくったと評価している。²⁷¹

庄司は続けて「実証主義」の台頭から「ファシズム論争」を経て、昭和天皇の戦争責任論に至る経緯を述べた上、昭和天皇の崩御を戦争責任論の多様化への契機と位置付けている。この多様化とは、従来の「マルクス主義史観」の分化・特化であり、庄司はその多様な戦争責任追及に対する「広範な国民的反発」として「自由主義史観」を位置付ける。庄司は、上述の歴史論争を経て大衆文化に表出したひとつの結果として小林よしのりの『戦争論』を批判している。

庄司は同論文の論点を以下の 7 点に要約する。

一、近代史上に於ける位置付け

二、日本の対外膨張の要因

三、戦争責任論

²⁶⁹ 前掲書、44、45 頁。

²⁷⁰ 庄司潤一郎（しょうじ じゅんいちろう）：防衛省戦史研究センター長。庄司潤一郎「戦後の日本における歴史認識：太平洋戦争を中心として」『防衛研究所紀要』4 巻（3）、防衛庁、2002 年、100-119 頁。

²⁷¹ 遠山茂樹・藤原彰・今井清一『昭和史』岩波書店、1959 年、家永三郎『太平洋戦争』岩波書店、1967 年、庄司前掲論文（参考）。

四、「大東亜戦争」解釈

五、日本人犠牲者の取り扱い

六、「残虐行為」

七、将来の課題

庄司は論点五から派生した議論として、加藤典洋らの「歴史主体論争」に並立させ、『戦争論』が提示した議論を以下のように評している。²⁷²

漫画家の小林よしのりは、漫画『戦争論』のなかで、「公」と「個」を対比しつつ、「公」のために「個」を犠牲にすることの尊さを主張し、太平洋戦争における犠牲者の意義を積極的に肯定したのであった。²⁷³

庄司による『戦争論』評価は、小林の議論の主題である「公」と「個」を理解した上の批判であり、アジア・太平洋戦争に於ける日本人戦没者の意義付けたる『戦争論 2』や『靖国論』の内容まで視野に入れている。また、『戦争論』を大衆文化のひとつとして、映画『プライド』、『ムルデカ』と並列させてはいるが、歴史認識の変遷なる文脈から、歴史観として現代史上に位置付けている点は庄司の『戦争論』批判の特異点である。²⁷⁴

2 - 7. 吉本隆明『超「戦争論」』対小林よしのり『戦争論 2』

吉本隆明は、2002（平成 14）年 11 月、『超「戦争論」』上下巻を発表、その第二章「小林よしのり『戦争論 2』を批判する」に於いて、『戦争論』の主題である「公」と「私」、並びに国家、天皇、靖国を論じ、小林批判を展開している。また、1999

²⁷² 加藤典洋（かとう のりひろ）：文芸評論家、早稲田大学国際教養学部名誉教授。

²⁷³ 庄司前掲論文、109 頁。

²⁷⁴ 『プライド』：『プライド・運命の瞬間』、1998 年公開。『ムルデカ』：『ムルデカ 17805』、2001 年公開。

(平成 11) 年 9 月に発表した『私の『戦争論』』に於ける「生き神様信仰」説を反復力説している点が興味深い(本章 2 節 5 項参照)。

吉本当該著作の上巻は三章構成で、第一章は米国同時多発テロを論じ、国家行為たる戦争を、テロ以上の犯罪であると非難、小林『戦争論 2』批判を挟み第三章に於いて、いわゆる右派政治家、マスコミ知識人による対テロ戦争擁護の論調を批判している。

吉本は、小林が国家秩序の維持とテロ批判を同時に唱える点に矛盾を認め、テロに反対するのであれば、国家が行う戦争にも反対すべきだと主張する。また、吉本は、「フランスの知識層の人たち」の国家観を紹介し、国家とは即ち政府である言う一方、「小林よしのりが『国家は全体を包含する価値の源泉である』というふうな考え方をして」おり、それは東洋的国家理解であると非難している。²⁷⁵ 吉本は、国家、言語、民族も相対的に捉えており、10 万年単位で歴史を遡上せば全て差異は無いと言う。²⁷⁶

吉本によると、小林の「東洋的」国家観が誤解であり、議論が粗雑、「考え方自体が間違い」で、話題の概念が本来曖昧である点を前提に、「小林よしのりにはそういうことをちゃんと考えて欲しい」と苦言を述べている。²⁷⁷

吉本の国家を相対化する議論は、それ自体正しいであろう。しかし、小林は国家を価値の源泉とは論じていない。詳細は次章にて述べるが、小林は価値観としての「公」の及ぶ最大範囲を国家としているに過ぎない。また、吉本は小林の議論を粗雑であると批判するが、吉本の 10 万年単位で歴史を遡上する論拠は、小林以上に粗雑ではあるまいか。

吉本が天皇の制度の何たるかを「戦後、一生懸命考え」「たどりついた結論は、天皇制というのは、アジア的専制制度や、それ以前の前アジア的段階であるアフリカの段階などに見られた『生き神様』信仰を制度化したものにはほかならない」とい

²⁷⁵ 吉本隆明『超「戦争論」』アスキーコミュニケーション、2002 年、139-140 頁。

²⁷⁶ 前掲書、150 頁(参考)。

²⁷⁷ 前掲書、136、150 頁。

うものである。²⁷⁸ その上で吉本は、小林を「生き神様信仰」から免れていないと批判している。

吉本の議論の特徴は、前述の「生き神様信仰」論を基盤に公私を論じている点である。吉本は天皇不可侵を規定した大日本帝国憲法第3条を、生き神様の神聖性を述べたものであると主張している。吉本の主張は、生き神様信仰に儒教、仏教が習合し、生き神様たる天皇の為に自己犠牲を厭わぬ日本的な精神が発生したというものである。吉本はこの主張に立脚し、小林の「公」の議論を批判、『公』のためなら『私』を犠牲にしてもいいというふうな日本人の精神構造の根底には、『生き神様』信仰があると述べている。²⁷⁹

「生き神様」論を展開する吉本隆明は、如何なる宗教観を持っているのであろうか。小林が日本と欧州を比較し、多神教と一神教の差異に文化的相違の根源を求めているのに対し、吉本は、宗教は多神教に始まり、段階的に発展したと論じ、小林が「宗教心には『段階がある』ってことが、全然わかっていない」と非難する。²⁸⁰ 吉本は、「ルーツをたどれば、みな、アミニズムのアフリカの段階からはじまっている」と言う。²⁸¹ 吉本の言説は、前述の10万年単位の歴史遡上と同様、現行概念は全て相対主義の前に融解することを意味するのである。

このような宗教観を持つ吉本は、首相の靖国神社参拝に対し、如何なる思想を述べているのであろうか。

「フランスの知識層」を範とする吉本は、以下のように個人主義を述べる。即ち、「小泉首相であれ、かつての中曽根首相であれ、…靖国神社に参拝しに行くことは、その人の自由というか、勝手であって、なんら公的な意味をもたない」、「首相が靖国神社に行くことは、個人の自由」であると。²⁸²

吉本は、首相の靖国神社参拝に「公的も私的ありません」と言い、「公式参拝」

²⁷⁸ 前掲書、155-156 頁。

²⁷⁹ 前掲書、181 頁。

²⁸⁰ 前掲書、196 頁。

²⁸¹ 筆者下線、前掲書、198 頁。

²⁸² 前掲書、199-200 頁。

自体、「内閣の閣僚を大勢連れて」行かない限り成立し難い概念であると言う。²⁸³

吉本の個人主義に従えば、小林よしのりによる小泉、中曽根両首相の参拝方法批判は、それ自体成立し得ないのである。

首相の靖国神社参拝に関し、吉本隆明の個人主義に発する批判と小林よしのりの「東洋的」思考に発する批判に共通点は見出せないのであろうか。

詳細は後章に譲るが、小林は靖国神社に政治的なパフォーマンスの場としての機能を認め、外交カードに利用するべしとの現実主義的意見を開陳する。しかし、当初小泉の靖国神社公式参拝に期待した小林は、小泉が8月15日に予定した参拝を13日に前倒した件を描き、「姑息な参拝」であると批判している。一方、吉本の批判は個人主義に基づき、小泉の「13日参拝」を、「批判されたから前倒しをして靖国神社を参拝したというのは、やっぱり『情けないやつ』だ」と非難している。²⁸⁴

また、中国並びに韓国政府による首相の靖国神社参拝非難に対しては、小林以上に拒否感を表明、「他国のことに対して、余計なことをいうな」と述べている点は注目すべきである。²⁸⁵ いわゆるA級戦犯合祀に関し、小林は敗戦前の世論が戦争を肯定し、朝日新聞が東条英機を持て囃した点を指摘しているが、吉本も自身を含め国民一般は戦争を肯定していた旨を証言し、多くの国民は「A級戦犯はけしからん、彼らは首を吊られて当然とは思っていなかったと思います」と述べている。²⁸⁶

靖国信仰に関しては、小林が先祖崇拝から自然発生した民間習俗を基盤に成立した旨を論じているに対し、吉本は「国家が人工的につくった近代の産物」とであると反論している。²⁸⁷

靖国神社の創建は1869（明治2）年であり、吉本の意見は正しい。しかし、小林の議論は、民間習俗の思想が前提として存在した故に靖国信仰が受容されたという論旨であり、小林と吉本の議論はかみ合わない。

²⁸³ 前掲書、202頁。

²⁸⁴ 前掲書、203頁。

²⁸⁵ 前掲書、205頁。

²⁸⁶ 前掲書、206頁。

²⁸⁷ 前掲書、208頁。

吉本は、第二章の最後を小林の米国同時多発テロに対する意見の批判で結ぶが、小林が『戦争論 2』に於いて、航空機突入の報道を見た瞬間に希望を感じ、興奮、反米感情が沸き起こった旨を告白している点に関し、「小林よしのりがそういうふうに感じたってことは、わからないことはない」と一定の理解を示している。²⁸⁸ しかし、小林が特攻とテロを明確に区別しているのに対し、吉本は航空機テロを「特攻」と呼び、「あのとき、自分たちは、欧米人たちから『バカな野郎、迷妄な野郎だ』としか見られてなかったんだな』ということ、改めて感じた」と感想を述べている。²⁸⁹ しかしまた、米国に対しては、「やっぱり、…相変わらずバカだな」と述べ、米国の自国優越思想を指摘し、「そうじゃないところの人たちを見下している」と非難している点は、米国の独善、傲慢を批判する小林の論理展開と同一である。²⁹⁰

2 - 8. 死とは「非意味」「非価値」 - 宮崎哲弥による『戦争論 3』批判

宮崎哲弥は 2003（平成 15）年 9 月 15 日発売の、小林よしのりが編集人を務める雑誌「わしズム」8 号に「死とは『非意味』『非価値』のものである」を寄稿している。²⁹¹ その意図は、小林が『戦争論 3』第 12 章「破壊された公」に於いて引用した「ある知識人」の言を説明する為である。その言とは、「生きている／ことにのみ／意味がある」、「あらゆる死は／無意味であり／犬死にだ」、「名誉ある死も／尊い死も／誇り高い死も／何も無い」、「いっさいの死は／無だ」、「どんな境遇でも／生きてさえいれば／あかりが灯る」、である。²⁹²

小林は先述の知識人の、即ち宮崎の言論に反駁する形式で立論し、飢餓で死亡する子供を描き（第六章 5 節、295 頁、図 102 参照）、このような不条理を生起させ

²⁸⁸ 前掲書、215 頁。

²⁸⁹ 前掲書、216 頁。

²⁹⁰ 同上。

²⁹¹ 宮崎哲弥（みやざき てつや）：評論家。宮崎哲弥「死とは『非意味』『非価値』なものである」小林よしのり（編）『わしズム』8 号、幻冬舎、2003 年 9 月 25 日、41-43 頁（参考）。

²⁹² 小林よしのり「破壊された公」小林前掲『戦争論 3』、143 頁。

た欧州植民地主義を暗に批判しているのである。

宮崎は自身の学生時代を回想し、アジア・太平洋戦争、フランス革命、共産主義革命、関ヶ原の戦い、戊辰戦争、各戦闘に於ける戦没者は犬死にした者か、英霊か、と「特定のイデオロギーで各私の死の価値を測ることは、完全な錯誤であるという考えに到達していた」と述べ、「いまでもその見方は豪も変わっていません」と書き足している。²⁹³

宮崎の説明によると、「犬死に」とは死を序列づけた上で、有益な死と差別化して成立する用語である。従って、「あらゆる死は『犬死に』である」と「あらゆる死は『犬死に』ではない」とは同値であると説明するのである。²⁹⁴ その上で宮崎は、「犬死に」は反語であり「命題全体で『犬死に』という概念自体を否定」していると述べている。²⁹⁵

宮崎はその真意を、「あらゆる死は『無意味』『無価値』」と換言し、意味ある死を想定しなければ「生への執着から離れられないというのもまた、未練がましい態度」ではないか、と厳しい批判を書いている。²⁹⁶

宮崎は、特攻隊員たちは「死の非意味性、死の虚無を正しく見据えて」おり、「死の間際、彼等は生を超克した」と言う。²⁹⁷ 前段は後章にて扱う水木しげるの思想と通低し、後段を小林よしのりの表現に換言すれば、「個を超え公に生きた」となるろう。

²⁹³ 宮崎前掲論文、41-43 頁。

²⁹⁴ 前掲論文、42 頁。

²⁹⁵ 前掲論文、43 頁。

²⁹⁶ 同上。

²⁹⁷ 同上。

2 - 9. 高橋哲哉『靖国問題』対小林よしのり『靖國論』

高橋哲哉の著作に於いて小林よしのりを直接批判したものは確認できない。²⁹⁸ 小林よしのりは2005（平成17）年8月に『靖國論』を発表したが、高橋は小林に先立つこと4カ月、2005年4月に『靖国問題』を発表している。²⁹⁹ しかし、小林の『靖國論』に完全な書き下ろしは3作品のみで、所収された他の13作品は2001（平成13）年7月から2004（平成16）年12月10日までに発表済みである。従って、高橋による2005年の『靖国問題』発表は小林の『戦争論』に対する批判との理解が可能であり、小林も『靖國論』に於いて高橋の『靖国問題』を批判、3コマに高橋『靖国問題』を描き、上部余白にも批判を書いている（図29、30、31）。³⁰⁰



図 29. 『靖國論』序章の第一コマ

最上部に重なった書籍が高橋哲哉『靖国問題』（図の下方）

小林よしのり『靖國論』幻冬舎、2005年、5頁

²⁹⁸ 高橋哲哉（たかはし てつや）：東京大学大学院総合文化研究科教授。

²⁹⁹ 高橋哲哉『靖国問題』筑摩書房、2005年。

³⁰⁰ 『靖國論』序章の最初のコマ（5頁）に高橋の『靖国問題』が描かれており、第6章109頁の上部余白にも批判が書かれている。



図 30. 高橋哲哉『靖国問題』批判

小林よしのり『靖国論』幻冬舎、2005 年、
12 頁



図 31. 上部余白の高橋哲哉『靖国問題』批判

上部の矢印は筆者による。

小林よしのり『新ゴーマニズム宣言靖国論』幻冬舎、2005 年、11 頁

高橋の議論は、「靖国問題」の最大要因として遺族感情を据えている点が特徴である。高橋は「合祀訴訟」に於ける神社側の弁明を目的として書かれた「靖国の妻」岩井益子による陳述書を以下のように引用する。

たった一言靖国神社を罵倒する言葉を聞くだけで、私自身の身が切り裂かれ、全身の血が逆流してあふれ出し、それが見渡す限り、戦士達の血の海となって広がって行くのが見えるようです。³⁰¹

一方で高橋は岩井に対立する感情として、台湾の歌手・女優・政治家である高金素梅[Gaojin Sumei 1965 -]による写真集の序文を次のように引用する。「見よ、見よ、私の皮膚には鳥肌が立ちはじめ、私の目からは涙があふれ出し、熱い血がこみ上げてきて脳天を直撃した」。³⁰²

高橋は高金素梅を日本軍により抑圧された先住民族「高砂族」として写真入りで紹介し、岩井益子と高金素梅の文から「靖国神社と『血』のイメージを切り離すことはできない」と書いている。³⁰³

高橋は高金素梅が「高砂族」であることを前提に議論を起こしているが、小林は高金の素情を明かし、「運動自体がインチキ」と指弾している。³⁰⁴

高橋は「靖国問題」の最大の要因を遺族感情に置き、顕彰による遺族感情の救済を「感情の錬金術」とであると批難している。³⁰⁵ つまり、高橋は靖国信仰により遺族の感情が悲嘆から感謝に変化することを前提にしているのだが、小林は遺族の心奥に存する変わらぬ悲嘆を前提とし、以下のように書いている。

³⁰¹ 高橋前掲書、13 頁。

³⁰² 前掲書、17 頁。

³⁰³ 前掲書、21 頁。

³⁰⁴ 小林よしのり・西部邁「高橋哲哉先生、『日本が滅亡してもよい』とまで言い切ればどうか！」『本日の雑談 7』飛鳥新社、2005 年、58-65 頁。高金素梅の素情については林建良「靖国を訴えた台湾の女性国会議員の背後関係」『正論』平成 15 年 9 月号に詳しい。

³⁰⁵ 高橋前掲書、44 頁。

戦死者を靖国に祀ったとて／遺族の悲しみが消えるわけではない。「私」的には、わりきれない悲しさを／ひきずりながら、／「公」的には国のため天皇のために／命を投げ出した彼を、彼女を／カミとして祀っていただいて／ありがたいことだと述べる…／遺族の感情は／「公」と「私」の間を行き来している。³⁰⁶

高橋は「感情」を基軸に、感情の問題、歴史認識問題、宗教の問題、文化の問題、国立追悼施設の問題と5章構成で論じているが、高橋の『靖国問題』は従来のリベラルの靖国批判をまとめており、その思想は同書の「おわりに」に端的に表れている。高橋は石橋湛山の「靖国神社廃止の儀、難きを忍んで敢えて提言す」を全文引用し、「無武装平和」を主張する。その上で高橋は「靖国問題」の解決策として次の4点を提示する。³⁰⁷

一、政教分離を徹底することによって、『国家機関』としての靖国神社を名実ともに廃止すること。首相や天皇の参拝など国家と神社の癒着を完全に絶つこと。³⁰⁸

一、靖国神社の信教の自由を保障するのは当然であるが、合祀取り下げを求める内外の遺族の要求には靖国神社が応じること。それぞれの仕方で追悼したいという遺族の権利を、自らの信教の自由の名の下に侵害することは許されない。

この二点が本当に実現すれば、靖国神社は、そこに祀られたいと遺族が望む戦死者だけを祀る一宗教法人として存続することになるだろう。そのうえで、

一、近代日本のすべての対外戦争を正戦であったと考える特殊な歴史観（遊就館の展示がそれを表現している）は、自由な言論によって克服されるべきである。

³⁰⁶ 小林よしのり「無知による靖国問題」小林前掲『靖国論』、12頁。『新ゴーマニズム宣言 15』所収「アロハオエの思い、靖国問題を添えて」にも同趣旨の表現が認められる。

³⁰⁷ 石橋湛山「靖国神社廃止の儀、難きを忍んで敢えて提言す」は東洋経済新報 1945年10月13日号「社論」。

³⁰⁸ 以下引用部は高橋前掲書、235頁。筆者下線。

一、「第二の靖国」の出現を防ぐには、憲法の「不戦の誓い」を担保する脱軍事化に向けた不断の努力が必要である。

1945（昭和 20）年の時点で石橋湛山が靖国神社の廃止を論じた意図が、占領軍への迎合なのか、或いは日本側自ら靖国神社を廃止することにより「英霊」の尊厳を保持せんと試みたのかは定かではない。しかし、現代の視点で高橋の議論を読むと、昭和の香り漂うノスタルジックなユートピア論の感を禁じ得ない。

高橋が提示する政教分離の徹底については、日本が完全分離説を採用した場合、小林は宗教系私立学校に対する助成金交付や文化財保護事業も否定することになる旨を以て反論している。公立学校に於ける地域学習としても、殆どの伝統的「祭り」は扱えなくなるのではなかろうか。また、NHK の相撲中継さえ問題視せざるを得ない。横綱は神として注連縄を張っているのであり、高橋的に表現すると、「国営放送と神道の癒着」となろう。

また、高橋が実現を要求する第二点は、靖国神社と遺族双方の信教の自由の保障を訴えつつ、実質的の同神社が遺族からの合祀取り下げ要求に応じることを要求しているのである。しかし、靖国神社が如何なる祭祀を行おうと遺族の自由な追悼の侵害にはあたらない。例えば、同神社が神式による祭祀を行うとしても遺族が仏式で法要を行う事を禁止する訳ではない。寧ろ、遺族の信教を理由に靖国神社の祭祀の禁止や変更を求める行為は、同神社の信教の自由に対する侵害になる虞があるのではなかろうか。

『靖国問題』は高橋が哲学者であることを前面に出した著作である。しかし、高橋は靖国信仰を分析し、同神社の機能を論難しているものの、同書に於いては宗教を哲学的に論じていない。³⁰⁹ 高橋の言う「感情の錬金術」とは、宗教の本質的機能のひとつではなかろうか。高橋の思想は従来の非武装平和主義に他ならない。しかし、解決策の三点目に示された「自由な言論によって」という件は、「万機公論

³⁰⁹ 高橋は、高橋哲哉『国家と犠牲』日本放送出版協会、2005 年（参考）で哲学的議論を展開している。

に決すべし」と示された近代日本の公論を示唆しており、小林の思想と一致する点である。

2 - 10. 懐古趣味 - 坂本るみによる『戦争論』批判

坂本るみはその『戦争論』批判論文、Will you go to war? Or will you stop being Japanese?’ : nationalism and history in Kobayashi Yoshinori’s *Sensoron* に於いて、『戦争論』を懐古趣味の歴史漫画であると評し、歴史的正確さを要求しない娯楽的歴史小説や映画と並列させている。³¹⁰

坂本は、「近年流行の青年層を対象とした国粋主義的漫画の先駆」として小林よしのりの『戦争論』を挙げ、当該漫画作品が「過去 10 年間に亘り新世代右翼並びに歴史修正主義者の歴史観の宣伝の道具になってきた」と批判している。³¹¹

坂本は同論文に於いて、『戦争論』に於けるナショナリズムと歴史の関係を論究するのであるが、坂本は、香山リカ、飯田由美子、北田暁大が現代の大衆ナショナリズムの非歴史性並びに非政治性を指摘している点を指摘し、自らは小林が漫画という「大衆文化商品を使用することにより日本近代史に関するナショナリズム的な歴史像を拡散することが、潜在的により政治的形態の大衆ナショナリズムにつながる」と論じている。³¹² 即ち、坂本は大衆ナショナリズムが実際の政治に影響を与えることを懸念しているのである。

坂本の懸念の評価は措くとして、小林自身が 1996 年に薬害エイズ訴訟の際の自己の行動を、「世論を作るために いかにも／倫理心情的なスキャンダルリズムの／ニュアンスを前面に押し出して／大衆を誘導し／強力な世論を作り上げる／こと

³¹⁰ Rumi Sakamoto, Will you go to war? Or will you stop being Japanese?’: nationalism and history in Kobayashi Yoshinori’s *Sensoron*, Rev6 頁 The Asia-Pacific Journal: Japan Focus, 2008 年 1 月 1 日 (参考)。坂本は「history manga」と表記。

³¹¹ 筆者訳、坂本前掲論文、Rev1 頁。坂本は、小林よしのり『戦争論』の他に、ジョージ秋山『中国入門』、山野車輪『嫌韓流』を挙げている。

³¹² 筆者訳、坂本前掲論文、Rev1 頁。香山リカ (かやま りか) : 精神科医、立教大学教授。飯田由美子 (いいだ ゆみこ) : 東京大学特任講師。北田暁大 (きただ あきひろ) : 東京大学大学院情報学環教授。

によって／政治家が決断しやすいようにしただけだ」と説明しており、2008（平成20）年の坂本の指摘が、小林の前言を踏襲したものであるか否かは不明だが、理解し得るものである。³¹³

坂本は、現代の大衆ナショナリズムが個人のアイデンティティの喪失による不安を緩和していると指摘するが、『戦争論』は効果的に語りかけ、現代日本社会の広範な不安感に訴え、戦時の日本を古き良き時代として、懐古的に構成している」と批判している。³¹⁴

坂本による前述の指摘は小林の現代社会認識と一致している。小林はHIV訴訟を通し、運動自体が目的化する現象に違和感を表明、運動に参加する学生に向け日常への復帰を呼び掛けたが、小林は当該現象の背景に非日常により浮遊した個の救済を看取していたのである。

坂本は、小林が現代日本社会の諸問題を批判している点に関しては、特段問題視しておらず、寧ろ、小林の漫画作品が戦前と戦後の共同体に関する議論を開く機能を有する点を認めている。しかし、小林が「今日の日本を批判する手段として、理想化した『国民』の過去」を語るときに問題が生起すると言う。³¹⁵ 坂本は、読者に直接呼び掛ける小林の手法が読者をして日本人としての誇りとアイデンティティを覚醒させると言う。坂本は、「論理ではなく、感情に訴えること」がナショナリズムの成功に肝要であると述べ、小林が自在に写真や絵を使い既成の歴史叙述を反駁し、誇張した絵を描き、「知的で真面目に描かれた小林」が読者の感情に訴える点を問題視しているのである。³¹⁶

小林よしのりの漫画作品が、読者の感情に訴えかける「情の論理」により成立している点は、後章にて論述するが、坂本の指摘は正鵠を射ている。しかし、坂本の懸念するナショナリズムとは如何なるものなのであろうか。もし、坂本が国家主義

³¹³ 小林よしのり「知識人・吉本隆明よ勉強しろ!」『新ゴーマニズム宣言 2』小学館、1997年、5-14頁。

³¹⁴ 筆者訳、坂本前掲論文、Rev5頁。

³¹⁵ 筆者訳、坂本前掲論文、Rev6頁。

³¹⁶ 筆者訳、坂本前掲論文、Rev6、Rev10頁。

的ナショナリズムを懸念するならば、小林の反体制的言動との整合性が見出し難い。また、もし市民主義的ナショナリズムを意味するのであれば、それは庶民信ずべからずたる意味ではなかろうか。

「日本人としての誇りとアイデンティティを覚醒」は、『戦争論』の眼目であり、同三部作、『靖國論』、『天皇論』三部作の底流をなすものである。小林は日本人の誇りとアイデンティティを以て現政権及びそれを支持する論者を「親米保守」であると批判、『戦争論 2』ではイラク戦争の不正義を批判しているのである。坂本の指摘自体は正しいが、それは小林の「狙い」通りたることを裏書きする。坂本の批判の前提には日本人たることの誇りとアイデンティティの否定が存するのではなかろうか。

小林の歴史叙述に関する坂本の具体的な批判は、小林が戦時の日本を過度に理想化して描いているというもので、小林が自己犠牲を強要した戦時教育、並びにアジア侵略と植民地化を無視していると指摘している。坂本の前述の指摘は新鮮味に欠く。³¹⁷ しかし、坂本の批判の要点且つ視点の独自な点は、過去の理想化に伴う「祖父たち」の英雄化を、国内の政治家、学者、官僚、ジャーナリスト、「サヨク」に対する小林の「象徴的戦争」と見做している点である。³¹⁸ 坂本は、小林の日本社会の現状に対する不満を読み取りつつ、『戦争論』が占領下に洗脳された「左翼」との新たな戦いを創造することにより「読者に祖父の世代とは別種の英雄主義の可能性を提供する」と批判している。³¹⁹

更に坂本は、小林の『戦争論』第11章「反戦平和のニセ写真を見抜け」に対し、反論を展開している。その論点は、小林が中国の後進性を強調し、写真の誤記や誤用を恣意的に選択しているという点であり、その論旨は、小林が個々の誤情報を否定することにより全体像を歪めていると主張するものである。

³¹⁷ 例えば、1994年に駒澤大学経済学部教授の浅田喬二による「戦記もの」、「回顧もの」出版への批判がある。浅田喬二「東アジアの『帝国』日本」「『帝国』日本とアジア」芳川弘文館、1994年、1-34頁（参考）。

³¹⁸ 筆者訳、坂本前掲論文、Rev7頁。

³¹⁹ 筆者訳、坂本前掲論文、Rev6頁。

坂本は、『戦争論』が「記憶と歴史に関する政争と、ナショナリズムを推進する場として機能する」と批判し、小林の「閉鎖的言語」による主張は「国民的連帯への懐古主義の反映」であると結論している。³²⁰

坂本による2008（平成20）年の『戦争論』批判は、小林が『戦争論』を発表した10年後にあたり、日本国内での小林批判が手際よくまとめられている。しかし、坂本の批判は、大衆文化或いは庶民のメディアとしての漫画の性質を無視している。国内の政治家、学者、官僚、ジャーナリスト、「サヨク」は、戦後日本の権力者、権威主義者、多数派であり、坂本の言うところの小林の「象徴的戦争」は、風刺画としての伝統である。³²¹ 漫画作品を批判しつつ、漫画の本質的表現方法を非難しては議論として成立し得ない。

誤記や誤用の恣意的選択は、その指摘、検証を目的とした作品には不可欠であり、恣意的選択に関する指摘は「ニセ写真」使用者側にも向け得るのではなかろうか。

坂本による新しい視点は、大衆ナショナリズムと小林よしのりを分離した点で、坂本は『戦争論』の「『大衆』ナショナリズムに魅了された人々とは異なるグループに訴えかける」可能性を指摘している。³²²

大衆が連帯を求める社会現象を考慮した点は、小林と視点を共有する。しかし、坂本の論文は2008（平成20）年に発表され、改訂されているにもかかわらず、2001（平成13）年に発表された『戦争論2』、2003（平成15）年の『戦争論3』に対する言及が無い。小林により『戦争論』の主題が「個と公」であることが明示されているにもかかわらず、個と公への言及が無く、『戦争論』を批判しつつその続編である『戦争論2』、『戦争論3』に対する批判が未だに発表されていない点が遺憾である。『戦争論』に焦点を絞りながら、漫画の伝統的社会批判性或いは反逆精神を批判した坂本の論文は、『戦争論』批判にあらず、小林よしのり批判と理解せざるを得ない。

³²⁰ 筆者訳、坂本前掲論文、Rev12 頁。

³²¹ 本稿第一章7節「政治漫画」及び終章4節「思想漫画作品の娯楽性」参照。

³²² 筆者訳、坂本前掲論文、Rev11 頁。

2 - 11. 宗教的修正主義 - ジェームス・マーク・シールズによる『靖國論』批判

ジェームス・マーク・シールズによる『靖國論』批判論文、“‘Land of kami, land of the dead’ Paligenesis and the aesthetics of religious revisionism in Kobayashi Yoshinori’s Neo-Gomanist Manifesto: On Yasukuni”は、日本人の宗教観に於ける靖国神社の位置付けを行い、小林よしのりの『靖國論』を宗教的修正主義であると批判している。

シールズによると、小林の靖国修正主義漫画は、戦時に具現化した次の国家神道の基本「教義」に基づいている。シールズが挙げる教義とは以下の4点である。

一、全ての日本人は万世一系の天皇を頂く唯一の国体に属する。

二、記紀に認められるよう、神の直系である皇室は神聖不可侵である。

三、全ての日本人は国体の一員であるが故に、現人神たる天皇への完全な忠誠を負う。

四、従って、全ての日本人は、国体に殉じる点まで含め、国家の要請に従わねばならない。

シールズによると、小林は「教義」に基づきつつも、『靖國論』は大衆主義や現代主義、或いは国家神道信奉者の思考へのシフトを示唆しており、シールズは『靖國論』を概して「死のカルト」、平田篤胤の国学理解の再来であると非難している。

³²³ また、シールズは靖国神社自体の本質的二面性 - 伝統性と近代性 - を指摘し、

³²³ 筆者訳、Shields, James Mark. "'Land of kami, land of the dead' Paligenesis and the aesthetics of religious revisionism in Kobayashi Yoshinori's 'Neo-Gomanist Manifesto: On Yasukuni'." In *Manga and the Representation of Japanese History*, by Roman Rosenbaum, pp.189-216. Oxford: Routledge, 2013 年、191 頁。平田篤胤（ひらた あつたね 1776-1843）：

『修正主義漫画』の一形態」と表現している。³²⁴

シールズは、「現代の日本人の圧倒的多数が超国家主義を拒絶している」と書きつつも、「反政治的かつ反宗教的な民族主義が、一般的思想パターンとして現代日本に残る強い思想で、容易に政治利用され得る」と、「文化」として現れる現代日本人のアイデンティティが文化ナショナリズムとして表出される可能性に警鐘を鳴らしている。³²⁵

シールズの批判は、小林よしのり『靖國論』を現代版の国学と看做していると言え、『靖國論』批判を通し、靖国信仰、即ち靖国神社とのかかわり合いに対する日本人の姿勢を問うているのである。小林作品とその読者を含む多数の日本人を分離している点は、本節前項の坂本るみの批判と類似するが、批判対象が異なる。シールズの批判対象は小林よしのりを含んだ現代日本人なのである。

シールズが指摘するよう、圧倒的多数の日本人が超国家主義を拒絶しているならば、圧倒的多数の日本人と結託し得る文化ナショナリズムも、郷土文化的、更には市民文化的ナショナリズムとなる可能性があるのではなかろうか。

2 - 12. 右翼漫画家 - ローマン・ローゼンバウムによる『戦争論』批判

“Manga and Representation of Japanese History”の編著者であるローマン・ローゼンバウムは、歴史叙述に於いては如何なる種類の描写にも歴史の真実を阻害する隠された主観が存在すると言い、山野車輪『マンガ嫌韓流』や小林よしのり『戦争論』に関する論争は、漫画が誤った歴史描写をする可能性を批判する顕著な例であると述べている。³²⁶

一方でローゼンバウムは、真摯な個人的歴史叙述作品の一つとして、水木しげる

出羽久保田藩出身の国学者、神道家、思想家、医者。

³²⁴ 筆者訳、Shields 前掲論文、191 頁。

³²⁵ 筆者訳、Shields 前掲論文、209 頁。

³²⁶ Roman Rosenbaum：シドニー大学名誉アソシエイト、国際日本研究センター名誉アソシエイト。Rosenbaum 前掲論文（参考）。山野車輪『マンガ嫌韓論』については終章 2、3 節参照。

の『コミック昭和史』を高く評価、「昭和史を解体した」と書いている。³²⁷ ローゼンバウムは、漫画が既に長期に亘り「単なる娯楽を供するに止まらず、今日では読解能力を要求するほど歴史教育」の役割を果たすと言い、前述の水木しげる漫画作品や石ノ森章太郎の教育漫画を積極的に評価する一方、後期ゴーマニズム宣言（論シリーズ）に於ける小林よしのりの歴史叙述作品の反響を懸念している。

ローゼンバウムは、代表的「右翼漫画家」として小林よしのりの名を挙げ、「小林よしのりの『戦争論』及び後期『ゴーマニズム』の如き悪名高き諸作品は、殆どの歴史家が看過し得ざる指標」であると酷評している。³²⁸

ローゼンバウムが、議論の範囲を『戦争論』に限定し「右翼漫画」と評すならば、聊か単純な理解として肯首し得るところである。しかし、政権批判、反米主張、2017（平成 29）年 5 月に至っては「共謀罪」法案に強い反対を表明する小林を、代表的「右翼漫画家」として位置付けるのは無理がある。³²⁹ 諸批判に対する小林の反論の言をそのまま引用すれば、『『右か左か』という旧態依然としたジャンル分けでしか思想を把握できない粗雑な頭』ということであろうか。³³⁰

3. 結論

本章で扱った小林よしのりの『戦争論』及び『靖國論』に対する批判は、およそ以下七点にまとめられる。

一、小林の議論は国家主義に基づくものであり、その偏狭で右翼的、排他的な思想は若年層に理想を与えず、アジア国際関係に悪影響を及ぼす。

³²⁷ 筆者訳、Rosenbaum 前掲論文。

³²⁸ 同上。

³²⁹ 組織的な犯罪処罰及び犯罪収益の規制等に関する法律等の一部を改正する法律案。「一部を改正」とは「共謀罪」の趣旨を含む「テロ等準備罪の新設」である。小林よしのり「BLOG あのなら、教えたるか。」「共謀罪の強行採決は国柄破壊である」2017 年 6 月 14 日 <https://yoshinori-kobayashi.com/13288/>（アクセス日：2017 年 7 月 24 日）（参考）。尚、小林は 4 月 25 日、衆議院法務委員会に参考人として出席している。

³³⁰ 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、6 頁。

二、小林の表現方法は、読者の情に訴えるものであり、懷古主義で、論理的ではない。戦争を正当化し、日本を被害者にすり替える議論である。

三、その目的の為に、自己犠牲を場面の恣意的取捨選択があり、事実無根の絵が描かれている。

四、小林はアジア・太平洋戦争に於ける戦没者の意義付けを行っているが、従来からの英霊顕彰の正当性を主張するものである。即ちそれは靖国信仰であり、日本の文化として表現される場合、文化ナショナリズムとなる危険性を孕む。

五、靖国信仰は、遺家族の悲しみを感謝に変換するカルトであり、本来廃止されるべきである。他者への配慮が無い。

六、日本の文化ナショナリズムは、当然としてその中心に天皇を要求するが、『戦争論』、『靖国論』に於いては天皇への言及が無い。

七、小林の議論は「公」と「公共性」が混同している。

小林の思想漫画の表現方法が、読者の情に訴えるものである点は間違いない。小林も「マンガで書けるというのは、いわゆる理屈、理論の部分だけじゃなくて、どう情念を伝えるかということだけ」と語っている。³³¹ しかし、小林よしのりの表現方法が漫画であることを批判する姿勢は、小林の漫画作品の有効性を示す結果になるものの、内容批判としては議論の終焉を意味するのではなかろうか。本稿第四章「小林よしのりの思想とゴーマニズム」に於いても、「情」が小林の行動原理で

³³¹ 1998年9月20日の発言。小林よしのり「ひたすら英霊のため、祖父の世代のために」高橋史朗・新しい歴史教科書をつくる会『新しい歴史教科書誕生！！』PHP研究所、2000年、78-81頁。（初出：『正論』1998年12月号）。

ある点を指摘するところであるが、漫画表現は「情」の伝達に適すメディアである。

批判されるところの排他性は、従来の国家主義としてのナショナリズム、或いは文化ナショナリズムの必然的要素であり、姜尚中が理想とする「国際化」したナショナリズム、即ち国境を越えた市民連帯的ナショナリズムとは相容れない思想である。姜は、大東亜共栄圏の否定の為にも、新たな東北アジアに於ける国際関係秩序として「東北アジア共同の家」の実現に向けた日本の主導を期待しているが、その実現性は引き続き低い、きわめて低いと言わざるを得ない。何故ならば、筆者は大衆が市民レベルで - つまり大衆が市民意識に覚醒して - 「共同の家」なるものを望まないと考えるからである。近年の日韓間の事例を挙げれば、政府間で「最終的かつ不可逆的に解決されることを確認」した「慰安婦問題」も、韓国市民により反故にされ、その現状を、韓国政府は追認していると理解せざるを得ない。³³² 具体的には、安倍晋三政権の要請により、在韓国日本大使館前に設置された「慰安婦」少女像の撤去「努力」を約束した朴槿恵政権は、民意を味方につけることなく朴大統領の私的関係を原因に崩壊し、その後も市民の有志により少女像は継続的に作製、設置されているのである。国家間の関係を越えた市民レベルの連帯は実現性が高い。しかし、「共同体の家」と表現される程高度な統一的主体の実現は非現実的ではなからうか。

公と公共性の関係は後章に於いて論じるが、空間概念としての公と価値観としての公が指摘される。小林の主張する空間概念としての公の最大範囲が国家主権範囲であり、共同体としての公と必ずしも一致を必要としない。価値観としての公が即ち公共性であるが、小林の説くところでは「滅私」に換言し得るものである。言語使用上、「公」の意味するところが空間概念か価値概念かという点には留意する必

³³² 外務省「国・地域」、「大韓民国、日韓両外相共同記者発表、平成 27 年 12 月 28 日」、www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/na/kr/page4_001664.html（アクセス日：2017 年 6 月 27 日）。また、「慰安婦問題」自体を問題視し、元朝日新聞・植村隆記者を批判する現代朝鮮研究者に西岡力（にしおか つとむ）、朝日新聞の「慰安婦虚報」を内部告発したジャーナリストに元・朝日新聞ソウル特派員の前川恵司（まえかわ けいじ）がいる。前川恵司『朝日新聞元ソウル特派員が見た「慰安婦虚報」の真実』小学館、2014 年（参考）。

要がある。

文化ナショナリズムへの傾斜は指摘される通りで、小林は『天皇論』三部作により従来の「天皇抜きのナショナリズム」という批判に応じている。しかし、筆者が指摘したい危険性は、「天皇さえも抜きにするナショナリズム」への傾斜である（詳細は第七章及び終章）。即ちそれは、共同体的な情を尊重しない天皇、或いは現行の憲法を尊重する天皇を、天皇として不適格と考えるナショナリズムである。

第四章

小林よしのりの思想とゴーマニズム

1. 序論

本稿の主題は小林よしのりの「思想漫画」であるが、それは二つの大きな要素、即ち漫画作品中に表現された思想としての「ナショナリズム」と漫画という娯楽により構成されている。³³³

小林作品では「ゴーマニズム宣言」の下『戦争論』三部作、『靖國論』、及び『天皇論』に注目したが、本稿に於ける筆者の立場は、漫画をメディアの一形式として考えるため、本章もいわゆる漫画論ではない点を再度明記しておく。

漫画雑誌の相対的衰退傾向にもかかわらず、小林よしのりの漫画作品が一定の売れ行きを保っている点は序章にて触れたが、本章では、小林漫画作品が社会的影響を懸念させ得る原因を究明したい。

2. エッセイ漫画から「思想漫画」へ

小林よしのりの「思想漫画」「ゴーマニズム宣言」は、作品の主要登場人物たる小林自身が各作品の最後に「ゴーマン（傲慢）」にも意見を叫ぶという一定の形式を保ちつつ、作品の余白部分は、情報、コメント、読者への返事や批判に対する作者の回答を載せるスペースとしての機能を果たしている。³³⁴

「ゴーマニズム宣言」の最初の単行本化は1993（平成5）年で、以降、多少の例外はあるものの作品の展開はその象徴的特徴ともいえる「ゴーマン」な形式を保持しつつ、出版社を変え、書名を若干変え、今日まで継続している。例えば、最初期には扶桑社から『ゴーマニズム宣言』、双葉社からも『ゴーマニズム宣言』、幻冬舎

³³³ 筆者は、漫画内部のナショナリズムは運動としてのナショナリズムにあらざる点を強調したい。Fred Halliday 'Nationalism' John Baylis and Steve Smith "The Globalization of World Politics" Oxford University Press, 2001. p.p.521-538（参考）。

³³⁴ 第一章 51 頁、図 6 参照。

から『新ゴーマニズム宣言』、小学館からも『新ゴーマニズム宣言』と続く。他の出版社としては解放出版社、アスコム、ワックなどがあり、「SPECIAL」、「PREMIUM」、「NEO」、「EXTRA」、「本家」等が書名に付されている。本稿で特に重視する「ゴーマニズム宣言 SPECIAL」の下各書籍は小学館から出版され、「新ゴーマニズム宣言 SPECIAL」の下各書籍は幻冬舎から出版されている。「ゴーマニズム宣言」は「ゴー宣」と略され、作者である小林自身も作品中で「ゴー宣」と略称している。しかし、小学館の『ゴー宣・暫』のように書名が「ゴー宣」のものが存在する。そこで、繁雑性を避ける目的で、本稿に於いては、書名に「ゴーマニズム宣言」が付される書籍は全て『ゴーマニズム宣言』と呼称し、その下に主書名（メインタイトル）が続く場合は原則的に主書名のみの略称を用いている。

作者である小林よしのり自身は当初『ゴーマニズム宣言』を「エッセイ漫画」と呼称しており、作品は時事問題を扱いつつも娯楽性が高く、『ゴーマニズム宣言』は一種の社会風刺漫画であった。しかし、娯楽性を保持しつつも「思想性」を強め、社会性、政治性を前面に出し、「思想漫画」として世に問うた作品が、1998（平成10）年出版の『戦争論』である。以降、小林は2001（平成13）年に続編の『戦争論2』を、2003（平成15）年に『戦争論3』を出版した。更に、『戦争論』に対する「天皇抜きのナショナリズム」という批判に応える形で、2009（平成21）年に『天皇論』、2010（平成22）年に『昭和天皇論』、2011（平成23）年に『新天皇論』を出版。更に同年、これら『天皇論』三部作と「地続きのもの」として『国防論』を出版している。³³⁵

小林はこの間の2006（平成18）年、『ゴーマニズム宣言』全9巻に続いた『新ゴーマニズム宣言』全15巻を完結させ、更に『ゴーマニズム宣言 SPECIAL』、『ゴーマニズム宣言 EXTRA』などの一連の『ゴーマニズム宣言』の他、雑誌、書籍を出版している。

³³⁵ 小林よしのり「軍隊は『国体』を守る」『国防論』小学館、2011年、246頁。

3. 本研究の特徴

『戦争論』の通算発行部数は現在 59 刷、75 万 8 千部、2、3 巻を合わせると 149 万 1 千部で、『靖國論』は 13 刷、27 万 7 千部を数える。³³⁶ この数字は、漫画作品としては特筆すべき数ではない。例えば、鳥山明の『DRAGON BALL』は通算発行部数 1 億 5000 万部を超え、藤子・F・不二雄の『ドラえもん』は 1 億、その他年代順に 1 億越えを挙げれば、雁屋哲作・花咲アキラ画の『美味しんぼ』、青山剛正『名探偵コナン』、井上雄彦『SLAM DUNK - スラムダンク』、さいとう・たかお『ゴルゴ 13』、秋本治『こちら葛飾区亀有公園前派出所』、尾田栄一郎『ONE PIECE』がある。しかし、『戦争論』をはじめ「論シリーズ」が基本的に単体であるのに対し、『DRAGON BALL』184 巻、『ドラえもん』45 巻、『こちら葛飾区亀有公園前派出所』200 巻完結、『ゴルゴ 13』に至っては別冊が複数出版され、リイド社版に限定しても 184 巻で未だに完結していない。しかし、単純に通算発行部数と巻数の商を比較すれば、『戦争論』も例に挙げた「コミック」と呼称される漫画作品群に引けを取るものではない。

しかし、漫画作品の発行部数が直ちに社会的影響力に反映するだろうか。漫画家清水昆[1912 - 1974]は、戦後「新夕刊」、「朝日新聞」に政治漫画を連載していた。サンフランシスコ講和条約が調印された 1951（昭和 26）年、清水は朝日新聞紙上に当時の首相、吉田繁[1878 - 1967]の風刺漫画描き続け人気を博したようだ。しかし、その笑いは現代に通用するだろうか。吉田繁を知らない世代、時代背景を知らない世代には恐らく通用しないであろう。福井健太は漫画作品（コミック）の売れる「最重要ポイント」として「普遍性と現代性のあるプロット」を挙げているが、浮世絵・錦絵に表現された風刺が、現代社会では理解が困難であることと同様に、政治漫画作品に於ける「笑い」の対応年数は短い。³³⁷

³³⁶ 発行部数は 2017 年 7 月、幻冬舎より文書回答。

³³⁷ 福井健太「メガヒットを創る物語の力」京都精華大学情報館「KINO」Vol.01、78-81 頁、河出書房新社、2006 年 4 月 30 日。福井は、作品の持つ普遍性がロングセラーに繋がった例として『ゴルゴ 13』、『こちら葛飾区亀有公園前派出所』、『美味しんぼ』他を挙げ、同時にトー

小林よしのりの『戦争論』や『靖国論』を「政治漫画」と仮定した場合、出版以降増刷を重ねている点を如何に理解すべきであろうか。また、2015（平成 27）年に至るも「元祖ヘイト・スピーチ」と非難される原因は何にあるのであろうか。³³⁸

もし、『戦争論』や『靖国論』を右傾化の指標とするならば、『戦争論』初版発行の 1998（平成 10）年来日本社会は相当右傾化している筈である。また、反米、反原発を唱える小林漫画作品の傾向を「右傾化」と呼称する場合、「右翼」の再定義が必要になるであろう。³³⁹

本研究の特色は、まず、小林の漫画作品を右翼的と考える前提を取り払い、小林よしのりの初期の代表作から小林の社会観を読み取り、次に後期の、いわゆる右翼的と批判される作品と比較する事により、小林の漫画作品に託されたる政治的メッセージから小林の思想の読解を試みる点にある。³⁴⁰ 同時に、小林の実際の社会的行動との整合・非整合性を検証することにより小林よしのりの「思想」に迫る。

第二の特色は、先行研究が、『戦争論』、『靖国論』などを個別に扱っているのに対し、本研究では、『戦争論』三部作と『天皇論』三部作、『靖国論』、『国防論』等を一連の作品と考えており、小林よしのりの『ゴーマニズム宣言』全体の思想として論じている点にある。

本研究の独自性は、小林作品全体を通し作者の社会的事象に対する視点、表現形式を明らかにする事により、作品の反語的意図までも検討の視野に入れ、作者の思想を論じている点である。つまり、漫画と思想の二方向からの研究が独自性である。

『靖国論』は、その序章に於いていわゆる靖国問題の概要を叙述している。小林は、靖国神社参拝の意義とその批判論を簡明に述べているが、それとは別に、「靖

ナメント方式のオーソドックスさの成功例として『DRAGON BALL』を挙げている。

³³⁸ 高根英博「元祖ヘイト・スピーチ、小林よしのり『戦争論』」季報「唯物論研究」刊行会『季報唯物論研究』130号、37-44頁、2015年2月。高根は、小林をネット右翼やヘイト・スピーチなどの「原因の元祖」とであると批判している。

³³⁹ インターネット上の差別的論述を「右翼」と見做すべきか否か検討する必要がある。匿名の記述は私語であると同時に本音とも見做し得る。

³⁴⁰ 小林の初期作品のみを知る場合には、左翼的と考える前提を取り払われたい。

国問題」の現代的要点は、日本政府の靖国神社に対する態度に関わることなく、中国人や韓国人にとり、靖国神社自体が既に反日の象徴として、批判、攻撃の対象になっている点が指摘し得る。

この靖国神社を題材にした漫画作品を発表する事自体に政治的意味が認められるが、『靖國論』に入る前に、小林よしのりの為人をその作品と社会活動から推察するに、小林は情に厚く、正義感が強く、弱者に優しい、きわめて社会的であり、いわゆる一般的右翼やタカ派言論人のイメージとは程遠い。『靖國論』は、小林の死者への情の上に成立しており、情を理解する共同体としての伝統を主張している書である。小林作品を理解する上で情は最も重要な概念であり、「ゴーマニズム宣言」に於ける、或いは現実社会に於ける小林の行動の原理の一つになっている。³⁴¹ 梅原猛の表現を借用すれば「感情の論理」、宮台真司の言語なら「情の論理」である。³⁴²

小林のもう一つの原理は、個人性と公共性の交点に自己のアイデンティティを見出し、「個」と「公」の相克を認めた上で、「公」の選択を礼賛している点にある。その極致が「英霊」に対する顕彰である。筆者が強調したい点は、小林が「個」と「公」の相克を認めており、戦前、戦中の人々が、狂信的であったとは考えていない点である。その上で小林は、「公」を選択した、せざるを得なかった事も含め、「ついに『個人』としての決断を下して、国のために死んだのだ」と、最終的に自己選択したとして「英霊」に敬意を示しているのである。³⁴³ それは礼賛や敬意というより、畏敬の念と表現すべきではなかろうか。

ここで問題となるのが、「個と公」という概念である。小林は、「英霊」が私情を捨て、最終的に自己選択したと論じており、その相克は「私と公」の相克である。選択したと言う以上、選択の主体は「個」であろう。しかし、作品中、「個」と「私」の区別は明確にされていない。

³⁴¹ 本章第6節以下にて具体的に論じる。

³⁴² 第三章参照。

³⁴³ 小林前掲「無知による靖国問題」小林前掲『靖國論』、12頁。

小林の発言に注目すると、小林自身は、靖国神社に公的に参拝していると述べている。つまり、私的には、親戚が祀られている訳でもなく、公的な意識の下に参拝しているとの理由である。しかし、漫画家たる小林が靖国神社を個人的に（目立たぬように）参拝しようとも公的意味は見出し難く、作品に描くなり、何らかの発表をした後にはじめて公的参拝と言えるのではなかろうか。「英霊」の前で自己が目立つ事を差し控えようとする小林の真摯な参拝は、「公的」にも「私的」にもあらず、「個人的」と言えるのではなかろうか。即ち、論理的には、参拝自体は「個」たる小林が「公」的価値を選択していると解釈し得る。しかし、ここに於ける「個人的」の意味は、「個人的資格で」という意味である。従って、小林は個人的資格で、公的理由により靖国神社を参拝しているのであるが、当該行為が私的であるか公的であるかの判断は、当該行為終了後の社会評価を待たねばなるまい。

英霊側にも生存中には個々人に「公」と「私」があり、参拝者側個々人にも「公」と「私」がある。従って、両者の公的な「約束の場」、靖国神社は公的なシアターと了解でき、建前と建前から生まれた行為が靖国信仰と言い得る。この建前を尊重する明示的思想、明示的態度が「公的」という事である。

小林は、現代社会に個人主義が横行し、「公」がないがしろにされている点を様々な角度から論じている。小林の批判するところの「個人主義」は私的価値観を優先する個人主義であり、主体的に選択するところの個人主義ではない。

「英霊」とその配偶者ないし一二親等の遺家族間に於いては、同時代的価値観の共有が期待できると共に、各個の公的参拝理由と私的参拝理由の境界は無限に曖昧となる。しかし、時代が下れば下る程、「英霊」の遺族数は減少し、「英霊」に対し私的感情を持つ人口は減少する。そこで、靖国神社参拝促進の理由として必要な概念が「公」意識である。その理由に立脚し、読者の感情に訴えかける小林の漫画作品は、共感や思いやりのような他者に対する感情の希薄化する社会に対する挑戦と言えよう。

『靖國論』は結論的に、「個人主義」への挑戦、「伝統的」共同体意識への回帰を志向する小林が、靖国神社を通して表現した価値論と言い得る。小林は、「個人主義」を批判しつつ、理論的には可能な、「個」による「公」の選択を称賛しているのである。個人的に靖国神社を参拝する小林は、確立された個の行動の一モデルとは言い得るが、個人の資格を以てする参拝を公的参拝とは見做し難い。如何に「公的」な理由を挙げたとしても、個人的資格を以て行われる参拝は私的参拝と区別し難い。留意すべき点は、小林が自身を漫画に描き、作品として発表した時点で、小林の「私的」行為も「公的」になるという点である。³⁴⁴

4. 現代社会に於ける漫画

今日、漫画、マンガ、コミック、或いは MANGA などとも表記されるコマもの漫画は、一枚もの或いは一コマ漫画から派生した創生期と戦後混乱期の低俗な赤本漫画時代を除き、長期にわたり子供向けの娯楽とみなされる傾向があった。小山昌宏によると、昭和 40 年代 (1965 - 1974)、水木しげるは従来の漫画を「おもちゃマンガ」或いは「おやつマンガ」と呼び、子供のみならず大人も楽しめる「マンガ」を創作した。³⁴⁵ 水木は自己の作品を「劇画」と呼称し、それまでの手塚治虫等の漫画との差別化をはかった。この水木の挑戦は日本に於いて漫画が長期にわたり、文化としては過小評価されてきた事を示唆している。

しかし、今日漫画は、その延長線上のアニメとともに日本文化と経済を促進し、いわゆる J ポップに於いて主要な地位を占めている。この傾向は、社会に対する、ひいては政治に対する漫画の影響力の伸展を示唆するものと理解して良いであろう。

漫画の今日の政治的可能性に加え、既に風刺画を含めた数種類の漫画が、大人を対象に政治的意見を表明する意図を以て出版されていることは指摘しておく。例え

³⁴⁴ 発表を以て、思想的としてのナショナリズムは運動としてのナショナリズムの性格を持つ。

³⁴⁵ 小山昌宏『戦後「日本マンガ」論争史』現代書館、2007 年、28-50 頁。

ば、浮世絵や錦絵などの木版画や、江戸時代の瓦版に描かれた図画は、当時の庶民の政治的思考を理解する為の媒体として注目される。その理由は、当時の木版画や瓦版は、読者の娯楽に供する目的が多分に含まれたため、「不正確さ」もあったものの、「庶民の見方、彼らが何を見聞し、経験し、変化をどのように理解したか、またさらには彼らの願望さえも表している」からである。³⁴⁶

一方、現代の多くの漫画は、引き続き読者の嗜好を反映しつつも、かつての木版画や瓦版と比較し、より現実性や正確さが反映されるようになった。今日の漫画が未だにサブカルチャーの一種と認識されると仮定しても、現代漫画は本来の風刺性、娯楽性を超え、プロパガンダや啓蒙運動の有効なメディアのひとつとして機能している。

本稿に於いて論じる現代漫画家小林よしのりはギャグ漫画を専門とするが、漫画作品中に社会現象に対する自身の意見を、反語的表現を含めて直接的に発表している。例えば、2012（平成24）年3月11日に発生した東日本大震災の東京電力福島第一原子力発電所事故の5ヶ月後にあたる同年8月には『脱原発論』、同年9月の尖閣諸島国有化の7ヶ月後の2013（平成25）年4月には尖閣諸島を扱った『開戦前夜』を出版、8月に至っては『AKB48 論』を描き下ろし、人気アイドルグループの芸能活動に見出される社会性、震災後の同グループによる社会貢献活動を描いている。

本章では、小林の現代の社会現象に対する視点を理解する為に、筆者が特に重要視する『東大一直線』、『おぼっちゃまくん』と一連の『ゴーマニズム宣言』に注目する。『東大一直線』は小林の最初のヒット作で、いわゆる受験戦争をパロディ化したものである。『おぼっちゃまくん』はそれに続いたヒット作で、子供向けのギャグ漫画であるが、両者とも社会風刺の要素が多分に含まれている。

『ゴーマニズム宣言』は「エッセイ漫画」から始まり、徐々に「思想漫画」化し、

³⁴⁶ M.ウィリアム・スティール監修『幕末から明治の風刺画』国際基督教大学湯浅八郎記念館、2012年、2頁。

2017（平成 29）年現在、単行本は 60 本を超過している。³⁴⁷ それらの内、ナショナリズムの観点から、とりわけ『戦争論』三部作、『靖国論』、並びに『天皇論』をテキストに小林の思想を論じ、随時『国防論』、『新戦争論 1』など後発の関係作品に論及することとする。

本章で注目する作品は、小林が言語のみでは十分に伝達し難い「情」や複合的世界観を描き、小林自身の思考過程を描いている「思想漫画」である。「情」や複合的世界観は、日本の（日本的）ナショナリズムを論ずる上で重要な要素である。

『戦争論』以降の小林の漫画作品は、日本人の宗教観、歴史観、国家観の上に生成する国内外の政治を扱っている。「ポピュラー・カルチャー」と呼称される大衆文化が有効なソフト・パワーとして注目される今日に於いて、『ゴーマニズム宣言』のような現代漫画作品は、美術やエンターテインメントの分野のみならず、思想史、政治など各方面からの学術的研究にも値するであろう。

5. 靖国神社と「靖国問題」

本論に入るに先立ち、靖国神社といわゆる靖国問題の概要を述べておきたい。

1869（明治 2）年の靖国神社創建時には、朝廷に対する軍事的貢献が認められた死者に限り合祀されたが、靖国神社は今日その歴史を次のように説明する。即ち、「近代国家建設のために尽力した多くの同士の尊い命が失われ」たため、「明治天皇は明治 2 年 6 月、国家のために一命を捧げられたこれらの人々の名を後世に伝え、その御霊を慰めるために、東京九段のこの地に『招魂社』を創建したのです」³⁴⁸。従って、靖国神社の創建目的は、「国家のために」死亡した人々の「名を後世に伝える」と「慰霊」の二点であるというのが同神社の公式見解である。

創建目的の中の一句、「国家のために一命を捧げられた」が合祀基準であり、後年になるに従いそれは拡大解釈される。何故なら、「国難」の「かたち」が明治維

³⁴⁷ 『ゴーマニズム宣言』全 9 巻、『新ゴーマニズム宣言』全 15 巻を単行本と見做す

³⁴⁸ 靖国神社「靖国神社について」『靖国神社』<http://www.yasukuni.or.jp/history/detail.html>（アクセス日：2014 年 8 月 18 日）。

新の時代とは異なるようになったからである。その結果、1978（昭和 53）年には、いわゆる戦争犯罪者までが靖国神社に合祀される事になった。

四分一大樹は合祀基準の拡大解釈を別の視点から論じている。³⁴⁹ 四分一によると「明治初期に於いて靖国神社は近代化と平等主義の象徴であったが、軍国主義の時代には国家の為に戦死した戦士の魂の休み場所と看做されるようになった」。³⁵⁰

いずれにせよ靖国神社は、アジア・太平洋戦争後、反復的に政治論争の争点を提供してきた。同神社の歴史、及び性格が如何なるものであれ、靖国神社は今日も猶いわゆる靖国問題と呼称されるものを抱えている。

いわゆる靖国問題とは何であるか。国立国会図書館調査立法調査局は 1976（昭和 51）年、調査資料「靖国神社問題資料集」をまとめ、「ひとくちに言えば、今日の靖国問題とは、日本国政府がこの神社とどのようにかかわりをもつかという問題である」と至極簡潔に報告している。³⁵¹ また、同局は以下の如く、日本国憲法に於ける政教分離原則と戦争遺族感情の相反関係が「靖国問題」の根源にあると説明している。

すなわち、憲法の建前からいって、国はどうしても宗教法人・靖国神社に公金を支出することができず、靖国神社に特殊な地位を与える事ができない。一方靖国神社や多くの遺族の素朴な感情からいえば、この神社はふつうの神社ではなく、国のため命を捧げた戦没者を神として合祀奉斎するよう明治天皇によってつくられた神社であるがゆえに、その合祀のための経費、またその奉斎は当然国が面倒をみるべきではないかということになる。

³⁵²

³⁴⁹ 四分一大樹（しぶいち だいき）：明德學院政治學及社會科學助理教授。

³⁵⁰ 筆者訳。Shibuichi, Daiki. "The Yasukuni Shrine Dispute and The Politics of Identity in Japan: Why All the Fuss?" *Asian Survey Vol. XLV, No. 2, March/April 2005* (University of California), 2005: pp.197-215

³⁵¹ 国立国会図書館調査立法調査局前掲資料集、15 頁。尚、本資料は国会審議の参考用に印刷されたもので、一般に公刊されていない。また、靖国神社自体の歴史、思想から、政治、法律問題までを扱った政府刊行物としては、春山明哲「靖国神社とはなにか：資料研究の視座からの序論」国立国会図書館、2006 年がある。

³⁵² 前掲資料集、15-6 頁。

「日本国政府がこの神社とどのようにかかわりをもつか」という意味に於ける「靖国問題」は、間もなく終息した。³⁵³ その最も重要な理由の一つは、「政教分離」問題を回避する為に、靖国神社自身がその宗教性、神聖性を否定せざるを得なくなるような改革の危険を冒す事を望まなかったためである。しかし、1979（昭和54）年、いわゆる「A級戦犯」の合祀が報道され、「靖国問題」は中国を当事者として参加させる政治問題と化した。

秦郁彦によると、「BC級戦犯」の合祀は1959（昭和34）年に始まり1967（昭和42）年にはほぼ終了している。³⁵⁴ しかし、国内的にも国際的にも「戦犯」の合祀は問題視される事は無かったため、靖国神社第6代宮司の松平永芳[1915 - 2005]は、昭和天皇の合祀反対の意を知りつつも「A級戦犯」合祀を強行したのである。

355

1978（昭和53）年10月17日、「A級戦犯」の御霊は秘密裏に合祀された。³⁵⁶ 秦によると、松平宮司は合祀の翌日「A級戦犯」の家族に対し合祀の事実を告知した。しかし、合祀の事実は、10月17日までは同神社の馬場弘広報課長（当時）にさえも知らされず極秘裏に遂行された上「その後も職員には箝口令がしかれていた」のである。³⁵⁷

当該事実は1979（昭和54）年4月19日、共同通信をはじめとした報道により明らかにされ、国民を驚駭させる結果となった。秦は合祀に関する松平の一連の行動を「極端な秘密主義」と書き、大江志乃夫は極秘裏に遂行されたという事実を批難し「ひそかに合祀したこと自体が、当の靖国神社にとってもうしろめたい行為であ

³⁵³ 前掲資料集、15頁。

³⁵⁴ 秦郁彦『靖国神社の祭神たち』新潮社、2010年、169頁。

³⁵⁵ 秦は前掲書に、共同通信記者松尾文夫氏の談話として、後年の松平が、「（昭和天皇に）さからってやった」と語ったと書いている。松平の宮司就任以前に合祀は決定されていたが、その後、昭和天皇の意思を尊重した元皇族の先代宮司筑波藤麿[1905－1978]は合祀を延期していた。従って、合祀は松平の独裁ではないが、「強行」の批判は免れないであろう。

³⁵⁶ 秦郁彦は合祀年月日を明記し、大原康男は「秋季例大祭の前日」と書いている。

³⁵⁷ 前掲書182頁。

ったことをしめしている」と書いている。³⁵⁸

昭和天皇が「A 級戦犯」の合祀に反対であった事は、「富田メモ」をはじめ『ト部亮吾侍従日記』、また先行諸研究が既に明らかにしている。³⁵⁹ 従って、「靖国問題」はこの段階でも、戦前回帰志向の松平対戦後民主主義志向の昭和天皇という、極めて国内的（且つ重大な）問題であった。しかし、この極めて国内的な問題が中国の国内的な問題と結び付き、日中間の国際問題と化し、韓国がこれに加わる。

1985（昭和 60）年 8 月 15 日、内閣総理大臣中曽根康弘[1918 -]（当時）は靖国神社を公式参拝した。同日の参拝は中曽根 11 回目の公式参拝であったが、メディアに扇動された中国民衆がこれに反応した。³⁶⁰ 中国民衆間に反日感情を拡散せしめたのは日本の左翼系新聞と中国の政府系メディアである。

当時、作家山崎豊子はインタビューを目的に北京に滞在していた。山崎は中曽根の靖国神社公式参拝後の中国民衆の様子を次のように書いている。「夏頃から始まっていた学生の反日運動は、九月十八日、天安門広場に『日本軍国主義打倒』『中曽根打倒』『靖国神社参拝反対』のスローガンを掲げた反日デモを皮切りに、西安、武漢にまで広がっていった」。³⁶¹ そして山崎は、「民主派」として学生に人気が高かった中国共産党中央委員会総書記胡耀邦[Hu Yaobang、1915 - 1989]（当時）が、北京大学の壁新聞で「中曽根首相の老朋友、親日派」と批判されているのを発見し、驚愕するとともに、「靖国問題に端を発した反日感情」が「一般市民にまで及んでいることを痛感した」。³⁶²

その後山崎は 12 月 7 日、胡耀邦との会見に成功する。山崎は二時間半に及ぶ胡

³⁵⁸ 大江志乃夫『靖国神社』岩波書店、1984 年、18 頁。

³⁵⁹ 1974 年から 78 年まで宮内庁次長、78 年から 88 年まで長官を務めた富田朝彦氏のメモと「昭和天皇最後の側近」侍従ト部亮吾氏の 1969 年から 2002 年までの日記。

³⁶⁰ 中曽根の靖国神社公式参拝に最初に反応したのは朝日新聞であった。詳細は拙稿 Homma Mitsunori, *Political Pathology and Japanese War Guilt: Debate over the Shōwa Tennō*. Master Thesis, Minamiuonuma: International University of Japan, 2010.

³⁶¹ 山崎豊子『『靖国批判』の中の北京』文藝春秋『文藝春秋に見る昭和史 3』文藝春秋、1988 年、585-592 頁。

³⁶² 前掲記事、586 頁。

耀邦との会談の様子と、胡耀邦の、公式、非公式声明を伝えた。

山崎は、胡耀邦のユーモア感覚、強力なリーダーシップ、細やかな気遣いに強い印象を書きつつも、胡耀邦は「話題が靖国問題に入ると、公式の場ではないが、と前置き」しつつも「予想以上の厳しさであった」と記している。³⁶³ 山崎によると、胡耀邦は、「中国人民の感情を傷つけぬよう配慮して貰いたい」と訴えたが、非公式に合祀「戦犯」について「詳細に言及」した上、「BC 級戦犯」の名誉回復を提案したという。³⁶⁴

山崎の北京大学に於ける目撃談は、中国に於いて「靖国問題」が胡耀邦政権批判の大衆運動であったことを窺わせる。そこで中曽根は高度な政治判断をし、靖国神社公式参拝を中止した。『中曽根内閣史』には、「特に中曽根と肝胆を照らした胡耀邦総書記の、中国国内での政治的立場が悪化するという情報が首相を動かした」と記されている。³⁶⁵ また同書は、自由民主党が選挙に圧勝し、公式参拝を求める新自由クラブへの配慮の必要性が低くなった点も指摘している。³⁶⁶ 即ち、「靖国問題」は、日本でも中国でも、基本的に国内政治の問題であったのである。

中曽根の靖国神社公式参拝中止により、「靖国問題」は再び沈静化した。中曽根康弘以降の首相としては、橋本龍太郎と麻生太郎が何らかの形式により靖国神社を参拝しているものの、殆ど世間に注視されることもなく、政治問題には至らなかった。³⁶⁷

しかし、小泉純一郎の場合、その動向は 2001（平成 13）年 4 月の首相就任以来内外の注目を集めていた。小泉の靖国神社公式参拝「公約」は、本来自由民主党内の総裁選挙の為のものであったが、世間では政治「公約」と看做されていたのであ

³⁶³ 前掲記事、591 頁。

³⁶⁴ 前掲記事、592 頁。

³⁶⁵ 世界平和研究所『中曽根内閣史 2 日々の挑戦』丸の内出版、1996 年、724 頁。

³⁶⁶ 前掲書、725 頁。

³⁶⁷ 麻生太郎（あそう たろう 1940－）：自由民主党衆議院議員、第 92 代内閣総理大臣。村山富一第 81 代内閣総理大臣（日本社会党）は、ジョギングついで参拝がかえって注目を浴びた。

る。だが、小泉は首相就任以降巧みに8月15日を避け、同年は8月13日に参拝をしている。

結局、8月15日の参拝は2006（平成18）年まで実現されなかった。³⁶⁸ 郵政民営化を最大の政治課題に据えていた小泉は、2005（平成17）年8月、衆議院を解散、総選挙に抛り民意を問うた。結果、9月11日、自由民主党が圧勝、同月中に小泉は郵政民営化の法案を提出した。以来小泉は停滞していた「郵政改革」を推進することとなる。その結果、2006（平成18）年4月、郵政民営化委員会が発足、7月11日には最高経営責任者の候補者、31日には最高執行責任者の候補者を決定している。

郵政民営化が軌道に乗ったことにより、靖国神社公式参拝が小泉に残された唯一の政治課題となった。また、翌月引退する小泉が、最後に靖国公式参拝の「公約」を果たすか否かは国民の注目を集めるところとなったのである。

2006（平成18）年8月15日、衆目注視の中、小泉は靖国神社公式参拝を行った。同日午前6時頃から靖国神社で小泉を待っていた主席総理秘書官（当時）の飯島勲は、「時間が近づくにつれ多くの人が神社に集まってきた」と書いている。³⁶⁹ 同日午前7時40分から55分まで、小泉は靖国神社を参拝、飯島は「あれから五年、やっと最後の公約を達成することができた」と感慨を記している。³⁷⁰

中曽根以来のいわゆる鳴り物入りの公式参拝であったが、小泉がその約一ヶ月後の政界引退を表明していたため、参拝は政治的問題に発展しなかった。最後の「公約」を果たした小泉は同年9月26日を以て引退した。

2009（平成21）年9月、民主党が政権を奪取、鳩山由紀夫が第98代内閣総理大臣に就任し、「友愛」を掲げ理想主義的総花的政策を喧伝した。親中国的民主党政

³⁶⁸ 小泉の主席秘書であった飯島勲は、2001年も8月15日の公式参拝が予定されていたが、福田康夫官房長官（当時）らの画策により13日に変更になった無念を『小泉官邸秘録』に綴っているが、同書に小泉の言葉として「敢えて十五日を避けて参拝してきました」の記述がある。

³⁶⁹ 飯島勲『小泉官邸秘録』日本経済新聞社、2006年、314頁。

³⁷⁰ 筆者下線、前掲書、315頁。

権下では、東日本大震災、津波起因する福島原子力発電所の事故など未曾有の国難に加え、尖閣諸島に於ける中国船による海上保安庁巡視船への体当たりなどの重大事件が断続的に発生した一方、「靖国問題」は終息するかに見えた。³⁷¹

しかし「靖国問題」は終息しなかった。2011（平成 23）年 12 月 26 日、中国と韓国を巻き込むこととなる事件が靖国神社社頭にて発生した。韓国系中国人の劉強が靖国神社神門に放火したのである。劉は韓国に逃亡、在ソウル日本大使館に火炎瓶を投擲し、一時身柄を拘束されるも日本へ引き渡される事無く、中国へ帰国した。日本と韓国の間には「犯罪人引渡条約」があり、韓国司法の判断が注目されたが、韓国司法は日韓間の国際条約を無視し、中国流「抗日無罪」に理解を示す結果となった。³⁷²

当該放火事件とその後の犯人の取り扱いは、中国、韓国に於いて靖国神社自体が依然として問題視されていることを日本国民に印象付けた。2006（平成 18）年 8 月の小泉純一郎の公式参拝以来、首相の靖国神社参拝は行われておらず、「戦犯」の合祀、分祀にかかわらず、中国・韓国が靖国神社を政治利用することが明白になったのである。靖国放火犯に対する中国・韓国の対応は、中国の経済急成長を背景にした傲慢さ、韓国の事大主義を彷彿させる前近代性を日本国民一般に印象付け、ひいては安倍晋三をして「首相在任中に参拝できなかったことは、痛恨の極みだ」とまで語らせるに至った。³⁷³

³⁷¹ 2009 年 12 月 10 日、小沢一郎他民主党国会議員 143 名は胡錦濤国家主席（当時）と握手、写真撮影。2010 年 9 月 7 日、日本領海内で中国船籍の漁船が違法操業の上、海上保安庁の巡視船二隻に体当たり、破損させた。中国人船長は逮捕、送検されたが、民主党菅直人政権の政治判断により処分保留で釈放となった。同事件の真相も同年 11 月 4 日、一海上保安官がインターネット上に動画を漏えいするまで国民に公表されなかった。

³⁷² 略称「日・韓犯罪人引渡条約」、正式には「犯罪人引き渡しに関する日本と大韓民国間の条約」、2002（平成 14）年 6 月 21 日効力発生。

³⁷³ 佐藤丈一「自民総裁選：安倍氏、就任時の靖国参拝に含み」、毎日新聞、2012 年 9 月 15 日、記事、毎日 jp、
<http://web.archive.org/web/20121023131944/http://mainichi.jp/select/news/20120915k0000m010121000c.html>（アクセス日：2012 年 9 月 15 日）。尚、安倍晋三は第二次安倍内閣発足の約 1 年後にあたる 2013 年 12 月 26 日に内閣総理大臣として靖国神社を参拝している。

6. 小林よしのりの漫画作品と思想性

6 - 1. 小林よしのり初期作品

小林よしのり『戦争論』、『靖國論』、『天皇論』など論シリーズ（後期ゴーマニズム宣言）を議論する前に、小林の基本的社会観、世界観を、初期の漫画作品を通して考察したい。本項に於いては、初期作品中特に重要と思われる代表作『東大一直線』と『おぼっちゃまくん』により小林漫画作品の基調を探ることとする。

『東大一直線』は、いわゆる一流大学への進学を目指す「受験戦争」を風刺したギャグ漫画である。当該作品以来、小林のギャグ漫画作品は駄洒落とどぎついほど強烈に描かれたキャラクターに満ちている。しかし、当初から社会風刺が作品の基盤となっており、後年に至る程、作品中に断続的に挿入される短いエピソードに「情」や「道徳性」が認められる。³⁷⁴

『東大一直線』の主人公の東大 ^{とうだいとおる} 通は、不細工な母親を持っていた。ある日、授業参観があり、母親は通の意に反し学校へ来て、母子共にクラスの笑い者になる（図 32）。通は「なんで／きたんだっ」と、母親を怒鳴り声で責める。³⁷⁵ しかし、母親が来た理由は参観ではなく、通が忘れた弁当を届けに来たことが判明する。クラス中の笑いの中母親が教室を去ろうとした時、通は母親の愛情を理解し擁護する。

小林は通に次のように叫ばせる。即ち、「これでも／わいの／かあちゃん／じゃぞっ」、「顔さえ／整形すりゃ／弁当二食分／作ってくれる／やさしい／かあちゃんじゃい」（図 32、左頁、右、上）。³⁷⁶ 従って「わいの／かあちゃん」である事実、即ち母子関係が第一の母親擁護理由であり、通を昼食時間まで空腹せぬよう「早弁の分と／昼の分の／二食」を作ってくれた優しさが第二の理由である。³⁷⁷

³⁷⁴ 作品の思想性については、小林自身が以下の記事でインタビューに答えている。大高未貴「余はいかにして世界初の思想漫画、『ゴーマニズム宣言』を始めしか？」小林よしのり『ゴーマニズム宣言 SPECIAL よしりん戦記』小学館、2003 年、150-155 頁（参考）。

³⁷⁵ 小林よしのり「東大一直線」『小林よしのりのゴーマンガ大事典』イースト・プレス、1993 年、334-345 頁。

³⁷⁶ 前掲作品、345 頁。

³⁷⁷ 同上。

この二点を以て母親擁護の理由とするのは、ギャグ漫画としては新鮮味が無く、結末も、感動した母親に抱きつかれた通が嘔吐するという陳腐な落ちである。

『東大一直線』は、その続編に於いて、受験戦争の敗者である現役勝^{げんえきまさる}の亡霊とともに勝者たる通が立ち誇る安田講堂が崩壊する「シュールなストーリー漫画」として完結するが、当該作品に認められる母子関係を当然の擁護理由とし、母子間の「情」を以て読者の「情」に訴えかけるような挿話は以降の小林漫画作品に於いても重要な構成要素として引き継がれる。³⁷⁸



図 32. 授業参観

小林よしのり「東大一直線」『小林よしのりのゴーマンガ大事典』イースト・プレス、1993年、344 - 345 頁

小林よしのりを人気漫画家の地位に押し上げた作品は「おぼっちゃまくん」である。当該作品は1986（昭和61）年から1994（平成6）年まで小学館の月刊漫画雑誌『コロコロコミック』に発表された。同作品の『コロコロコミック』掲載期間中

³⁷⁸ 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、401 頁。

の1989（平成元）年、小林は小学館漫画賞を受賞、また『おぼっちゃまくん』はテレビアニメ化を果たしている。

『おぼっちゃまくん』は人気漫画ではあったが、作品中の言葉づかいと作風により、児童の親たちには忌避される傾向があった。例えば、同作品に於いて、おぼっちゃまこと主人公の御坊茶魔は、同級生であり友人の柿野修平の手を自己の股間に運び「友だちんこ！」と挨拶する（図33）。この友達になるときの挨拶は、御坊家の人々により相手の性別や年齢に関係無くなされ、裸で行われる場合もある。



盆踊りの場面では、茶魔の父親である御坊電光は、茶魔のクラスメートの御嬢沙麻代の手を取り股間に当て（セクハラ？）、執事の爺屋忠左衛門は柿野修平の手を股間に運んでいる（パワハラ？）（図34）。小林は丁寧にも、「きみの／おててを／ちんこに／あてりゃ／につぽん／こくじゅう／たのちんこっ」と唄を附しており、男性器に手を当てるという行為が、文字で明示されている（図34. 左、上）。³⁷⁹

³⁷⁹ 小林よしのり「お召し列車で里帰りでしゅ」『おぼっちゃまくん 1』幻冬舎、2002年、80-100頁。



図 34. 集団「友だちんこ」

小林よしのり『おぼっちゃまくん 1』幻冬舎、2002 年、98 - 99 頁

「友だちんこ」は更に激化し、宇宙人との挨拶に於いては男性器同士を接触させる (図 35)。³⁸⁰ 『おぼっちゃまくん』のテレビアニメ版は、日本 PTA 全国協議会により「子供に見せたくない番組」とされ、小林自身「下品とか、子どもに悪影響とか、PTA に批判された」と書いている。³⁸¹

慥かに「友だちんこ」は間違っても上品とは言い難い。しかし、描かれている登場人物の表情、描き文字、吹き出しの発話、いずれにも卑猥な表現は認められないのではなかろうか。寧ろ筆者には健全に映る。性器や排泄物は子供社会に於いて言葉遊びとして公然と話題にされるのである。小林は子供社会を子供目線で表現していると言えよう。たとえ大人が禁じる行為や言葉であっても、子供社会に於いては

³⁸⁰ 男性器の接触場面は、実際の絵では微妙な隙間を以て表現されている。

³⁸¹ 小林よしのり「Introduction 修身論」『ゴー宣 PREMIUM 修身論』マガジンハウス、2010 年、5-29 頁。「『おぼっちゃまくん』の DVD ボックスが発売になったぶあ〜〜〜い！うれちんこ♪」おくだま経済新聞、2013 年 4 月 17 日、otakei.okutama.net/archives/2013041703.html (アクセス日：2018 年 1 月 18 日) (参考)。

図 35.

宇宙人との「ともだちんこ」

あ、あのあいさつ、宇宙的なのかしら?

やっぱるか~~~~!!

ともだちんこ~~~~!!

まさか!?

まさか、そのあいさつって...

まさか...まさか

小林よしのり『おぼっちゃまく
ん 1』幻冬舎、2002 年、327
頁

「一代で御坊家にならぶ財をきずきあげた袋小路家の子息」で転入生である

袋小路金満ふくろこうどかねみつは、昼食時間、学校給食に換えてクラスの生徒達にステーキやアップルパイなど豪華な食事を「あいさつがわり」に振舞う。³⁸² 生徒達は喜ぶが、茶魔は豪華な食事は食べ飽きている。茶魔がクラスメートの一人に給食に出される筈だったメニューを聞くと、クラスメートは「どーせ、また／イモの／にっころがしさ」と返答する。³⁸³ しかし、茶魔は「そーゆう／そぼくな味」が好きだと目に涙をたたえ、「給食の／おばちゃんの料理が／好きでしゅよ／～っ！」と泣き叫ぶ。³⁸⁴ 「おばちゃん（牛島しげ子）」は涙を流しながら全身を震わせつつ芋の煮っ転がしを差し出し、それを見ていたクラスの生徒達が感動するのだが、この短い挿話中の次のセリフを見逃してはならない。小林は当該シーンで柿野修平に「そーだ…／おばちゃんは／ぼくらのために、／毎日、／心をこめて／作って／くれてたんだ／！」と言わせている（図 36、左、中）。³⁸⁵ つまり、図 36 の 5 コマ目から 10 コマ目までのシーンは、給食自体の問題ではなく、「おばちゃん」の「心」が大切であることを読者に認識させているのである。

³⁸² 小林よしのり「袋小路君がやってきたとぶあい」『おぼっちゃまくん 1』幻冬舎、2002 年、217-238 頁。

³⁸³ 前掲作品、226 頁。

³⁸⁴ 筆者下線、前掲作品、226 頁。

³⁸⁵ 筆者下線、前掲作品、227 頁。



図 36. 人情味溢れる『おぼっちゃまくん』の挿話

小林よしのり『おぼっちゃまくん 1』幻冬舎、2002 年、226 - 227 頁

上述の例に挙げた小林よしのりのギャグ漫画は、人情味溢れる挿話と子供受けする駄洒落により構成されていることがわかるであろう。涙を流しながら震える「おぼちゃん」ひとりのコマ（図 36、左頁、上、右）のみに注目すると、真面目で教育的な劇画のようでもある。

例に挙げた『東大一直線』と『おぼっちゃまくん』に共通点は見出せないであろうか。福井健太は漫画作品の売れる「最重要ポイント」として「普遍性と現代性のあるプロット」を挙げたが、『東大一直線』と『おぼっちゃまくん』にそれらは認められないであろうか。³⁸⁶

小林よしのりの初期漫画作品を精査すると、強烈な個性の登場人物と言葉遊びの

³⁸⁶ 福井前掲論文。

反復の陰に見逃されがちな小林の人情作的作風に気付くであろう。作品中の人情は読者の情に訴えかけ、小林のギャグは情を裏切るほど破天荒なものではない。本項に挙げた作品例以外にも、小林作品には人情が主題であると理解し得る挿話が多数あることに気付くであろう。³⁸⁷

作品が人情に訴えない場合は、現実世界の腐敗や悪行に対する反定立的皮肉と看做して良いであろう。また、登場人物のデザイン、性格は、小林の現実社会に対する風刺を示唆しており、「プロット」は伝統的価値観を支持している。小林初期作品に描かれた「情」、「人情」といったものの価値観が、普遍的「人間性」や「人権」とは異なるが、「情」や「人情」が疑似的普遍性として読者を魅了するのである。

小林よしのりの初期漫画作品の基調は「情」であり、絵と言葉づかいの極端な表現と場面展開が、「情」の物語をギャグ漫画として成立せしめているのである。

6 - 2. ゴーマニズム宣言

『ゴーマニズム宣言』と題された一連の「ゴーマニズム」作品は、1993（平成3）年にはじめて単行本化された。³⁸⁸ 「ゴーマニズム宣言」は、「おぼっちゃまくん」の『コロコロコミック』連載中に開始されており、後年小林は「内容的にも、『ゴ一宣』はもともと『おぼっちゃまくん』の派生物のような作品だった」と述懐している。³⁸⁹ 「ゴーマニズム宣言」発表の経緯は、小林が漫画作品化しており、「1992年『SPA!』誌で『ゴーマニズム宣言』というタイトルでわし自身が主人公のエッセイ漫画がスタートした」のが始まりであると説明されている。³⁹⁰

³⁸⁷ 本稿で取り上げた作品を含み、小林の初期出版作品は、小林自身によるコメント付で以下の書籍に所収されている。小林よしのり『小林よしのりのゴーマンガ大事典』イースト・プレス、1993年、小林よしのり『小林よしのりの異常天才大事典』イースト・プレス、1993年。

³⁸⁸ 『ゴーマニズム宣言 1』扶桑社所収作品の初版発表雑誌は以下の通り。「ゴーマニズム宣言」『週刊SPA!』扶桑社 1992.1.22 - 1993.4.7.、「おこっちゃまくんヤング編」『月刊宝島』JICC出版局（現、宝島社）1989.2. - 1991.7.24.、「おこっちゃまくんこども編」『月刊コロコロコミック』小学館 1991.10. -

³⁸⁹ 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、28頁。

³⁹⁰ 筆者下線、小林よしのり「ゴーマニズム戦記―新読者のために」『新ゴーマニズム宣言 7』小学館、1999年、5-35頁。

エッセイ漫画『ゴーマニズム宣言』に於いて小林は、新興宗教、歌謡曲、性、差別、金権政治、薬害エイズ訴訟など、社会的諸問題を取り上げているが、小林自身、社会問題を扱うに至った経緯を、「エッセイみたいな感じで書いていただけ」だったものが「だんだん話が大きくなって」、「結局、社会問題を書いているというふうになってしまったという感じ」であると告白している。³⁹¹

後年になると、「ゴーマニズム宣言」は「ゴー宣」と略され、正式な書名としても「ゴー宣」が使用される場合がある。

小林は『戦争論』に於いて、「あくまでも若者に向けて／言葉が届くように描いている／『ゴー宣』と、小林の目的と想定する読者層を示しているが、『ゴーマニズム宣言 2』に於いて既に、「ゴーマニズム！これがわしの思想だっ！！」と、「思想」という語を使用し、「ゴーマニズム」が自身の思想表明であることを主張している。³⁹² エッセイ漫画として開始された「ゴーマニズム宣言」は、2010（平成22）年には「思想漫画」とであると余白に説明されるに至っている。³⁹³

そもそも「ゴーマニズム」とは小林による造語であり、小林は、カール・マルクス[1818 - 1883]とフリードリヒ・エンゲルス[1820 - 1895]の共著『共産党宣言』からヒントを得て、『ゴーマニズム宣言』とした旨を告白している。³⁹⁴ 一種の洒落であることが前提だが、「ゴーマニズム」の語意は「ゴーマン語辞典」に以下のよう

に説明されている。³⁹⁵

³⁹¹ 小林よしのり・竹田青嗣・橋爪大三郎『ゴーマニズム思想講座戦争・正義・国家論』径書房、1997年、26-27頁。

³⁹² 小林よしのり「東京裁判洗脳されっ子の個人主義」『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論』幻冬舎、2001年、39-55頁、小林よしのり「絶対個の彼方へ」『ゴーマニズム宣言 2』扶桑社、1994年、7-14頁。

³⁹³ 小林よしのり「保守は再生できるか？」『本家ゴーマニズム宣言』ワック、2010年、9-17頁。

³⁹⁴ 大高前掲記事（参考）。

³⁹⁵ 時浦時之介「ゴーマン語辞典」小林よしのり『小林よしのりのゴーマンガ大事典』イースト・プレス、1993年、491-509頁。

傲慢主義。他人の顔色や権威のある意見に翻弄される生き方を否定し、自らの生活・人生による感性から来る意見を最重視する。人間の感性から来る以上、矛盾や誤認、勇み足などもあって当然で、それを恐れずに自らの意見を、傲慢だろうが不遜だろうが堂々と主張し、個を確立せよ、とする思想。図ケンキョシズム、マジメニズム

小林自身、「ゴーマニズム」なる造語の由来を説明し、「わしに知識や、あらかじめ立脚している思想など無く、価値を語る根拠がわし自身の直感だけ、常識だけなんだからまさに“ごーまん”以外の何物でもない」と語っている。³⁹⁶ しかし、年代を下る程反米思想が明確に表現されるようになる。題名が示唆するよう、「ゴーマニズム宣言」は基本的に小林の独断的自己主張の形式を採用している。

一連の「ゴーマニズム宣言」の独特な点は、作者の思想を投影したキャラクターを漫画作品に登場されるにとどまらず、小林よしのり自身が主人公として登場している点にある。作者本人が主人公として登場する点は、水木しげるの後年の自伝的漫画作品、『のんのんばあとオレ』や『コミック昭和史』と共通する。ジェームス・マーク・シールズは一連の「ゴーマニズム宣言」を評し、「このシリーズは漫画と劇画（graphic novel）の境界線を曖昧にする」と書いている。³⁹⁷

小林は、「ゴーマニズム宣言」が単行本化された1991（平成3）年、「エッセイという段階を超えて」、「マンガで思想書を作るくらいの気概で」、「かつて、マンガが、挑戦したことの無いジャンルを切り拓けるかも」と書いているが、当時の「ゴーマニズム宣言」は、小林がその時々社会現象について感じたままを一話ごとに完結させる短い「エッセイ漫画」である。³⁹⁸ 従って、『ゴーマニズム宣言』所収の全

³⁹⁶ 小林よしのり『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL「個と公」論』幻冬舎、2000年、21頁。インタビューはよしりん企画社員の時浦兼氏で、1993年の「ゴーマン語辞典」の著者時浦時之介氏と同一人物である。

³⁹⁷ 筆者訳、Shields, James Mark. "'Land of kami, land of the dead' Paligenesis and the aesthetics of religious revisionism in Kobayashi Yoshinori's 'Neo-Gomanist Manifesto: On Yasukuni'." In *Manga and the Representation of Japanese History*, by Roman Rosenbaum, pp.189-216. Oxford: Routledge, 2013年、189頁。

³⁹⁸ 小林よしのり「時代の病巣を発見するため思考の旅へ」『ゴーマニズム宣言 1』扶桑社、1994年、4頁。

ての作品が自己主張の形式を採用している訳ではない。

例えば、『ゴーマニズム宣言 1』の場合、序章を合わせ 49 章の漫画作品、3 本の随筆、2 部の別題名の漫画作品で構成されている。「ゴーマニズム宣言」の初期段階に於いては、後に標準化する「ごーまんかましてよかですか？」という福岡方言による前置きの決め台詞、いわゆる仁義が確立していない。『ゴーマニズム宣言 1』所収全 49 章の内、11 章が「ごーまん（ゴーマン）かましてよかですか（？）」を使用しているが、他に第 4 章「ゴーマンかましちやっていいかなァ？」や第 5 章「ごーまんかましてよござんすか？」など、異なる台詞が確認され、平仮名、片仮名の混在、クエスチョンマークの有無などの差異が確認される。³⁹⁹ いずれにせよ、49 章中 19 章で、自己主張、独断の前に何らかの前置きの決め台詞を使用しており、49 章中 28 章が如何なる前置きもない。⁴⁰⁰

決め台詞「ごーまん（ゴーマン）かまして云々」の有無と作品内容の関係を明確に示す事は困難であるが、『ゴーマニズム宣言 1』所収の作品は、後続の『ゴーマニズム宣言』の諸作品と比較し自己主張性、独断性に弱い印象を受ける。例えば、『ゴーマニズム宣言 1』第 3 章「亡霊歌手・藤あや子こそが、歌謡会の救世主だ！！」の場合、作品冒頭第一コマで「いきなり／ごーまん／かまして／よかです／か？」と訊ねる。しかし、小林が取り上げた同作品の題材は当時流行した歌謡曲である。同作品に於いて小林は軽薄な歌謡曲とその作曲家を批判し、同時に藤あや子を筆頭に演歌歌手を称賛しているに過ぎない。

もう一つ別の例として、第 20 章「青春の差別」を挙げたい。小林によると当該作品は実話である。同作品には小林の高校生時代の体験談が極めて真面目に描かれており、作品中に一切駄洒落が挿入されていない。

逸話は小林のクラスメート且つ柔道部員の S に関するもので、小林は彼により不良少年たちによる嫌がらせを免れることが出来た。そこで、一度礼を言いたいと思

³⁹⁹ 第 8 章では例外的に「今回は謙遜かましてよかですか？」を反語的に使用している。「傲慢」の表記は 48 章中平仮名 15、片仮名 6、クエスチョンマーク 19、である。

⁴⁰⁰ 第 21 章の「ゴーマンかまして言うが…」を含み 28 章である。

いつつも機を逃していた（図 37、右）。

ある日、S の親友が交通事故に遭遇し入院、S は真っ先に駆けつけ、輸血に協力した。しかし、輸血の事実を知った友人は「エッタの血が／入ってしもたや／ないか／～っ」と激怒したというのである（図 37、左）。⁴⁰¹ 小林は「その事件以来／S の行方は知れない…／すべて／事実である！」と続け、結論は、「差別との闘いは自分の心を見つめ直す闘いかもしれない！！」と内省的に終わっている。⁴⁰² 当該作品は 2016（平成 28）年発表の新書『ゴーマニズム戦歴』にも再録され、現代社会の差別助長への危惧が述べられているが、同作品は『ゴーマニズム宣言』のエッセイとしての要素と思想性を多分に示す好例である。⁴⁰³

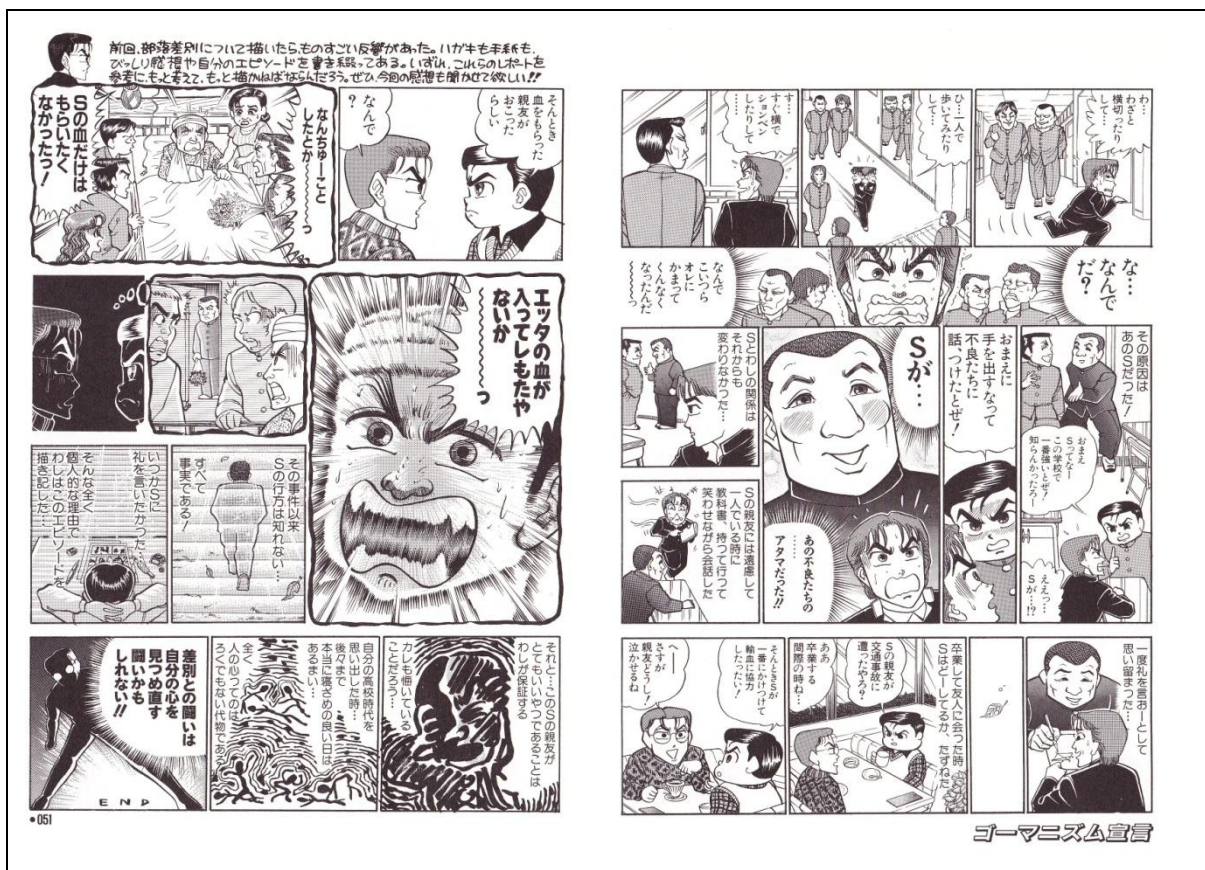


図 37. 「青春の差別」

小林よしのり『ゴーマニズム宣言 1』扶桑社、1993 年、50 - 51 頁

401 小林よしのり「青春の差別」『ゴーマニズム宣言 1』扶桑社、1994 年、46-51 頁。「エッタ」とは「ゑた」、「穢多」、中世の身分制度に基づく差別語。

402 前掲作品、51 頁。

403 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、94-97 頁（参考）。

三番目に 1990 年代初頭の時事問題を扱った風刺漫画「えーかげんにせんかいブッシュとフセイン」を例に挙げたい。⁴⁰⁴ 同作品は、1990（平成 2）年のイラクによるクウェート侵攻が引き金となり始まった湾岸戦争を題材にしたものである。

筋書きは、詰襟の、いわゆる学らん姿の小林が、米大統領ジョージ・H・W・ブッシュ（当時）とイラク大統領サダム・フセイン（当時）の「ケンカ」の仲裁をするのだが、「喧嘩両成敗」である。結末は、小林がブッシュとフセインを蹴散らし、カラオケボックスに向かうというものである（図 38）。当該作品は、小林の社会事象に対する独善的スタンス、「ゴーマニズム」の原型を示しているが、この時点（当該作品）では反米思想が窺えない点を指摘しておきたい。

以上『ゴーマニズム宣言 1』所収の 3 作品は、小林自身の嗜好、感性、社会事象に対する時宜を得た率直な感想を述べた「エッセイ漫画」の好例である。⁴⁰⁵

⁴⁰⁴ 小林よしのり「えーかげんにせんかいブッシュとフセイン」『ゴーマニズム宣言 1』扶桑社、1994 年、148-149 頁。

⁴⁰⁵ 「えーかげんにせんかいブッシュとフセイン」は「おこっちゃまくんヤング編」の一作品である。



図 38. 湾岸戦争の風刺

小林よしのり『ゴーマニズム宣言 1』扶桑社、1993 年、148 - 149 頁

1993（平成 5）年の『ゴーマニズム宣言 1』出版以降、小林は書名に「ゴーマニズム」を冠した多数の漫画本を多数の異なる出版社から出版している。⁴⁰⁶ 『ゴーマニズム宣言』各巻より作品例を列举することは甚だ冗長となる故、本稿では作品を限定して論ずるが、呉智英は、『ゴーマニズム宣言』を高く評価し、その成功の社会的意味を、「マンガという枠を超えて、言論の有効性について言論人に深刻な問いなおしを迫っているということ」と書いている。⁴⁰⁷

小林よしのり漫画作品の持つ、報道の対照としての有効性を示す例として、テロ

406 例えば『ゴーマニズム宣言』1～9 巻扶桑社、同双葉社、『新ゴーマニズム宣言』1～15 巻小学館、『新ゴーマニズム宣言脱正義論』幻冬舎、『ゴーマニズム宣言差別論スペシャル』解放出版、『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL』シリーズ小学館、『ゴーマニズム宣言 EXTRA』小学館、『ゴーマニズム宣言 PREMIUM』マガジンハウス、『本家ゴーマニズム宣言』ワックなど。

407 呉智英「言論の無効な時代にゴーマニズム」呉智英(編)『小林よしのり論序説ゴーマニズムとは何か』出帆新社、1995 年、8-11 頁。

集団オウム真理教に対する小林の闘いは特筆して良かろう。⁴⁰⁸

オウム真理教が、その教祖麻原彰晃（本名、松本智津夫）の逮捕につながる事件、即ち 1995（平成 7）年 3 月 20 日の東京都心へのサリンテロを実行する以前に、同教団は坂本弁護士一家を拉致、殺害し、また長野県松本市にサリンを散布していた。

坂本氏は弁護士活動として、他の拉致殺害事件でオウム真理教を追及していたのである。テレビや週刊誌がオウム真理教に注目し、教祖麻原や教団幹部のマスコミ露出頻度が増加する中、小林は 1994（平成 6）年、「坂本弁護士一家失踪」を題材に「拉致 - 最低最悪の抗議手段」を発表している。⁴⁰⁹

同作品内で、小林はオウム真理教の信者が坂本弁護士一家を拉致したと推論し、「（坂本弁護士の）布団の血を見て犯人は布団まで持っていくことにした！」（図 39）とキャプションを附している。⁴¹⁰ 犯人が布団を運ぶ際に胸に佩用していたオウム真理教のバッジを落としたものと推論（図 39、左頁、中上、左端、同中下、左端）、最終コマに於いては、坂本弁護士一家の写真と漫画の複合イメージを使用し、オウム真理教に自首を呼び掛けている（図 40）。

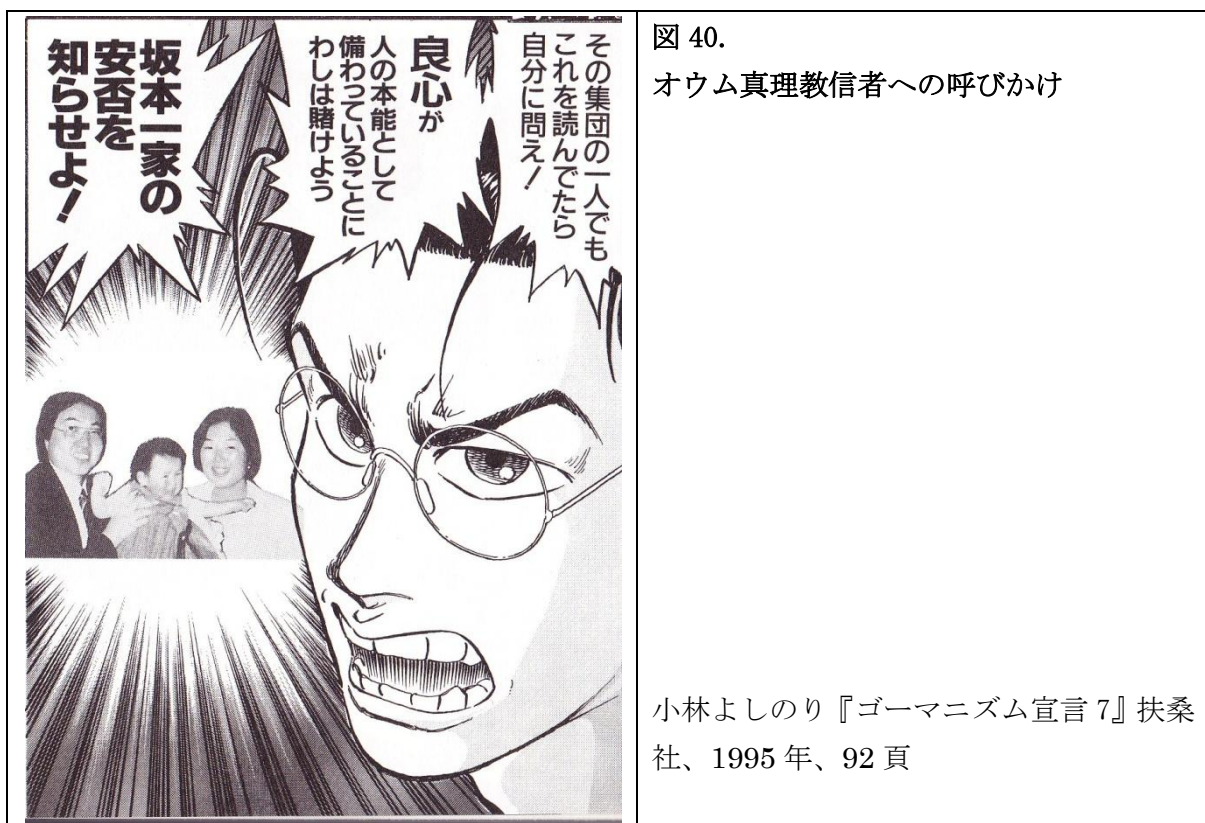
従って、当該作品発表時、小林は坂本弁護士一家拉致へのオウム真理教の関与を確信しているのであるが、同時に、犯人個人の良心に訴えかけている点に留意したい。小林は最終コマに「その集団の一人でも／これを読んでいたら／自分に問い！／良心が／人の本能として／備わっていることに／わしは賭けよう」と書き、「良心」に約 4 倍の大文字を使用しているのである（図 40）。⁴¹¹

⁴⁰⁸ 米国国務省は 1997 年 10 月 2 日、オウム真理教をテロ組織と指定。U. S. Department of State “Foreign Terrorist Organizations” <https://www.state.gov/j/ct/rls/other/des/123085.htm>（アクセス日：2016 年 5 月 7 日）。

⁴⁰⁹ 小林よしのり「拉致－最低最悪の抗議手段」は『ゴーマニズム宣言 7』扶桑社、1995 年、85-92 頁に再収されている。

⁴¹⁰ 前掲作品、89 頁。

⁴¹¹ 筆者下線、前掲作品、92 頁。



一連のオウム真理教事件は、1995（平成 7）年教祖麻原彰晃と教団幹部の逮捕、教団の解散により一応の解決を見た。小林はこの間、漫画作品やマスコミ発言を通し、活発に同教団を批判した結果教団に生命を狙われた。また、同教団による拉致、暴行、殺害、テロ行為により、坂本弁護士一家をはじめ、多くの人命が失われ、今日に至るもなお後遺症に悩まされる被害者が存在することを付記しておく。

小林によるオウム真理教関連の漫画作品は、小林の強い正義感とともに、弱い立場にありつつも真面目な人々に対する同情、思いやりを示すものである。「拉致 - 最低最悪の抗議手段」の最終コマの訴えは、同作品が社会正義に合致するのみならず、社会正義を日本社会に推進するものと評価できよう。

『ゴーマニズム宣言』からの最後の例として、血液製剤による血友病患者の HIV 感染事故、いわゆる薬害エイズ関連の作品を挙げたい。小林は漫画作品を通じて問題意識を社会喚起するのみならず、患者の支援、救済活動に参加し、HIV 訴訟を支援する会（「支える会」）の代表を引き受けている。後年、小林は原告弁護団の清水勉弁護士に利用された旨を記しているが、漫画作品化を引き受けた動機を「エイズに罹患した子供の姿を見たわしは、強いショックを受けてしまったからだ」と書いており、子供に対する小林の愛情、弱い立場にある者に対する「情」が動機であった事を告白している。⁴¹²

小林は被害者に対する支持を表明すると共に、厚生省と血液製剤を輸入した利己主義のミドリ十字社の権威主義的構造を指摘している。厚生省とミドリ十字社を筆頭とした製薬会社の権威主義的構造の背後には、権威主義と重商主義を基盤にした医・科・薬学者の階層的支配構造が存在するのである。権威に対する挑戦は「ゴーマニズム」に貫通する小林作品の神髄である。小林は、漫画作品を通し薬害エイズ被害者と「支える会」を支援するとともに、厚生省、製薬会社の責任を追及している。

⁴¹² 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、143 頁。

しかし、小林は「運動の功罪 - 日常へ復帰せよ」を以て HIV 訴訟を支える会の青年たちに軌道逸脱を警告しつつ、1996（平成 8）年 4 月を以て「支える会」代表を辞任している。⁴¹³ 小林をして同会の代表を辞任せしめたのは、「支える会」の活動が、「支える」という概念を超えた政治的なものに傾斜したからである。「支える会」の政治的傾斜の結果、同会の活動の場が左翼系政治団体に利用されることとなった。それに伴い、小林は同会の支援者や被害者から、活動が左翼の宣伝活動になっているとの苦情報告を受けている。

小林の「支える会」代表辞任を以て小林を「転向者」とする非難があった。⁴¹⁴ しかし、このような非難は正鵠を得ていない。小林の支援動機は「情」であり、その思想背景に、反権威主義があったに過ぎない。会の方向性に疑念を持ちつつも、「情」が小林を支えてきたのであり、代表辞任はその臨界点であったのである。小林は HIV 訴訟に関係する諸社会活動を中止するが、厚生省と関連製薬会社の批判は継続している。従って、小林は当該事件に関し、反権威主義の立場で一貫していると言い得る。

一方で、小林の「転向」は、川田龍平氏のような薬害エイズ訴訟の若き指導者が政治活動に傾斜し、その政治活動に追従できぬ真の弱者の存在を示唆している。⁴¹⁵ つまり、薬害エイズ患者である立場を「利用」し、被害者数の政治力学への転換を意企する者と、それに違和感を表明するものが現れたのである。川田氏は前者の代表的存在であり、小林は少数派の後者を支持したのである。

小林の違和感表明は漫画作品を通しても行われ、「支える会に入ってくる学生」、

⁴¹³ 小林よしのり「運動の功罪—日常へ復帰せよ」『新ゴーマニズム宣言 1』小学館、1998 年、160-166 頁。（初出：「SAPIO」1998 年 4 月 24 日号）。HIV 訴訟を支える会によると、小林は代表辞任を同雑誌上で一方的に宣言し、同会からの連絡には応じていない。HIV 訴訟を支える会役員会「小林さんは自分から代表を降りられました」

<http://www.bekkoame.ne.jp/~yamadan/mondai/ans/sg04.html>（アクセス日：2012 年 5 月 1 日）。

⁴¹⁴ この種の非難、誹謗は小林に対する個人攻撃が多い。

⁴¹⁵ 川田龍平（かわだ りゅうへい 1976—）：薬害エイズ被害者、薬害エイズ訴訟原告の指導者、2007 年参議院議員選挙初当選。

「ヤングども」、「純粹まっすぐ君」に対し日常への復帰を呼び掛けたのである。⁴¹⁶

これに対し、「支える会」は小林非難を展開した。⁴¹⁷

小林の「支える会」代表辞任に関する一連の出来事は、「新ゴーマニズム宣言」第14章として1996（平成8）年「SAPIO」誌4月24日号に発表され、各方面に衝撃を与えたことから、「14章事件」とも呼称された（図41）。同作品に描かれた小林自身の表情は、小林の失望と驚愕、屈辱を示唆し、また同時に、川田氏の表情描写の変化から、小林の川田氏に対する心理変化 - 同情、期待、驚愕、失望 - を読み取ることができるであろう（図41～44）。しかし、それは小林の川田氏個人に対する心情を超え、少年一般に対する愛情と弱者への同情、青年一般に対する期待、権威主義を志向する成人に対する失望を示唆するものと理解し得る。

小林は「14章」の余白部分に「これで『支える会・代表』を辞任します。今後は一漫画家としてエイズへの偏見と闘います」と批判継続を表明している。⁴¹⁸ また、「支える会」の代表辞任後も、問題解決の為なら「またいつでも書くからと弁護士に伝え」協力を表明している。⁴¹⁹ 従って「ゴーマニズム」が権威主義に対する小林の表現手段であり、思想的ー貫性が認められる点は明白であろう。

⁴¹⁶ 小林前掲「運動の功罪ー日常へ復帰せよ」、165頁。

⁴¹⁷ 「支える会」の役員報告が、小林前掲『ゴーマニズム思想講座戦争・正義・国家論』に紹介されており、小林の思想と同会の方向性の乖離をうかがわせる。

⁴¹⁸ 小林前掲「運動の功罪ー日常へ復帰せよ」、166頁。

⁴¹⁹ 小林よしのり・竹田青嗣・橋爪大三郎前掲『ゴーマニズム思想講座戦争・正義・国家論』、37頁。



図 41. 第 14 章冒頭

いわゆる 14 章事件。

小林よしのり『新ゴーマニズム宣言 1』小学館、1996 年、160 頁

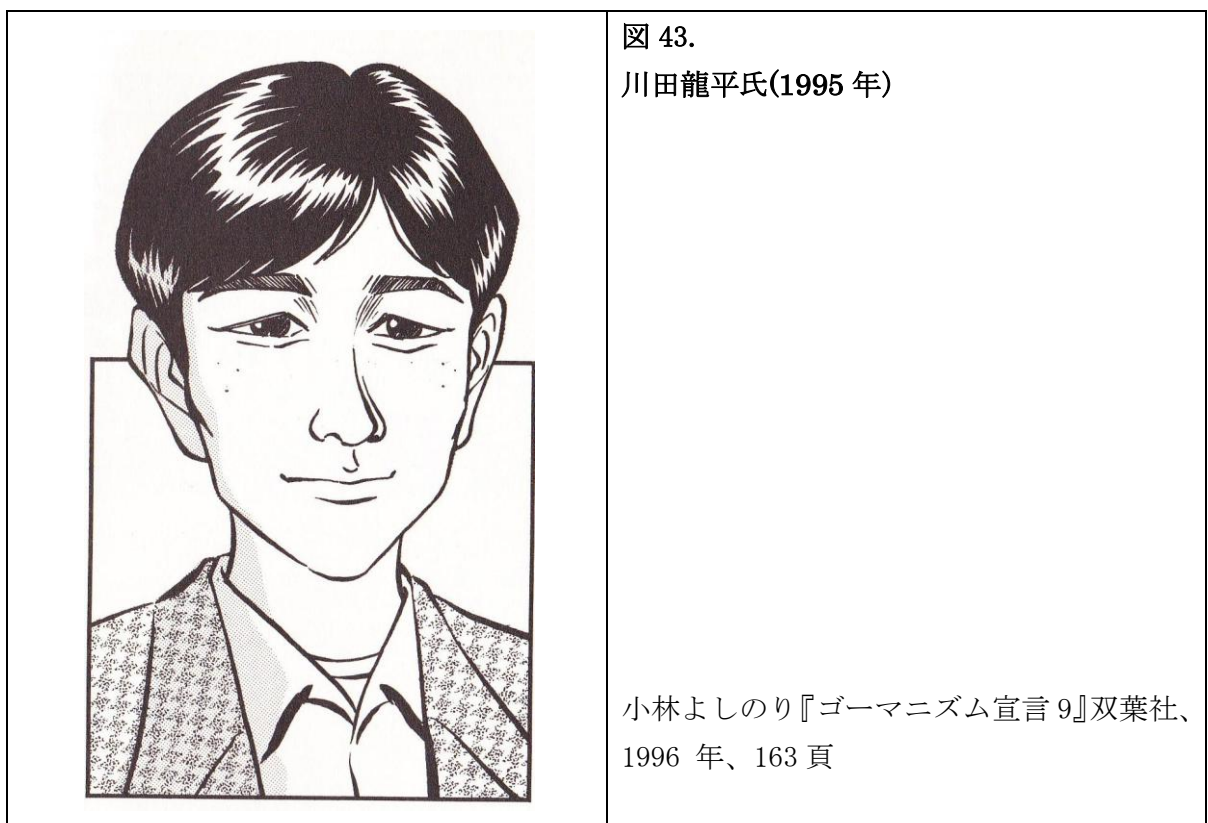




図 44. 小林の川田龍平氏訣別時の印象(1996 年)

小林よしのり『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 脱正義論』幻冬舎、1996 年、78 - 79 頁

7. オウムから『戦争論』へ - 政治思想性の深化

小林よしのりのアジア・太平洋戦争観は如何なるものであろうか、またそれは今日まで一貫したものなのであろうか。

『ゴーマニズム宣言』に於いて当該戦争を題材にした小林最初の漫画作品は第 81 章「大それたことに戦争責任」で、1994（平成 6）年に発表されている。⁴²⁰ 同作品に於いて小林は、アジア・太平洋戦争をアジアの独立を促す一面があったと評価する産経新聞の記事を紹介し、当該記事は、強盗を追い出した後に土足で上がり込み、「感謝されてもいいくらいじゃないか！」と放言する如くに「デリカシーがあるようには聞こえない」と批判している。⁴²¹ また、「お国のために死んでいっ

⁴²⁰ 小林前掲「大それたことに戦争責任」小林前掲『ゴーマニズム宣言 4』（参考）。

⁴²¹ 前掲作品、66 頁。

た兵隊たち」が「戦争の『犠牲者』であるということ」、「これは肝に銘じなければならぬ」、「権力者の末端の手先のコマでしかない兵隊は『犠牲者』そのものである！」と書いている。⁴²² 1994年当時においては、『戦争論』以降の小林作品とは対照的な、今日の小林の表現を借用すれば、「サヨク」的な主張が展開されていた点を指摘しておきたい。しかし、この時点で読者から侵略戦争観を否定する内容の手紙を複数通受け取った旨を告白しており、異論も紹介する小林の誠実さを窺わせている。⁴²³

前節に於いて指摘したよう、小林よしのりの「転向」はたびたび指摘されている。「転向」指摘は、相対的意味に於いては正しく、小林自身その非難を否定せず、寧ろ相対的理解しかできぬ者に呆れている。そこで本項に於いては、いわゆる市民運動経験から『戦争論』に至る小林の思想展開を辿りたい。

小林作品に於いてオウム真理教事件と戦争には強い関係性が認められる。『戦争論』第1章の冒頭に於いて、小林はオウム真理教事件を要約し、現代社会の秩序崩壊の事例として提示している。小林は「平和」の対義語は「混乱」である、「戦争」の対義語が「話し合い」であると言い、「平和とは『秩序』のことに他ならない」と結論付ける。⁴²⁴

小林は、2000（平成12）年に出版された『「個と公」論』に於いて、「オウムについて描き、薬害エイズについて描く中で、どうもこれは『個』の中身が虚ろで危うい状況に来ている、と思ったのが始まり」とであるとオウム真理教事件とHIV訴訟が『戦争論』執筆の動機であった旨を述べている。⁴²⁵ 公共意識の喪失を諸社会問題の原因であると仮定、「オウムも、キレる子供も、援助交際も、ストーカーも、

⁴²² 前掲作品、66-67頁。

⁴²³ 小林前掲『ゴーマニズム宣言 4』所収「秘書²ばなし」、72頁に、小林の言葉として書かれている。

⁴²⁴ 小林前掲「平和をサービスと思う個人」、12-13頁。

⁴²⁵ 小林よしのり『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL「個と公」論』幻冬舎、2000年、12-13頁。当該書籍は「ゴーマニズム」で初の活字のみの構成。同書で、小林は一連のオウム事件が歴史問題を題材にするきっかけとなった旨も述べている。

小学生惨殺事件も、少女監禁事件も、インターネットの薬物販売も、すべてはそこに原因があるのではないか」と書き、オウム真理教事件を現代社会問題の筆頭例に挙げている。⁴²⁶

小林は続けて『戦争論』を描いた動機を、「そこで、『個』と『公』っていう問題に突き当たった。じゃあ、ここであえて個と公、個人と国家が一番結びついていた戦争の時代を描いて」みようと考えたと述べている。⁴²⁷

従って、『戦争論』の主題は「個人」と「公」である。小林が使用する語句の概念は後節で検討するが、小林の、戦争時代は「個人と国家が一番結びついていた」という表現は一見して受入れ易いのであるが、個人と国家が直接結びつくとは考え難い。⁴²⁸ 個人の如何なる性質が国家の如何なる性質と如何に結びつくのか、また、国家が即公となる理論を検証する必要がある。

書名の『戦争論』は、小林が同書でクラウゼヴィッツ[1780 - 1831]に言及していることから、クラウゼヴィッツの『戦争論』が意識されていると推測される。しかし、クラウゼヴィッツの『戦争論』は「個」と「公」を論じていない。

1990（平成2）年に始まる湾岸戦争は出版界に「戦争論ブーム」を生ぜしめ、クラウゼヴィッツ『戦争論』の解説書をはじめ、数多の『戦争論』をもたらした。西部邁の『戦争論』はその内の一つであるが、同書最終節の見出しが「公と私」である。⁴²⁹

西部は湾岸戦争に際し、公的場に於いて私的発言が目立つ点を批判し、その原因は「『公と私』の分裂に根ざしていると私は思う」と書いており、それは後に発表させる小林よしのりの『戦争論』の執筆動機として語られる問題意識と類似関係が認められる。⁴³⁰

一部の例外が認められるが、『戦争論』以降の小林作品の書名は接尾辞の「論」

⁴²⁶ 前掲書、12-13 頁。

⁴²⁷ 同上。

⁴²⁸ 同上。

⁴²⁹ 西部邁『戦争論』日本文芸社、1991 年（参考）。

⁴³⁰ 前掲書、229 頁。

をとまなう傾向が確認される。例えば、「ゴーマニズム宣言」の下で出版された書籍に限定しても、2000（平成12）年5月『「個と公」論』、同年11月『台湾論』、2003（平成15）年7月『戦争論』、2005（平成17）年7月『沖縄論』、同年8月『靖国論』、同年12月『挑戦的平和論』、2007（平成19）年7月『平成攘夷論』、2008（平成20）年6月『パール真論』、2009（平成21）年6月『天皇論』、2010（平成22）年3月『昭和天皇論』、同年7月『修身論』、同年12月『新天皇論』、2011（平成23）年8月『国防論』、2012（平成24）年2月『反TPP論』、同年8月『脱原発論』、2013（平成25）年9月『AKB48論』、2014（平成26）年1月『大東亜論』、2015年（平成27）年1月『新戦争論1』と続いている。⁴³¹ 2016年5月の『民主主義という病』などを例外に、以降も「論シリーズ」は継続している。⁴³²

書名中の接尾辞「論」は、初期『ゴーマニズム宣言』が「エッセイ漫画」であったことに対し、「論シリーズ」が「思想漫画」として議論を喚起することを主張している。小林は『ゴーマニズム宣言』が思想漫画である旨を反復して主張しているが、2016（平成28）年出版の新書『ゴーマニズム戦歴』に於いて「自分自身がキャラとして登場し、一人称で思想を語るという新しいジャンルを開拓」したと自負し、また同書で『大東亜論』に言及する際には、「当初は従来の『ゴ宣言』と同じく思想漫画にするつもりだった」と、『ゴーマニズム宣言』が思想漫画であることを前提に自著を説明している。⁴³³ 従って、一連のオウム真理教事件と薬害エイズ訴訟問題を通し、小林は「エッセイ漫画」から「思想漫画」へ、その思想性を深化させたと言い得る。

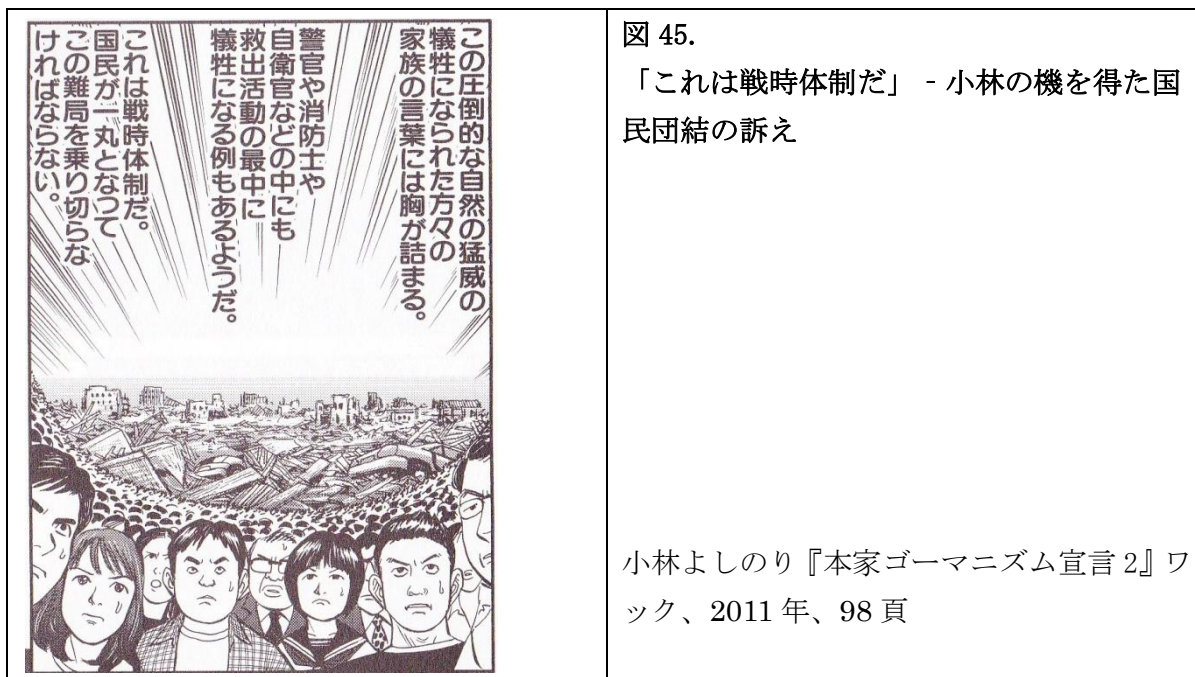
例に挙げた書名が示唆するよう、小林が漫画作品の題材に取り上げたものは、単行本化前に雑誌で時宜良く発表された日々の話題、時事問題である。例えば、2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災の30日後には、『『大地震』有事

⁴³¹ 『ゴーマニズム宣言』並びに『新ゴーマニズム宣言』。

⁴³² 2015年発表のストーリー漫画、戦後70年特別企画『卑怯者の島』は「ゴーマニズム宣言」ではない。

⁴³³ 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、4頁、400頁。

と国民」を「SAPIO」誌に発表している。小林は同漫画作品に於いて、「これは戦時体制だ」と、国民の一致団結を呼び掛けている（図 45）。⁴³⁴ 同様に『靖國論』は、小泉純一郎首相の 8 月 15 日靖国神社参拝がマスコミ、世間を賑わすや、2005（平成 17）年の 8 月に出版されている。



8. 『戦争論』の時代背景

一連の『ゴーマニズム宣言』は、『東大一直線』、『おぼっちゃまくん』に続く小林よしのりの代表作である。『ゴーマニズム宣言』の中でも、1998（平成 10）年に発表された『戦争論』は各方面に波紋を広げた。

小林は『戦争論』執筆動機がオウム真理教事件と HIV 訴訟であった旨を述べているが、国内的な秩序崩壊の兆候が小林をして直ちに『戦争論』を執筆せしめたか否かは聊か疑問である。しかし、もし然りであるならば、同書の中心を成す「痛快な戦争体験」、或いは靖国擁護論とも言い得る「クニを守るための物語」は不要ではないのか。また、小林が「敢えて描いた」「大東亜戦争肯定論」たる『戦争論』に

⁴³⁴ 小林よしのり『『大地震』有事と国民』『本家ゴーマニズム宣言 2』ワック、2011 年、91-98 頁（初出：「SAPIO」2011 年 4 月 20 日号）。

書かれた執筆動機、即ち、「祖父たちの功績を讃え」、「祖父たちの物語を守る」と齟齬をきたす可能性は無いであろうか。⁴³⁵

そこで『戦争論』の時代背景を考察したい。

小林がエッセイ漫画「えーかげんにせんかいブッシュとフセイン」に描いたよう、1990年代は国民一般が日米同盟の実態を強く意識した時代である。1990（平成2）年8月、サダム・フセイン政権下のイラク軍は、隣国クウェートに侵攻、併合した。その後イラクは、民間外国人を自国防衛の為の「人間の盾」とする作戦を発表したが、その外国人の中には日本人駐在員も含まれていた。

国連安全保障理事会の容認のもと、翌1991（平成3）年1月、ジョージ・H・W・ブッシュ政権下の米・英軍を中心とした多国籍軍はイラクを空爆、多国籍軍はクウェートを解放し同年4月に停戦した。当該戦争に於いて、海部俊樹内閣の下、日本政府は多国籍軍に対し支援国内最高額、130億ドルの経済貢献をしたが、国際的に評価されなかったこと契機に、政府与党は人的貢献の世論形成に向かった。⁴³⁶

これに符合し、絶対平和主義批判の活発化と親米保守の言論が活発化している。

1991年1月から4月にかけて西部邁が湾岸戦争を主題に日本の戦後思想を批判、5月には『戦争論』を上梓する。小林よしのり『戦争論』の参考文献一覧に、西部邁『戦争論』が挙げられているが、「不正義の平和」と表現される絶対平和論批判や反米思想、「生命第一主義の迷走」など、論理展開、語法ともに西部の著作が小林の『戦争論』の基盤にあると推察し得る。⁴³⁷

「保守派」或いは「現実主義」の言論人の多くは「パックス・アメリカナ」に期待をかけ、「人的貢献」が道義の如く喧伝される世相を背景に、1992（平成4）

⁴³⁵ 小林よしのり「若者のためにスケールのデカイ日本の戦争説明」『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論』幻冬舎、1998年、27-38頁、小林よしのり「自己犠牲の戦争体験と正義」小林前掲『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論』273-284頁。

⁴³⁶ 海部俊樹（かいふ としき 1931-）：第76、77代内閣総理大臣。停戦後の1991年4月26日、海上自衛隊の掃海部隊計6隻がペルシャ湾へ派遣された。

⁴³⁷ 西部邁「平和主義への墓碑銘」西部前掲書、103-121頁、西部邁「憐れむべし平和的大衆」前掲書、123-137頁。

年6月、政府は自衛隊の国連平和維持活動への参加を認める「国際平和協力法」、いわゆるPKO協力法を成立させた。⁴³⁸

2001（平成13）年9月11日、米国同時多発テロ発生、3000人以上とされる犠牲者には日本人24人が含まれていた。⁴³⁹ ジョージ・W・ブッシュ大統領は対テロ戦争を表明、翌10月には首謀者、オサマ・ビン・ラディンの潜伏先としてアフガニスタンを実爆、同年4月から政権に在った小泉純一郎首相は、10月8日の記者会見で米軍支持と協力を表明した。

小林よしのり『戦争論2』は2001年11月に発行されたが、そのあとがきには9月と記されており、同書第1章は米国同時多発テロで筆を起している。

2002年、小泉内閣はテロ対策を喧伝しつつ、「武力攻撃事態3法案」を提出、翌2003年、「有事関連法3法」の成立を見た。⁴⁴⁰

2003年3月、米・英軍はイラクを先制攻撃し侵攻、同年12月にはサダム・フセインを逮捕した。先制攻撃当初からその正当性には疑念が持たれていたが、小泉首相は攻撃後直ちに米軍支持を表明、イラクの大量破壊兵器保持疑惑を国民に反復喧伝している。⁴⁴¹

『戦争論』三部作は2003（平成15）年出版の第3巻で中断、2015（平成27）年『新戦争論1』へと続く。しかし、『戦争論』の増刷は継続し、今日同書（第一巻）は59刷75万8000部を売り上げている。⁴⁴² 同作の主題は「公と私」であり、『戦争論』は公主私従を説く「道徳」論と看做し得る。

小林は米国の対外政策を非難するとともに戦後日本の一般大衆を非難、大戦末期

⁴³⁸ 平成4年6月19日法令第79号国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律

⁴³⁹ フジテレビ「NONFIX」<http://www.fujitv.co.jp/nonfix/library/2004/434.html>（アクセス日：2016年4月8日）。

⁴⁴⁰ 自衛隊法改正案、武力攻撃事態対処法案、安全保障会議設置法案、2003年6月6日参議院通過、成立。翌2004年には、武力攻撃事態対処法案の下で個別法制たる米軍行動関連措置法、自衛隊法一部改正法、捕虜取扱い法、国際人道法違反処罰法が整備され、有事関連7法となる。

⁴⁴¹ 3月18日首相インタビュー、20日記者会見、同日内閣総理大臣談話、同日国会への報告。

⁴⁴² 『戦争論2』12刷42万1000部、『戦争論3』5刷30万8000部、『靖國論』12刷27万5000部。2012年11月15日、幻冬舎第一編集部電話回答。

の「特攻」精神を称賛しているが、米国の対外政策非難は即座に日本国内の「親米保守」にも向けられており、『新戦争論』に於いては「親米がもはや『恐米』となって」「アメリカ人の妄想にだまされたのがイラク戦争だった」と総括している。⁴⁴³

9. 『戦争論』と『靖國論』

『戦争論』に於いて小林は歴史解釈をめぐる議論を深化させたが、2005（平成17）年出版の『靖國論』に於いては宗教的概念にまで議論が及んでいる。換言すれば、漫画作品に於ける小林の議論が歴史解釈から哲学に相対的に変化していると言い得る。『靖國論』の哲学的議論は、『戦争論』三部作と『天皇論』三部作を連結させるものである。実際、「靖国」は近代の日本の戦争と天皇を結ぶ重要な概念である。⁴⁴⁴ 従って、戦争と天皇に対する小林の視点を理解する為には、『靖國論』は示唆に富んだ漫画作品であり、研究価値が認められるであろう。

以下本章は『戦争論』、『靖國論』、『天皇論』を分析する。既に述べたよう、「ゴーマニズム」は諸社会事情に対する小林の見解を示し、「ゴーマニズム」の下に発表された『靖國論』はいわゆる靖国問題を扱った「思想漫画」作品である。

『靖國論』は小泉純一郎首相の「靖国神社 8 月 15 日公式参拝」が期待（或いは危惧）されていた 2005（平成 17）年 8 月に出版された。結果的には、同年の 8 月 15 日参拝は実現されず、10 月 15 日に実現された。小林は、『靖國論』に於いて、中曽根康弘を「中曽根は／胡耀邦のために／日本人の魂を／売ったのだ」と非難し、小泉純一郎に対しては「小泉は中曽根の／屈辱的な参拝方式を踏襲／定着させてしまった！」と非難している。⁴⁴⁵ つまり、小林は参拝方式を批判しているのである。

小林は『靖國論』以外の作品に於いて靖国神社を扱っており、実際、『靖國論』での描き下ろしは少なく、同書所収の描き下ろし漫画作品は 2 作品のみである。し

⁴⁴³ 小林よしのり「妄想戦争について行く恐米ポチ」『新戦争論 1』幻冬舎、2015 年、61-74 頁。

⁴⁴⁴ 靖国神社は概念を可視化した、同時に可視化する場所と言える。

⁴⁴⁵ 小林よしのり「戦後日本人が忘れた靖国問題の真実」『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 靖國論』幻冬舎、27-48 頁、及び『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論 2』幻冬舎、225-252 頁。同一作品だが前書は後書より 2 頁多い。

かしながら、『靖國論』は、いわば小林のアジア・太平洋戦争に関する「論シリーズ」の理論的完結編である。⁴⁴⁶ 小林は『戦争論』で「人は／物語のために／死ぬる」「かつては／国のために死んだ兵は／神となって／靖国神社に祀られる」、「靖國に行けば／彼らに会えるのだ」「そこに／彼らはいるのだ」と書いている。⁴⁴⁷ しかし、『戦争論』では「神」或いは「霊」の概念は十分に説明されておらず、『靖國論』に譲っているのである。

従って、『靖國論』は『戦争論』と分離して論ずることは議論不十分となる恐れがある。実際の靖国神社と戦争の関係から考慮しても、『靖國論』と『戦争論』を同一視点で論ずることが至当であろう。

10. 『靖國論』の時代背景

小林よしのりの『靖國論』が発表された2005（平成17）年は第3次小泉内閣の政権下である。

小泉の動向は2001（平成13）年4月の首相就任以来、内外の注目を集めていた。小泉の靖国神社公式参拝「公約」は、本来自由民主党内の総裁選挙の為のものであったが、世間では政治「公約」と看做されていたのである。

だが、小泉は首相就任以降巧みに8月15日を避け、2001年は8月13日に参拝、同日首相談話を発表したのであるが、当該談話に於いては以下のように追悼施設新設検討の必要性が述べられている。⁴⁴⁸

⁴⁴⁶ 小林は2015年1月に『新戦争論1』を出版している。

⁴⁴⁷ 小林よしのり「クニを護るための物語」小林前掲『戦争論』、285-298頁。

⁴⁴⁸ 小泉の主席秘書であった飯島勲は、2001年も8月15日の公式参拝が予定されていたにもかかわらず、福田康夫官房長官らの画策により13日に変更になった無念を『小泉官邸秘録』に綴っているが、同書に小泉の言葉として「敢えて十五日を避けて参拝してきました」の記述がある。

2001（平成13）年8月13日、小泉純一郎首相談話

今後の問題として、靖国神社や千鳥が淵戦没者墓苑に対する国民の思いを尊重しつつも、内外の人々がわだかまりなく追悼の誠を捧げるにはどのようにすればよいか、議論をする必要があると私は考えております。⁴⁴⁹

これを受け、同年12月、福田康夫官房長官は私的諮問機関として「追悼・平和祈念のための記念碑等の在り方を考える懇談会（追悼・平和祈念懇談会）」を設置、同懇談会は翌2002（平成14）年12月24日、報告書を提出、「日本及び世界の平和を祈念するための国立の無宗教の施設」の設置を提言した。⁴⁵⁰

小泉首相の8月15日の靖国神社参拝は2006（平成18）年まで実現されなかったのであるが、2005（平成17）年は「戦後60周年」にあたり、首相参拝支持派、反対派双方が注視する所となった。加えて、同年3月22日に島根県が竹島の日を制定したことをきっかけに、韓国の反日感情が高揚した。⁴⁵¹ これに呼応する如く中国に於ける反日運動が活発化、4月2日には四川省成都市でデモが激化し、暴徒は日系スーパーを襲撃、9日には北京に於いてもデモ隊が暴徒化し日本大使館を襲撃、16日にも在上海日本総領事館への投石事件が発生している。⁴⁵²

小林よしのり『靖國論』の背景には、韓国、中国の反日ナショナリズムとそれに対する日本の反応が存在するのである。小林は「日本人の復活」、「その第一歩を／踏み出せるか否かは、／首相が毅然として／8月15日参拝できるか／どうかに／かかっているのである！」と書き、小泉首相の毅然とした靖国神社公式参拝の実現に期待をかけているが、それは靖国神社を政治的パフォーマンスの場と見做した日

⁴⁴⁹ 首相官邸「総理演説等」<http://www.kantei.go.jp/jp/koizumispeech/2001/0813danwa.html>（アクセス日：2017年5月4日）。

⁴⁵⁰ 首相官邸「追悼・平和懇談会」

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tuitou/kettei/021224houkoku.html>（アクセス日：2017年5月4日）。

⁴⁵¹ 平成17年3月25日島根県条例第36号竹島の日を定める条例。

⁴⁵² 塚田洋「日誌－反日デモと日中の動き」海外立法調査室・課・外交防衛課『調査と情報』483号、2005年5月27日、国立国会図書館、19頁、<http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/issue/0483.pdf>（アクセス日：2017年5月4日）。

本側の反応の一つとも言える。⁴⁵³

11. 『靖國論』のデザインと構成

小林よしのり『靖國論』は、書籍としてそのデザインに独創性を持っている。まず、威風堂々と合金製の第一鳥居（大鳥居）が表紙とカバーの中央を占めている。次に、見返しに幾分小さめの青銅製第二鳥居が配されており、次頁には木製の中門鳥居、更に頁を繰ると、左右に灯籠を配した拝殿となる。つまり、書籍の頁を繰るごとに、恰も神社の参道に歩を進めるような構成となっているのである。

『靖國論』の単行本化にあたって、小林は「無知による靖國問題」と題した序論と「無宗教の追悼の果て」と題した終章を描き下ろしている。当該漫画作品2作に加え、書き下ろしのエッセイ1本と、2004（平成16）年に『新ゴーマニズム宣言』に発表されたエッセイの改訂版1本、及びあとがきが『靖國論』独自の部分である。序章と終章を含め全10章に加え、エッセイ、解説、『英霊の言乃葉』からの引用、あとがき、参考文献により構成されている。序章の題名、「無知による靖國問題」が示唆するよう、同書はいわゆる靖國問題に関する情報が多く、序章は「本書をしっかり読み、最低限の知識を持って靖國問題を論じよ！」と結ばれている。⁴⁵⁴

12. 小林よしのりの戦没者観

12 - 1. 霊

本項に於いては、小林が「霊」を如何に理解し、描写しているかという点を論じたい。小林の言語に於ける「霊」とは如何なるものであろうか。

小林は漫画作品中に、「英霊」が靖國神社で会えると言い残して死亡した故に「彼らの魂は『靖國神社』にある」と書いており（図46）、『靖國論』所収のエッセイでは、「霊は、靖國神社にいるんだよ。みんな『靖國で会おう』って言葉を遺して

⁴⁵³ 小林よしのり「国会議員が知らない靖國合祀の真実」小林前掲『靖國論』、13-22頁。

⁴⁵⁴ 小林前掲「無知による靖國問題」前掲書、12頁。

死んでいったんだ」と述べている。⁴⁵⁵ 従って、「霊」の存在が小林の議論の前提になると理解し得る。

一方、「戦後日本人が忘れた靖国問題の真実」に於いては「日本人の一人一人の心の中に『そこに祀られている』という『観念』があることこそが重要なのだ！」と小林は「観念論」を展開している。⁴⁵⁶ 「観念論」は、唯物論の対称として、中国政府による靖国批判に反論する為の重要な理論であるが、ここではひとまず措き、「霊」の概念をつかみたい。



図 46. 遺書の引用（右）と小林の信念（左）

小林よしのり『靖国論』幻冬舎、2005 年、98 頁

⁴⁵⁵ 小林よしのり『国立追悼施設』は無駄な公共事業だ! 前掲書、93-100 頁他。小林よしのり「靖国を語る 国立慰霊施設なんて国営カルト宗教みたいなもの」前掲書、23-26 頁。

⁴⁵⁶ 小林前掲「戦後日本人が忘れた靖国問題の真実」40 頁他。尚、『戦争論 2』では靖国の「国」は旧字体「國」で表記。

一連の「ゴーマニズム宣言」をはじめ各書籍や対談に於いて、小林は特定宗教の信教徒にあらざることを明言しつつも、自身の生まれ育った真言宗の寺院、法照寺についてはしばしば言及している。漫画作品内で小林は、自身を同寺院の本尊、不動明王のイメージに重ねており（図 47）、それを以て小林への仏教の影響を指摘する論者もある。⁴⁵⁷ 小林自身、仏教の影響論に対しては、明確ではないが肯定的である。尤も、否定すれば不動明王に自身を重ねた漫画が嘘ということになり、また肯定すれば作品が仏教的価値観に基づく社会批評ということなり、後者は「ゴーマニズム」自体を否定する可能性を生ずる。従って、不明確な肯定以上を望むべくもなく、「ゴーマニズム宣言」の場合、娯楽（エンターテインメント）と事実の境界線を明確に引く事は困難である。⁴⁵⁸



図 47.

小林自身と不動明王を重ねたイメージ

小林よしのり『ゴーマニズム宣言 8』扶桑社、1995 年、14 頁

⁴⁵⁷ 例えば、桐山秀樹「ゴーマニズムの原点は、密教『理趣経』にあり」呉智英（編）『小林よしのり論序説ーゴーマニズムとは何か』出帆新社、1995 年、170-85 頁。（初出：「週刊現代」1993 年 12 月 18 日号）。

⁴⁵⁸ 『ゴーマニズム宣言 4』は、特別企画で法照寺を写真入り記事で紹介している。同記事は旅行記の類でギャグではない。一方、9 巻所収第 155 章「ゴー宣こそはヴァジラヤーナ（金剛乗）だったのだ」は完全な風刺漫画作品である。

残念ながらこれまでに発表された作品内では、上述の「観念論」以上の霊概念は詳らかにされていない。しかし小林は、『ゴーマニズム宣言 3』第 64 章に於いてカルト的作品を描いている。法照寺の檀家家族の死者が生き返り、自宅に電話をかけたという話である。しかし、最後に「以上、ウソっぱちの作り話である！」と全否定が用意されている。⁴⁵⁹ 更に、第 65 章では神秘現象に対する科学的挑戦に賛意を示し、「オカルトバカを」「科学者は／ガンガン／叩きつぶすべし！」と結んでおり、非科学的言論を強く否定している。⁴⁶⁰

しかし、小林は宗教を否定していない。小林は『戦争論 2』（及び『靖國論』）の「カミの国は死者の国でもある」に於いて「宗教観はその社会の『公共心』の基礎になる」とも述べている。⁴⁶¹ 公共精神が比較的低下した現代社会に対する小林の批判的姿勢を考慮すると、本来「宗教的」な信仰、信心も、小林は社会的に共有されるべきものと主張していると推察し得る。

小林は「日本の『カミ』は／精霊のようなもので／人間だけでなく／石ころから樹木から／井戸から かまどから／動物にまで／森羅万象何にでも宿る／だから日本は八百万の神の国なのだ」と書いている。⁴⁶² 小林は同作品に於いて、森喜朗元首相の「神国発言」を支持しているが、小林の意図を小林の言葉を以て正確に書くならば、「神の国」ではなく「カミのクニ」であり、前言を換言すれば、「日本は八百万のカミの存在を認める文化を共有するクニ（郷土）をかかえた国家」という意味である。⁴⁶³ 従って、小林は社会が伝統的に共有してきた宗教的価値を尊重し

⁴⁵⁹ 全否定とはいうものの、同コマで「途中まで実話」とも書き、小林秘書の金森氏の問いに対しては、少年期の恐怖体験と想像が混在している旨を答えている。小林よしのり「礼に始まり霊に終わる」『ゴーマニズム宣言 3』扶桑社、1994 年、17-24 頁。金森由利子「秘書²ばなし」小林前掲『ゴーマニズム宣言 3』、26 頁。

⁴⁶⁰ 小林よしのり「昔、火の玉 今、UFO」小林前掲『ゴーマニズム宣言 3』、27-34 頁。

⁴⁶¹ 小林前掲「カミの国は死者の国でもある」、518 頁／176 頁。

⁴⁶² 前掲作品、512 頁／170 頁。

⁴⁶³ 2000 年 5 月 15 日の森喜朗元首相の発言。尚、大隈重信も『開國五十年史 上巻』所収「開國五十年史論」に「日本は神國として健存す」と書いているが、これに於ける「神」とは嵯峨天皇の弘仁年中「官撰に成りたる姓氏録といふ書」の「京都貴族等一千八百八十二氏の家系」の分類（三帙）に基づく「神」であり、神武天皇以前の神の裔を全て「神別」としている。大

ていると言える。

小林は、ある宗教的価値観が一般的に受け入れられると考えられる限りに於いて宗教の必要性を受容しているが、特定ないしは非特定の宗教を信仰、或いは促進しているのではない。寧ろ小林は、現実世界に存在する我々の意識の重要性を強調する意味を以て、「日本人の一人一人の心の中に『そこに祀られている』という『觀念』があることこそが重要なのだ！」と書いており、「カミのクニ」も同様に理解するのが妥当であろう。⁴⁶⁴ 従って、小林にとり、「靈」や「カミ」はカルト的なものではない。

このように理解すると、「英靈」は靖国神社に居ると言い残したから靖国神社にいたのだという小林の単純な論理にも首肯できよう。『ゴーマニズム宣言』に表現された限りに於いて、小林の言語としての「靈」とは死者及び生存者の「思い」、情念なのである。『靈』がいるとは、死者の思いを情で理解する表現なのである。

12 - 2. 英靈

小林よしのりが、「英靈」が靖国神社にいたという觀念を基盤に「英靈」の存在を前提としていることは前項にて論じた通りである。そこで本項に於いては、靖国神社ホームページから今日の同神社に於ける説明語句の使用例を通じ、「英靈」概念を調査し、小林の「英靈」概念と比較したい。

「英靈」は英語では war heroes（戦争の英雄たち）或いは heroic spirits（英雄的諸靈）と訳され、靖国神社に合祀された戦没者は「英靈」と総称されている。しかし、今日、靖国神社（社務所）は、「祖国に殉じられた尊い神靈」、「祖国を守るという公務に起因して亡くなられた方々の神靈」等、「神靈」を多用しており、「地域社会や国家という共同体にとって大切な働きをした死者の御靈」のように「御靈」も併用している。「英靈」の語句の使用頻度は比較的に低く、同神社夏の

限は「加美といふは己が上に戴くものゝ通稱」と書いている。大隈重信「開國五十年史論」、『開國五十年史 上巻』原書房、1970年（復刻原本明治40年発行）1-76頁。

⁴⁶⁴ 小林前掲「戦後日本人が忘れた靖国問題の真実」小林前掲『靖國論』、40頁。

祭事「みたままつり」の説明に1回と、境内の案内42施設中3施設の説明にのみ確認される。⁴⁶⁵ 境内施設案内に於ける「神霊」・「英霊」等、語句の使用は次表の通りである（表1）。

1. 本殿	神霊
2. 霊璽簿奉安殿	神霊
3. 元宮	霊、御霊
4. 鎮霊社	人々
5. 能楽堂	神霊
6. 靖国偕行文庫	御祭神、英霊（「詳しくはこちら」）
7. 遊就館	英霊（「詳しくはこちら」）
8. 靖国の桜	英霊

表1. 靖国神社境内案内に於ける使用語句

表に挙げた語句は具体的に如何様に使用されているか、以下に検証する。

「みたままつり」の案内には、「盆行事に因み昭和22年に始まった」「英霊をお慰めする祭儀」と説明されているが、「英霊」の何たるかは不明である。⁴⁶⁶

「境内のご案内」に於ける、靖国神社の図書館である靖国偕行文庫の案内は「御祭神」の語句を使用しているが、「詳しくはこちら」をクリックすると、同施設は「靖国神社に鎮まる英霊の戦没された当時の調査資料を整備し、その御遺徳を顕彰する…図書館で」、収蔵資料の主体の一つに「英霊の追悼録」があると説明されている。⁴⁶⁷

遊就館の場合、「境内のご案内」は「明治15年（1882）に開館した遊就館は、遺品などを収蔵、展示する施設で、平成13年（2002）に改修、増築工事が施されま

⁴⁶⁵ 靖国神社「祭事のご案内」<http://www.yasukuni.or.jp/schedule/mitama.html>（アクセス日：2014年7月19日）。

⁴⁶⁶ 靖国神社前掲「祭事のご案内（みたままつり）」
<http://www.yasukuni.or.jp/schedule/mitama.html>（アクセス日：2014年7月19日）。

⁴⁶⁷ 靖国神社「境内のご案内（靖国偕行文庫）」<http://www.yasukuni.or.jp/archives/index.html>（アクセス日：2014年7月19日）。

した」の一文を認めるのみであるが、「詳しくはこちら」をクリックすると、複数の画像が入れ替わる遊就館のページに接続され、「英霊のまごころ」、「英霊のご事績」（以上トップページ）、「英霊のご遺徳」（遊就館の歴史）が目にとまる。⁴⁶⁸ 以下「常設展示」の案内に於いては、「英霊のご遺書・ご遺品」、「英霊に関する映画」、「英霊のご遺品」（展示室 15）、「英霊の言乃葉」（展示室 17）、「花嫁を迎えることなく戦死した英霊」（展示室 18）のよう「英霊」の語句が多用されている。

現在の靖国神社のホームページをトップから順次閲覧すると、被祀者の方々は「神霊」と呼称される場合が多い。しかし、「境内のご案内」を経由し「詳しくはこちら」の手順を踏み、更に「常設展示」から「展示施設のご案内」を経ると「英霊」の使用が急増する。靖国神社のホームページの構成には「英霊」の語句が目立つように構成された忖意性が認められるのである。「遊就館」を「詳しく」閲覧しない限り、「英霊」の語句は目につき難い上、靖国神社のホームページは英語版があるにもかかわらず、「遊就館」のページは日本語版のみである。日本語を理解せぬ外国人や英語話者が war heroes 或いは heroic spirits が使用された表現を見る事はまず無い。また、2010（平成 22）年の拙稿で指摘したが、靖国神社ホームページの日本語版と英語版に於ける神社の説明の差異に忖意性が疑われる。⁴⁶⁹

差異の要点は、第一に、被祀者には、台湾或いは朝鮮半島出身者で、「日本人」として戦死した軍人或いは軍属が合祀されている事実説明の有無、第二に、連合国により「戦争犯罪者」とされた人々が合祀されている事実説明の有無、第三に、天皇の靖国神社祭祀へのかかわりの紹介の有無である。前二点は日本語版のみ、後一点は英語版のみの記述である。

元宮の説明に於いては、「明治維新のさきがけとなって斃れた志士の霊を祀るため」、とその建立目的が書かれ、「国を守るために尊い生命を捧げられた方々の御霊

⁴⁶⁸ 靖国神社「遊就館」<http://www.yasukuni.jp/~yusyukan/>（アクセス日：2014 年 7 月 19 日）。

⁴⁶⁹ Homma, Mitsunori. *Political Pathology and Japanese War Guilt: Debate over the Shōwa Tennō*. Master Thesis, Minamiuonuma: International University of Japan, 2010. (参考)。

を祀る靖国神社の前身」と説明されている。⁴⁷⁰ 「明治維新のさきがけ」ということは、明治維新により近代国家が成立する前であり、説明文によると、元宮は靖国神社にあらず、その「前身」である。「前身」に祀られている近代国家成立以前に死亡した被祀者は、単に「霊」と呼称されているのに対し、「国」家を守るために「尊い生命を捧げられた方々」が靖国神社に奉祀された場合は「御霊」と呼称されている。また、「斃れた志士」と「尊い生命を捧げられた方々」の表現上の差異も靖国神社による恣意的差別を示唆するのではなかろうか。

鎮霊社の場合、その建立目的は、「戦争や事変で亡くなられ、靖国神社に合祀されない国内、及び諸外国の人々を慰霊するため」と書かれており、「慰霊」の文字はあるものの、その対象は「人々」である。⁴⁷¹ 本殿及び霊璽簿奉安殿他で使用されている「神霊」や遊就館他で使用されている「英霊」と比較すると「神聖さ」を欠く表現であろう。靖国神社の語句使用例は、同神社による恣意的な被祀者の格付けを示唆するのではなかろうか。

小林は靖国神社に奉祀された戦没者を「英霊」と呼称しており、その意味を「英でた霊」と説明し、「彼らは単なる犠牲者ではない！」と付加している。⁴⁷² 小林による聊か感情的な字義的理屈は必ずしも理解不能ではない。しかし、国内に流通する主要な国語辞典、漢和辞典の類にこの様な用例は無く、概して第一義には「戦死者の霊の尊称」、第二義には「才能ある人」と説明されている。小林も『靖國論』のあとがきには、靖国神社が「軍にかかわって命を落とした『英雄的な霊』を祀っていると考えればよい」と書いており、「英でた霊」云々は不要な議論であろう。⁴⁷³

「英雄的な霊」とは、「英でた霊」より「英雄の霊」と解釈した方が自然である。

興味深いことに、『靖國論』発表の後、小林は2005（平成17）年8月に『SAPIO』

⁴⁷⁰ 靖国神社「境内のご案内（元宮）」<http://www.yasukuni.or.jp/precincts/motomiya.html>（アクセス日：2014年7月19日）。

⁴⁷¹ 靖国神社「境内のご案内（鎮魂社）」<http://www.yasukuni.or.jp/precincts/chinreisha.html>（アクセス日：2014年7月19日）。

⁴⁷² 小林前掲「無知による靖国問題」小林前掲『靖國論』、7頁。

⁴⁷³ 小林よしのり「あとがき」前掲書、201-203頁。

誌に発表した漫画作品に「英でた霊」の意味説明を加えている。⁴⁷⁴ そこで小林は、「靖国神社が祀っているのは『英霊』！つまり近代国家建設のために命を投げ出した『英でた霊』、英雄の霊なのだ。」「単なる犠牲者を祀ってるんじゃない！」と書いている。⁴⁷⁵ しかし、近代国家を建設したのは霊ではなく人間である。従って、「秀でた人間の霊、英雄の霊なのだ」とするのが至当であろう。

前述の靖国神社社務所による説明も、同様に理解して良いであろう。今日の靖国神社も小林も、大日本帝国の為の戦争に於ける「皇軍」戦死者を「英雄」視し、その霊を「英霊」と呼称しているのである。しかし、靖国神社ホームページの説明・案内の「使い分け」は、「英霊」観が国際社会には受け入れ難いであろうという同神社の認識を示唆しているのではなかろうか。⁴⁷⁶

次に小林独自の「英霊」観に議論を移したい。靖国神社が「英霊」の語句を表面的に避ける傾向を示しているのに対し、小林は作品中に「英霊」を前面に出し反復使用している。小林は藤田東湖[1806 - 1855]『正氣の歌（天文祥正氣ノ歌ニ和ス）』を引用し（図 48）、肉体は滅びても「英霊」は滅びないという「英霊」観を披歴、「公に殉じた死者が『英霊』と呼ばれるようになった！」と書いている。⁴⁷⁷ 小林は同頁で、「国の存亡の危機を救うために命を投げ出したのである」と書いており、「国家」と「公」が同義で使用されている。⁴⁷⁸ 小林が共同体を意識している場合は、漢字表記ではなく片仮名で「クニ」と表記している点を確認しておきたい。

⁴⁷⁴ 小林よしのり「ひめゆり学徒の証言を読む」『ゴーマニズム宣言 EXTRA パトリナキナショナリズム』小学館、2007 年、209-224 頁。（初出：「SAPIO」2005 年 8 月 24 日 9 月 7 日合併号）。

⁴⁷⁵ 筆者下線、前掲作品、210 頁。

⁴⁷⁶ Homma 前掲論文で指摘。

⁴⁷⁷ 小林前掲「戦後日本人が忘れた靖国問題の真実」小林前掲『靖国論』、37-38 頁。同頁は『戦争論 2』には無い。『正氣歌』は文天祥[1236-1238]の作で、『天文祥正氣ノ歌ニ和ス』は藤田東湖 1845 年の作。

⁴⁷⁸ 小林前掲作品、37 頁。『戦争論』では、公を「祖国、郷土、家族、天皇など」としている。



藤田東湖は幕末に生きた水戸藩士であり、藩政にあたるとともに、学者として水戸学を大成した人物である。従って、藤田の国家観や公共概念は、現代社会に於けるそれとは異なる筈である。

『正気』に於ける「英霊」は、「粹然鍾神州」即ち、純粋な形で日本にあつまっている「正気」であり、「然方其鬱屈生四十七人」から、「正気」は忠誠心と換言し得る。⁴⁷⁹ しかし、『靖國論』に挿入された小林による『正気』とその現代語訳、即ち「人の肉体はたとえ亡びても、『英霊』は決して滅びない。長く天地の間に存在して、厳として人倫の常道を立派に維持している」は聊か唐突であろう(図 49)。⁴⁸⁰ 小林は、前述の引用の次コマに「こうして公に殉じた死者が『英霊』と呼ばれるようになった！」とまとめている。⁴⁸¹ 小林は藤田が日本にあつまっていると言う「正気」と靖国神社に奉祀されている「英霊」を直接的に結びつけており、前項(12 - 1)の観念論との整合性に矛盾が生じる可能性がある。しかし、「正気」自体の存在も客観的に確認し得るものではなく、「英霊」と直接結び付けるこ

⁴⁷⁹ 藤田東湖『正気歌』。「四十七人」とは赤穂浪士を示唆する。

⁴⁸⁰ 小林前掲「戦後日本人が忘れた靖国問題の真実」小林前掲『靖國論』、38 頁。尚、図 48、49 は『戦争論 2』には無い。

⁴⁸¹ 前掲作品、38 頁。

とにより、両者ともに観念上の存在としては理解できよう。



図 49.

小林による藤田の現代語訳と戦死者

小林よしのり『靖國論』、幻冬舎、2005 年、38 頁

小林による上述の解釈と現代語訳が添えられた絵は、靖国の神として国家を護ること、即ち、死んで靖国神社に祀られることを、「あえて個を捨てた」、或いは「ついに『個人』としての決断を下して、国のために死んだ」結果であると強調していると言えよう。⁴⁸²

更に小林は言語表現上のイデオロギー性を明確にしている。2005（平成 17）年の漫画作品に於いては、「彼らは単なる犠牲者ではない！」或いは、靖国神社は「単なる犠牲者を祀ってるんじゃない！」との部分否定表現にとどまり、犠牲者であることを否定してはいない。⁴⁸³ しかし、2008（平成 20）年には「『英霊』は犠牲者ではありません」と完全否定に転じ、靖国神社は「英霊」を「顕彰しているのです」

⁴⁸² 小林よしのり「特攻精神」小林前掲『戦争論』、75-96 頁、及び小林前掲「無知による靖国問題」小林前掲『靖國論』、12 頁。

⁴⁸³ 筆者下線。小林前掲「無知による靖国問題」、7 頁、及び小林前掲「ひめゆり学徒隊の証言を読む」小林前掲『ゴーマニズム宣言 EXTRA パトリナキナショナリズム』、210 頁。

と明言している。⁴⁸⁴

以上により、小林が靖国神社の祭神、即ち英霊は、公的事由により、国家の為に、英雄的に死亡した者の霊であると考えていると言える。小林はその霊の存在を前提に成立する靖国観を保持している、或いは、より厳密に言うならば、そのような靖国観を保持していることを公的に表明していると言える。

実際、小林が「英霊」或いは靖国の神の存在を信じているか否かは論じ得ない。しかし、小林は『戦争論』から一貫し国民の物語の必要性を主張しており、小林作品は、上述の靖国観、即ち国民的伝統としてのフィクション、を現代の読者に受け入れ易く表現しているものと言える。

靖国神社の英霊観と小林よしのりの英霊観を比較すると、靖国神社が英霊の格付けによりその観念を矮小化しているのに対し、小林はより包括的な英霊観を述べている。また、靖国神社は「英霊」の語句の使用を表面的には躊躇しているのに対し、小林はその使用に積極的である。この事実は、靖国神社自身がその政治性を意識していることを示しているのである。

13. 小林よしのりの「公」と「私」

「英霊」たる条件が公的死亡であり、「英霊」を公的に称賛する施設が靖国神社であるとする小林よしのりの理論構成を理解する為に、作品内で「公」とその対義語として使用されている「個」、及び「個」の類義語であり、本来「公」の対義語である「私」に込められた小林の思想を理解する必要があるだろう。何故ならば、小林の問題意識は「個と公が分離した社会」から出発したということになっており、その上での議論が、「英霊」は「公」の為に死を選択したと述べているからである。⁴⁸⁵ また、小林の主張は靖国神社のそれを代弁したものであるが、靖国神社はその宗教

⁴⁸⁴ 小林よしのり「拝啓古賀誠様」『ゴーマニズム宣言 NEO』小学館、2008年、218-222頁。
(初出：「SAPIO」2008年10月8日号)。

⁴⁸⁵ 小林よしのり「東京裁判洗脳されっ子の個人主義」小林前掲『戦争論』、39-55頁。

行為に対する論理的説明を行っておらず、一宗教法人としてはその必要もない。

小林は「公」と「個」の関係概念を、縦軸と横軸の交叉した絵（図 50、右）を用いて説明し、個人の存在が如何なるものかを説いている。小林は、「個」が絵の縦軸である歴史と横軸である社会の交点の制約下で形成されることを説明しているが、縦軸は生物学的必然であり、横軸は社会的動物である人間の必然とも言える。

⁴⁸⁶ 小林は次コマに亘り説明を続け、人は「社会の中でしか生きられないという認識から『公』につながる糸口が見えてくる」と書く（図 50、左）。⁴⁸⁷ この図の形式は『戦争論』に 3 回使用されており、同書の主題が戦争自体にあらず、公共性であることを傍証する。⁴⁸⁸

⁴⁸⁶ 小林は新書で十字図の説明をしており、人間はその交点に存在し、社会が成立する旨を論じている。小林前掲「ゴーマニズム戦歴」、411 頁（参考）。

⁴⁸⁷ 小林よしのり「置き去りにされた祖父」小林前掲『戦争論』、206 頁。

⁴⁸⁸ 小林前掲『戦争論』、64 頁、206 頁、349 頁に認められる。



図 50.

「個」の説明図（右）と「個」の認識（左）

小林よしのり『戦争論』、幻冬舎、2001 年、206 頁

図 51 は、小林がここで示す「公」は「社会」或いは「共同体」と同義であることを示唆している。本稿の目的から、それらの語意の詳細を検討することは重要であるが、ここではひとまず以下の点を指摘しておきたい。即ち、小林が「公」を説くとき、国家を強調していない点である。小林は『戦争論』に於いても、『『国のために』と言っても『国家システムのために』ではない』と明言している。⁴⁸⁹

従って、小林は「公」を故郷、地元、国土に於いて共有される価値観と看做していると言える。そこで、小林の『戦争論』三部作と『靖國論』に於ける言説を確認

⁴⁸⁹ 小林よしのり「個を超える勇気と誇り」小林前掲『戦争論』、352 頁。

するに、「公」を「祖国、郷土、家族、天皇など」（『戦争論』）、「国家」（『靖國論』）と換言している。

小林は、「個」を超えた価値観として「公」を説くのであるが、男女の恋愛感情や母子の愛情を例に挙げ、「愛する者」のためならば、自己犠牲を厭わないであろうと説得する。その上で、愛する者の背後にその「家族や地域」、「言語」、「自然・習慣」があると説く。⁴⁹⁰ 即ち、「愛する者」を「個」として把握するのはなく、その背後や関係性まで把握すると、「公」概念に行き着くというのである。

ここで注意を喚起したいのは「家族や地域」、「言語」、「自然・習慣」が「公＝国」と置き換えられる点である（図 51、左端）。



図 51. 「公＝国」

小林よしのり『戦争論』幻冬舎、2001 年、352 頁

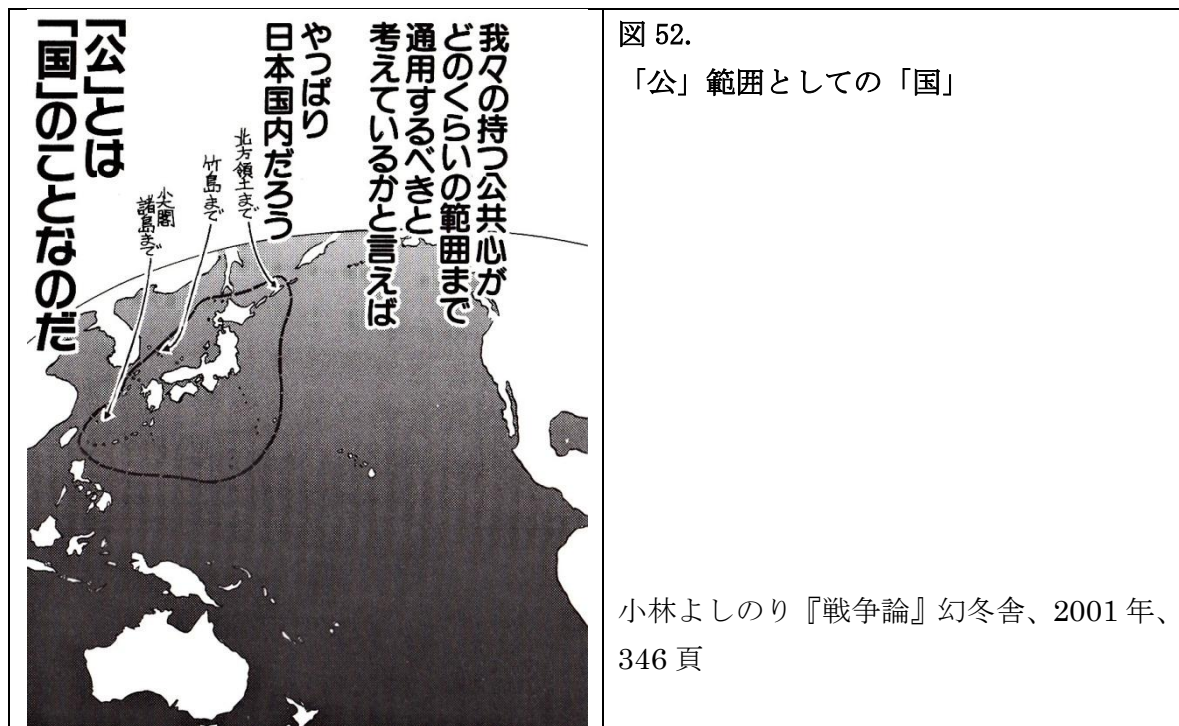
⁴⁹⁰ 同上。

家族、地域、その地域の自然や習慣、そこで使用される言語、これらは同心円上に拡大する概念であり、大小の差異こそあれ共同体の価値が認められよう。家族を共同体の最小単位とするなら、それより小さい「個」が出発点となり、そこから同心円状に拡大していく概念と言える。しかし、その最大範囲が何故郷土や「クニ」ではなく、「国」となるのであろうか。

小林はこの疑問に対し既に解答を述べており、公共心が及ぶ範囲を「国」として
いる（図 52）。『戦争論 3』に於いては更に詳細にその理由を述べ、「我々の手に負える範囲の『公』は目一杯、広げても同じ約束ごと…言語・習慣・文化が共有できる『国』までだろう」「その意味で『国』＝『公』とほぼ規定していい」と書いている。⁴⁹¹ また、小林は「公」の概念が「国」を超えることを左翼思想として批判、「左翼も／『公のために』を考えて／いるのだろうが／その公の範囲が／『国』ではない／『世界』なのだ」と書いている。⁴⁹² つまり、小林の場合、「公」と「国」を直結する前段にもう一段「クニ＝国」が必要であり、「左翼」の場合、「クニ＝世界」なる図式となる。「クニ」とは、共同体である。

⁴⁹¹ 筆者下線、小林前掲「破壊された公」小林前掲『戦争論 3』、154 頁。

⁴⁹² 小林よしのり「個と公」小林前掲『戦争論』、343 頁。



ここでの議論は、範囲としての「公」であり、小林はその有効範囲を「日本国内だろう」と書いている。⁴⁹³ 図 51 左端コマに於いても『国＝公』が現れると書いており、その前段階には国より小規模の共同体が認められることを前提としていえる。⁴⁹⁴ つまり、同心円状に共同体範囲を拡大していった場合、「国」に至る、という意味を以て小林は『国＝公』が現れると書いているのである。⁴⁹⁵ 従って、『公』とは『国』のことだ」という表現は単純化されたものとして理解されねばならない。⁴⁹⁶

小林が、国家より小規模の共同体をとして具体的に描くものとして第一に家があり、「日本特有の中間共同体」としては村が挙げられている。⁴⁹⁷ しかし、小林は中間共同体を肯定するのみにとどまらず、日本社会（ムラ社会）に認められる差別を告発、継続的に批判している。⁴⁹⁸ 小林は継続的に朝鮮人差別に対する批判を漫

⁴⁹³ 前掲作品、346 頁。

⁴⁹⁴ 筆者下線。小林前掲「個を超える勇気と誇り」小林前掲『戦争論』、352 頁。

⁴⁹⁵ 同上。

⁴⁹⁶ 小林前掲「個と公」、346 頁。

⁴⁹⁷ 小林前掲「戦後日本人が忘れた靖国問題の真実」小林前掲『靖国論』、39 頁。

⁴⁹⁸ 特に『ゴーマニズム宣言差別論スペシャル』解放出版、1995 年は、差別の構造、人間の心

画作品に描いており、小林の共同体意識には在日朝鮮・韓国人他、在日外国人を含むと理解してよい。この点に於いては、小林の共同体意識は市民主義的であり、民族意識による排他性は認められない。小林の情の行動原理では、少数派であり、差別の対象となっている在日外国人は情を寄せる対象となり得るのである。

以上の議論から、小林の意見として、「個」を超え公共心が及ぶ範囲が「公」であり、公の最大領域が「国」であることが理解できよう。そして小林は、「子供の『個』は／家族や地域／学校などの／『公』の中で／作られる」と述べる。⁴⁹⁹ 「公」が存在するからこそ、他者との差別を通して「個」が形成される、発見されるという。従って、小林の言う「個」は「自我」に換言し得る。しかし、以上の議論からは「私」の概念が明らかにされていない。

『戦争論』で「私」の概念が最初に示唆されるのは、「倫理ある個の芽生え」である。⁵⁰⁰ 小林は同作品に於いて、自己の少年期を回想、虚弱体質であったにもかかわらず相撲大会を欠場しなかったことを「倫理の芽生え」として描き、「エゴイズムでない倫理ある個」という「個」の概念を示している。⁵⁰¹ 従って、論理的に、エゴイズムたる倫理なき個が「私」であると定義が導き出せる。

「私」が論じられるのは『戦争論 2』に於いてである。小林は「『公』と『私』の逆転」に於いて、自己、即ち「個」、に内在する「公」と「私」を描いており、人間は公共心と私心の両方を持った存在として描かれている(図 53)。⁵⁰² 従って、「私」と「個」は対立概念ではないのだが、「個」を主体として、「私」とは峻別されるべき概念として描かれていると言えよう。

小林はイラクの社会現状を述べ、「イラクではまだ、国民一人一人の中に『公のために』という意識が出来上がって」おらず、「部族・血族・宗教・民族がそれぞれ対立して『私的な』利益を追求し」といると書き、公共心が段階的に形成される

理に肉薄した作品である。

⁴⁹⁹ 小林よしのり「公から離脱した個は人ではない」小林前掲『戦争論』、100 頁。

⁵⁰⁰ 小林よしのり「倫理ある個の芽生え」前掲書、65-74 頁。

⁵⁰¹ 前掲作品、「倫理ある個の芽生え」前掲書、74 頁。

⁵⁰² 小林よしのり「『公』と『私』の逆転」小林前掲『戦争論 2』、91-108 頁。

という認識を示唆している。⁵⁰³ また、日本を諸外国と区別し、『私心』を捨てて考える『公』が、歴史の中で培われてきた」と書き、「私」が「公」の対立概念であるという認識も示している。⁵⁰⁴ 加えて、小林は「我欲」を例にとり「公」を説明する。即ち、「この自分の我欲を捨てる気などさらさらなくせに世界大の『公』を考えている」ことに「疾しさ」を感じると書き、「我欲」の無い世界が「公」であるという認識とともに、「中東の平和」や「エネルギー・環境問題」など、国家の範囲を超えた「公」の認識（認識にとどまる）を示唆している（図 54）。⁵⁰⁵



図 53.
心と公心

小林よしのり『戦争論 2』幻冬舎、2001 年、
98 頁

⁵⁰³ 筆者下線、小林よしのり「戦前と戦後を切り離すアメリカへの恐れ」小林前掲『戦争論 3』、35-50 頁。

⁵⁰⁴ 小林前掲「破壊された公」小林前掲書、155 頁。

⁵⁰⁵ 小林前掲作品、151 頁。



図 54. 世界最大の「公」

小林よしのり『戦争論 3』幻冬舎、2003 年、151 頁

以上の議論をまとめると、小林は「私」と「我」をほぼ同義としており、その対義が「公」であると言えよう。その「公」が、まず存在し、次に「公」即ち社会に於ける「個」がはじめて認識されるという論理である。

小林の論理に従い考察するならば、「公」と「私」は共に相対的概念である。小林自身、「公」の範囲を『私』の外側から／地域→国→世界／の範囲で／伸縮可能」と書いている。⁵⁰⁶

小林は「部族・血族・宗教・民族がそれぞれ対立して『私的な』利益を追求」することを批判するが、「部族」も「血族」も「個」の外側に広がる社会であり、日本的に表現するならば、個人を囲む概念として家族があり、その外側に親戚、親族、近隣、地域、国家と拡大する「公」的領域である。⁵⁰⁷ つまり、個人の意思よりも家族の意思の方が公的であるが、家族の意思も親戚一同の意思の前では相対的に私的なものとなる。同様に親戚一同の意思も親族一統の意思の前では私的となり、最終的に国家意思の前では全て私的となるのである。小林はその存在認識を示唆するにとどまるが、国家より広範囲或いは高次元の「公」が認められる場合、国家意思も私的と看做される可能性を否定し得ない。

小林の議論の問題点は、論理が同心円状の「公」の相対性を前提に成立しているにもかかわらず、それを無視し、私と公の二者択一を迫る点である。

次に、「公」を前提に「個」を発見するという「自我」の発見になぞられた説明は、「私」と「個」の概念を混同したものである。他者との対立により発見される自我は「私」である。小林は、「私」、「私欲」の無い純粋な「個」の存在を想定しているが、それは「想像の共同体」ならぬ「想像の個」ではなかろうか。小林が論ずるよう、「公」或いは「私」を選択する主体としての「個」は、理論的には成立する。しかし、「個」は公私のいずれか一方を選択して存在している以上、「公」或いは「私」のいずれかとして存在する以外に無い。さもなくば、いずれを選択すべ

⁵⁰⁶ 姜尚中の「国家と私の間に公がある」に対する反論。小林よしのり「朝ナマ史上初！大東亜戦争肯定派の勝ち」小林前掲『新ゴーマニズム宣言 7』、48 頁。

⁵⁰⁷ 小林前掲「戦前と戦後を切り離すアメリカへの恐れ」小林前掲『戦争論 3』、49 頁。

きかという「迷い」の状態が「個」となるであろう。

14. 小林よしのりの天皇観

前節の議論で、筆者は小林による「公」の領域的概念には一定の理解を示しつつも「公」概念の相対性を指摘した。「公」概念に関する議論は後章に譲るとし、本節に於いては小林の「公」との関係に於ける天皇観を論じたい。

小林よしのりは、いわゆる右翼による「天皇制護持」の主張と同様の主張を展開しているのであるか。また、現代日本社会が即ち「公」である理解した場合、「公」が天皇、皇室を否定する可能性も否定し得ない。このような場合、小林は如何に対応するであろうか。

一連の『ゴーマニズム宣言』に於いて、最初に天皇が言及された作品は第1巻第21章である。しかし、「いよいよ天皇訪中が決定した！」と書かれているものの、漫画作品の内容との関連性は低く、最終コマに於いて、天皇を歓迎する準備として、中国に於ける洋式トイレの有無を問うており、天皇に対する軽妙な侮蔑とも理解し得る。⁵⁰⁸

皇室に関する言及としては、同書第40章「自分の言葉で祝うとこーなった」が皇太子徳仁親王の婚約決定を題材にしている。「自分の言葉で祝う」、「皇太子っていいやつじゃん」など一定の評価表現が認められるが、皇太子に対する尊敬の念は認め難く、また、小林後年の『天皇論』三部作からは想像できぬ程皇太子は不細工に描かれており、敬称も無い(図55、左)。⁵⁰⁹ 『新天皇論』に描かれた一コマと比較されたい(図55、右)。

⁵⁰⁸ 小林よしのり「自然が不自然なわしは神経質か？」小林前掲『ゴーマニズム宣言1』、52-53頁。

⁵⁰⁹ 小林よしのり「自分の言葉で祝うとこーなった」前掲書、90-91頁。



更に、「天皇制」に関しては、「天皇制に一発／そーとーな皮肉をぶちかまして／やろうと…」、「天皇制なんて差別の原因かもしれないが…」と書きつつ、皮肉を込めた漫画を描いている。⁵¹⁰ 当該作品の根底には階級意識が認められ、報道姿勢や警備態勢に対する庶民目線を通し、「特権階級」に対する「迷惑意識」を漫画作品化しているのである。最終コマには、「制度に疑問があっても／人間を好きになる／ことはあるから… この皇太子と／雅子妃は／気に入ったので／祝福する！」と書かれており、1993（平成 5）年当時の小林の「天皇制」に対する違和感が細心の注意を払いつつ表明されている。⁵¹¹

小林は同年、一水会代表（当時）の鈴木邦夫氏との対談で、「天皇制の問題について、まだ自分の中で決着がついていません」と告白している。⁵¹² 1993 年当時の小林は、「天皇制」と天皇を分離して考えており、「天皇制」についても天皇に関しても未だ深い議論を展開していない。

小林が表明した違和感は、「天皇制」自体に由来したというよりも、寧ろ「天皇制」をタブー視する言論空間と権威主義的社会に由来していたのである。小林はその後、出版業界の自己規制に対する挑戦を展開し、扶桑社の「SPA!」誌で不掲載

⁵¹⁰ 前掲作品。

⁵¹¹ 筆者下線、小林前掲作品。

⁵¹² 一水会：1972 年創設の民族派政治団体。小林よしのり・鈴木邦夫『「皇室タブー」と表現の自由』『ゴーマニズム宣言 3』扶桑社、1994 年、66-74 頁。（初出：「創」1993 年 10 月号）。

となった皇太子御成婚のパロディ作「カバ焼きの日」を青林堂「ガロ」誌にて発表、翌 1994（平成 6）年には扶桑社の『ゴーマニズム宣言 3』に復活させている。当該作品は自己規制が常態化した出版業界に対する小林の勝利宣言と理解して良いだろう。

小林が天皇を思想的に論じた最初の漫画作品は 2009（平成 21）年発表の『天皇論』である。小林は同書に「わしが何とか天皇について理解ができるようになってきたのは、『戦争論』を描いてから」と告白し、以前の天皇認識が小林の知識不足に基づいたものであったとの認識を暗示し、『天皇論』以降の論調変化を告知している。⁵¹³

『天皇論』に於いて小林は、『天皇制』という言葉には、天皇の存在自体が単に『制度』に過ぎないという含意があると書き、その使用を「天皇家」の語とともに「反天皇語」として否定、代えて「皇室」を使用すべきであると主張している。

514

『天皇論』は、天皇の祭祀王としての側面が強調され描かれている。祭祀が公的であるということを前提に、祭祀王たる天皇は「公」を体現しているという論旨である。小林は祭祀王たることが天皇の本質であると主張し、昭和天皇の侍従長の立場から既に高齢であった天皇の為に祭祀の簡略化を進めた入江相政氏を批判、「祭祀を第一にしなくなったら、天皇は天皇でなくなってしまう」とまで書いている。

515

『天皇論』は自然発生したとする祭祀とその司祭者としての天皇を描くことにより、「日本固有の伝統」と「日本固有の天皇」を連結させているのである。

小林は皇室のあり方を議論する国民の態度を「国民主権病」と呼び否定する。⁵¹⁶

⁵¹³ 小林よしのり「無自覚な天皇尊宗」小林前掲『天皇論』、29 頁。

⁵¹⁴ 小林よしのり『『天皇制』『天皇家』という言葉は間違い』前掲書、213-220 頁。

⁵¹⁵ 小林よしのり「皇室祭祀と三種の神器」前掲書、97-116 頁。入江相政（いりえ すけまさ）氏は 1934 年侍従、1968 年侍従次長を経て 1969 年から 1985 年の他界まで侍従長を務めた。

⁵¹⁶ 小林よしのり「陛下のご真意を無視できるか?」『新天皇論』小学館、2010 年、127-142 頁。

小林は国民主権を否定し、「戦前も戦後も将来も」天皇は「憲法を守ると明言」しているから立憲君主であると主張している。⁵¹⁷ 小林の主張はいささか説明不足で、読者は強引な論理展開との印象を受けるかもしれない。しかし、憲法と憲法典の差異を認識すれば、小林の主張は納得できよう。憲法とは憲法典の上位概念であり、国体そのものである。⁵¹⁸ 小林は国家法人説に理解を示し、また、天皇機関説を支持した昭和天皇を理想的に描いており、天皇の権威の下での自己統治を理想としているのである。⁵¹⁹

『昭和天皇論』をはさみ、2010（平成 22）年に発表された『新天皇論』は、皇位継承・皇統問題にまで踏み込み、専門家の議論を一般読者に対し容易に解説している。その上で小林は「女系公認」論を述べているが、本稿の主題からはずれるため、ここではその議論には立ち入らない。しかし筆者は、小林が同書で天皇の意思を尊重すべきである旨の主張をしている点に注目したい。

まず、小林は皇位継承制度が明文化されている皇室典範の改正が国会の審議に委ねられている点を「陛下や皇族方の判断が許されていない」と問題視し、「天皇陛下と、／皇太子殿下、／そして秋篠宮殿下の 3 人が／話し合って決めればよいと／わたしは思う」と意見を開陳している。⁵²⁰ 皇位継承問題に関して、小林は今上陛下の真意を推察した上で、その真意が「女系公認」ではなく、「男系継承」にあるならば、それに従うとしつつも、「最も重視しなければならないのは、陛下のご意思だ！」と書いている。⁵²¹ また、女系天皇が皇統に属するか否かの「判断を下す資格があるのは、天皇陛下だけだ！」と書き、皇統に関する議論を衆議の外に置くべき旨を主張している。⁵²²

⁵¹⁷ 小林前掲「国民主権は国体にあらず」小林前掲『天皇論』、363 頁。

⁵¹⁸ Homma 前掲論文で論じたが、戦後、憲法典が改正され、政体は変更したが国体は護持された。この国体概念こそが憲法なのである。

⁵¹⁹ 小林前掲「国民主権は国体にあらず」小林前掲『天皇論』、249 頁、379 頁（参考）。

⁵²⁰ 小林よしのり「ご即位 20 年、政府式典（中距離から見た天皇）」小林前掲『新天皇論』、8-9 頁。

⁵²¹ 小林前掲「陛下のご真意を無視できるか？」前掲書、127-142 頁。

⁵²² 前掲作品、135 頁。

筆者はかつて、天皇には国家機関としての側面と一族の長としての側面、家長としての側面と個としての私的側面があると論じ、皇統に関する議論は、天皇の一族或いは私人的問題であるとの認識から、衆議の外に置くべきものと考えた。⁵²³ しかし、小林は天皇には「私」が無いと主張する。⁵²⁴ 皇統護持が天皇の最大の責務であると仮定するなら、天皇の生物学的存在（生存）自体が公的と考えられ、小林の主張も理解し得る。即ち、天皇が快適に生存し皇統を護持するという観点に立てば、御所内での食事、排泄、娯楽、就寝、家族間の会話から呼吸まで、全て公的と言えるのである。しかし、小林は公的である天皇を議論の対象とすることを忌避する。「ただ天皇陛下のみが『聖なるタブー』なのである！」という断言は、小林自身が天皇の意見に異議を唱えないという意味のみならず、一切の反対意見を認めるべきではないという意味を持つであろう。⁵²⁵

しかしながら小林は、天皇の「個人崇拜はしない！」と明言し、現憲法遵守の立場をとる今上陛下に反し憲法改正を主張している。⁵²⁶ また、国旗・国歌の強制に危惧の念を示す今上陛下に反し、国旗・国歌の強制に賛意を示した上、事と次第によれば自身が逆族になる覚悟を披歴している。更に、「極左イデオロギーの犠牲になっている」教育界の現状を描き、「わしは天皇のお言葉に反しても、日本の伝統を強制する悪役に徹していこうと思っている」と決意を書いている。⁵²⁷

小林の主張を額面通りに理解するならば、二・二・六事件の際の皇道派青年将校や終戦時の宮城事件の主導者らの天皇観に通じるものがある。即ち、今上陛下の意思表明を超える天皇の「大御心」を想定し、今上陛下の意思を否定するものである。換言すれば、「大御心」を「公」と看做し、今上陛下の意思を「私」と看做す天皇観である。

⁵²³ Homma 前掲論文。

⁵²⁴ 小林は「富田メモ」の記述に対しては、昭和天皇の「単なる私語」と書き、天皇の「私」を認めている。小林よしのり「天皇イメージの変遷」小林前掲『天皇論』、221-242 頁。

⁵²⁵ 小林よしのり「竹田恒泰の『皇族復帰』はありえるか？」小林前掲『新天皇論』、182 頁。

⁵²⁶ 小林前掲「国民主権は国体にあらず」小林前掲『天皇論』、366 頁。

⁵²⁷ 前掲作品、370 頁。

しかし、筆者は小林の覚悟表明にゴーマニズム一流のエンターテインメント性を認め、決意表明は教育界に対する批判であると理解する。何故ならば、「逆族の汚名を着るかもしれないなあ…」と言う小林の握る携帯電話にはおぼっちゃまくんのストラップが揺れ（図 56）、「天皇のお言葉に反しても、日本の伝統を強制する悪役に徹していこうと思っている」の吹き出しのもとにペンを握る小林に、そもそも強制する権力が無いからである（図 57）。⁵²⁸



図 56. 米永邦夫と今上陛下の国旗掲揚問答

小林よしのり『天皇論』小学館、2010 年、368 頁

⁵²⁸ 前掲作品、368 頁。



15. 小林よしのりの靖国神社観

小林よしのりは如何なる靖国神社観を持っているのであろうか、また、それは如何にして小林の公論の主張を支持するのであろうか。小林が観念論に基づき、「英霊」顕彰の場として靖国神社の有用性を主張している点は、本章第 12 節で論じたところであるが、このような主張は靖国神社政治利用との批判を免れないのではなかろうか（尤も、小林は政治家ではない故、批判は不適切）。

『靖国論』に於いて、小林は靖国神社の存在意義を階層的概念を以て説明する。小林は、戊辰戦争に於ける戦死者が村の守護神として埋葬された記録を紹介、「公に殉じた者を『村の守護神』として祀ることは、地域・民間から自発的に起こっていたのだ」と説き、また「ある家の祖霊神（先祖の霊）が、村落の氏神（村の守り神）に自然に昇格することもあった」と書く（図 58）。⁵²⁹ 小林は、靖国信仰を民衆の信仰思想と結びつけ、祭祀者が増加するに従い、被祀者の霊力が増加するとい

⁵²⁹ 筆者下線、括弧内筆者注、小林前掲「戦後日本人が忘れた靖国問題の真実」小林前掲『靖国論』、39 頁。

う思想にもとづく信仰形態は「自然なものとして民衆の中にあった」故に、「国に殉じた人々のみたまを祀」り、「民衆は自然に…その神霊に拝」するようになった

「靖国信仰はまさに日本の文化・伝統・習俗の上に成立した」と、いうなれば「靖国信仰自然発生論」を展開している。⁵³⁰ 自然発生し、「既に民衆の心に根ざし、行われていた追悼の様式を国家が引き継いだの」であるから、官製宗教を民衆に強要したのではないという論旨である。⁵³¹



図 58.
信仰形態の階層概念

小林よしのり『靖国論』幻冬舎、2005 年、39 頁

⁵³⁰ 筆者下線、前掲作品、39 頁。

⁵³¹ 前掲作品、38 頁。

既に論じた通り、小林は国家を「公」の最大範囲と捉えており、「公」とは「祖国、郷土、家族、天皇など」、「家族や地域」、「言語」、「自然・習慣」（以上『戦争論』）、「国家」（『靖国論』）に換言できるものであると主張している。小林は、靖国神社及び靖国信仰の正統性もいわゆる日本文化、伝統、土着の民間伝承に求めているのである。

ここで指摘しておきたいことは、小林も、靖国信仰の主体を国家と考えている点である。もし靖国信仰の形式が、靖国神社成立以前の民間信仰と遊離したものであるなら、靖国はそれまでに存在したことの無い、国家による新たな創設宗教となる。しかし、東京招魂「社」を起源とする靖国「神社」である以上、神道から遊離した宗教形態を採用することは不可能である。従って、靖国信仰、或いは靖国神社を頂点とする国家神道が、既存の宗教思想を採用しつつ国家により創設されたと考えることは合理的である。

小林の説はいささか自然発生的信仰形態を強調するあまり、強調されるべき靖国神社の近代性が損なわれた感を否めないであろう。小林も「クニを近代国家にするという、それまでの日本史にない事態の中で生まれたのが、靖国神社である」と明言している。⁵³²「既に民衆の心に根ざし、行われていた追悼の様式を国家が引き継ぎ」、引き継いだ後に顕彰に変換主導し、近代国家の象徴となった神社が靖国神社なのである。⁵³³ 近代国家とは、小林が片仮名書きで表記するところの「クニ」ではない。正に「国家」の意味である。

小林による信仰形態に基づいた「個」と「公」に関する議論は、「個」（「私」ではない）の総和が「公」を形成するという主張の比喩的表現であると理解し得る。つまり、個が主体的に公を選択する事を前提にした議論である。

小林が言うまでも無く、他者が存在せずば自己認識は不可能である。しかし、他者が即ち「公」ではない。しかも、小林の理論では、公の範囲は国家である。もし、

⁵³² 小林前掲「国会議員が知らない靖国合祀の真実」前掲書、21 頁。

⁵³³ 筆者下線。小林前掲「戦後日本人が忘れた靖国問題の真実」前掲書、38 頁。

他者が即ち「公」であるならば、「個」は国境外では認識不能であろう。また、他者を「公」と仮定しても、「個」は「公」が無ければ、理論上認識し得ないということにとどまる。

小林が説明する日本の伝統的信仰形態と靖国神社の関係も、「個」から「公」への説明が展開されており、それ自体は説得力がある。しかし、小林の議論には「公」概念の混同が見られる。即ち、理論的存在たる「個」が選択する価値観としての「公」と「個」が所属する共同体としての「公」の混同である。⁵³⁴

小林は靖国神社をあくまでも祈りの場として描いている。小林は「わしは靖国神社に参拝して手を合わせる時 日本を守りたいと思います …と心につぶやき」「その後は 安らかに… …としか願わない」と書く。⁵³⁵ 同時に小林は、首相の靖国神社参拝を「いっそ外交カードにすればよい」、「外交カードにならないならば、堂々と 8 月 15 日に参拝して、中国大使館員を引き上げさせるのがよかろう」と現実主義的意見も述べている。⁵³⁶

しかし、小林が靖国神社の宗教性、神聖性の保持を望んでいる事は、「A 級戦犯」の合祀を「強行」し、後に中曽根首相（当時）の神道形式から外れた参拝形式を拒否した松平永芳宮司（当時）を英雄的に描く点からも明らかで（図 59）、首相による 8 月 15 日の公式参拝実現が理想であり、外交カード云々は本音ではなかろう。大使館員引き上げ云々は、ゴーマニズム的エンターテイメントである。

⁵³⁴ 小林は、「ルール感覚としての『公』」と換言している。小林よしのり『戦争論』以後の愛国心について」小林前掲『ゴーマニズム宣言 EXTRA パトリナキナショナリズム』、105 頁。

⁵³⁵ 小林前掲「カミの国は死者の国でもある」小林前掲『戦争論 2』528 頁／『靖国論』186 頁。

⁵³⁶ 小林前掲「無知による靖国問題」小林前掲『靖国論』、10 頁。



図 59. 松平永芳靖国神社宮司

小林よしのり『靖國論』幻冬舎、2005 年、33 頁

小林は『靖國論』の終章「無宗教の追悼の果て」に於いて、自身の宗教観を明確に述べている。⁵³⁷ 同作品内で小林は全国戦没者追悼式を描き、式典会場に立てられる「全国戦没者之霊」と書かれた白木の柱に注目し、「そもそも『霊がいる』と想定することが、宗教の観念ではないか」と訴え、同式が「神道的観念に支えられ」ていることを指摘している。⁵³⁸ 小林の宗教観では、霊の存在を前提とする儀式や式典はすべて宗教行為と看做される。小林の論理に従えば、霊は直ちに宗教ということになり、霊の存在を信じる者は、何らかの宗教の信者ということになる。

小林は同作品内で靖国神社とは対照的な千代田区北の丸公園所在の弥生慰霊堂を描いている。同慰霊堂は、殉職した警察官や消防士の慰霊目的で弥生神社として創建されたが、「現在は『無宗教の慰霊祭』が毎年行われている」と紹介、殺風景な描写をし、「ここは『無宗教』だから霊はいないんだ」と皮肉を込めた台詞を書いている。⁵³⁹ しかし、この論理は、小林の靖国神社の「英霊」の説明とは矛盾する。「英霊」の場合、彼らが生前「靖国神社で会える」、「靖国神社で会おう」と言い残したから、その言葉を信じ、「英霊」がそこにいるのだと「観念」することが、

⁵³⁷ 小林よしのり「無宗教の追悼の果て」前掲書、189-198 頁。

⁵³⁸ 前掲作品、190 頁。

⁵³⁹ 前掲作品、195 頁。

即ち「英霊」が存在することであった筈である。従って、慰霊祭の主催者や参加者が、弥生慰霊堂に殉職者の霊がいると観念すれば、霊は存在する筈である。

そこで、再度作品の当該部分の絵に注目されたい。「ここは『無宗教』だから霊はいないんだ」と言う小林の後ろ姿、小林の台詞に「そっか…」と応える秘書の女性の表情は、参拝者が少ない同慰霊堂に「いる」被祀者に対する同情を表現しているのではなかろうか（図 60）。⁵⁴⁰ 靖国神社の賑いとは対照的な弥生慰霊堂の「荒廃ぶり」を描くことにより、小林は国民のひとりひとりの「個」の「公的」意識を情により覚醒し、靖国神社、靖国信仰の永続的繁栄を願っていると言えよう。

⁵⁴⁰ 同上。



図 60. 弥生慰霊堂

暗さと殺風景さが強調されている。

小林よしのり『靖國論』幻冬舎、2005 年、195 頁

16. 結論：ゴーマニズムの総括 - その理論批判と影響力の根源

本章では、小林よしのりの漫画作品「ゴーマニズム宣言」の成立から発展を俯瞰し、その後期的意味を明確にした上で、同シリーズ『戦争論』、『靖國論』、『天皇論』を中心に議論した。小林は『ゴーマニズム宣言 2』に於いて同書の思想性を強調す

るが、「ゴーマニズム」は小林の意見を表現する手段、「ゴーマニズム宣言」はその表現方法の特異性を以て成立したエッセイ漫画として始まっている。しかし、「ゴーマニズム宣言」の単行本化以来、その思想性は強化され、今日、一つのテーマに対し数巻、複数の書籍、異なるアプローチによる漫画作品が出版されている。漫画が中心であるが、話題としては時事問題を扱い、それに関する作者の思考過程を一人称で語ることにより読者の思考を先導する。加えて、情報提供、批判、反駁、更には参考文献リストを付加する今日の『ゴーマニズム宣言』、殊に論シリーズの形態は、従来の「漫画本」とは異なり、新形式の「思想書」と言えるのではなかろうか。『ゴーマニズム宣言』が漫画作品である以上、娯楽性は重要な要素であるため、同書は娯楽書的思想書、或いは、漫画作品としては思想的娯楽書と言える。

初期の「ゴーマニズム宣言」から『戦争論』へ、小林が思想的に「転向」したという議論があり、更には『脱原発論』へ「再転向」したという批判や非難もある。しかし、小林の思想の変化に対する非難は殆ど意味を持たない。何故なら、小林は『戦争論』を「思想漫画」と呼称し、思想変化を含めた小林の思想過程を漫画作品にしているからである。小林は、自身の「思想の変化が／歴然としてわかる」ように残しており、「言うことが変わっていることもあろう」と認めた上で、その理由を「わしは『思想』しているのだから！」と書いている。⁵⁴¹ 小林の議論は、あくまでも今日の社会を中心テーマとしており、小林の立場が右翼的か左翼的かは、たとえ小林の思想方向に変化が無くとも、そのときどきの政策次第で相対的に変化している。自由民主党が米国の侵略戦争を支持し憲法改正を主張し、共産党が天皇制を認め憲法護持を主張する今日、もはや左右対立の構図で理解することは殆ど意味を持たないのではなかろうか。

小林の思想は共同体の秩序維持に資した伝統的価値観に根差しており、その価値観に立脚し、喜怒哀楽、時には皮肉を漫画作品として表現している。従って、政治

⁵⁴¹ 小林前掲「商売のために描いているが、何か？」小林前掲『本家ゴーマニズム宣言』、171-178頁。

的イデオロギーには拘束されていない。漫画作品に表現される皮肉が持つ娯楽（エンターテインメント）性を理解すれば、小林の思想はむしろ理想主義的である。

小林の理想主義的思想は、小林が薬害エイズ訴訟を通し社会活動を展開したことから窺えよう。小林は薬害エイズ患者やそれを支援するボランティアの学生らを物心両面から支援し、「支える会」の代表をつとめると共に自ら集会に参加、更にその活動を漫画作品として発表することにより活動の全国規模化に貢献した。薬害エイズ訴訟の結末は原告の勝訴に終わったが、小林と小林に支援された同会の指導層は訣別する結果となった。小林の理想主義的感覚と「支える会」の若者たちの現実社会に於ける成長や現実認識の差異が大きくなったのである。

小林自身がテロ攻撃の標的になった一連のオウム真理教事件と具体的支援活動をともなった薬害エイズ訴訟はほぼ同時進行していた。当該諸問題に関わることを通し、小林は自身が理想とする、情が個を連帯させ価値を共有する社会へ期待と情が希薄になった現実社会の乖離を認識したのではあるまいか。筆者は、この経験が「ゴーマニズム」の思想性を一層強化し、小林をして『ゴーマニズム宣言』を「思想漫画」と呼称せしめるに至ったと考える。

『靖國論』は、小林が日本の伝統と看做すところの保守主義的問題意識を代表する漫画作品である。そこで主張される日本の伝統的価値観の「公」は個人の「公」（共同体或いは公共）意識の集積として理解される。しかしながら、個人の「公」意識は希薄となり、「私」が集積した個人主義社会で、小林は「公」の旗印を掲げているのである。

結論的に、小林よしのりの『靖國論』は、今日の日本人に伝統的道德観を説く書籍であると言える。同書は「靖国問題」を通し、利己主義と自己中心社会に対する小林の批判的見解を提示している。その社会批判姿勢は、『戦争論』以降「ゴーマニズム」に一貫して提示されたものである。

『靖國論』の特異な点は小林が宗教概念に踏み込んでいる点であり、小林が「英

「英霊」の意思や現象界のわれわれの認識を論じている点は、思想書として評価されるべきである。しかし、小林の議論は次の疑問を引き起こすであろう。即ち、「英霊」は、彼らが「死後靖国神社に行く」と言ったから靖国神社に居るのか、われわれが「英霊」は靖国神社にいと観念するから居るのか、或いは、われわれが合祀を認知するから居ると考えるかということである。もし、英霊の言葉が存在理由ならば、合祀という行為は、彼らにとって無意味であろう。また、われわれの観念が存在理由ならば、慰霊の場としての靖国神社の存在意義は小さくならざるを得ない。慰霊祭の会場が何処であろうと、出席者が霊は居ると観念すればその場に居るということになるからである。

小林の議論は最終的に「公」概念の価値観の上に成立する。何故なら、慰霊にせよ追悼にせよ、式典は公的に行われるからである。式典会場に於いて、個人が如何なる観念を持つか知り得ない。共同体の社会通念として、霊の存在を仮定する必要があるのである。しかし、価値観としての「公」が具現すべきと小林が期待するところの共同体としての「公」、即ち現実社会は小林の理想とは異なる。それ故に小林はゴーマニズムを以て社会批判をしなければならないのである。小林の議論の問題点は、私利私欲を超越した価値観としての「公」と共同体としての「公」が混同している点と、「公」の相対性を一方向からしか論じていない点である。

小林が靖国神社、靖国信仰に対し畏敬の念を持っていることは明白であろう。しかし、「靖国問題」は、小林が考えるところの伝統主義を社会に訴える為に利用されているとも言える。即ち、小林は「靖国問題」を通して読者に価値観としての「公」を意識させているのである。いわゆる靖国問題を「問題」視している訳であり、小林の「英霊」に対する畏敬の念に疑いの余地は無かろう。

小林は天皇を「公」の体現者として描いており、「それはまさしく『無私』の存在」と書いている。⁵⁴² 加えて、「天皇」を「郷土」や「国」と同義に扱っているため、「天皇」は「公」に埋没せざるを得ない。それを避けるには、天皇をタブー

⁵⁴² 小林よしのり「今上天皇の大御心・御即位二十年・福祉」小林前掲『天皇論』、124頁。

として公論から分離せざるを得ず、小林は公論を主張しつつ、それを体現すべき天皇を公論の外に置くというダブルスタンダードを採用しているのである。

小林よしのりの漫画作品が如何にして影響力を持ち得るか。その回答は『靖國論』と『天皇論』の論理に内在している。漫画作品の影響力については、単に発行部数が影響する訳ではなく、プロットの普遍性と現代性にある点は本章第6節で述べた通りであるが、『戦争論』に於いては、その構成が工夫され、読者は現在と過去を往復運動しつつ作品を読み進む。小林は「戦争」をあくまでも議論の為の話題とし、主題を普遍性と現在性のある「個と公」に置いているのである。

『靖國論』に於いては、靖国神社が顕彰施設たることを主張しつつ、霊概念を導入することにより現実世界から分離し、疑似的普遍性を演出しているのである。筆者が「擬似的」と言う所以は、小林も或いは筆者自身も靖国神社に合祀された「英霊」と縦軸の継承関係が無い。靖国神社の説明によると、一旦合祀された英霊は靖国大神となるため、ここに縦軸関係を導入する為には「公」概念を持ち込む必要性が生じるのである。小林は、『戦争論』には「戦前との歴史の回路が断たれている多くの戦後の若者たちにとって、歴史のタテ軸を自覚する普遍性が」と自負している。⁵⁴³

『天皇論』に於いても「公」概念の導入により普遍性を創出していることを指摘し得るのではなかろうか。小林は同書最終頁に今上陛下をモデルとした顔の無い天皇を描き、「天皇は我々の魂の中にある！」と書いている。⁵⁴⁴ 制度としての天皇制（天皇の制度）に対する批判と理解するならば的を射た批判である。しかし、実態の天皇を超越した天皇、即ち大御心を想定することが既存の秩序を崩壊させる危険を孕むことは日本近代史の証明するところである。それは、天皇を形而上の世界に駆逐し大御心を普遍化する論理である。

『戦争論』に於ける現代性は、後年に発表される漫画作品に先行作品が描かれ、

⁵⁴³ 小林よしのり『世論という悪夢』小学館、2009年、137頁。（初出：「わしズム」2006年夏号）。

⁵⁴⁴ 小林前掲「国民主権は国体にあらず」小林前掲『天皇論』、379頁。

実世界に於ける現実性としても維持されている。2016（平成 28）年発表の『民主主義という病』に於いても余白で『戦争論』三部作と合わせ『新戦争論 1』を紹介、漫画内にも『戦争論』三部作を描き、民主主義を国民主義としてのナショナリズムに連結させるとともに、「死者も民主主義に参加させねばならぬ」と書き、『靖國論』とも連結させ、過去の作品に現代性を持たせているのである（図 61）。⁵⁴⁵

⁵⁴⁵ 小林よしのり「『平和』とは『平定』のことである」『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 民主主義という病』幻冬舎、2016 年、137・146 頁。

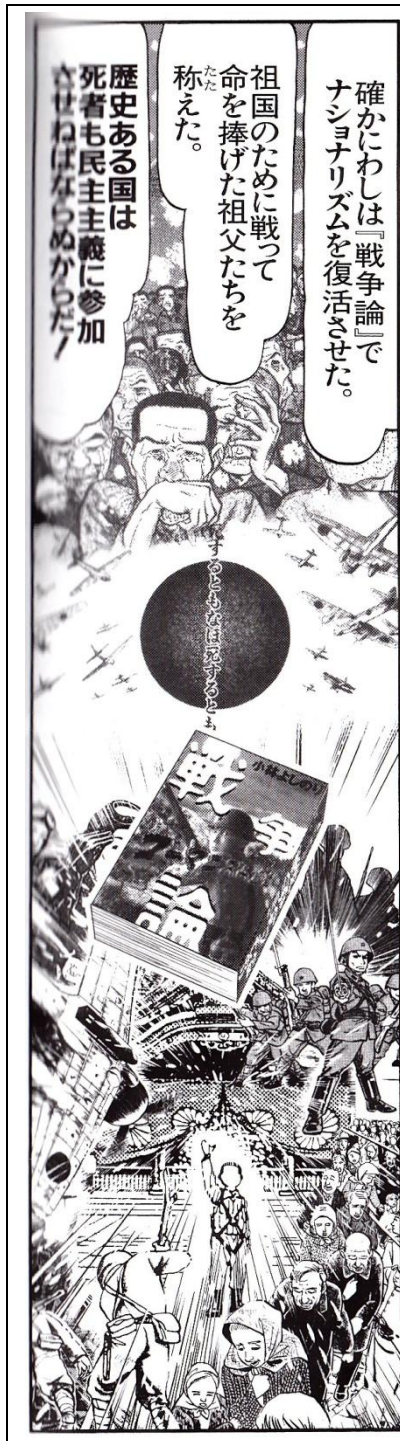


図 61. 『戦争論』と『靖国論』の現代性

コラージュ画像は『戦争論』第 21 章「個を超える勇気と誇り」の再録で、元来は、上部の嗚咽する兵士たちは第 5 章「南の島に雪が降る」、次の航空機群と太陽は第 21 章「個を超える勇気と誇り」、本の背景左の敬礼する航空搭乗員と靖国神社正面に建つ搭乗員、左航空機腹面は第 7 章「特攻精神」、背景右下の抜刀兵士と下部左の二名の兵士の後ろ姿は第 3 章「若者のためにスケールのデカイ日本の戦争の説明」、下部右のユダヤ人の列は第 18 章「軍部にだまされていたのか？」から。

小林よしのり『『平和』とは『平定』のことである』『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 民主主義という病』幻冬舎、2016 年、142 頁

第五章

小林よしのりと水木しげる

- 世界観と戦争観 -

人間的な出来事のすべてが、最後に何事もなかったような風景のなかにとけこんでおわるのだ。この手法は、水木の思想そのものといってもいい。

- 夏目房之介 - ⁵⁴⁶

1. 序論

本章では、小林よしのりと対照する目的で、自らアジア・太平洋戦争に於ける激戦地ニューブリテン島での戦闘、負傷経験を持つ漫画家、水木しげるを取り上げる。水木しげるは『ゲゲゲの鬼太郎』の作者として知られるが、後年には歴史叙述的漫画作品、自叙伝的漫画作品の他、活字書籍も多数出版している。水木は漫画家としてのみならず、アジア・太平洋戦争の証言者としても活躍しており、その証言により、水木の漫画作品の解釈には一定の担保が与えられる。また、水木が自身の漫画作品の題材に小林よしのりの『戦争論』を取り上げている点も、筆者が水木を選ぶ理由である。

水木は独自の漫画論を展開し、手塚治虫に代表されるストーリー漫画との差別化を主張したが、小山昌宏は水木の漫画論を評し、「従来のマンガ、ストーリーマンガとどのように違うのか結論的に明示されることはなかった」と書く一方、水木の漫画作品を「創作者と読者の間に何らかの『問い』が存在するのではないか」という先見性が見受けられる」と評価している。⁵⁴⁷

また、ローマン・ローゼンバウムは、小林よしのり『戦争論』及び後期『ゴーマニズム宣言』並びに山野車輪『嫌韓流』を右翼的言論であると批判しつつ、その対

⁵⁴⁶ 夏目房之介『マンガと「戦争」』講談社、1997年、49頁。夏目は水木作品の終幕表現を「ふつうさ」と表現し、そこに普遍性を認めている。

⁵⁴⁷ 小山昌宏『戦後「日本マンガ」論争史』現代書館、2007年、29-30頁。

極に位置する反戦的主張として水木しげるの「戦争と日本」を例示している。⁵⁴⁸

2. 水木しげる

水木しげる（本名、武良茂）は1922（大正12）年3月8日、武良亮一、琴江夫妻の次男として大阪府粉浜村に誕生した。⁵⁴⁹ しかし、水木が生後一箇月の時、一家で祖父辰司が建てた実家の所在地鳥取県境港に「帰郷した」ため、水木にとっては境港が生まれ故郷に等しい。⁵⁵⁰ 水木の自叙伝的作品は境港を題材とした幼少期から始まるのが常であり、『私はゲゲゲ』の冒頭地図に於いても、宍道湖並びに中海を中心に、境港、加賀の潜戸、出雲、松江、米子の位置が示されている（図62上）。後に水木は、境港が神話の豊富な出雲の国（島根）と伯耆の国（鳥取）の境に立地しており、島根に感じた神秘的雰囲気と自らの幼少時の体験を関連付ける回想をしている。島根県の松江を描いたコマには「目に見えない／神々」が描かれており、不可視の神秘性は水木漫画作品の重要な要素である（図62下）。⁵⁵¹

⁵⁴⁸ ローマン・ローゼンバウムは、小林よしのり『戦争論』及び『ゴーマニズム宣言』、並びに山野車輪『マンガ嫌韓流』を右翼的言論と批判しつつ、その対極に位置する反戦的主張として水木しげるの「戦争と日本」を例示している。「戦争と日本」は1991年、小学館の児童向け雑誌『小学六年生』2月号に発表された作品で、想定読者は小学校6年生である。Roman Rosenbaum 'Introduction: the representation of Japanese history in manga' Roman Rosenbaum "Manga and Representation of Japanese History" Routledge, 2013, Oxon, pp1-17（参考）。

⁵⁴⁹ 水木の出生地を鳥取県境港と記す書籍が多数あるが、後年訂正される傾向にある。

⁵⁵⁰ 水木しげる『完全版水木しげる伝（上）』講談社、2005年（初版『ボクの一生はゲゲゲの楽園だ』、講談社、2001）では、生後1箇月で境港高松町の祖父の家に帰郷、水木しげる『水木サンの幸福論』日本経済新聞社、2004年では、二歳ぐらいの時に、父の故郷である鳥取県境港入船町に帰った旨が記述されている。

⁵⁵¹ 水木しげる『私はゲゲゲ』角川書店、2010年、9頁。



図 62.

上、周辺地図

加賀の潜戸は本節図 30 に描かれている。

下、松江の神秘性

目に見えない神々が表現されている。

水木しげる『私はゲゲゲ』角川書店、2010 年、9 頁

自然環境に加え、「のんのんばあ」こと景山ふさ氏（以下、のんのんばあ）の影響は大きく、幼少期を題材にした作品にはのんのんばあが頻繁に登場しており、後年水木は『のんのんばあとオレ』を出版している。⁵⁵² 「のんのん」とは幼児語で祈りを意味し、「のんのんばあ」とは即ち「祈り屋婆さん」の意味である。しかし、水木によると、のんのんばあ自身は祈祷をする程の才覚は無く、夫が「拝み手」であった。⁵⁵³

⁵⁵² 水木の自叙伝、水木しげる『のんのんばあとオレ』1990 年、筑摩書房（初版 1977 年）。同作は 1991 年に NHK でドラマ化、翌 1992 年には続編も放映され、文化芸術作品賞を受賞。漫画版『のんのんばあとオレ』はドラマと同年に出版されている。漫画版のフランス語訳は 2007 年、アングレーム国際マンガフェスティバルで作品大賞を受賞。

⁵⁵³ 水木しげる『ねぼけ人生』（新装版）筑摩書房、1999 年、23 頁。（初版 1982 年）。

のんのんばあは当初、水木の家で女中をしていたが、水木が小学校一年の頃、夫と死別し、爾後水木の家で「雑用やら子供の世話をして生活するようになった」。⁵⁵⁴ 水木が父亮一氏に聞いた話によると、のんおんばあは二十歳で祖父の家に女中奉公に来てよく働いたが、駆け落ちしてひどい目に遭い、戻ってきたところ、それを哀れんだ祖父が家を建ててやったとの事である。従って、水木の家（武良家）に対する恩義も感じていたであろうと推測される。のんのんばあは幼児であった水木を「しげーさん」とさん付けで呼んでいる。

のんのんばあは幼少の水木を世話しつつ、自身の宗教観にもとづく話を語り聞かせた。例えば、小学校に入学前の水木を加賀の潜戸へ連れて行った際、その洞窟が「死者の国」へ続くものであると説いている（図 63）。水木は「私が妖怪の絵やマンガをかくようになったのは、子どものときに、近所に、“のんのんばあ”というおばあさんがいたから」、「ぼくはのんのんばあに現実とは別の世界があることを教わった」と書いている。⁵⁵⁵

⁵⁵⁴ 同上。

⁵⁵⁵ 水木前掲『のんのんばあとオレ』、11 頁、水木しげる『私はゲゲゲ』角川書店、2010 年、34 頁。（初版は水木しげる『神秘家水木しげる伝』角川書店、2008）。

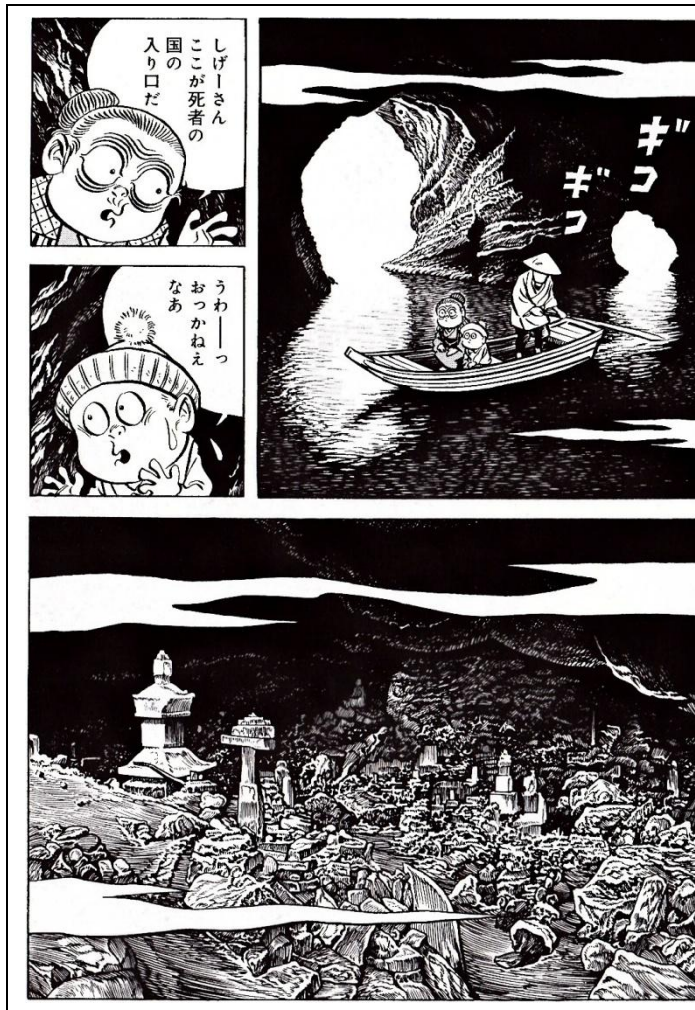


図 63. 加賀の潜戸

「しげーさん」とは水木の呼称、「茂さん」。作品では、のんのんばあが、洞窟が黄泉の国へ続くと説明する。

水木しげる『私はゲゲゲ』角川書店、2010 年、13 頁

水木の回想では、「実際に」幽霊らしきものを目撃したのは水木が小学校三年生の時、実の祖母が亡くなって二日目の夜であった。漫画には水木の驚きと恐怖が描かれており、吹き出しには「ゆ／幽霊か／……」とのみ書かれている（図 64）。⁵⁵⁶ 翌朝の食卓の絵では、父親が「ほう／でたか」、母親が「やっぱりなァ／四十九日までは／魂は家におるけん」と、幽霊らしきものの出現や魂の存在が恰も当然事のように話される様子が描写されている。⁵⁵⁷

また、水木の記憶では、「実際／当時は／人がよく死んだ」、「間引きも／よく行われ／ていた」し、女郎の自殺死体もしばしば目撃されている。⁵⁵⁸ 海岸には水死体が打ち上げられていることもあったという。

⁵⁵⁶ 水木前掲『私はゲゲゲ』、19 頁。

⁵⁵⁷ 前掲書、20 頁。

⁵⁵⁸ 前掲書、15 頁。

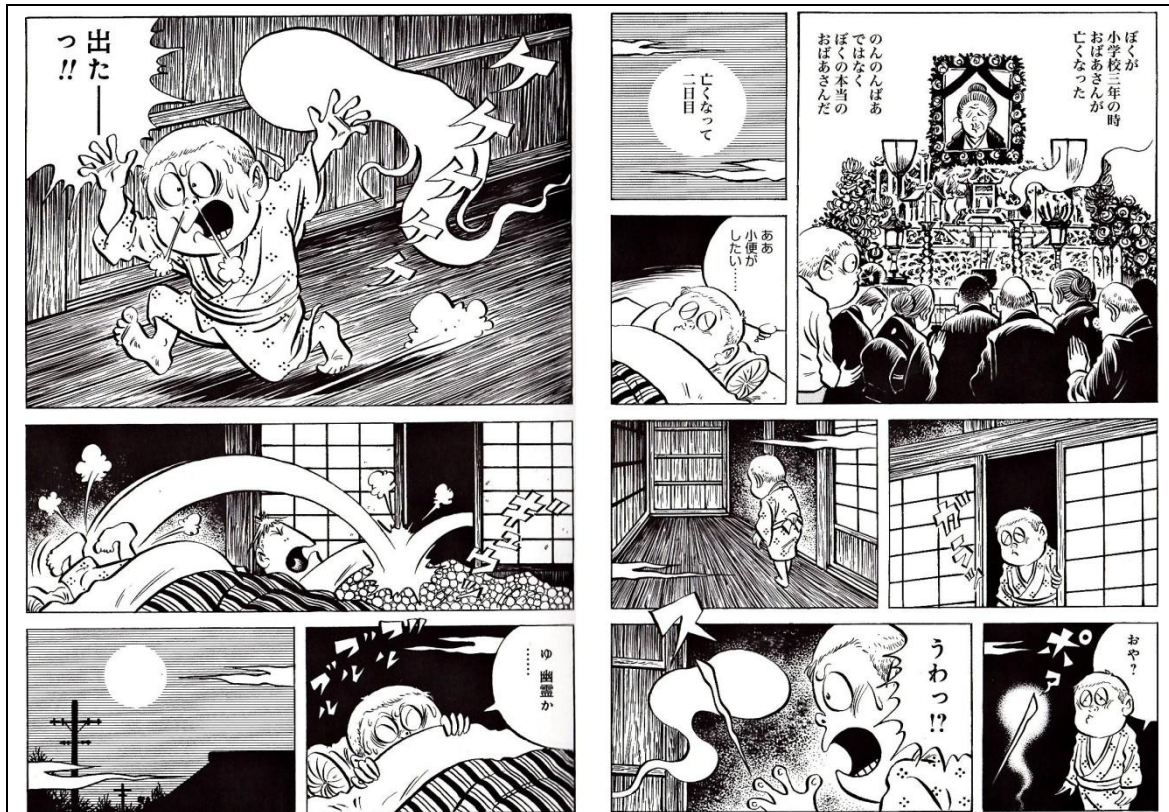


図 64. 水木の祖母他界の二日目の夜

水木しげる『私はゲゲゲ』角川書店、2010 年、18 - 9 頁

水木によると、のんのんばあは、寺にもよく幼少の水木を連れて行った。水木はその際の様子を活字でも以下のように鮮明に描写している。

寺には地獄極楽の絵がかかっている。僕は、その絵をじっと見入る。本当にある世界を描いたものだと思っているから、真剣になるのだ。そこへ、のんのんばあの真に迫った解説が入るのである。⁵⁵⁹

当該回想場面も漫画化されており、寺が境港市所在の曹洞宗の名刹、巨嶽山正福寺であることが明示されている（図 65）。⁵⁶⁰ 同寺に於いて水木は、のんのんばあの解説の後、夢か現かわからぬ世界で閻魔大王に地獄に來いと怒鳴られ、うなされ

⁵⁵⁹ 水木前掲『ねばけ人生』、24 頁。水木前掲『のんのんばあとオレ』にも同様の記述がある。

⁵⁶⁰ 曹洞宗巨嶽山正福寺は鳥取県境港市中野町に所在、2002 年には境内に水木しげるの記念碑が設置された。

る（図 66）。のんのんばあに呼び起こされ我に返るのであるが、のんのんばあの台詞として、「しげーさんは／感度がいいけん／生きながら／あの世を／見たんだな」と書かれている。⁵⁶¹ この台詞がのんのんばあの実際の発話か否かは不明だが、水木は「もう一つの世界の解説者として、のんのんばあは必要欠くべからざる人であった」と活字書籍でも回想しており、「私が妖怪の絵やマンガをかくようになったのは、子どものときに、近所に“のんのんばあ”というおばあさんがいたから」、「ぼくはのんのんばあに現実とは別の世界があることを教わった」、と語っている。⁵⁶² これらは異界の存在を前提とする水木の信念が現れた表現である。



図 65. 正福寺

上、のんのんばあに連れられ正福寺鐘楼門をくぐる水木

下、寺宝の六道絵（極楽絵と地獄絵）を初めて見る水木に絵の解説をするのんのんばあ。

水木しげる『私はゲゲゲ』角川書店、2010年、35頁

⁵⁶¹ 水木前掲『私はゲゲゲ』、40頁。

⁵⁶² 水木前掲『のんのんばあとオレ』、11頁、60頁、水木前掲『私はゲゲゲ』、34頁。

水木は後に、「のんのんばあの信仰は、わけのわからない奇妙な信仰だった」と回想しているが、漫画の中でのんのんばあは「おんころころ／せんだり／まとうぎ／そわか」と薬師如来咒（真言）を唱えている（図 67）。⁵⁶³ 水木作品に描かれている正福寺は曹洞宗寺院だが、のんのんばあの家の「秘薬」は元密教寺院の一畑寺からビール瓶に詰めて持ち帰った正体不明の液体であったという。⁵⁶⁴



図 66. 夢現

夢現の状態で閻魔大王に怒鳴られる水木

水木しげる『私はゲゲゲ』角川書店、2010 年、38 頁

⁵⁶³ 水木前掲『完全版水木しげる伝（上）』、45 頁、水木しげる『コミック昭和史第 1 巻関東大震災～満州事変』講談社、2004 年、60 頁他。薬師如来咒は、「おんころころせんだりまとうぎそわか」とも表記される。

⁵⁶⁴ 984（寛平 6）年創開の臨済宗妙心寺派醫王山一畑寺（いちばたじ）は 1953（昭和 28）年創設の一畑薬師教団の総本山でもある。創建当初は天台宗（密教）に属した。島根県出雲市小境町に所在。



図 67. のんのんばあ宅

自宅で薬師如来咒を唱えるのんのんばあと隣に座る水木

水木しげる『完全版水木しげる伝（上）』講談社、2005 年、45 頁

水木の回想によると、近所の海岸に打ち上げられる死体が多く、幼少時代は「死体に異様なほどの関心」を持った。⁵⁶⁵ ある日には人の死を「実験」すべく、弟の幸夫氏を海に突き落とそうとしており（図 68）、漫画作品以外にも活字書籍や対談で語られている。⁵⁶⁶ 幼馴染の「松ちゃん」をはじめ、近所の子供たちははしかにより死亡している。⁵⁶⁷ のんのんばあも結核感染に因り死亡、幼少の水木には、想像の死後の世界と現実の死が一続きのものとして理解されたのであろう。

⁵⁶⁵ 水木しげる「わんぱく三兄弟、大いに語る」水木前掲『水木サンの幸福論』、197 頁。

⁵⁶⁶ 動機については、「海に落として殺してみようと思って」（水木前掲『完全版水木しげる伝（中）』所収の 2004 年インタビュー）、海岸の潮流の速いところが面白く感じ、「そこへ“人”を流したらさぞ面白いだろうと」（水木しげる『カランコロン漂流記』小学館、2010 年）など、ニュアンスに微妙な差異が認められる。

⁵⁶⁷ 「松ちゃん」の死因は、はしか（『完全版水木しげる伝』）の他、疱瘡（『カランコロン漂流記』）、肺炎（「わんぱく三兄弟、大いに語る」）と記述されている。



図 68. 実験

弟幸夫氏を自宅前の海へ突き落す水木とそれを止めにかかる兄宗平氏。

水木しげる『私はゲゲゲ』角川書店、2010 年、43 頁

3. 小林善範と武良茂 - デビュー前の小林と水木

小林よしのりと水木しげる、それぞれの幼少期に於いて興味深い共通点が認められる。第一に、両者ともに日常生活の中に「死」が身近にあった点が挙げられよう。次にその死者の霊、或いは幽霊を見た旨を作品に於いて主張している点が挙げられる。また、両者ともに仏教寺院の中で眠り、夢の中で、小林は不動明王に、水木は閻魔大王に責められ苦悶している。両者とも漫画作品中に真言（咒）を唱える場面を描いており、思想的背景に密教系仏教の世界観を示唆している。従って、両者の漫画作品に於ける神秘性の最終的担保として非現象界（異界）の存在が前提になっていると言える。

小林が小学生の時から虚弱体質で、漫画を描く事により自己の存在感を主張して

いていたのに対し、水木は腕白で、多趣味、高等小学校在学中の 1935（昭和 10）年、水木 13 歳の時には個展が開催され、毎日新聞に記事が掲載されている。後に水木は、手塚治虫や赤塚不二夫と並ぶ漫画界の巨匠となり、小林も『ゴーマニズム宣言』によりその独自性を評価されるのであるが、水木、小林、両者ともに少年期に人間の生と死に対する思想的探求があったと推察できよう。

しかし、小林が虚弱体質ながら地元福岡で中学、高校、大学と進学し、大学在学中に描いた漫画で 1975（昭和 51）年、24 歳でプロデビューし、漫画家としてスピードコースを歩んだ一方、水木は高等小学校卒業後、就職と解雇、学校への入退学を繰り返しつつ絵の勉強を模索している。

4. 武良茂青年の同時代的苦悩

小林と水木の人生経験に於ける決定的な相違が両者の青年期に認められる。即ち、戦争体験有無である。水木の場合、単なる同時代的戦争経験にとどまらず、1944（昭和 19）年 4 月の末には南方の最前線バイエンに於いて唯一の生き残りとなり、間もなく連合軍の爆撃により左腕を失っている。

このような極めて過酷な戦争体験をしているにもかかわらず、水木はその特異な人柄とユーモラスな作風から、死を直視した苦悩が見落とされる虞がある。出征後の水木は、その独特の性格に基づく特異な行動のために上官に精神異常を疑われた旨を後年作品に描いているが、出征前の水木は、召集令状を受け取り同年代の他の青年同様、衝撃を受け、死の恐怖、出征の不安を、「静かな夜、書き取りのペンの音が響く。その背後には静かな夜のやうに死が横はつてゐる。その心細さよ」とその手記に書き記している。⁵⁶⁸

水木の手記は先述の引用に始まり、2 日（1942 年 10 月）付けで「今日も恥多き日だった」と書かれており、同年 11 月 7 日夜までの精神的救済を求める苦悩が綴られている。

⁵⁶⁸ 水木しげる「水木しげる出征手前手記」『新潮』2015 年 8 月号、新潮社、145-166 頁。

水木の苦悩は自身に自己否定を強いる苦悩であり、「深く知らなければ救はれない」、「自我を否定する時は今だ」、「自我を否定しないのは怠惰だ」書きつけ、基督教、仏教、哲学、博物、と漁るかの如く救いの道を求めている。⁵⁶⁹

2 日に「自我を否定しないのは怠惰だ」と書いた水木は、28 日、「依然として怠惰」と書きつつも、50 年後の小林よしのりが描く「公」と「私」の葛藤を彷彿させる以下の記述が認められる。⁵⁷⁰

死は恐ろしいさ、しかし怠惰で生きるよりは、死ぬる方が勝つてゐる。
怠惰なる生は無意義である以上、死をかけても無意を有意とするのが人間の使命ではないか。
怠惰を克服するために死すとも、怠惰と妥協して生き長らへるよりはましである。まし所ではない崇高である。⁵⁷¹

上に引用した水木の言葉は、人間本来の生存欲求と当時の「公」との葛藤を意味するのみならず、「公」の優位を自己に納得させようとする水木の激しい努力を証明するものである。即ち、当時の「公」は人間本来の生存を否定するものとして機能していたのである。

5. 南方最前線経験：陸軍第 38 師団ブンゲン支隊

水木は 1942（昭和 17）年、20 歳で応召、鳥取連隊に入営、翌 1943（昭和 18）年の秋、帝国陸軍第 38 師団の一員として南方戦線ニューブリテン島に送られている（地図 1）。⁵⁷² 同島南部は既に豪州軍の支配下にあり、日本軍は同島北部で、陸海軍司令部、飛行場のあるラバウル(Rabaul)を守備すべく、水木らはラバウル(司

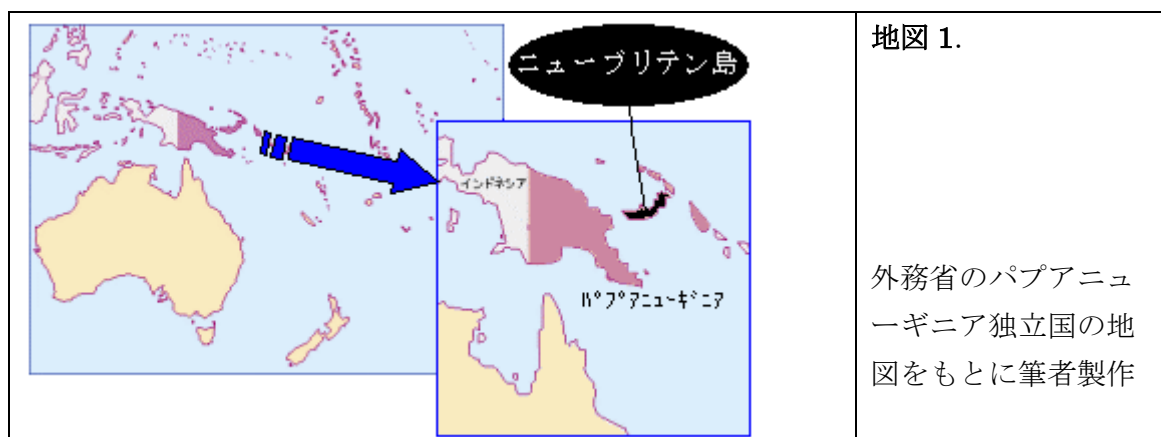
⁵⁶⁹ 同上。

⁵⁷⁰ 同上。

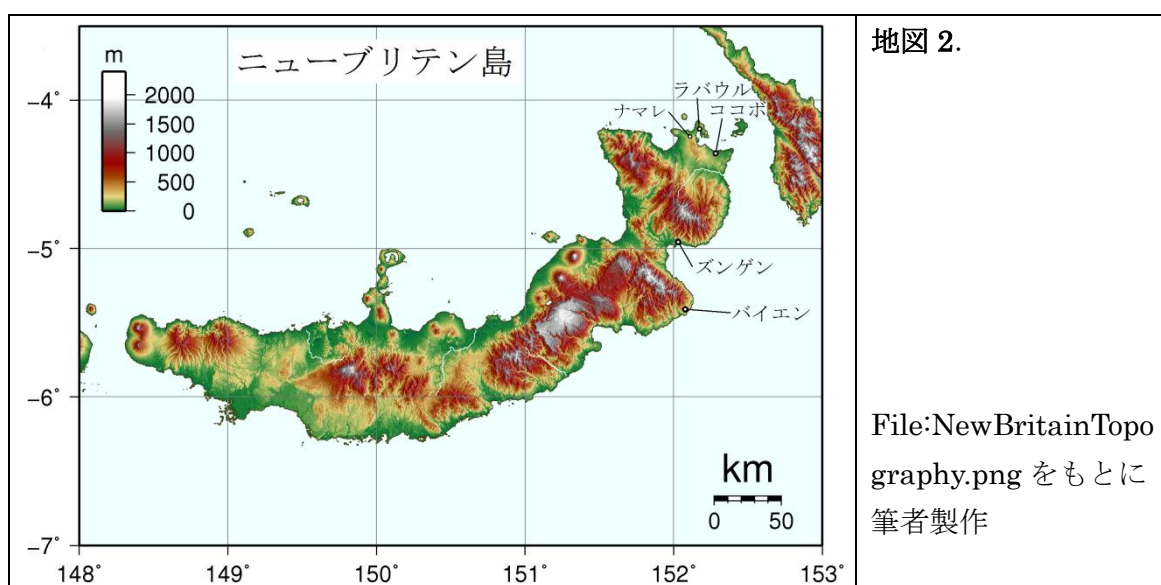
⁵⁷¹ 同上、161 頁。

⁵⁷² ニューブリテン島は欧州各国の植民地を経て、第二次大戦中は日本が占領、主要都市ラバウルには海軍航空隊の基地が置かれた。第二次大戦後は豪州の統治下に置かれるが 1975 年独立、パプアニューギニア独立国の一部を形成する。尚、当時日本ではニューブリテン島を「ラバウル島」と呼称、また、日本軍はナマレやココボを含む同島北東部を「ラバウル地区」と呼称している。

司令部) の南東約 30 km のココボ (Kokopo) に上陸、約 400 人 (ズンゲン支隊) は南の前線ズンゲン (Zungen) に派遣された。水木は、バイエン分遣隊としてそこから更に豪州軍に最接近した最前線バイエン (Baien) に向かった (地図 2)。



参考 http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/mail/bn_t_no39.html



参考 <http://wikitravel.org/upload/shared//2/2c/NewBritainTopography.png>

水木の話では、敵襲により分遣隊は水木以外全員戦死、中隊に帰還するもそこで爆撃により左腕を失い、更に「みんな死んだからお前も死ね」と自決を強要される。

573 加えて、師団司令部は、既にズンゲン支隊全員「玉砕」を大本営に報告してい

たために、辻棲を合せるべく、ズンゲン支隊に玉砕を強いたのである。⁵⁷⁴ 水木はその後マラリアを発症し、以降同島ラバウル周辺で再発を繰り返す。1945（昭和20）年、同島のナマレ(Namaray)にて終戦を迎え、翌1956（昭和21）年3月復員。時に水木24歳であった。

水木の戦争体験に於いて特異な点はナマレ滞在中の原住民族トライ族との交流であるが、それ以前に、水木はニューブリテン島に上陸するや、暇を見つけては原住民「カйка族」の集落を訪問し「トモダチになっ」ている。⁵⁷⁵ 水木は上陸間も無い当時を回想し、「ノンキな旅行者」に近い気持ちだった、「とにかく、毎日面白いのだ。……要するに、ものめずらしいというのが“喜び”なのだナ」と書いている。

⁵⁷⁶ 水木はその後、同島の最前線のズンゲン、更にはバイエンへと派遣されたのである。⁵⁷⁷ 行軍中の気分を、「ジャングルもなぜか“死”のにおいがするような気がして、なんとなく浮き浮きできない」と書きつつも、蝶や鳥、緑の美しさを絶賛、最前列を行軍する気分を「前に人がいないだけで、木の葉の色も花の色もぜんぜん違い、さらに素晴らしく感じる」、「半ば天国気分だった」と回想している。⁵⁷⁸ しかし、分隊10名はバイエン付近で連合軍の爆撃を受け、歩哨に立っていた水木以外全員死亡、水木はボーイと呼称される敵側に通じた原住民の追跡を逃れつつ中隊に帰還している。⁵⁷⁹

http://cgi2.nhk.or.jp/shogenarchives/shogen/movie.cgi?das_id=D0001130006_00000、（アクセス日：2014年4月8日）。

⁵⁷⁴ 澤邊邦雄氏は師団司令部の認識と驚きを証言している。NHK前掲アーカイブス「澤邊邦雄さん」http://cgi2.nhk.or.jp/shogenarchives/shogen/movie.cgi?das_id=D0001100607_00000、（アクセス日：2014年4月8日）。また山口政七氏は、師団司令部の「メンツに殺されたようなもの」と証言している。NHK前掲アーカイブス「山口政七さん」

http://cgi2.nhk.or.jp/shogenarchives/shogen/movie.cgi?das_id=D0001100560_00000、（アクセス日：2014年4月8日）。

⁵⁷⁵ 水木しげる『水木しげるのラバウル戦記』筑摩書房、2010年。トライ族はトーライ族とも表記される。「カйка族」については、水木は同書に、彼ら自身がそのように名乗った旨を記している。ナマレはラバウル所在の海軍司令部から南西約9.6kmの小集落。

⁵⁷⁶ 水木前掲『水木しげるのラバウル戦記』、37頁。

⁵⁷⁷ 水木しげる『水木しげるの娘に語るお父さんの戦記』河出書房、2007年では「ダエン」と表記されている。

⁵⁷⁸ 水木前掲『水木しげるのラバウル戦記』、129頁。

⁵⁷⁹ 2010年4月28日収録のNHKのインタビューでは、人員を10名と証言、『水木しげるの

左腕を失った後、ラバウルの洞窟の野戦病院を抜けだし、「現地人の村」を「天国が待ちうけているような気持ちで」探していた際の自然描写が次の図である。⁵⁸⁰ 曰く、「虫はうたい／たくさんの／鳥が舞って／いた…」(図 69)。⁵⁸¹ 他にも、戦地ニューブリテン島ラバウル周辺、ナマレのトライ族の集落に於ける描写は、際立って楽園化されている。小鳥がさえずり、花が咲き、食物が豊かにあり、大酋長に椅子をすすめられ食物をほおぼる水木の満足な様子が描かれている(図 70)。また、人々は愛嬌ある表情をしており、殊に「高床式の家に住む花嫁のエプペは美人で」、水木は「十五、六歳だった」と回想しているが、ユーモラスな人物描写の水木作品の中で際立って美しく描かれている(図 71)。⁵⁸² 水木はインタビューの際この点を指摘され、軍隊には女性がいなかったため、エプペが「余計にキレイに見えたのかもわからん」と答えている。⁵⁸³

娘に語るお父さんの戦記』では「人員は九人」と記述。NHK 前掲アーカイブス「水木しげるさん」。

⁵⁸⁰ 水木前掲『完全版水木しげる伝(中)』291 頁、水木しげる『コミック昭和史第 6 巻終戦から朝鮮戦争』講談社、2004、34 頁他。

⁵⁸¹ 同上。

⁵⁸² 水木前掲『水木しげるの娘に語るお父さんの戦記』、152 頁。水木の初期作品の人物描写にはおどろおどろしいものがあり、必ずしもユーモラスとは断言できないが、おどろおどろしさの中にもどこことなく朗らかなユーモラスが感じられる作風である。

⁵⁸³ 水木しげる『ゲゲゲの人生わが道を行く』NHK 出版、2010 年、143 頁。1973 年、水木はニューブリテン島を再訪、エプペと再会し、以降再訪を重ねた。



図 69. マナレ付近

上、左腕を失った後、野戦病院とされていた洞窟を抜けだし、原住民の村を探す水木

下、ジャングルの自然描写

水木しげる『完全版水木しげる伝 (中)』講談社、2005 年、291 頁

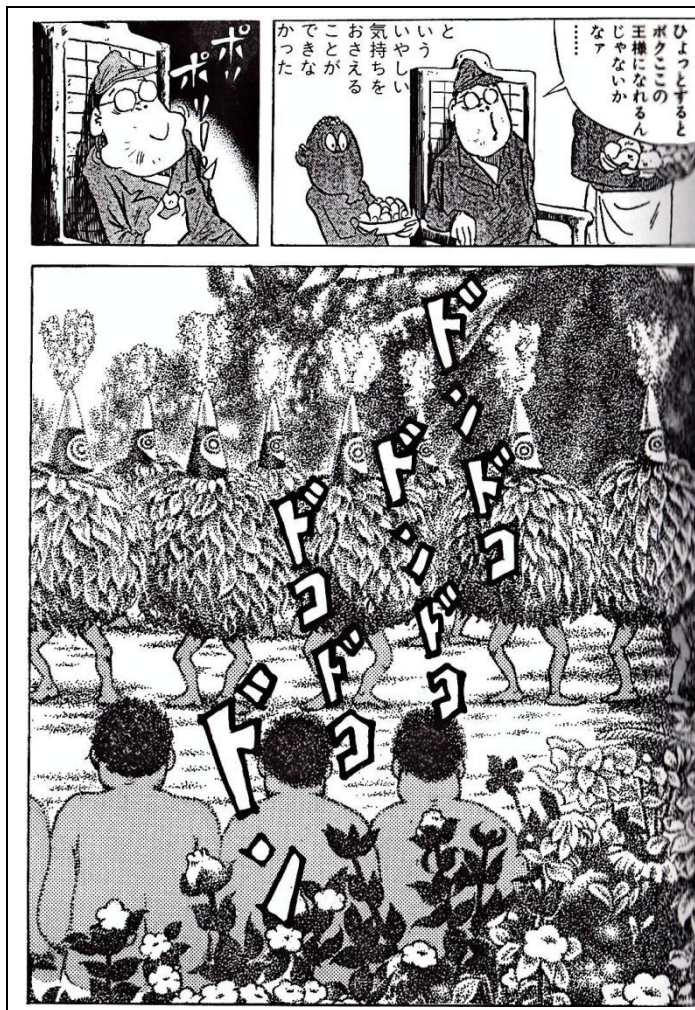


図 70. トライ族の集落

大酋長にすすめられた椅子に座り、シンシン（舞踊）を見物する水木

水木しげる『完全版水木しげる伝（中）』講談社、2005年、331頁

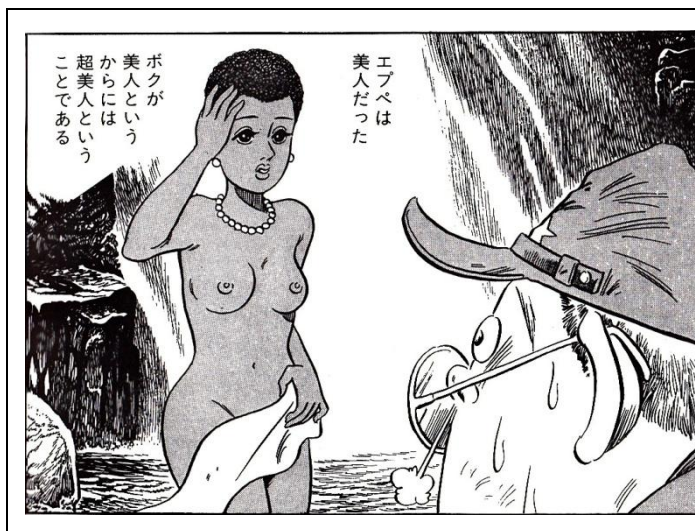


図 71. 「美人」エプベ

水木しげる『完全版水木しげる伝（中）』講談社、2005年、342頁

水木のトライ族の集落訪問までの軍隊経験に於いて、特に注意を払いたい点が二点ある。第一点は、水木が初年兵であり、前線に補充が来ず、終戦まで最下級兵であったのに加え、特異な性格故に人一倍上官に殴られていた点である。第二点は、バイエンで唯一生き残ったにもかかわらず、中隊に帰還するや自決を命令された点である。水木は「それ以来、どうも、中隊長も軍隊も理解できなくなった。同時にはげしい怒りがこみ上げてくるのを、どうすることもできなかった」と書いている。⁵⁸⁴ また、2010（平成22）年、インタビューに答え、常に殴られる故に殴られないようにする事のみを考えるようになり、他の事に思考が及ばなくなったと証言している。⁵⁸⁵ 自決命令については憤懣やるかたなく、「死ねって言うわけですよ、死ねって」と何度も反復し、「ばかばかしくて。だから、命令は聞いたけど、だまって生きていた」と述べている。⁵⁸⁶ 筆者は、この特筆すべき二点が水木独特の戦争観、或いは人生観の基礎を形成すると考える。

軍隊内では、重労働に加え食糧不足が常態化、更に最下級の初年兵たる水木は毎日理不尽な扱いを受ける。一方トライ族の集落では自給分の労働以外は無く、バナナ、パパイア、芋など、食糧が必要十分量入手可能である。また、軍隊ではバイエンから一人中隊に生還するや自決を迫られ、自らの存在意義を否定されたのに対し、トライ族からは住居や畑の提供を申し出られ永住を求められる。即ち、「美人」エプペの場合と同様に、軍隊内と軍隊外のトライ族社会の差異が、水木を以てトライ族社会を一層楽園化させたものと推測し得る。しかし、作品化された楽園の背後には水木の壮絶な体験に基づいた強烈な生への執念が認められるのである。

⁵⁸⁴ 水木前掲『水木しげるの娘に語るお父さんの戦記』、132 頁。

⁵⁸⁵ NHK 前掲アーカイブス「水木しげるさん」。

⁵⁸⁶ NHK 前掲アーカイブス。

6. 終戦後の生活と最初の戦時回想

水木は終戦にあたり、軍医砂原勝巳氏に現地除隊を相談するが、左腕の再手術の必要性等の同氏の説得で復員を決断する。トライ族の「同胞」には七年後の再会を約束し帰還船に乗る。復員後はヤミ屋、街頭募金、魚屋、リntax貸し、アパート経営を経て、1951（昭和 26）年紙芝居作家となり、1954（昭和 29）年、後の代表作『ゲゲゲの鬼太郎』の前身『空手鬼太郎』（後に『墓場鬼太郎』）を描いている。

⁵⁸⁷ 時に水木 31 歳であるが、小林よしのりはこの前年に誕生している。

1954（昭和 29）年は、日本経済が後に「高度経済成長期」と呼称される時期に入り、労働力は大規模産業に吸収されるようになる。これに従い、子供相手の駄菓子販売の客寄せであった紙芝居の演者も減少したと水木は言う。加えて、前年 1 月に発売された国産テレビの普及が紙芝居衰退に拍車をかけたのである。⁵⁸⁸

水木は、1958（昭和 33）年に紙芝居作家から貸本漫画家に転じ、1960（昭和 35）年、『墓場鬼太郎』の貸本版を発表している。しかし、経済的な困窮は続き、水木は敗戦国の社会の片隅で貧困生活を送っていた。水木にとり、トライ族の集落を再訪することなど全く不可能な経済状態であった。

この貧困時代の比較的初期にあたる 1949（昭和 24）年から 1951（昭和 26）年頃、水木は「発表するあてもなく」『ラバウル戦記』を描いている。⁵⁸⁹ これは、後に発表される自伝的漫画作品の原初的作品と言えるが、当該作品に描かれた「土人の家」には、落花生、ともろこし、芋類などの食糧が干されており、火を焚き、湯を沸かす「土人パウル」の背後には多くの果実が描かれている（図 72、73）。貧困生活を送る水木の脳裏に、過酷な前線生活の間隙に体験した原住民の、軍隊と比較すれば「天国のような」生活が思い起こされたのであろう。水木は、軍隊での生活には一日でも楽な日は無いと断言し、『ラバウル戦記』については、多々想像して描

⁵⁸⁷ 『空手鬼太郎』が鬼太郎シリーズの最初である事は、水木しげる「私の履歴書」水木前掲『水木サンの幸福論』、129-133 頁に明記されている。

⁵⁸⁸ 1953 年（昭和 28）年 2 月 1 日から NHK はテレビの本放送を開始。

⁵⁸⁹ 水木前掲『水木しげるのラバウル戦記』、5 頁。

いた旨を以下のように語っている。⁵⁹⁰

思い出すとやっぱり懐かしいわけですね。だから余計いろいろ想像して描くわけですよ。おもしろがって。まあそれにしても 21 年で死ぬっていうのはあまりいい事ではないですよ。ええ。生き延びようとするのは当然じゃないですか。ええ。やっぱり 25 ぐらい（の将校）が命令するわけですから。思い出さないですね。やっぱり避けて、避ける思い出かもしれん。ええ。わたしなんかしょっちゅう殴られていたから。ええ。あんまり思い出したくないわけですよ。毎日殴られるんですよ。

その一方、想像の楽園は理想化を深める。『ラバウル戦記』に描かれた「土人の家」と「土人パウル」は、2001（平成 13）年には一層豊かで朗らかな情景に漫画化されている（図 74、75）。⁵⁹¹



図 72. 「土人の家」

水木しげる『水木しげるのラバウル戦記』筑摩書房、2010 年、48 頁

⁵⁹⁰ 筆者下線。NHK 前掲アーカイブス。

⁵⁹¹ 2001 年に講談社から出版された『ボクの一生はゲゲゲの楽園だ』が、2004 年に改題、再編集されたものが『完全版水木しげる伝』である。

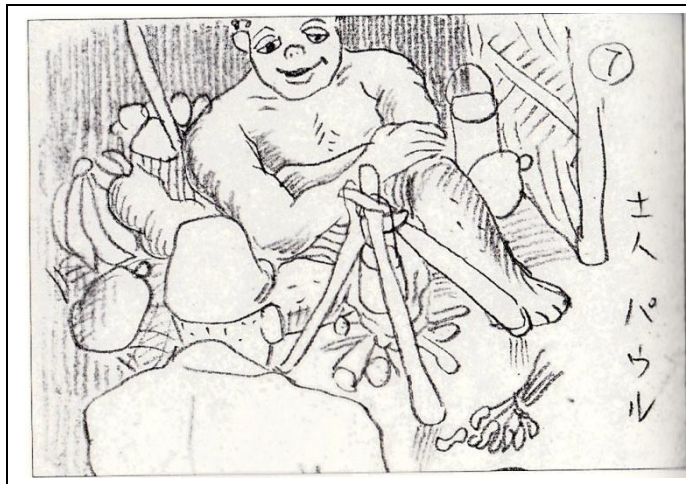


図 73. 「土人パウル」

水木しげる『水木しげるのラバウル戦記』筑摩書房、2010 年、49 頁



図 74.

漫画化された「土人の家」

水木しげる『マンガ水木しげる伝(中)』講談社、2005 年、58 頁

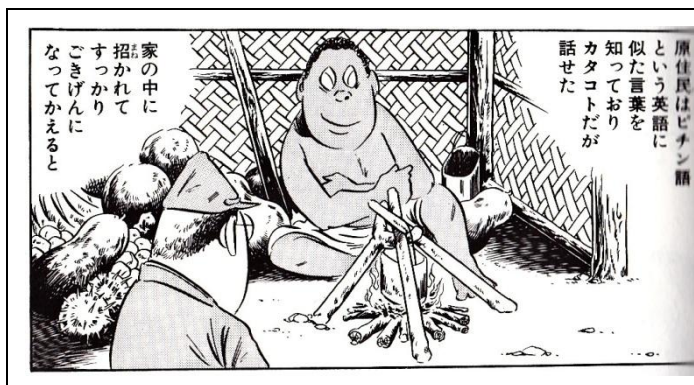


図 75.

漫画化された「土人パウル」

水木しげる『マンガ水木しげる伝(中)』講談社、2005 年、59 頁

7. ^{きたろう}鬼太郎

水木しげるの代表作『ゲゲゲの鬼太郎』は、2007（平成 19）年には 5 度目のアニメ化を果たしている。⁵⁹² 今日、「ゲゲゲ」は既に水木の代名詞になっているが、これはアニメ化の際に「墓場の」が不適當と考えた水木自身の手により「ゲゲゲの」と改められた。⁵⁹³ 「ゲゲゲ」の由来は、水木が幼少時代に口がまわらず、自身を「ゲゲル」と称していた故に、周囲に「ゲゲ」と呼ばれていた事による。従って、『ゲゲゲの鬼太郎』は、『水木しげるのラバウル戦記』や『水木しげるの娘に語るお父さんの戦記』と同様、水木の世界観を書名に反映させたものと言えよう。⁵⁹⁴ 以下本章は、「鬼太郎」を通して水木の社会思想を考察するが、水木の思想を一層明確に考察すべく、『ゲゲゲの鬼太郎』にあらず、テレビ受けを意識する以前に発表された貸本漫画復刻版『墓場鬼太郎』を主要な研究材料とする。尚、『墓場鬼太郎』の持つ個性と消費者嗜好に合わせた『ゲゲゲの鬼太郎』の差異は、小林よしのりが『ゴーマニズム宣言』に於いても指摘するところである。⁵⁹⁵

主人公の鬼太郎は「幽霊族」の最後の生き残りの子として、死んだ母親の墓場から出てきたという設定である。時代設定は発表当時の現代日本、即ち終戦から復興期の日本で、鬼太郎は子どもながら現実世界と異界を行き来できる特殊な能力を持つ。設定のユニークな点は、「幽霊」なる概念を、「霊」や「妖怪」の如きものではなく、「大昔」「人間のいな／い時代から」「この地球に／住んでいた」「幽霊族」なる一民族とした点である。⁵⁹⁶ この設定は鬼太郎シリーズの根本であり、以降『ゲ

⁵⁹² 2008 年には『墓場鬼太郎』もアニメ化している。

⁵⁹³ 水木の妻武良布枝は 2008 年、『ゲゲゲの女房』を発表、二女水木悦子は、赤塚りえ子、手塚るみ子と共に、2010 年、『ゲゲゲの娘、レレレの娘、ららの娘』を発表、同年水木自身も『ゲゲゲの人生わが道を行く』（2008 年の NHK 番組テキスト等を再構成）を出版している。また、同年発表の『カランコロン漂泊記』の副題は「ゲゲゲの先生大いに語る」である。従って、「ゲゲゲ」が水木しげるを指す事は今日広く認知されている。

⁵⁹⁴ 「ゲゲゲの～」、「水木しげるの～」他に、「水木サンの～」がある。

⁵⁹⁵ 小林よしのり「“たま”には腰くだけ状態」小林前掲『ゴーマニズム宣言 1』、140-141 頁。

⁵⁹⁶ 水木しげる「幽霊一家」『墓場鬼太郎 1』角川書店、2007 年、47-77 頁。初版は水木しげる『貸本まんが復刻版墓場鬼太郎 1』角川書店、1997 年で、兎月書房版『怪奇伝』からの復刻。

ゲゲの鬼太郎』になっても、その初期には変更が無い。⁵⁹⁷

8. 鬼太郎に再現される楽園世界と水木の現実生活

水木作品に共通する特徴として「異界」の前提を挙げ得る。鬼太郎シリーズに於いて「異界」は、現実世界に異様な様相を呈する「楽園」として描かれる。即ち、現実世界の人間には理解し難い怪奇世界が、実は本質的な楽園として描かれるのである。⁵⁹⁸ その楽園のモチーフは、水木が戦争中に訪問した「土人の部落」、ニューブリテン島ナマレ、トライ族の集落である。⁵⁹⁹ 水木が描いたトライ族の少女エトラリリの住む家（図 76）は高床式で、『墓場鬼太郎』に描かれた大昔の幽霊族の家（図 77）とは、その概念と大きさ、描かれた周囲の雰囲気と共通点を見出せるであろう。



図 76.
エトラリリの住む家

水木しげる『私はゲゲゲ』角川書店、2010年、132 頁

⁵⁹⁷ 京極夏彦は、水木しげる「阿部の奉連想」『ビッグゴールド』2月号、小学館、1996年に於いて、鬼太郎が霊そのものとして描かれている事を指摘している。

⁵⁹⁸ 「本質的な楽園」とは「死」や「病氣」の無い世界であることが示唆されている（本章12節、注624参照）。

⁵⁹⁹ 水木は、「土の人」という敬意を込めた意味で「土人」、「小規模集落」という意味で「部落」を使用する旨を、後年の出版で継続的にことわっている。尚、漫画作品中では「森の人」を反復使用している。

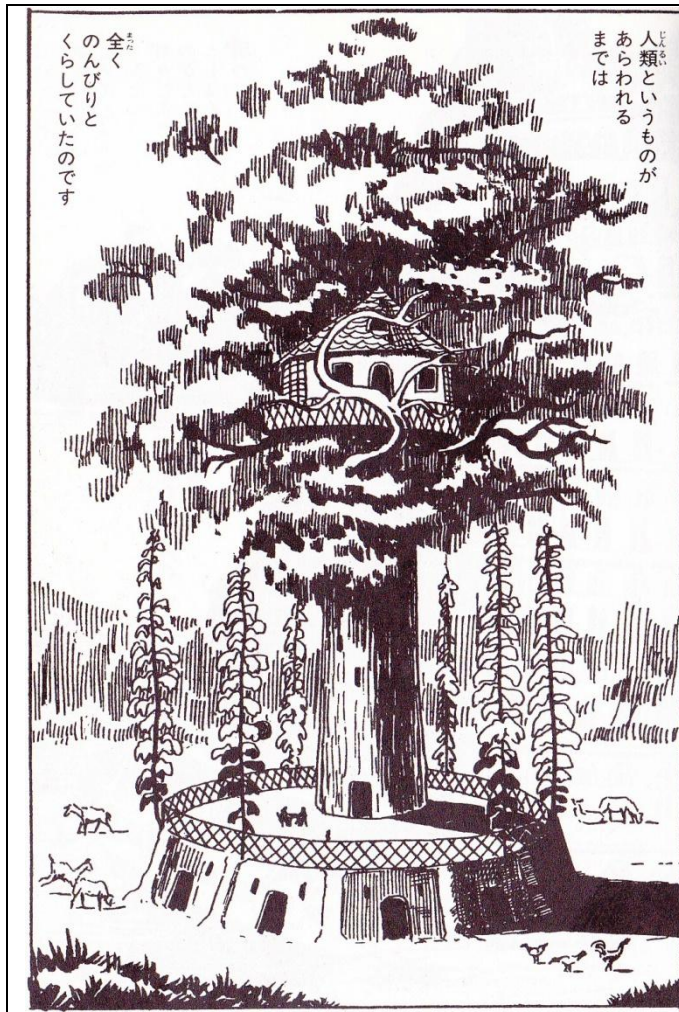


図 77.

大昔の幽霊族の家

後のアニメ化により「鬼太郎の家」として認知されるようになる。

水木しげる「幽霊一家」、『墓場鬼太郎 1』角川書店、2007 年、49 頁

一方、水木の現実の生活は復員後の困窮生活である。水木は神戸の水木通りに中古アパートを購入するも借金返済に迫られ売却して上京、その後アパートの借家住まいを繰り返す。高額な家賃の支払いを無駄と考え、兄たちが西宮の家を売却した資金を頭金に充て、東京調布に自宅を購入したのは 1959（昭和 34）年という。それでも、1962（昭和 37）年の段階で、「質屋の赤フダの厚さが 3 cm にもなり電気料金も払えず蠟燭の下で仕事をするなど極貧生活を強いられ」ている。⁶⁰⁰

⁶⁰⁰ 関東水木会・平林重雄「水木しげる詳細年譜」水木しげる『完全版水木しげる伝（下）』講談社、2005 年、484 頁。水木の妻も「赤札の厚さが三センチにも達していた」他、同様の回顧を記している。武良布枝前掲『ゲゲゲの女房』、94 頁。

9. 日本人の「魂」と「血」

『墓場鬼太郎』に認められる楽園観には、復員後も変化無く続いているであろうと水木が信じ、理想化した、現実の日本社会或いは日本軍とは別の世界が投影されている。一方、水木が同作品内で批判するのは、現実の「文明」社会の負の部分である。即ち、水木が経験した理不尽な軍隊社会、戦後の貧困、重商主義、利益至上主義、等々である。

まず、『墓場鬼太郎』に於いて、状況設定にあたる冒頭作品「幽霊一家」に、戦後の米国型消費資本主義社会と戦前・戦中の権威主義社会に対する批判が込められている。「幽霊一家」第二話「生者と死者の間」の主要登場人物「水木」氏は銀行の調査係という設定であるが、その銀行が「血液銀行」なのである。「水木」氏は出社するなり「社長」（頭取）に呼ばれ、血液製剤に「幽霊の血」が混入したことを打ち明けられ、その調査を依頼される。⁶⁰¹「幽霊の血」が混入した血液製剤を使用した患者が幽霊のようになってしまったというのである。

この状況設定から、後に明るみになる薬害エイズ事件を予見したかのような印象を受けるのは、筆者のみであろうか。実際、薬害エイズ訴訟の被告会社となった株式会社ミドリ十字の前身は「日本ブラッドバンク」、即ち「血液銀行」である。

事件の発端は、「幽霊族」の最後の生き残り夫婦が「不治の病にとりつかれ」、「生活に困って」「血を売った」というのである。⁶⁰² 当該事実を突き止め会社へ報告に帰ろうとする「水木」氏に、「幽霊族」の男は、「自分の職務さえ忠実に行えば／我々が絶滅しても／かまわないというの／ですか」と涙を流し訴える。⁶⁰³ 筆者はこの訴えを、バイエンで全滅した部隊から唯一生還したにもかかわらず自決を命じられた水木自身の軍に対する怒りの声であると考え。水木は後年、自身の所属した支隊の指揮官、成瀬少佐を、若年で経験が浅く、ただ上層部の方針を忠実に実行

⁶⁰¹ この段階（「幽霊一家」『墓場鬼太郎 1』角川書店、2007年、7-77頁）では「社長」とのみ書かれているが、後（同書所収「あう時はいつも死人」、275-347頁）には「日本血液銀行頭取」と紹介される。

⁶⁰² 水木しげる「幽霊一家」『墓場鬼太郎 1』角川書店、2007年、56-57頁。

⁶⁰³ 前掲作品、62頁。

しようとしたとして批難している。⁶⁰⁴

水木が戦後日本社会の米国化を危惧していたことを示唆する作品は「あう時はいつも死人」の中の一話、「真夜中の出来事」である。⁶⁰⁵ 鬼太郎は「タマシイ」を抜き取られ、「タマシイ」は夜叉により「ビニール製のしゃぼん玉」に閉じ込められ空に捨てられる。⁶⁰⁶ 浮遊した「タマシイ」入りのシャボン玉は、偶然通りかかった飛行機内に取り込まれ、乗客として搭乗していた「禿山氏」に拾われる。この状況説明に於いて、日本人が「血」を米国に「売る」ことを示唆する表現が確認される。即ち、「日本血液銀行頭取禿山氏は／会社の製品に幽霊の血がま／じっていたことから日本で信用を落としなんとかアメ／リカに血液を輸出しようと／交渉に行き失敗してのかえ／りであった……………」。⁶⁰⁷

水木が当該漫画作品に於いて意味する日本人の「血」とは、物理的血液や血統にあらず精神性を意味するのではなかろうか。即ち、上述のストーリー展開は、旧来の秩序が敗戦で崩壊し、個が浮遊し、日本人の精神性まで米国化しつつある日本社会に対する水木の警告と理解し得る。

10. 水木しげるの戦争観

『墓場鬼太郎』に於いて、最初に戦争に関係する言葉が認められる個所は、「吸血鬼と猫娘」の中の一話「植物幽霊『吸血鬼』誕生」の一コマである。⁶⁰⁸ ニセ者の鬼太郎とそれに協力するねずみ男が鬼太郎のチャンチャンコを盗むべく謀議する。ねずみ男はニセ鬼太郎に窃盗を指南するにあたり、「作戦はチミツなほどよい」と言い、立ち居振る舞いの見本を示すのだが、そこに「敗戦はみじめだからな」と語りかける一コマ（図 78）が挿入されている。⁶⁰⁹ チャンチャンコ奪取に失敗す

⁶⁰⁴ NHK 前掲アーカイブス。

⁶⁰⁵ 水木しげる「あう時はいつも死人」水木前掲『墓場鬼太郎 1』、275-374 頁。

⁶⁰⁶ 筆者下線。前掲作品、265 頁。

⁶⁰⁷ 水木前掲作品、296 頁。

⁶⁰⁸ 水木しげる「吸血鬼と猫娘」『墓場鬼太郎 2』角川書店、2007 年、7-182 頁。

⁶⁰⁹ 前掲作品、112 頁。

るとほんものの鬼太郎に逆襲される恐れがあるという意を大袈裟に表現した面白さがあるのだが、この一コマが必ずしも必要とは思われない。これは水木の敗戦に対する率直な一言であろう。



図 78. 「敗戦はみじめだからな」

水木しげる「吸血鬼と猫娘」、『墓場鬼太郎 2』、角川書店、2007 年、112 頁

次に「地獄の散歩道」の第二話「百時間のいのち」に注目したい。⁶¹⁰ その理由は、当該物語に『墓場鬼太郎』に於いて水木しげる本人以外唯一の实在人物、東條英機が実名登場し、その描写も『墓場鬼太郎』に於いては比較的に写実的であるからである（図 79）。⁶¹¹

⁶¹⁰ 水木しげる「地獄の散歩道」前掲書、183-357 頁。

⁶¹¹ 兎月書房版『墓場鬼太郎』では、作品内登場人物としての作者自身は「金野なし太」、血液銀行調査員が「水木」。佐藤プロダクション版に登場する作者自身は「水木しげる」と「水木さがる」。



図 79.
東條英機

水木しげる「地獄の散歩道」、『墓場鬼太郎 2』角川書店、2007 年、224 頁

水木は鬼太郎の父である目玉親父に、「あれは東条英機さんか」と、さん付けで語らせている。⁶¹² 作品中の東條（東条）は、ひたすら国民生活を心配しており、チョコレートやキャラメルが誰でも買えるようになったと聞くと、「私もそれを／きいて安心／しました」、「戦争はイケマセンよ」と言い去ってゆく。⁶¹³ 水木の東條描写には批判精神、或いは敵意のようなものは感じられない。寧ろ、東條に対する一定の理解、ないしは同情を示唆していると言えよう。1991 年の「戦争と日本」に描かれた東條と比較すると、水木の東條観の変化が推察される（図 80）。⁶¹⁴

⁶¹² 水木前掲「地獄の散歩道」水木前掲『墓場鬼太郎 2』、224 頁。

⁶¹³ 水木前掲作品、225 頁。

⁶¹⁴ 水木しげる「戦争と日本」『小学六年生』2 月号、小学館、1991 年 2 月 1 日。51-73 頁。



図 80. 1991 年の東條描写

水木しげる「戦争と日本」『小学六年生』2月号、小学館 1991 年 2 月 1 日、64 頁

『墓場鬼太郎』に示唆される戦争観は、水木の敗戦認識を示しており、敗戦観と換言し得る。そこで筆者は、水木の対連合軍戦争観を探るべく、1965（昭和 40）年貸本漫画として発表された作品「地獄」に注目する。⁶¹⁵ 同作品は 1970（昭和 45）年に「コロポックルの枕」としてリメイク、再発表されているが、絵の構成やネーム（台詞）、作品構成はほぼ同じである。同作品には、水木の「太平洋戦争」観が示唆されている。

当該作品のあらすじは以下の通りである。

日本上空に出現した惑星の正体を解き明かすと、それは地球に危機が迫った事を知らせる「警備星」であったのだが、謎解きの段階で、北海道大雪山で発掘された 10 億年前の石が登場する。「石」とは、その石（鉱物）で製作された枕と、同じくその石で制作された「足の裏のようなロケット」である。石の枕とロケットの正体は、高度な技術を持った 10 億年前の「第一期人類」が滅亡の前にその歴史を後世に伝えるべく残した、脳波を介して情報伝達する枕型の本と、地球脱出用のロケットであったというのだ。現代（1960 年当時）と 10 億年前、地球と宇宙を描いた壮

⁶¹⁵ 水木しげる「地獄」『水木しげる 魍魎 貸本・短編名作選 地獄・地底の足音』集英社、2009 年、5-132 頁。

大な SF であるが、「第一期人類」の滅亡の原因が、宇宙戦争と無条件降伏、降伏後の虐殺にあるのである。同作品の状況説明のくだりを引用する。

十億年前……………／太陽系宇宙は地球の中心／として文化が栄えていた
（一行空き）だが／銀河系宇宙全域を支配／する強大な帝国と／戦端を開
き 太陽系帝国は／敗れた。完全な無条件降伏／である…そしていま地球
／占領軍が進駐してきたのだ⁶¹⁶

注目したい点は、水木が地球対宇宙（の惑星）或いは地球人对宇宙人（ないし地球外生物）の戦争と設定せず、「太陽系帝国」対「銀河系宇宙全域を支配する強大な帝国」とし、帝国主義の戦争とした点である。⁶¹⁷「太陽系帝国」には「天照大神の末裔たる天皇が統治するところの帝国」なる含意が存すると推定し得る。

北海道の「発掘現場」には、二十年間掘った残土が富士山のように積み上げられている（図 81、上）。更に、発掘された「足の裏のような」形状のロケットには菊花御紋章のようなもの - ハッチである事が後コマで明示される - が描かれている（図 81、下）。これらの絵は、日本の国土と「天皇制」国家を表象し、上述の推定を補強する。⁶¹⁸

従って、水木の「太平洋戦争」観は、アジア・太平洋戦争を帝国主義の戦争と見做すものであり、その意味に於いて、アメリカを正義とするような戦争観ではない。

⁶¹⁶ 前掲作品、78 頁。

⁶¹⁷ 同上。

⁶¹⁸ 菊花御紋章が「天皇制」国家を表象した法的根拠は 1869 年の「太政官布告」第八〇二号、及び 1926 年の「皇室儀制令」。

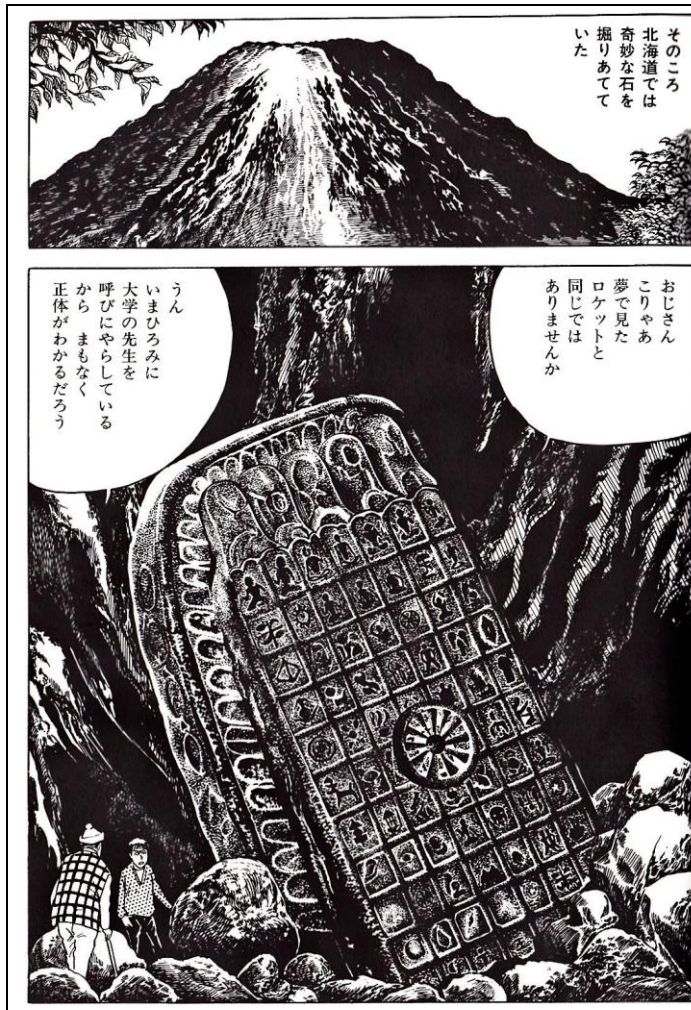


図 81. 発掘現場

上、残土を積み上げた山
下、出土したロケット

水木しげる「コロポックルの枕」、『異界への旅1』中央公論社、1996年、161頁 619

11. 宇宙人と鬼

水木しげるの漫画作品「地獄」に於いて、地球の「第一期人類」は「銀河系宇宙全域を支配する強大な帝国」の宇宙人に残虐に殺される。⁶²⁰ ある者は生きたまま食され、ある者は切り刻まれ、干物にされ、コロッケにされる。水木は「地獄」に於いて後年の「コロポックルの枕」ではカットされる程に残虐な絵を連ねる。⁶²¹ しかし興味深い事に、宇宙人の描写がユーモラスで人間的なのである。本節では、絵の明瞭さを考慮し、図は「コロポックルの枕」より転載するが、コマ内の構図、キャラクター・デザイン、台詞、構成など、「地獄」と「コロポックルの枕」はほぼ

⁶¹⁹ 「地獄」の絵とほぼ同じだが、絵が不鮮明の為、「コロポックルの枕」から転載した。

⁶²⁰ 水木前掲「地獄」水木前掲書、78頁。

⁶²¹ 「コロポックルの枕」では過度に残虐な絵はカットされている。

同一である。

当該作品に描かれた宇宙人は、地球人の四倍程度の大きさであるが人間同様の形状である。角と牙を持つものの、筋肉質の肉体に、短パンもどきの腰巻、マントを連想させるスカーフのようなものを着用した姿で、脚には脛毛まで描かれている。その容姿は「覆面レスラー」や秋田県の「なまはげ」としても通用しそうな程人間的である（図 82）。このよう宇宙人描写は水木が「太平洋戦争」を同類の殺戮と看做す暗示ではなかろうか。



図 82.
銀河系宇宙全域を支配する強大な帝国から来た宇宙人

水木しげる「コロボックルの枕」
『異界への旅 1』中央公論社
1996 年、186 頁

ユーモラスな宇宙人描写は、民間伝承に描かれる鬼と共通点が見出し得る。図 82 に描かれた宇宙人が手にする武器は金棒とミリタリー・フォークであり、同図下、左端の宇宙人の腰巻きは縞模様である。縞模様の腰巻きは、現代の絵本ではパンツ化されており、鬼の象徴のひとつと言えるが、その原型は虎皮の褌である。鬼の着衣に留意して調査すると、1777（安永 6）年の作と推定される『桃太郎昔話』に描かれた鬼の衣服は、大将は鎧、手下の鬼は長着（長襦袢か？）を着用しており、下級と思しき鬼は上半身裸でスカーフらしきものを纏っている（図 83）。

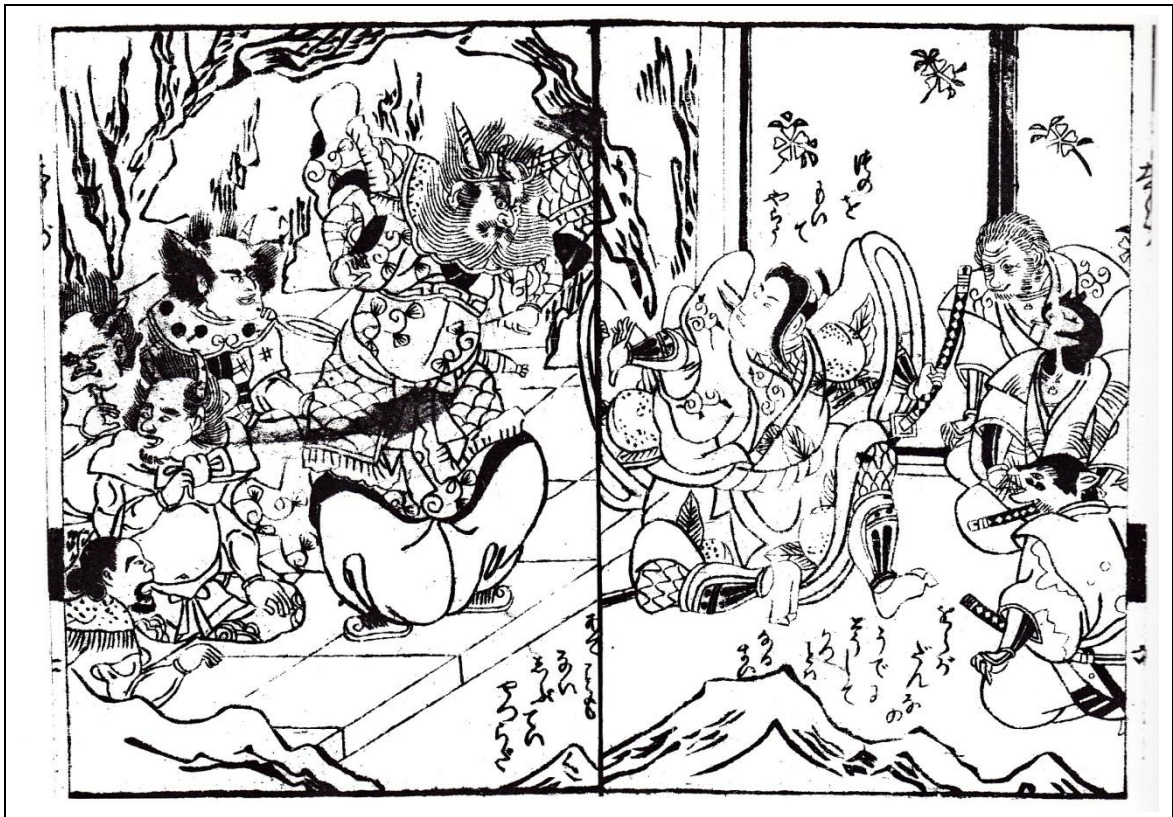


図 83. 江戸時代の桃太郎と犬、猿、雉（画像右）と鬼たち（画像左）

画像左、後ろに振り返りぎみの鬼の容姿に水木作品との共通点が認められる。

小池正胤・叢の会『江戸の絵本Ⅳ』国書刊行会、1989年、17頁

一方、1935（昭和10）年から1945（昭和20）年に出版された講談社の絵本『桃太郎』には、スカーフらしき首巻に虎皮の褌姿の鬼が描かれている（図84）。⁶²² 加えて、顔の表情、筋肉質の肉体、体毛など細部の描き込みに水木作品との共通点を多分に見出し得る。武士田忠は桃太郎が「戦前の軍国主義の下では、鬼畜米英を征伐する正義の子として描かれた」点を指摘するとともに、講談社の絵本『桃太郎』が今日的桃太郎のイメージの原型になった点を指摘している。⁶²³ 民間伝承の鬼のモデルとして西洋人（南蛮人）のイメージが多分に認められ、戦間期は「鬼畜米英」のスローガンと共に、米英人は鬼に見立てられた（図85、86）。⁶²⁴

⁶²² 齋藤五百枝[1884－1966]画。同書は2001年、新・講談社の絵本③『桃太郎』として改訂出版されている。

⁶²³ 武士田忠「『桃太郎』解説」齋藤五百枝画・千葉幹夫文『桃太郎』講談社、2001年、46-67頁。

⁶²⁴ ジョン・W・ダワーはその著書『容赦なき戦争』に一章を割り「鬼のような他者」を論じ



図 84. 齋藤五百枝画、『桃太郎』の鬼

文章は現代向けに改変されている。

齋藤五百枝画・千葉幹夫文『桃太郎』講談社、2001 年、30 - 31 頁



図 85. 戦時漫画

桃太郎の羽織の襟には「世界一」、犬が持つ幟旗には「大東亜共栄圏樹立」と書かれている。

ジョン・ダワー『容赦なき戦争』平凡社
2010 年、344 頁、出典表示無し

ている。



図 86. 戦時ポスター

移動画（米鬼英獣）第 28 号 20 枚 1 組（その 2）

昭和 19 年 4 月 25 日発行 日本移動展協会

Museum of World War Two Boston 所蔵、提供

『墓場鬼太郎』に示唆される水木の戦争観には、二等兵かつ初年兵であった水木のやり場の無い怒りと同時に既存の社会や状況、組織に対する諦観が示唆されている。しかし、水木の「太平洋戦争」観は、当該戦争を帝国主義の戦いと看做していると考えて至当性が高い。帝国主義国家同士の戦争と理解する限りに於いては、日本のみが一方的に断罪される歴史観を、当該作品が発表された 1965（昭和 40）年当時の水木が了承したとは考え難い。何故なら、水木は「銀河系宇宙全域を支配する強大な帝国」の宇宙人を一方的に残虐に仕立てているからである。⁶²⁵ 水木が連合軍の残虐行為に対して沈黙するとは考え難い。しかし、戦争を一般化した時、それは水木にとり「地獄」と命名されるべき世界であったに相違ない。

⁶²⁵ 水木前掲「地獄」水木前掲書、78 頁。

12. テレビの時代と批判精神

一方、「地獄の散歩道」第四話「黄金の恐喝」では冒頭から水木の批判精神が発揮されている。ねずみ男がテレビ討論会に出演するという設定であるが、冒頭の三コマには連続してテレビが中央に描かれるとともに、冒頭二コマはスペースの約半分が活字に占られ、退屈な雰囲気演出されている（図 87）。

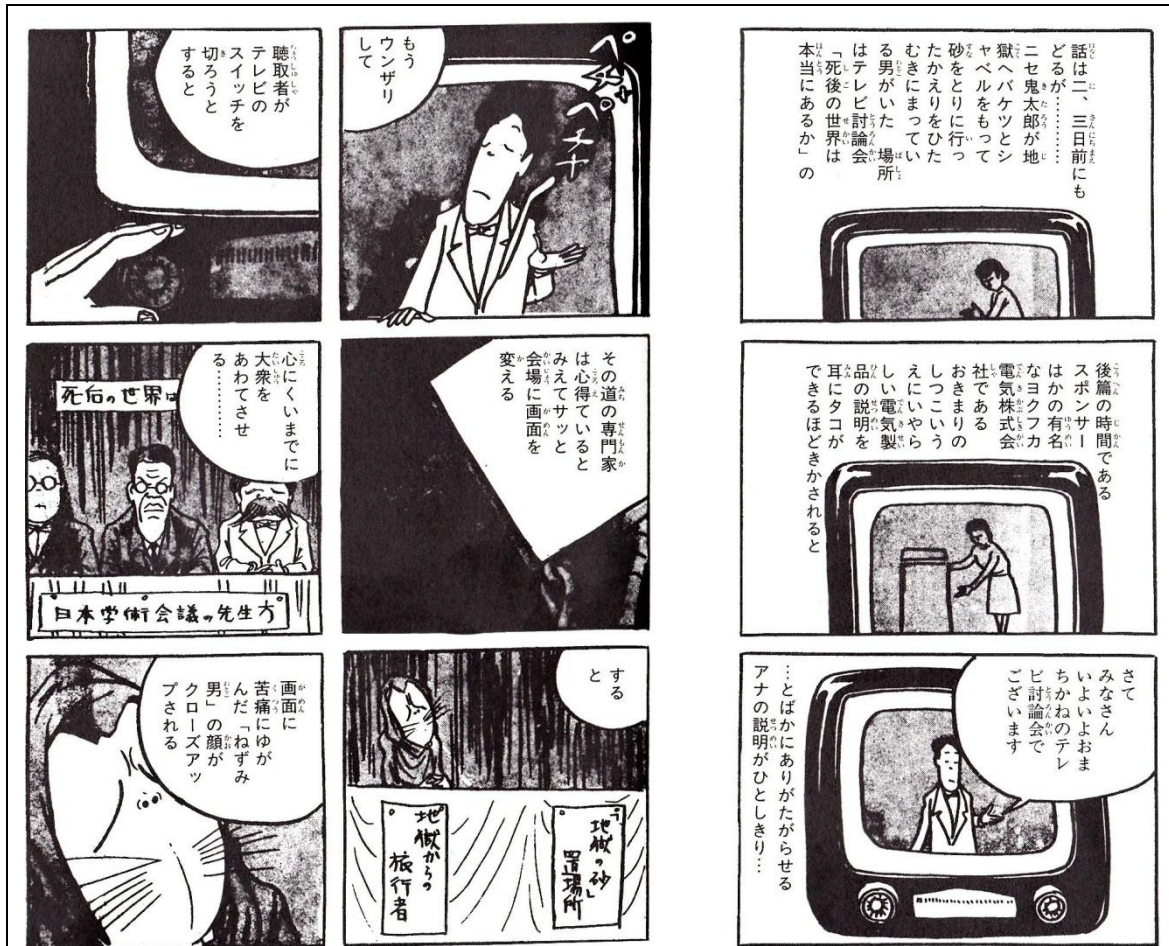


図 87. 電気（電器）製品のテレビコマーシャルと番組構成の風刺

水木しげる「地獄の散歩道」『墓場鬼太郎 2』角川書店、2007 年、248 - 249 頁

二コマ目に「スポンサーはかの有名／なフクヨカ／電気株式会／社である／おき
まりの／しつこいう／えにいやら／しい電気／製品の説明を／耳にタコが／でき
るほどきかされると」、三コマ目に「さて／みなさんいよいよ…」 「…とばかりにあ

りがたがらせる／アナの説明がひとしきり…」と続く。⁶²⁶ 水木の批判対象がテレビを通じて大衆の購買意欲を煽る大企業、電気製品、そして大衆心理を操る放送会社であることは、次に続く、「もう／ウンザリ／して」「スイッチを／切ろうと／すると」「サッと／会場に画面を／変える」「心にくいまでに／大衆を／あわてさせる」より明白であろう。⁶²⁷ 水木の視点は大衆側の、抵抗する術を持たない一個人の側に立ったものである。

興味深い点は、大衆の対極として、フランク永井をデフォルメした「トランク永井」と美空ひばりをデフォルメした「大空ひばり」を作品にしたものがある点である。⁶²⁸ トランク永井は「吸血木」に寄生され苦悩する設定で、批判的表現は確認されない。一方、ひばりに対しては辛辣である。

「水神様が町へやってきた」の一話「恐怖の水玉」は、巨大な水玉が大空ひばりを飲み込み、やがて町も飲み込むというストーリー展開であるが、大空ひばり登場場面の導入は以下の文である。⁶²⁹

死にかけている漫画家水木し／げるあたりがどうなろうと世／間は平穩無事なんだが 事も／あろうに日本中のミーハー族／の人気の的である大スター大／空ひばりの家に発生した ⁶³⁰

また、大空ひばりの登場場面の冒頭は以下の如く活字のみで説明される。

庶民に猛烈なホコリをかけて／フォードが着く 場所は有名／なひばり御殿である／やがてけたたましくサイレン／がなりひびく中から大勢の女／中や男中がお迎えに出る す／るとゆるやかに大スターが車／からおりる

⁶³¹

⁶²⁶ 筆者下線、水木前掲「地獄の散歩道」水木前掲書、248・249 頁。

⁶²⁷ 同上。

⁶²⁸ フランク永井[1932－2008]、美空ひばり[1937－1989]、共に昭和の大スターである。

⁶²⁹ 水木しげる「水神様が町へやってきた」『墓場鬼太郎 3』角川書店、2007 年、5・162 頁。

⁶³⁰ 前掲作品、129 頁。

⁶³¹ 前掲作品、130 頁。

しかし、「大空ひばり」はこの回の冒頭のみが登場し、第二話に「ひばりちゃんのパンツ」が登場するも、水玉に飲み込まれる人間はひばりである必要性が認められない。人間や車を飲み込んだ水玉は、「やがて」「はるか西の方に姿を消して行った」のである。⁶³²

水木の貧困生活に改善の兆しが現れたのは 1965（昭和 40）年前後である。前年に漫画雑誌『ガロ』が創刊され、水木もそこに作品を発表するようになったのである。同年 8 月から『週刊少年マガジン』で「墓場の鬼太郎」の連載が始まり、翌 1966（昭和 41）年には、テレビの中に自由に出入りする少年を描いた『テレビくん』で水木は講談社児童漫画賞を受賞する。

しかし、この頃、即ち昭和 40 年代（1965～1974 年）の水木作品は個々の社会事象に対する批判よりも、社会全体に対する不満を表現する傾向が強い。例えば、1966（昭和 41）年発表の「猫又」は、猫を食してとり憑かれる話、「墓守虫」は、保険金詐欺を共謀した夫婦が「墓守虫」に食われて死ぬ話、「暑い日」は、「漫画家水木しげる」が散歩に出て締め切りに間に合わせるべく必死に働く墓石屋に遭遇するという「多忙物」、「木枯らし」は「茂」が「おじさん」の家で頭蓋骨を発見する話である。また、『テレビくん』は、貧しくともけなげに生きる少年を励ます内容である。

1968（昭和 43）年、『墓場の鬼太郎』が『ゲゲゲの鬼太郎』としてアニメ化されテレビ放映される。そこには水木による理想化された楽園が「お化け」の世界として再現される。⁶³³ 『ゲゲゲの鬼太郎』の大ヒットにより水木は人気漫画家の地位を得るが、皮肉にも水木の理想とは裏腹の資本主義経済社会で多忙な日々を送る結果となる。水木曰く、押し入れの中に居た筈の「貧乏神が去って／福の神がとり憑いた」が、同時に妖怪「『いそがし』に／とり憑かれた」のである。⁶³⁴

⁶³² 水木前掲作品、153 頁。

⁶³³ 水木しげる作詞のゲゲゲの鬼太郎の主題歌にある次の句が理想の世界を示唆している。句意は「楽しい楽しい、お化けは死なないし病気もないし何もない」。

⁶³⁴ 水木前掲『私はゲゲゲ』、201 頁、213 頁。

13. 反米漫画作品

『ゲゲゲの鬼太郎』は水木しげるの代表作中の代表作であるが、アニメ化以降の『ゲゲゲの鬼太郎』を詳細に検討することは、本稿の目的から逸脱する恐れがある。アニメ化された鬼太郎は、児童向けの娯楽性が高いが故にヒットしたからである。水木自身、「鬼太郎を描いた頃からウソつくことが上手になった…すなわち、ウソで食えるようになったわけですよ」と告白している。⁶³⁵

しかし、小林よしのり『戦争論』批判を念頭に、水木の『鬼太郎のベトナム戦記』（以下『ベトナム戦記』）に触れておきたい。⁶³⁶ 同書は鬼太郎がアニメ化された1968（昭和43）年の作品で、雑誌『宝石』が初出である。

『ベトナム戦記』は、ベトナムの村娘の至心な祈りに目を覚ました妖怪毛目玉が鬼太郎の父たる目玉おやじの従兄という設定で始まる。岩佐陽一によると、同作品は「佐々木守と福田善之という稀代の左翼系作家が原案に参加」したのであるが、鬼太郎ら妖怪団が現実世界に進行中のベトナム戦争に介入するという想像世界と現実世界のシンクロする構成は水木一流である。⁶³⁷

『ベトナム戦記』はベトコンを支持する立場で描かれており、反米漫画作品であるが、思想的根拠は示唆されていない。水木自身、ベトナム戦争を良く理解していなかった旨を岩佐に告白している。⁶³⁸ しかし、水木の思想の一端として、戦後の米国追従の日本社会がある点は、鬼太郎が美女に魂をうばわれる第二話の状況説明文を読めば明らかであろう。即ち、「世の中はなんだってお金だ、お金さえあれば幸福だって買える、安全だって買えるんだ、というアメリカ式“魂金しばり”の術に封じこめられていたため毛目玉が味方の敗北を知らせてきても動こうとしなかつ

⁶³⁵ 水木前掲『ゲゲゲの人生わが道を行く』、96頁。1995年の荒俣宏との対談（水木しげる『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎』角川書店、1995年巻末所収）でも同趣旨の発言が認められる。

⁶³⁶ 水木しげる「鬼太郎のベトナム戦記」『鬼太郎のベトナム戦記』徳間書店、2010年、5-99頁。

⁶³⁷ 岩佐陽一「解説 鬼太郎のベトナム戦記」前掲書、202-213頁。

⁶³⁸ 岩佐陽一『鬼太郎のベトナム戦記』原作者水木しげる氏インタビュー『いまから考えると、ねえ?』、前掲書、194-197頁（参考）。

た」。⁶³⁹

しかし、『ベトナム戦記』には、『ラバウル戦記』や他の戦記物に見られるような水木の激しい感情の発露を見出し難い。その一方で、娯楽性に関しては、戦闘場面に於いても現実的な限界が無視されている。例えば、霊鳥スィームルグが米軍機をつついで墜落させ（図 88）、子なき爺は米海軍の原子力潜水艦の艦底に貼り付きこれを沈める。佐々木や福田の意図が何処にあれ、『ベトナム戦記』は戦争批判作品というより寧ろ反米作品と呼ぶべきであろう。米国帝国主義に立ち向かうアジアの弱小国を日本妖怪団が援助するストーリー展開は、当時の日本人の屈折したプライドを刺激した作品なのではなかろうか。反米国型消費資本主義、反権威主義が『墓場の鬼太郎』と共通の基本思想にある点は疑いの余地が無かろう。

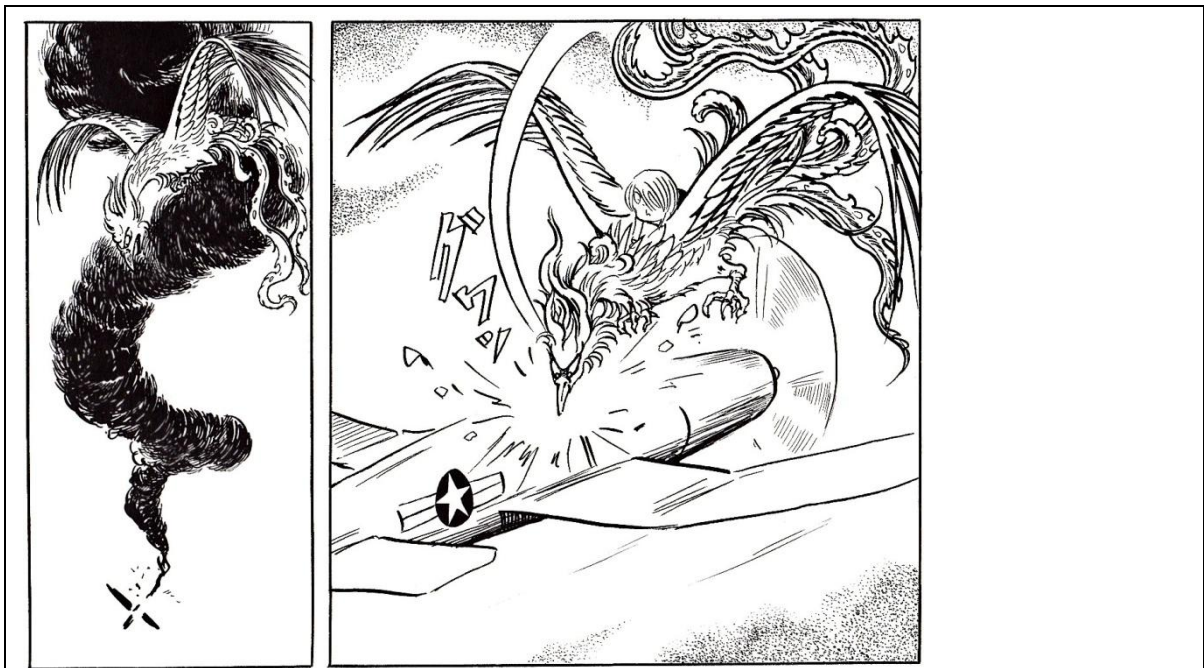


図 88. 空戦

霊鳥スィームルグに乗り米軍機を撃墜させる鬼太郎

スィームルグはペルシャ神話上の怪鳥の名である。

水木しげる『鬼太郎のベトナム戦記』徳間書店、2010 年、24 頁

⁶³⁹ 筆者下線、水木前掲作品、34 頁。

14. 公害問題

次に、小林よしのりの薬害エイズ問題関連作品との比較の為、水木が公害病問題を題材にした「ヘンラヘラヘラ」に注目したい。⁶⁴⁰ 同作品は1971（昭和46）年、漫画雑誌「希望の友」が初出である。「イタイイタイ病」の患者に薬を大量投与して殺害し、金槌で殴ると、コブから「ヘンラヘラヘラ」と笑う新生命が誕生するという内容で、批判対象は汚染物質を流出させる企業、製薬会社、加えて政府である。水木は病名を「イタイイタイ病」と書くが、漫画中の患者は「イタイイタイ」と叫んでおり、イタイイタイ病がモチーフたる事は明白である。⁶⁴¹ 小林の薬害エイズ作品、水木の当該作品ともに社会問題が主題であるが、「ヘンラヘラヘラ」は漫画作品として完結しており、小林作品のように現実社会に直接訴える政治手段とはなっていない。

まず、小林作品のタイトルは「HIV 訴訟を見て、プロの誇りについて考えた」、「エイズの真相を暴く」、「薬害エイズ 個の連帯という幻想の運動」など、週刊誌のゴシップ調で、タイトルが作品内容を多分に示唆するのに対し、「ヘンラヘラヘラ」はその内容を示唆しない。次に、小林作品はノンフィクションで小林本人が登場しているのに対し、「ヘンラヘラヘラ」はフィクション化された作品で、水木本人は登場しない。小林がノンフィクションの中に娯楽性を分散した一方、水木はフィクション或いは娯楽の中に真実を分散したと言えよう。

当該作品の冒頭、医師と院長の会話に水木の批判精神が表出している。患者である少年金太の死亡を報告する医師に対し、院長は「ばかな人が／一人や二人／死んだからって／さわぐ人が／ありますか」と応じる。⁶⁴² そして水木は保健医療制度

⁶⁴⁰ 水木しげる「ヘンラヘラヘラ」『怖悦録』角川書店、1996年、255-278頁。小林よしのりは2012年に『脱原発論』を出版しており、水木しげるは1979年に福島原発の闇をテーマに絵を描いている。両者とも反原発路線の作品であるが、後者の文は堀江邦夫によるものである。尚、後者は2011年に『福島原発の闇』として朝日新聞出版から復刊している。

⁶⁴¹ イタイイタイ病：富山県下神通川下流域で発生し、1955年に初報告された公害病。

⁶⁴² 水木前掲「ヘンラヘラヘラ」水木前掲『怖悦録』、256頁。

を批判し、院長に「制度／だから／しかたが／ないよ」、「わしの病院／だけもうけない／なんてこと／できますか」と語らせている。⁶⁴³ 筆者はこの最初と最後の発話を、水木のズンゲンに於ける体験に重ね以下のように読み変えたい。即ち、「兵卒が一人や二人死んだからって騒ぐ人がありますか」、「一人だけ(或いは分隊だけ、中隊だけ、支隊だけ) 玉砕しないなんてこと認められますか」と。

「ヘンラヘラヘラ」の結末は、死んだ金太から誕生した新生命(これも金太)とその霊並びに両親の霊が「公害のない／あの世で／ノンキに／暮らしま／しょう」と手を携えて消えゆくのであるが、同作品の終盤で注目したいコマが、ラストシーンの一コマ前である。(図 89) ⁶⁴⁴



図 89. 「ヘンラヘラヘラ」

上右、霊となって自身の死体を発見した少年金太の両親 (の霊)

上左下、金太の両親の霊と新生物金太とその霊

下、両親の霊の間に新生物金太とその霊が見える

水木しげる「ヘンラヘラヘラ」『異悦録』角川書店、1994 年、278 頁

⁶⁴³ 同上。

⁶⁴⁴ 前掲作品、278 頁。

水木は新生物金太の霊に「おれ／もいつ／しょに／かえるよ」と言わせている。

645 帰るべき場所とは、公害が無く、呑気に暮らせる「あの世」なのである。水木の戦記物、伝記、そして一連の鬼太郎シリーズに表現された楽園観を踏襲すると、「あの世」は戦記物や伝記に描かれる南の国、トライ族の集落であり、鬼太郎シリーズに描かれる妖怪の世界と同義たることに領けよう。

15. 水木しげる「戦争論」と小林よしのり『戦争論』

作家・雨宮処凛は自著『14 歳からの戦争リアル』執筆の為、水木に取材を申し込んだ。雨宮によると、マネージャーを通して水木本人が快諾したのだが、水木は雨宮の取材を前に 2015（平成 27）年 11 月他界した。

取材快諾時の強烈に印象づけられた言葉を、雨宮は次のように綴っている。

高齢のため、長時間の取材は受けられないなどのいくつかのことわりの言葉の後に、こんな文章が続いていた。「それと水木は『戦争反対』とは決して言いません。そのために、記事をうまくまとめられない記者さんも過去にはおられました」。⁶⁴⁶

水木のマネージャーとは水木の弟、幸夫氏である。幸夫氏は雨宮が水木に「戦争反対」の言葉を期待していると予測したと推察されよう。「水木は『戦争反対』とは決して言いません」。⁶⁴⁷ この言葉に真意推測の余地はあれ、水木プロダクションの公式意見と見做すべき重い言葉である。⁶⁴⁸

水木しげるにとり（水木に限らず）、戦争が過酷な経験であったことは議論の余

⁶⁴⁵ 同上。

⁶⁴⁶ 雨宮処凛「水木しげるさんの死～なぜ『戦争反対とは決して言いません』だったのか。の巻」『雨宮処凛がゆく！』www.magazine9.jp/article/amamiya/24461/（アクセス日：2018 年 5 月 22 日）

⁶⁴⁷ 同上。

⁶⁴⁸ 水木の妻は水木が人々に伝えたいことを想像し、現代人も戦中のような『生きる力』を取り戻すべきだ」ではないかと書いている。武良布枝前掲書、119 頁。また、今日でもプロダクションの見解は変わっていない（2018 年 6 月 4 日メール回答）。

地が無かろう。しかし、それ以上に、復員後の生活は水木の想像を上回る困難なものであった。加えて、1968（昭和 43）年の『ゲゲゲの鬼太郎』テレビアニメ化以降は、一転して健康に影響を及ぼす程水木の生活は多忙なものとなった。このような流れの中で水木の記憶は純化されている。

水木の戦争観は「この世」と「あの世」に二極化された世界観の「この世」に内包されており、戦争自体、或いは戦争一般を直接的に否定していない。『墓場鬼太郎』に於いて、戦争自体に言及しているのは、本章で取り上げた「地獄の散歩道」の第二話に登場する東條英機の発話のみである。即ち、「戦争は／イケマセンよ」で、「イケマセン」が片仮名表記であり、前後の関係からも強い言語表現ではない。

⁶⁴⁹ また、2008（平成 20）年 6 月放映の NHK 番組「人生の歩き方」に於いては、『戦争はしないほうがいい』というのは自然の声だと思いますよ』と語っており、完全否定の言葉ではない。⁶⁵⁰ つまり、否定すべき戦争がある「この世」は不条理だということである。従って、水木の反戦的表現は、「自然の声」と語られるよう、人間として当然の戦争否定であり、生を阻害するものは何であれ避けるべしとの意味が示唆されていると言える。

水木の戦争観とは、主としてアジア・太平洋戦争に関するものであるが、水木が鬼太郎を描く以上、戦争自体を完全否定する事は困難であろう。何故ならば、鬼太郎シリーズの基本構成は邪悪な妖怪と鬼太郎との対決であり、後年に至る程に善悪、並びに戦闘要素が明確化しているからである。鬼太郎が正義の味方に位置付けられる事により、アニメ版の人气が一層高まったのである。

しかし、水木程過酷な戦争経験をした現役漫画家を筆者は知見しない。⁶⁵¹ その水木が、小林よしのり『戦争論』を自身の漫画作品の題材としている点は興味深く、その意見は説得力を持つであろう（図 90）。

⁶⁴⁹ 水木前掲「地獄の散歩道」水木前掲『墓場鬼太郎 2』、226 頁。

⁶⁵⁰ 筆者下線、水木前掲『ゲゲゲの人生わが道を行く』、70 頁。

⁶⁵¹ 「アンパンマン」作者やなせたかし[1919-2003]は従軍経験があるが戦闘経験はない。



図 90. 戦争論

小林よしのり『戦争論』を手にする水木

水木しげる「戦争論」、『カランコロン漂泊記』小学館、2010 年、262 頁

水木による小林よしのり『戦争論』批判の漫画作品のタイトルは「戦争論」で、水木晩年の戦争観と『戦争論』に対する率直な感想をエッセイ風に描いている。⁶⁵² 水木の「戦争論」は、エッセイ・コミック、『カランコロン漂泊記』として発表され、後に教育史料出版会から出版された『戦争論妄想論』に所収されるが、いわゆる小林よしのり批難とは一線を画した作品である。

水木は、小林の『戦争論』で「長い間忘れていたあの時代を思い出した」、そして戦争当時の勇ましい雰囲気을回想し、「なんとなく／キモチが／いいんだ」と書いている。⁶⁵³ 水木はその雰囲気を再現し、『戦争論』の読後感を、率直に「とても／楽しかった」、「ふと／あの／戦前の……／勇ましさを／思い出し、／非常に／なつかし／かったが…」と書くが、当時の軍隊内の日常的暴力も思い出し、不安感も書いている。⁶⁵⁴ そして、その不安感「きっと／年のせい／だろう」と書き、当該作品は内省的に終わっている。⁶⁵⁵

水木の「戦争論」には、水木が戦争当時を懐古したという事実のみが描かれている。しかし、水木の戦争観は厭戦・避戦観に他ならず、敗戦時の安堵感は既に漫画

⁶⁵² 水木しげる「戦争論」『カランコロン漂泊記』小学館、2010 年、262-269 頁。

⁶⁵³ 前掲作品、264-265 頁。

⁶⁵⁴ 前掲作品、266-269 頁。

⁶⁵⁵ 前掲作品、269 頁。

化されており、活字本「私の履歴書」にも「感無量だった」と書かれている。⁶⁵⁶

小熊英二は、前線にいた兵士たちが敗戦を迎えたときの率直な安堵感と、「戦中派」知識人でも、陸軍の見習士官であった山田宗睦と南方戦線に徴用されていた鶴見俊輔の戦争観の差異を指摘している。⁶⁵⁷ しかし、戦時中 20 歳前後の軍人、軍属、準軍属など戦争経験者が、後年に至り戦争当時を懐古する心情は、程度の差こそあれ、価値観を超越した一種の共通心理ではなかろうか。それは、当時の社会情勢故に、本人の意思にかかわらず青春の一時期を、生命を賭した戦争に捧げたのであるから、自己の人生を懐古しようとすれば戦争を懐古せざるを得ないのである。

「戦中派」知識人、吉本隆明にせよ、小林よしのりの戦争観には同意するところが多い。吉本は戦争中の気分の高揚を告白し、その明るさを、「病的」、「不健康」としつつも「社会全体の雰囲気は、ものすごく明るく、そして建設的」であって『戦争中は世の中は暗かった』というのは、戦後左翼や戦後民主主義者の大ウソ」と断言している。⁶⁵⁸

水木の「戦争論」は戦争体験世代、殊に戦中派と呼ばれた世代の率直な感想を代表した漫画作品である。水木しげるの「戦争論」は、小林よしのりの『戦争論』の「爽快感」を批判するにあたり、戦争体験世代の人生懐古なる視点の重要性を認識させるものである。⁶⁵⁹

⁶⁵⁶ 水木前掲「私の履歴書」水木前掲『水木サンの幸福論』、102 頁。

⁶⁵⁷ 山田宗睦（やまだ むねむつ 1925－ ）：評論家、哲学者。鶴見俊介（つるみ しゅんすけ 1922－2015）：評論家、哲学者。小熊英二『＜民主＞と＜愛国＞』新曜社、2005 年、607-608 頁。

⁶⁵⁸ 吉本隆明・田近伸和前掲『私の「戦争論」』、181 頁。

⁶⁵⁹ 終戦直後から 1960 年前後の水木は娯楽的戦争漫画を描いており、また、貧困生活の中、妻布枝と二人、模型で「連合艦隊再建」を二度果たしている。「再建した」連合艦隊の前に満面の笑顔で立つ水木と、水木しげる記念館に展示された帝国海軍の艦艇は、一元的反戦思想では理解できない。水木しげる他『水木しげる 80 の秘密』角川書店、2002 年、214 頁（参考）。武良布枝前掲『ゲゲゲの女房』113 頁（参考）。

16. 結論

本章で論じてきた水木しげるの思想内に対立する概念としては、森林対都市、農耕対工業、原始社会対現代社会が挙げられよう。前者の代表は、水木作品に理想化して描かれた、ニューブリテン島トライ族の集落であり、後者はいずれも水木流に表現すれば、近代化が進み妖怪の住めない環境である。

現実問題として、トライ族の集落も近代化を免れず、水木は戦後訪問を重ねる毎に失望感を深めるのだが、水木の思想を小林よしのりが描いた十字図（第四章 13 節、196 頁、図 50 参照）を基に理解を試みたい。⁶⁶⁰

実際に水木が体験した事実は、トライ族の素朴な生活と近代国民国家の軍隊生活、復員直前の現地での農耕自給生活と戦後復興期の多忙生活として漫画作品に描かれている。即ち、水木思想内の対立概念は、ほぼ時間的に併存していたものである。十字図の概念を以て思考すれば、それは横軸に展開される世界であり、水木の世界観は垂直方向に断絶傾向にあると言えよう。水木作品には縦軸概念が希薄である。晩年の水木の「楽園」への憧憬は、日本の古代へと向かい、2012（平成 24）年には出雲神話を題材にした漫画作品『水木しげるの古代出雲』を発表している。⁶⁶¹ また、水木は島根県隠岐に伝承する武良祭りには高齢を押して出席し、先祖との繋がりを感じているのであるが、水木の漫画作品に於ける両親、亮一氏、琴江氏との関係描写と小林よしのりのそれには大きな隔壁が認められ、祖父母との関係描写に至ってはその差異が一層大である。⁶⁶² 従って、図式化した場合、水木思想の縦軸の特徴は、現代と神話世界が直結点で表現し得る（図 91）。一方、小林の場合、近親の縦軸が濃厚となり、世代が離れる程希薄になる。正に小林自身が描いている十字図通りであり、世人の納得するところではなかろうか。

⁶⁶⁰ 水木は二度目の訪問時の印象を、「たった五年のうちに村はすっかり文明に汚染されていた」と書いている。水木しげる『ゲゲゲの人生 わが道を行く』日本放送出版協会、2010 年、130 頁。

⁶⁶¹ 水木しげる『水木しげるの古代出雲』角川書店、2012 年（参考）。

⁶⁶² 水木作品に祖父母は殆ど描かれていない一方、小林作品には祖父を主人公とした作品がある。

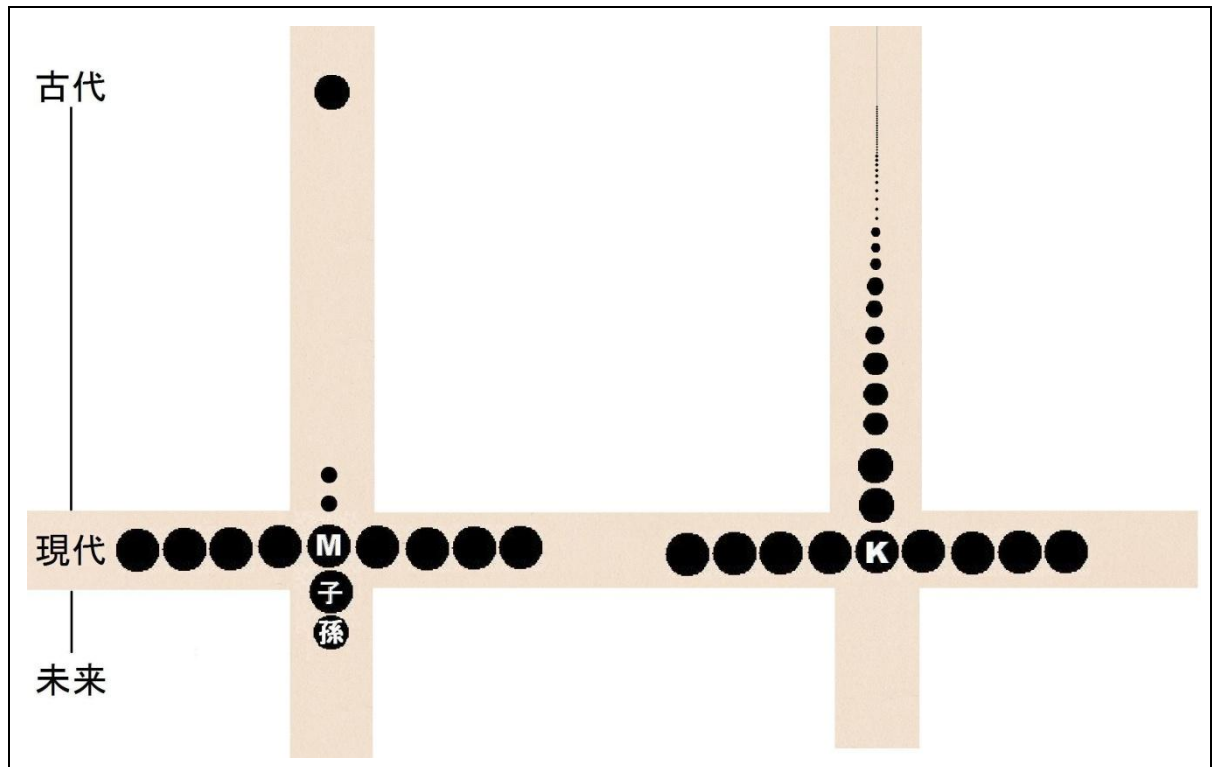


図 91. 十字図

点 M は水木、K は小林を示す。縦軸は家系、横軸は同時代を示す。

小林に子供は無い。

筆者作成

水木は昭和史を総括し、『『もう戦争は／してはいけない』という／大きな教訓の／歴史』と書いている。⁶⁶³ 『コミック昭和史』は、後ろから数え 8 コマから 7 コマに鎧武者の合戦、最終コマに銃身を結んだ歩兵銃を軍旗の前で交叉させた絵を配置して完結している (図 92)。この構成と前述の「もう戦争はしてはいけない」は、1989 (平成元) 年、水木の『コミック昭和史』執筆当時の総体的戦争観と看做し得る。⁶⁶⁴ 加えて、水木は文庫版へのあとがきに於いて「太平洋戦争」の戦死者を「犬死にした多くの人々」の魂が作品を描かせると書いている。⁶⁶⁵ 水木の念頭にある戦死者とは、主として南方戦線、殊にニューブリテン島に於ける日本軍の戦死者を指すと推定し得るが、同じ「戦中派」でも、特攻を「無駄死に」と看做す事

⁶⁶³ 水木しげる『コミック昭和史 8』講談社、269 頁。

⁶⁶⁴ 『コミック昭和史』の発表は 1988 (昭和 63 年) 年 11 月から 1989 (平成元) 年 12 月。

⁶⁶⁵ 水木前掲『コミック昭和史 8』、276 頁。

に怒りを隠さぬ吉本隆明とは対照的である。⁶⁶⁶

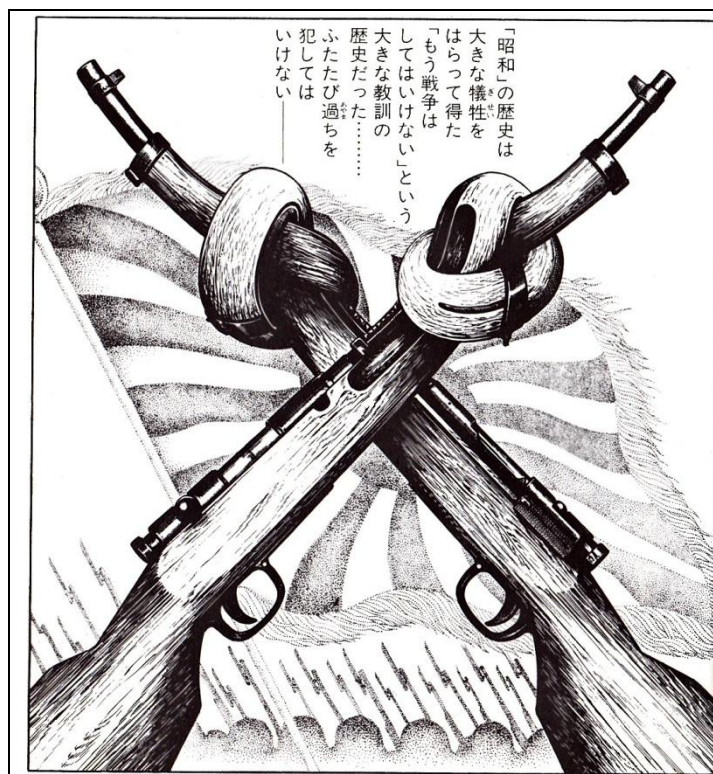


図 92.

『コミック昭和史』最終コマ

水木しげる『コミック昭和史 8』
講談社、2004 年、269 頁

しかし、前述のように水木は『戦争反対』とは決して言わない。⁶⁶⁷ 水木が小林の『戦争論』を批判しきれない理由は、水木の持つ個人主義と強者生存の現実に対する虚無主義的抵抗にあるのではなかろうか。それが単にエゴイズムを認める開き直った言説であれば、吉本隆明の持つ痛快さに通じるものがあるだろう。しかし、水木のそれは成人男性としては精神異常を疑われる程に自己の好奇心に純粋に従うものであった。⁶⁶⁸ 呉智英との対談では、水木は少年期に自分がいじめに加担した生徒が転校しても、何も感じる事がなかった理由を「ドライな子供だった」からと述べている。⁶⁶⁹ つまり、結果に対する「ドライさ」が水木作品の面白さの一つ

⁶⁶⁶ 吉本・田近前掲書、32 頁にて、吉本は小林の怒りを当然のものとして共感を示している。

⁶⁶⁷ 雨宮前掲記事。

⁶⁶⁸ 活字書籍では水木前掲『私の履歴書』101 頁、同『カランコロソ漂泊記』81 頁、同『娘に語るお父さんの戦記』169 頁。漫画作品では『水木しげる伝（中）』307 頁に水木が軍隊内で精神異常扱いされている会話が描かれている。

⁶⁶⁹ 呉智英「水木しげるの最高傑作は『水木しげる』である」水木しげる他『水木しげる 80 の秘密』角川書店、2002 年、161-182 頁。

であるのだ。呉智英は水木作品を「朗らかなニヒリズム」と評している。⁶⁷⁰

「朗らかな」と評されるところが水木一流であるが、筆者は水木の個人主義に加え、強者生存の論理を指摘したい。その理由は、水木が弱さを感染するものとして嫌悪しているからである。

まず漫画作品内ではあるが、水木は小学校四年生の頃、弟の幸夫氏が女子と話をしているところに通りかかり、「女なんかと／遊ぶな／弱さが／うつる／ぞ」と注意を与えている。⁶⁷¹ 活字書籍では、1977（昭和 52）年に発表した自叙伝『のんのんばあとオレ』に「オレは、ふだんは弱い者に手をかけたことはなかった。弱い者はかわいそうだからというのではなくて、弱い者に手をふれると弱さがうつるような気がしていたからだ」と書いている。⁶⁷² 更に同書には「手があたるだけで弱さがうつるような気がした」、「とくに女の子は、…触れるだけで、めめしさがうつるような気になった」と書いている。⁶⁷³ また、2003（平成 15）年には「私の履歴書」に、「弱い者いじめは大嫌いで、女の子にも優しかった」と書くが、その理由を、「弱い者や女の子をいじめると、弱さやめめしさが感染するのではないかと恐れていたからだ」と書いている。⁶⁷⁴ 活字書籍に反復して書いている水木の「弱さ感染」観は、事実と理解して良いのではなかろうか。

この特異な観念は強さに対する憧憬と一体のものであるが、それは水木の強烈で純粋な好奇心と結び付き、強者生存の論理として結実する。1996（平成 8）年、呉智英との対談に於いて、水木は紙芝居と貸本業界の壊滅を乗り越えた経験を日露戦争に喩え、以下のように語っている。⁶⁷⁵

⁶⁷⁰ 呉前掲著作、176 頁ほか。

⁶⁷¹ 水木前掲『水木しげる伝（上）』、167 頁。

⁶⁷² 水木前掲『のんのんばあとオレ』、86 頁。

⁶⁷³ 水木前掲書、202 頁。

⁶⁷⁴ 筆者下線、水木前掲「私の履歴書」水木前掲『水木サンの幸福論』、45 頁。「私の履歴書」は日本経済新聞の連載読み物で、水木は 2003 年に発表している。

⁶⁷⁵ 水木しげる・呉智英「幻想感覚と現実感覚 1」水木しげる（著）呉智英（編）『異界への旅 2』中央公論社、1996 年、283-293 頁。

水木：船が沈没する時、救命ボートのへりを必死でつかむんですね。それかなあ。

呉：でも、つかめない人の方が多いでしょう。

水木：私はね、子供の頃から賢かった、周囲の人がバカだったんだ。

対談自体の娯楽性と、対談相手が水木旧知の呉智英たる点を考慮する必要があるものの、多くの戦友が死に、自分ひとりが生き残った事について「水木しげるは確信を込めて…『愉快になるんですよ』」と言っている。⁶⁷⁶

水木の虚無主義の根底には、当然として常識的反戦思想があろう。しかし、極限を体験した水木は、如何ほど反戦を唱えても抗し難いナショナリズムを熟知している。戦争、国家、天皇、上官などの概念を包摂した外郭概念、戦争に向かう可能性を常に秘めた社会に対し、水木は静かに警鐘を鳴らしている。しかしそれ以上に、強者水木は、戦争中も戦後も如何に理不尽な社会でも、強く生き抜くことの大切さを一層強く訴えているように思える。

水木は「戦争論」に於いて率直な『戦争論』の感想を述べているが、『コミック昭和史』に於いて見せたように反戦論を展開する事無く、同作品は忘却していた戦争当時を懷述する水木一流の虚無主義的表現で終わる。水木作品が社会派たるゆえんは、反文明、反権力、反重商主義が基本に社会を描写するからであるが、水木作品の特徴は虚無主義である。小林のように権威権力に正面から挑戦するのではない。静かな抵抗である。小林作品は強烈なエゴイズムを反語的表現手段とした「情」を基調としているのに対し、水木作品は「朗らかなニヒリズム」を表現手段とした「無情」が基調にあると言える。

1976（昭和 51）年に水木は、「天皇制ときくと／なんとなく薄気味／が悪くなる」と書いているが、1991（平成 3）年の紫綬褒章受章の際には燕尾服にシルクハット姿で無邪気に喜びを表現している。⁶⁷⁷ また、2011（平成 23）年 11 月、翌月のア

⁶⁷⁶ 呉前掲著作「水木しげるの最高傑作は『水木しげる』である」、178 頁他。

⁶⁷⁷ 水木しげる「ああ天皇とボクの五十年」『漫画半分』創刊第 1 号、面白半分、9-28 頁。加えて、水木は 2003（平成 15 年）秋の叙勲では旭日小綬章を受章。

ジア・太平洋戦争開戦 70 周年を前に水木はインタビューに答え、以下のように語っている。⁶⁷⁸

やっぱり負け戦はしてはいかんですよ。だから“アメリカと一戦交えて勝つ自信があったのかなあ？”と思って。参謀本部はちょっとまちがっていた。アメリカと戦争してどうして勝てますか？そこの一番簡単なところがダメだった……勝つ戦争をしなくては。⁶⁷⁹

更に、「天皇の戦争責任的な」心情の有無を問われた水木は「それはないですね」と答えるとともに、責任の所在を参謀本部に求め、「天皇制」に関する心境の変化を以下のように語っている。

戦争中はすべて天皇の名で始められ、その名で殴られたから、やり場のない怒りをつい無意識に“天皇”という存在に向けていたんですが、それがなくなったんです。⁶⁸⁰

水木は出征前、死の恐怖と戦い、「公」に生きる崇高さを自らに説教した。ニューブリテン島に於ける激戦を生き抜いた水木は、アジア・太平洋戦争の「虚妄」を告発するも、戦争自体の直接否定は採用しない姿勢を一貫した。

晩年の水木は、インタビュー等を通し、公的にも自己の人生を回顧する機会が増加し、自己の経験した過酷な戦争に対しても人生回顧の視点で語る傾向が認められる。極限状態を体験した水木に於いてさえ、「終戦」から約 70 年の歳月を通し、戦争観、天皇観、人生観に変化が生じている。「生」は歳月には抗し得ず、ナショナリズムを包含する世の「無常」に水木自身が包摂されてゆくのである。水木作品は個人の力では抗し難いナショナリズムに対し、虚無主義を表現手段として抵抗して

⁶⁷⁸ 岩佐陽一「水木しげるインタビュー」水木しげる『水木しげるの連合艦隊』徳間書店、2011 年、328-345 頁。

⁶⁷⁹ 筆者下線、岩佐前掲記事、338 頁。

⁶⁸⁰ 筆者下線、岩佐前掲記事、345 頁。

いると言えよう。⁶⁸¹ その思想は一言で「反戦」と表現し得るような単純なものではない。

⁶⁸¹ ここでいう「ナショナリズム」とは、国家主義のみ意味するわけではない。特定の思想や運動により水木の思想を捉えようとする「ひとびとの運動」も含むものである。

第六章

小林よしのりと松本零士

- 生と死、継承と断絶 -

わたしは「宇宙戦艦ヤマト」の搭乗員に仮託された＜勇氣＞や＜自己犠牲＞や＜男らしさ＞や＜愛＞や＜献身＞が虚妄であることを体験思想から反すうすることができる。けれどそれを現在の少年少女たちに説得することができるか？ - 吉本隆明 - ⁶⁸²

1. 序論

ジョージ・L・モッセは、その著書『英霊』に於いて、戦争を神聖視するようになった歴史的経緯とナポレオン戦争以降の戦死者の増加を関連付けて論じている。

⁶⁸³ モッセは、兵士の「死」が絵画の中に美しいイメージで再生されると述べ、第一次世界大戦に於ける厩大な死者数とその処置を、埋葬、慰霊、追悼、顕彰の観点から論じるのである。モッセは、第一次世界大戦中のヨーロッパでは、男性性が強調され、再生された「死」のイメージにより「戦争は男らしさへの誘いであった」と指摘、更に、第一次大戦後は「戦争を消毒して脚色し、ロマン化するために」、「絵画のみならず、戦争墓地やモニュメントのようなシンボルの組織化が進行し」、それらが視覚的素材として利用されたと指摘している。⁶⁸⁴

漫画作品が視覚的素材たることは論を俟たず、戦争を描いた漫画作品に於いては、モッセが指摘するような「死」のイメージ操作が予期される。その結果表現された「死」は、吉本隆明の言語を借用すれば「虚妄」である。

そこで本章に於いては、小林よしのりと松本零士の漫画作品に於ける戦争描写を比較し、戦争が「消毒して脚色」され、「ロマン化」されているか否かを検証する。

⁶⁸² 吉本隆明 「『さらば宇宙戦艦ヤマト』の魅力」『吉本隆明全マンガ論』小学館クリエイティブ、2009年、94-101頁

⁶⁸³ Mosse, George L *Fallen Soldiers*. New York: Oxford University Press, 1990. 邦訳はジョージ・L・モッセ著・宮武実知子訳『英霊』柏書房、2002年。

⁶⁸⁴ 前掲書、67頁。

2. 松本零士

松本零士（本名、松本^{あきら}晟）は、父・強氏の第4子として、1938（昭和13）年1月25日、福岡県久留米市に誕生した。⁶⁸⁵ 陸軍軍人でテストパイロットであった父親の影響が大きく、幼少時代から機械好きで、本人の談によると、6歳の時に「最初に描いた漫画は『潜水艦13号』であった。⁶⁸⁶ 終戦後、自衛隊への入隊を拒否し貧困生活を甘受した父親を「本当のサムライ」と尊敬し、自らも「進駐軍兵士がばら撒くキャンディーなどを『食べたくて仕方なかったが、全部下駄で踏みつけて潰した』」。⁶⁸⁷ デビュー作『蜜蜂の冒険』は、松本が福岡県立小倉南高等学校一学年に在学中の1954（昭和29）年の作品である。松本によると、「高校二年生からは毎日新聞西部本社で連載も始まったので、卒業までの学費その他は全部、自分で賄うことができ」、「学生服をはじめ頭のとっぺんから足のつま先まで、全部自分で稼いだものだった」。⁶⁸⁸

松本は、1957年（昭和32年）からは上京し下宿生活をしつつ少女漫画を描いたり、アルバイトをしたりし実家へ仕送りを続けた。1960年代に入り、松本はSF漫画を手掛けるようになる。116回連載のヒット作『男おいどん』を経て、テレビアニメ『宇宙戦艦ヤマト』を監督したのは1974（昭和49）年である。

3. 死の意味づけと戦死

生物にとり死は必然であり、人間も例外なく死を免れない。筆者を含め、存命者は誰も死を体験的に語り得ず、死者にとり死が意味あるものか否かを論じるのは想像の域を脱し得ない。しかし、生きている者は自己のやがて訪れるであろう死に意味を想定することにより、自己の生に意味を見出そうと試みる。

⁶⁸⁵ 兄1人と姉2人、後に弟2人と妹1人が誕生。

⁶⁸⁶ MdN Design Interactive 特集記事、取材・文：草野恵子

<http://www.mdn.co.jp/di/articles/2806/>（アクセス日：2016年6月29日）。

⁶⁸⁷ 松本零士オフィシャルサイト、Profile, <http://leijimatsumoto.jp/profile>（アクセス日：2016年6月29日）。

⁶⁸⁸ 松本零士『遠く時の輪の接する処』東京書籍、2008年、111頁。

一方、「死」は他者によって意味が付与される側面がある。生存者（遺族など）は、既に死亡した者の死に意味付けをする事により、その死者の生を意味あったものとして納得しようとする。つまり、遺家族が、死者の人生が有意義であったと信じていたい心理から、「死」に意味付けをするのである。つまり、そうすることにより「死」という現実を受容するのである。より有意義な意味付けの為にはより大きな目的が有効である。この相対的に大きな目的を希求する遺家族心理が「公」を要求する。その結果が「国の為」や「天皇の為」のような言葉として表現されるのではなかろうか。

意味付与の方法としては、解釈論や伝記、写真や映画、碑や像などの有形媒体によるもののほか、伝説や伝承を通じたものなど無形の方法もある。最も古い例を挙げれば、キリスト（イエス）やブッダ（ゴータマ）の肉体的な死は、本人が意味を説いた側面と信奉者が意味を付加した側面が習合し、経典・教典を通して今日に伝承されていると言える。漫画作品もメディアとして「死」に意味付けをする機能の他、既に付与された意味の強化、伝達の機能を果たす。

戦時に於いては、味方の戦意高揚の目的を以て味方の戦死は英雄的に描かれ、悲惨な死後の姿は隠蔽される。戦意高揚の為に敵国の指導者や敵兵は凶悪に描かれ、自国側に罪悪感が生じるであろうと予期される光景は除去、或いは無視されるか、罪悪感を中和する理由付けがなされる。一方、敵方の戦意を喪失させる為に、敵方の戦死は無意味で悲惨なものとして描かれる。⁶⁸⁹

4. 松本零士による戦争否定

4 - 1. ナショナリズムの断絶

視覚的素材が現実的死のイメージを遠ざけ、ナショナリズム的感情、少年的ロマンを刺激する漫画作品のひとつに松本零士の『宇宙戦艦ヤマト』がある。『宇宙戦艦ヤマト』は、1974（昭和49）から翌1975年にテレビアニメが放映され、原作者

⁶⁸⁹ アンヌ・モレリ『戦争プロパガンダ 10 の法則』思想社、2002 年（参考）。

は西崎義展で、松本零士はその際監督を務めている。本節では、同作品内の「死」の描写と小林よしのりの漫画作品に於ける「死」の描写を比較する目的から、テレビアニメ作品は研究対象から除外する。また、いわゆるヤマト論への脱線を憂慮し、松本作品以外の『宇宙戦艦ヤマト』を除外することを了解されたい。⁶⁹⁰ また、松本のより現代的な問題意識を考察する目的で、1998（平成10）年発表の『超時空戦艦まほろば』も合わせて参照したい。⁶⁹¹

『宇宙戦艦ヤマト』はその題名が示唆するよう、帝国海軍の戦艦大和が未来の世界で宇宙戦艦ヤマト（以下、ヤマト）として再生、地球の為に闘うという荒唐無稽のSFであるが、その内容は、放射能による人類滅亡の危機や、敵方ガミラスを旧枢軸国たるナチス・ドイツに模すなど、戦後民主主義下日本の屈折したナショナリズムの要素が散見され、同要素のみでも議論に値する。また、続編では作品内に殉職者の銅像が描かれており、その意味の分析は、モッセの指摘が現代漫画作品にも適用、通用し得るか否か判断する為の良い研究材料である。

本節に於いては、「死」の描写を論じるのであるが、その前に一点、作品内に散見されるナショナリズム的要素は、戦前のナショナリズムとは断絶した、無邪気な、去勢されたナショナリズムである点は指摘しておきたい。「ナショナリズム的要素」、「去勢された」と言う理由は、ヤマトの乗員は全員日本人と思われるが、地球を代表して宇宙戦争を闘うため、「ナショナル」とは言い難い側面があるからである。⁶⁹² また、戦艦大和を再利用するという筋書き自体にナショナリズムの要素が認められるが、戦艦大和のリサイクル品を改造した筈のヤマトの艦首に菊花御紋章は無く、戦前の「ナショナリズム」との断絶が図られていると考え得るからである（図93）。

⁶⁹⁰ 松本零士版の他、聖悠紀、ひおあきら、コミックアンソロジー、むらかわみちお・西崎義展、東まゆみ・西崎義展、の各版がある。現在、『宇宙戦艦ヤマト』の著作権所有者は株式会社東北新社。

⁶⁹¹ 松本零士『超時空戦艦まほろば』小学館、1998年。尚、2001年から松本零士による『新宇宙戦艦ヤマト』が小学館から、2012年からむらかわみちお（著）西崎義展（原作）による『宇宙戦艦ヤマト 2199』が角川書店から発表されている。

⁶⁹² 「地球司令部」の要員も全員日本人と思われる。「ナショナル」を一元的に「国家」とせず「ひとびと」と理解すれば、「ナショナリズム」なる語は適切だが、誤解を避けたい。

菊花御紋章と日本の表象に関しては、第五章 10 節「水木しげるの戦争観」で取り上げた「足の裏のようなロケット」(253 頁、図 81、下)を再度参照されたい。

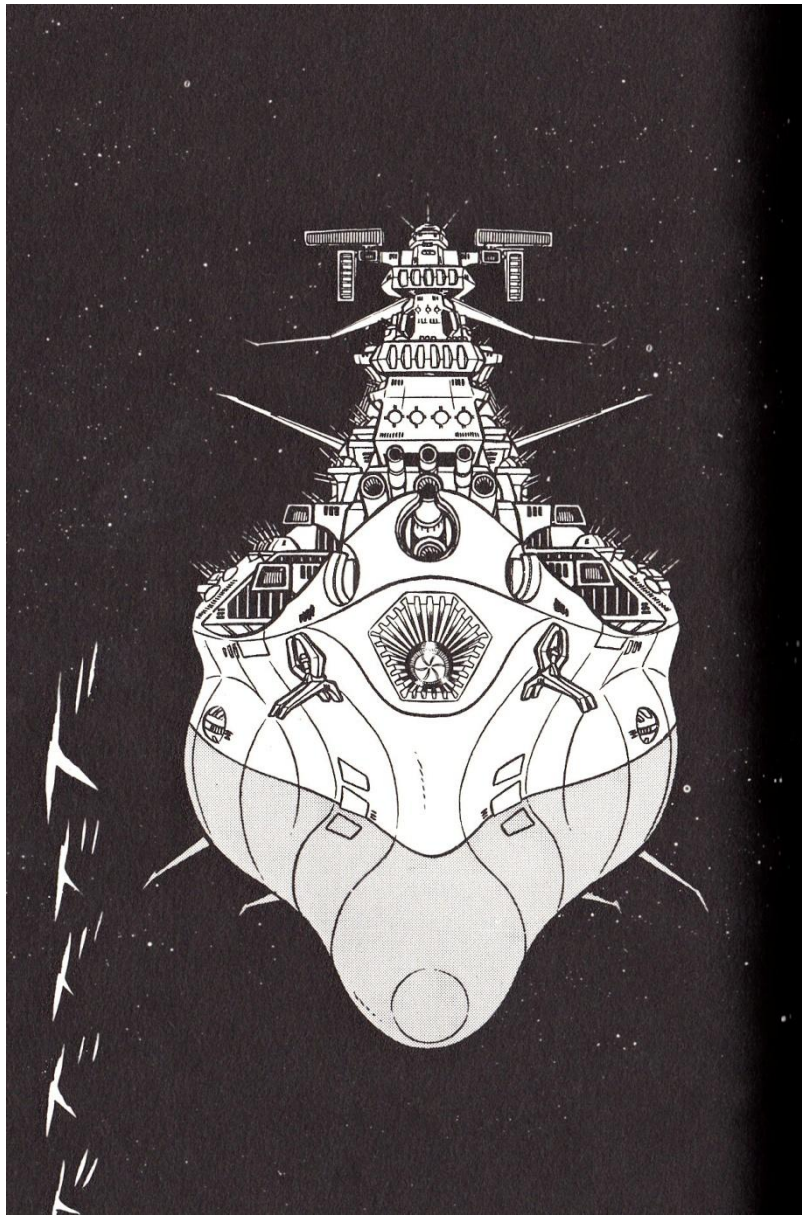


図 93. ヤマト正面

細部の表現が凝らされているにもかかわらず、帝国海軍のシンボルであった菊花御紋章は無い。艦首部六角形に描かれているものは「波動砲」の砲門。

松本零士『宇宙戦艦ヤマト 2 永遠のヤマト』秋田書店、1992 年、167 頁

松本零士の漫画作品の一つの特徴として機械の細密描写が指摘され、本章 2 節にて述べたよう、陸軍テストパイロットであった父に対する尊敬の念から推察し、松本は戦争が残忍性と表裏一体に内包する男性性までを否定するとは考え難い。⁶⁹³ しかしながら、松本はアジア・太平洋戦争を肯定している訳ではない。

⁶⁹³ 小林よしのりの場合、ロマンとしてあからさまに称賛している。

松本 1998（平成 10）年発表の SF 作品『超時空戦艦まほろば』に描かれた戦艦まほろば（以下、まほろば）は、旧帝国海軍が保有した「大和型の第四号艦」、「改大和型」、「正確には『まほろば型』の一番艦」と設定され、その航行中を描いた絵は、帝国海軍の戦艦大和の写真を参考にしていると推定し得る（図 94 左、中）。⁶⁹⁴ 作品の設定で、同艦は戦艦大和の水上特攻の際に「敵の目をくらましつつ…密かに進撃し」、「立ち昇る大和最後の燃焼遠望しつつ……作戦の中止によって反転した」と書かれている点から考慮し、1945（昭和 20）年 4 月 7 日の作戦に参加している帝国海軍の戦艦に菊花御紋章が無いということはある得ない。⁶⁹⁵ しかし、まほろばは松本ならではの細密描写で描かれているにもかかわらず、角度や陰影により、菊花御紋章のあるべき艦首部分の描写が巧みに回避されている（図 94）。

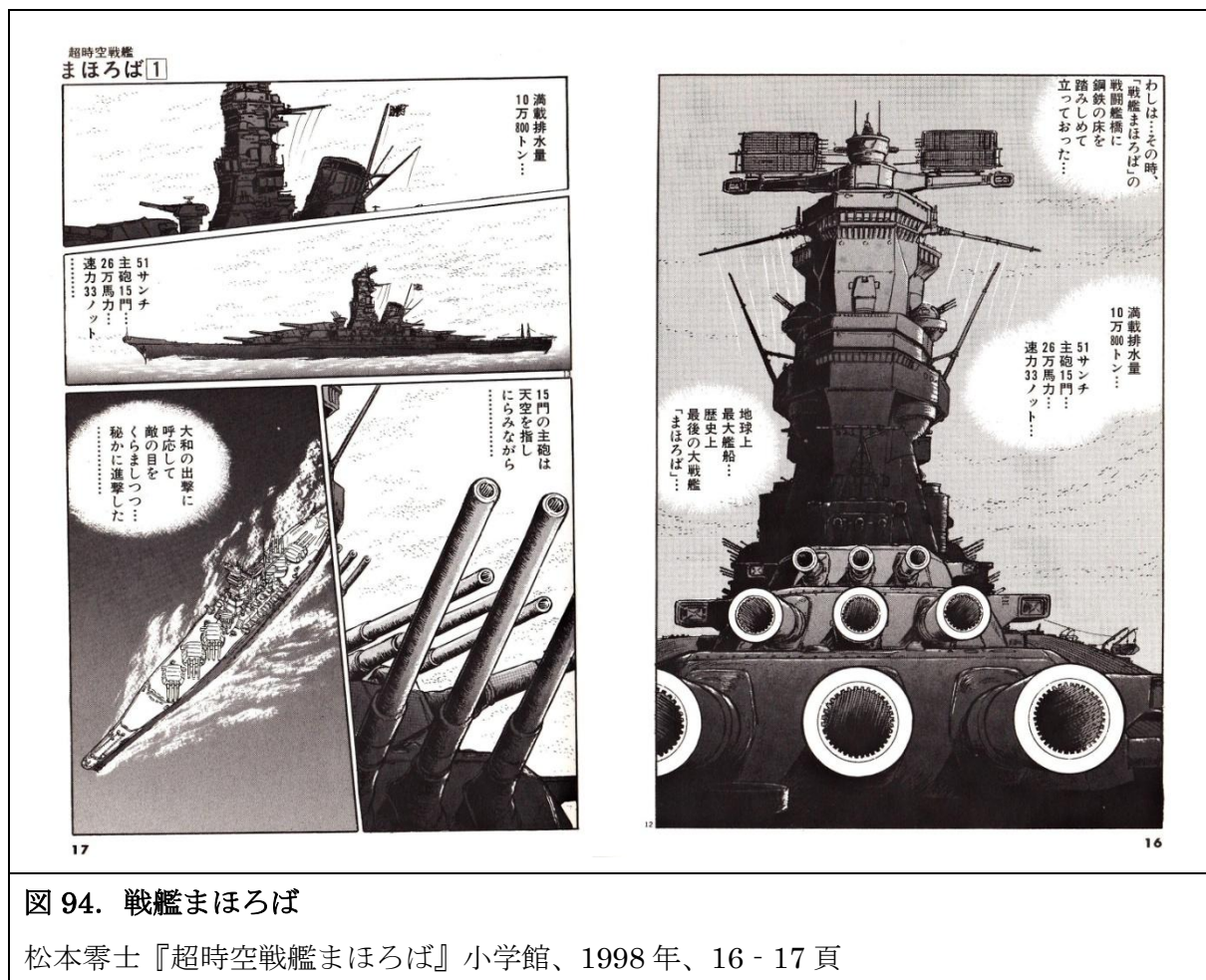


図 94. 戦艦まほろば

松本零士『超時空戦艦まほろば』小学館、1998 年、16 - 17 頁

⁶⁹⁴ 松本零士「戦艦まほろば」『超時空戦艦まほろば 1』小学館、1998 年、5-28 頁。

⁶⁹⁵ 「天号作戦（天一号作戦）」に従い沖縄方面へ出撃した戦艦大和は、1945 年 7 月 4 日、坊ノ岬沖海戦で爆沈。

同作品は第1巻全3話、奥付含め229頁、2巻全5話、同253頁完結だが、まほろばの艦首描写は第2巻第4話まで避けられ、やむなく描かれた唯一の正面艦首に菊花御紋章は無く、艦首には觸髻らしき紋章が認められるのみである（図95）。

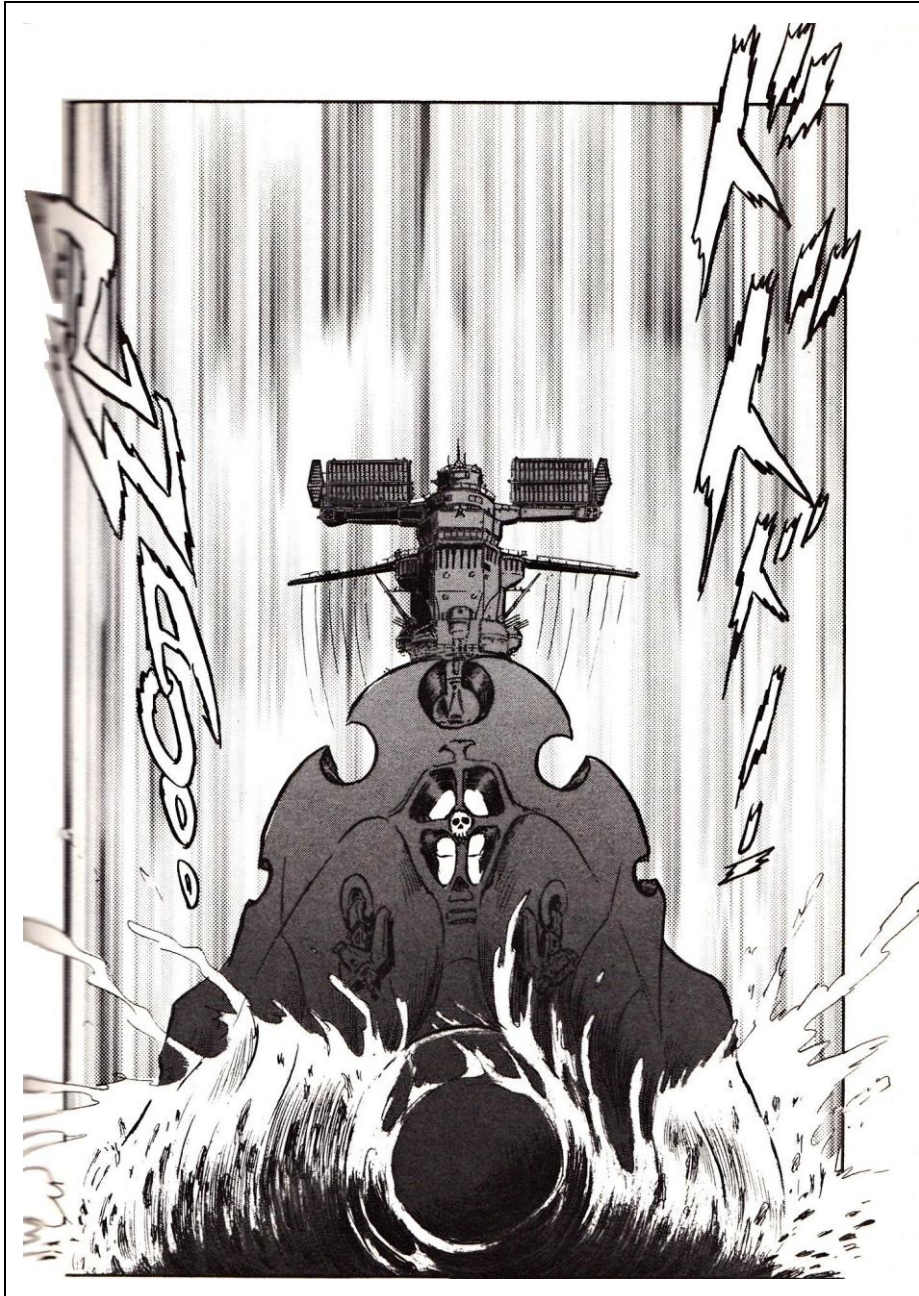


図95. 戦艦まほろば艦首

松本零士『超時空戦艦まほろば2』
小学館、1998年、
210頁

ヤマト以上に帝国海軍の大和に酷似したまほろばを描きながら、その艦首に菊花御紋章を描かない理由は那边にあるのだろうか。筆者はひとまず戦前の「ナショナルリズム」との断絶が図られていると仮定するが、その回答は第1巻第2話に暗示さ

れている。

『超時空戦艦まほろば 1』所収第2話「燦・戦艦まほろばの復活」には豪華大型客船リベンジ・オブ・アース号が登場する。⁶⁹⁶ 同船は「心ゆくまで戦い、心ゆくまで恨みを晴らし…」「地球上の過去の憎悪を忘れ去るための復讐者の船」である。

⁶⁹⁷ 船籍、船主共に無く、乗船者全てが責任を負うという。同船内には世界各国の兵士がティルト・ローター機で輸送されてきており、船内では表面上は各国平等であるが、実際には「各国の立場が微妙に…」と差異が暗示されている。⁶⁹⁸ 船内では第二次世界大戦当時の火器の限定使用により決着するまで戦闘すべしと規定しつつも、実際には現代の火器が秘密裏に持ち込まれ、使用されているという内容である。

当該作品の設定は、現代社会に於ける第二次世界大戦の評価の差異があることを前提に、国際関係の現実を反映していると言えるのだが、当該作品には、第二次世界大戦までの「国体」を含めた諸価値観と現代のその断絶を図ろうとする松本の意図が示唆されているのである。

しかし、松本が意図するところは過去との断絶のみではなかろう。第二次世界大戦の戦闘行為による決着も現実社会のパワー・ポリティクスも、理想社会から断絶されるべき故に、リベンジ・オブ・アース号は無船主、無船籍であり、乗船にはティルト・ローター機が使用されるのではあるまいか。また、まほろばが海上自衛隊のイーゼス艦に遭遇し旭日軍艦旗を認める場面では、「あの旗を掲げる日は…二度とあるまい…」と書かれており、まほろばには海上自衛隊のイーゼス艦以上に帝国海軍との断絶が図られていると言える。⁶⁹⁹ 従って、松本が断絶を望むものは帝国主義的ナショナリズム、パワー・ポリティクスであると推定し得る。

⁶⁹⁶ 松本零士「燦・戦艦まほろばの復活」松本前掲『超時空戦艦まほろば 1』、29-128 頁。

⁶⁹⁷ 前掲作品、87 頁。

⁶⁹⁸ ティルト・ローター[tilt-rotor]機：垂直（或いは短距離）離着陸が可能な回転翼式航空機、V-22「オスプレイ」など。松本の絵は V-22 に酷似している。

⁶⁹⁹ 松本零士「超戦艦まほろば」松本前掲書、224 頁。

4 - 2. 「死」の表現

松本零士『宇宙戦艦ヤマト1 イスカンダル遙か』は全312頁で完結している。当該漫画作品に於いて、松本は何場面の戦闘を描き、何場面の死を描き、また其々に対し何頁の紙幅を割いているであろうか。

当該作品は宇宙戦争を描いたSF作品であるため、複数の戦闘を含む艦隊同士の戦闘1回その他、敵艦隊対ヤマト1艦の戦闘、敵基地対ヤマトの戦闘その他、自爆攻撃、墜落、衝突等の戦闘場面が反復描写されている。しかし、それにもかかわらず、「死」の描写は極めて少なく、人間（及び宇宙人）の遺体（及び遺体らしきもの）が描かれた場面は4シーン8コマ（10コマ相当分使用）、動物の遺体（及び遺体らしきもの）は明白なギャグを含めて2シーン2コマである。

戦闘中、少なくとも味方艦3艦、敵空母1艦、敵艦隊司令官乗座の円盤1機は爆発しており、ヤマトも最低3回、複数箇所被弾している。被弾の内（弾丸ではないのだが）、「反射衛星砲」の攻撃を受けた際は船体が二つに割れる程の甚大な損傷を受けている。

しかし、このような激しい戦闘にもかかわらず、死者、負傷者は描かれておらず、松本が意図的に「死」の描写を避けていると推定される。松本自身、執筆を回想し、「死を扱う話を描くのは、僕には大きな重荷だった」と書いている。⁷⁰⁰

そこで、僅かに描かれた「死」の場면을登場順に挙げ、死者、死因、描写コマ数を表にしたものが次表である（表2）。

動物の死の描写が2コマ認められるが、豚の死は、ヤマト乗員の獣医佐渡酒造^{さどさけぞう}の医療ミスによるもので、後でその豚を「オカズ」にするというギャグ挿入の導入であるため検討対象から除外し、残り5場面を見ると、いずれの絵からも残虐性は感じられないであろう。以下、場面毎に検証したい。

⁷⁰⁰ 松本前掲『遠く時の輪の接する処』、165頁。

死者・遺骸等	死因	コマ数
イスカンダル星人サーシャ	墜落死又は墜落後死亡	3
海水魚 2 匹以上	海水蒸発及び放射能による死亡	1
豚	医療事故死	1
食糧庁長官	磁力銃（拳銃）自殺	1（4 コマ相当）
ヤマト乗員 4 名	放射能被曝死	1
ヤマト艦長沖田十三	不詳	1（2 コマ相当）

表 2. 松本零士『宇宙戦艦ヤマト 1 イスカンダル遙か』に於ける死亡

最初に、イスカンダル星人サーシャの墜落死の場面を検証する。墜落物体の前に横たわるサーシャの遺体に損傷は見られず、出血も無い（図 96）。眠っているが如きサーシャの顔に、思わず発見者は「なんて／きれいな人だ…！！」と叫ぶが、この台詞により、作者の意図が美的描写にあることは間違いない。⁷⁰¹ 「あ…………／死んでる／！！」なる台詞のみが描写された「死」に確証を与えている。⁷⁰²

⁷⁰¹ 松本零士『宇宙戦艦ヤマト 1 イスカンダル遙か』秋田書店、1992 年、12 頁。

⁷⁰² 前掲作品、12 頁。



図 96. サーシャの死

遺体損傷が無く、死因不明

松本零士『宇宙戦艦ヤマト1 イスカンダル遙か』秋田書店、1992年、18頁

次に、海水魚2匹以上の、海水蒸発及び放射能による死亡描写を検証する（図97、下）。「地球上の海は／蒸発してひ上がり…地上の生物を／みな殺しにして／しまった」なる説明が書かれているため、描かれている物体は海水魚の骨であろうと想像され、その骨らしき物体以外の描き込みも、恐らく海洋性動物の遺骸であろうと想像される。⁷⁰³

⁷⁰³ 前掲作品、26頁。

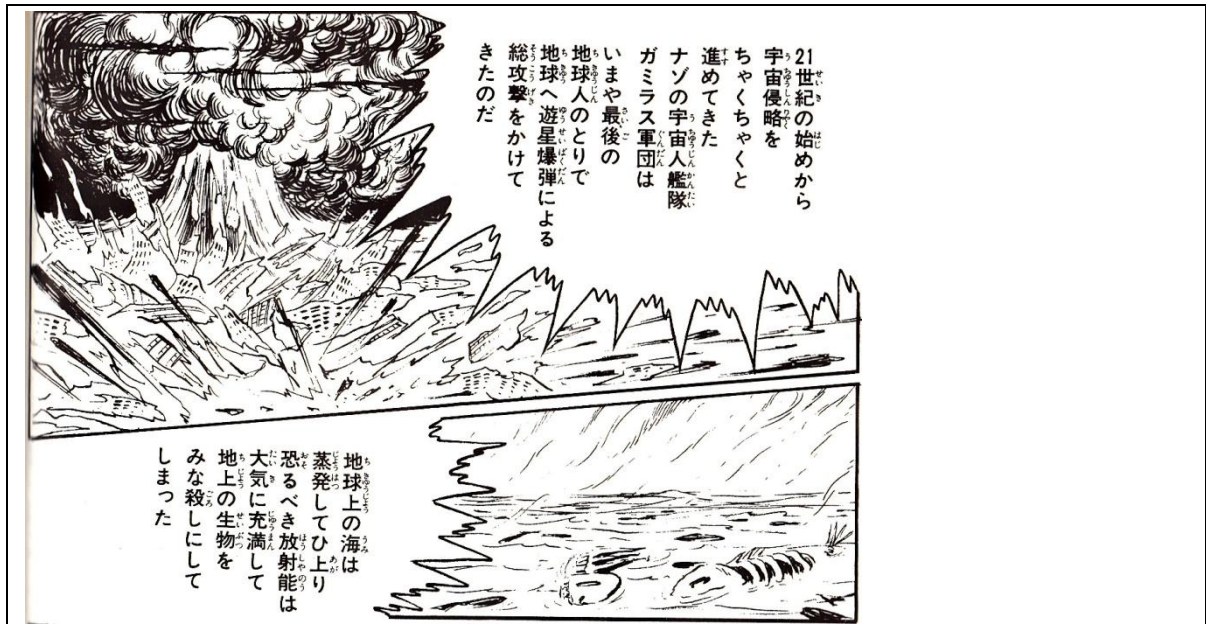


図 97. 干上がった海

松本零士『宇宙戦艦ヤマト 1 イスカンダル遙か』秋田書店、1992 年、26 頁

三番目に、食糧庁長官の自殺を検証する（図 98）。描写には 4 コマ相当の紙面が使用されているものの、内 2 コマは拳銃を持つ手元のみ、1 コマは閃光と音の描写で、遺体の一部が描かれたコマは 1 コマである（図 98、下、右）。遺体の損傷、出血も無く、上半身の一部を斜め後ろから描写しているため、表情も不明である。遺体発見の次のコマ内の「食料局長官は／地下都市の食料／のたくわえが残りすくなく／なったの／を気にして／いたからな／あ……」という台詞が殉職を示唆している（図 98、左、中）。⁷⁰⁴

⁷⁰⁴ 前掲作品、208 頁。



四番目に、ヤマト乗員 4 名の放射能被曝死を検討する（図 99）。2 コマ目（上、左）下部に靴底が描かれており、人物が倒れていることがわかる。その人物は、背景から判断し、1 コマ目で「ううっ／ガスだっ」と叫んでいる人物と想像される。

⁷⁰⁵ しかし、当該人物が死亡しているか否か、判別は困難である。下の左コマの枠内左下部につま先の描写があり、その奥にうつ伏せに倒れた遺体が 1 体、そのすぐ奥にうつ伏せの下半身 1 体、更に奥に脚部の描写があり、恐らく 4 名であろうと想

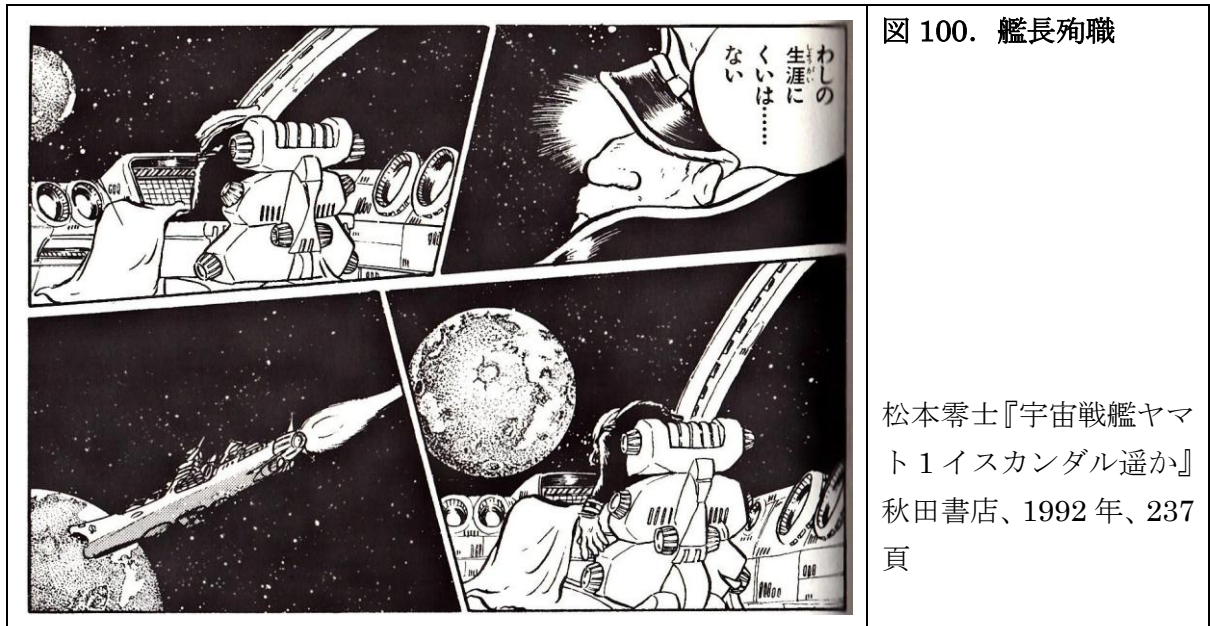
⁷⁰⁵ 前掲作品、228 頁。

像される。画面奥の方に後ろ向きで立っている者は全て敵方ガミラス星人で、マントを纏った総統デスラーの「見ろ地球の／人間どもめ／放射能をあびて／ヤサイのように／しなびて死んで／いるぞ」という台詞が無ければ、4名が死んでいるのか否か判別不能であるし、しなびているか否かさえない絵である。⁷⁰⁶



⁷⁰⁶ 前掲作品、228 頁。

最後に、ヤマト艦長沖田十三の死の場面を検討する（図 100）。艦長室の椅子に腰かけた沖田の「わしの／生涯に／くいは……／ない」の言葉と、続く 2 コマで沖田の死が表現されている。⁷⁰⁷ いわゆる安らかな死の描写と言えよう。作品中、沖田が倒れた際の台詞に古傷が云々というものがあるが、これが死因とは考え難い。



以上、松本零士作品は「死」の描写自体を避ける傾向が認められるとともに、「死」を描く場合も詳細な描写が認められない。遺体・遺骸が描かれた場合、損傷や出血は描かれず、死者の表情の描写も避けられている。サーシャや沖田艦長の「死」は「美」に昇華されて描かれているとさえ言えよう。

艦長沖田十三の死は、以後ヤマト乗員に特別な意味を持ったものとして描かれる。沖田艦長が死亡するも、ヤマトは無事地球に帰還し、物語は一旦完結する。しかし、帰還したヤマトの乗員たちが、沖田の二年目の命日に集結する。続編『宇宙戦艦ヤマト 2 永遠のヤマト』（以下、『永遠のヤマト』）は、彼らが廃艦直前のヤマトに乗り再び宇宙へ旅立つ物語であるが、沖田の命日に彼らが集合する場所が、沖田の銅

⁷⁰⁷ 前掲作品、237 頁。

像の前なのである（図 101）。⁷⁰⁸ 同作品内で沖田の死の瞬間は再現され、以降、沖田は幻影として、或いは乗員の心中描写として、反復して描かれている。不動の姿勢で巨大な沖田の銅像を見上げるヤマト乗員たちの姿の絵は、沖田が英雄たることを読者に了解させるのみならず、殉職した艦長が「このような礼遇を受けるべきである」というメッセージとしての機能が認められよう。また、ロボットであるアナライザーが、ヒューズの役を買って出た際、「ワタシハ／男デス」「ボクハ／男ダ！！／チガイ／マスカ？」と発話する場面で、「男ハヤラネバ／ナラヌ時ガア／ルト沖田艦長／ガヨクイッテ／マシタ」という台詞があり、沖田が男性性の象徴たることが示唆されている。⁷⁰⁹

⁷⁰⁸ 松本零士『宇宙戦艦ヤマト 2 永遠のヤマト』秋田書店、1992 年。

⁷⁰⁹ 前掲作品、31 頁。



図 101. 沖田の銅像

次コマには斜め前方の絵があり、銅像の台座に沖田の名が刻まれている。

松本零士『宇宙戦艦ヤマト 2 永遠のヤマト』秋田書店、1992 年、25 頁

興味深い事に、『永遠のヤマト』には戦闘場面が殆ど無い。会戦に於ける被弾 1 発と衝突した敵艦の自爆によるヤマトの損傷は軽微で、乗員に戦死者は無い。同書巻末の「永遠のジュラ編」を含めても「死」が描かれたコマは皆無である。⁷¹⁰ また、「永遠のジュラ編」には生前の沖田が艦長席の椅子で見た幻覚が描かれ、幻覚の中で沖田は先に戦死した部下たちの霊に「男らしく／責任を／とって／死ぬべき

⁷¹⁰ 松本零士「宇宙戦艦ヤマト 永遠のジュラ編」前掲書、289-323 頁。

だ」と自決を迫られている。⁷¹¹ 全ては幻覚として描かれているが、『宇宙戦艦ヤマト』の本編が完結した後の「永遠のジュラ編」に描かれることにより、沖田の殉職は戦死者全員の死の象徴としての意味付けがなされており、その殉職は「男らしい」死であったことを暗示しているのである。

以上の分析から、松本零士『宇宙戦艦ヤマト』に於いては、「死」の現実的イメージを遠ざけた視覚素材が無邪気で屈折したナショナリズムを支えていると言える。上記に挙げた例から結論し得る「死」の意味付けは、「美」としての意味付けである。艦長沖田十三の死は「荘厳」にまで昇華されているとともに、漫画内で銅像として描かれることにより男性性の不可侵の象徴となっているのである。しかし、松本の主題は「生命」であり、父性に代表される男性性であり、ナショナリズムは最大限に希薄化されている。松本は、『ヤマト』執筆に際し、「アニメーションを作るといふ、かねてからの夢がかなったわけではあるが、正直なところ『よりよって戦艦大和か』と気が重かった」と回想し、父親強氏がよく言っていた言葉 - 「人は生きるために生まれるのであって、死ぬために生まれるのではない」 - が『ヤマト』のメインテーマになった」と書いている。⁷¹²

5. 小林よしのりによる「死」の表現

小林よしのり『戦争論』三部作の概要は、第一巻で無邪気なナショナリズムを掲げ「公」を説き、第二巻に於いて「公」と「私」の概念を説明し、アイデンティティーとしての国柄、即ち、国体を説く。第三巻で生命の本質に迫り「生」の価値から「公」を説き、また反米によるアイデンティティーを説く。三巻の根底には公共心の重要性を説くパトリオティズムが認められ、その思想を、エンターテインメントを含め、あらゆる角度から論じている。概要に従い、「死」の意味付けも、各巻、各章、各場面で差異が認められる。

⁷¹¹ 前掲作品、305 頁。

⁷¹² 松本前掲『遠く時の輪の接する処』、164 頁、168 頁。

また『靖國論』に於いては、「英霊」祭祀を日本の伝統と捉えることにより、靖国神社と天皇との橋渡しをしているため、「死」は神聖なものとして描かれる必然性がある。⁷¹³ 以下本節では『戦争論』から『靖國論』に至る「死」の描写、その有無、及びその意味付与を検証する。

『戦争論』各巻は、題名が『戦争論』であるだけに戦闘場面が多いのであるが、進撃場面を戦闘場面と看做すか否か、皮肉で描かれた反語的表現を如何に扱うか、或いはデフォルメの意図を如何に解釈すべきか、という問題もある。よって、本節では、三巻を通し相対的に多くの紙面を割いている描写を選択して取り上げる。

まず、最も紙面を割いているのは、『戦争論 3』第 12 章「破壊された公」に描かれた餓死児童の「死」の場面である（図 102）。当該作品自体が、餓死児童の「死」を通し、生命なるものの本質を問うており、複数コマを以て表現された「死」のいずれのコマを以て児童の「死」と見做すか、即ち、「死とは何か」たる哲学的問題を孕んでいる。しかし、一人の児童の死の描写に少なくとも 8 コマ 2 頁、死に至る過程と死体の描写を含めると 15 コマ 3 頁以上の紙面を割いている。「死」の表現という意味に於いては重要な作品だが、生命はそれが保障される環境下ではじめて意味がある、と「生命至上主義」に対する反論の意味で描かれており、ナショナリズムとの関連性は低い。⁷¹⁴

⁷¹³ 招魂を日本の伝統のひとつとする限りに於いては小林の表現は正しいが、春山明哲は、招魂や天皇の為の自己犠牲を伝統と見做すことは国際的に評価の分かれる旨を報告している。春山は、理解者としてラフカディオ・ハーン（小泉八雲）、批判者として B・H チェンバレンを挙げている。春山前掲論文（参考）。

⁷¹⁴ 第 13 章「侵略と虐殺の世界史」では、貧困の原因として、欧米帝国主義を非難している。

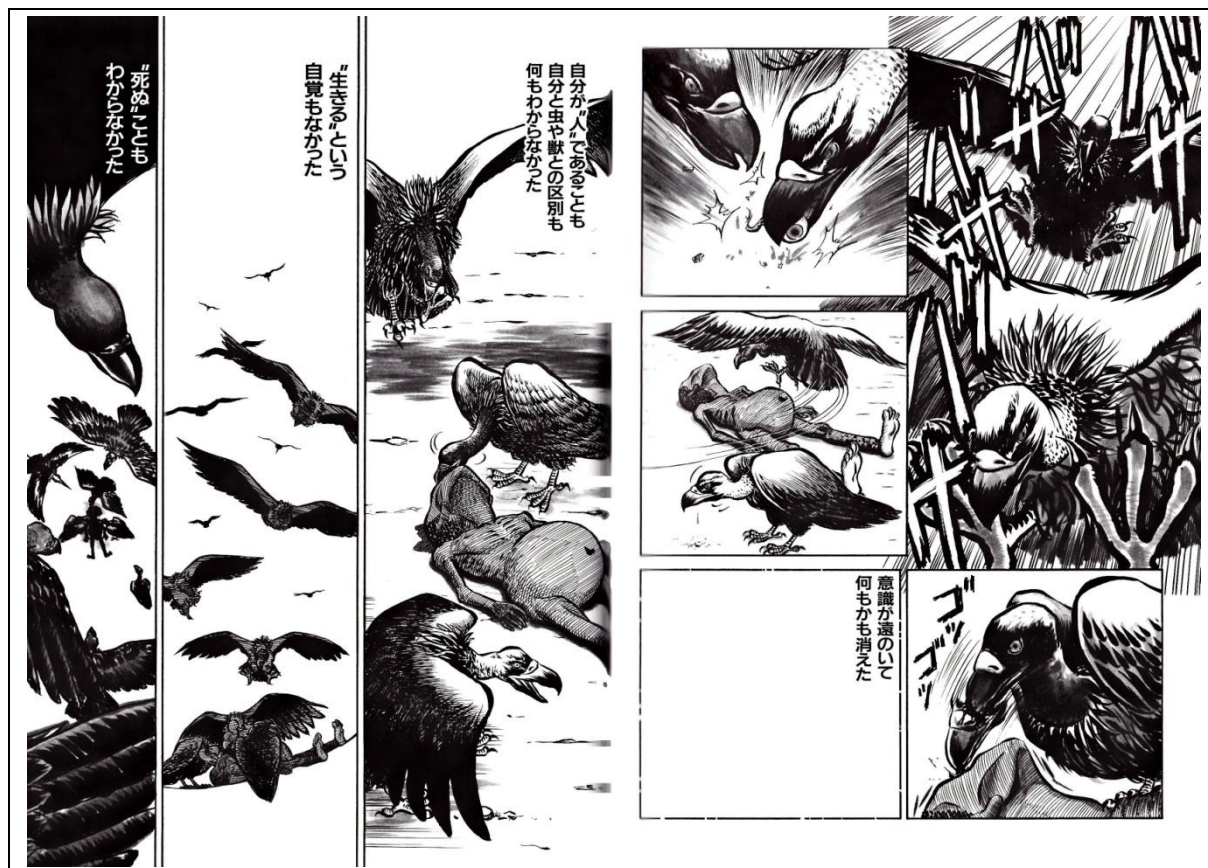


図 102. 「餓死児童」

小林よしのり『戦争論 3』幻冬舎、2003 年、140 - 141 頁

次に紙面を多く割いているのは、『戦争論』第 19 章「悪魔の戦争」に於ける東京大空襲による民間人の死の描写である。当該部分は多くの市民が焼死していく場面で、母子が逃げ惑う描写である。見開きで母子が逃げ惑う絵には炎上する人間や焼死体が描かれ、次頁では背負われた子供の口に焼夷弾が命中し、顔面が炎上する、凄まじい描写である（図 103）。この母子が逃げ惑う絵は、異なる構図で『戦争論 3』にも描かれており、6 コマ 5 頁以上の紙面が使用されている。

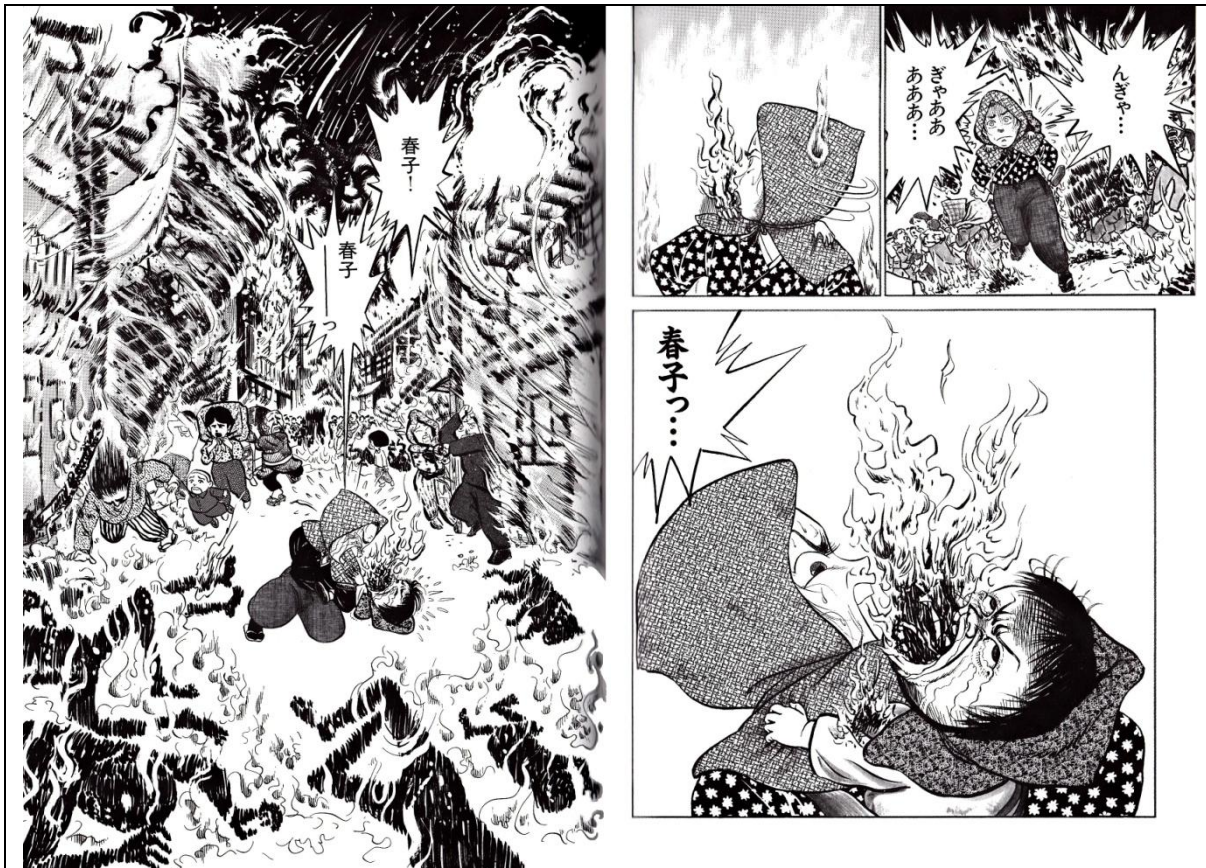


図 103. 東京大空襲

この頁直前（324 - 5 頁）が見開きの絵である。

小林よしのり『戦争論』幻冬舎、2001 年、326 - 327 頁

三番目に多くの紙面を割いている場面が通州事件である（図 104）。『戦争論』に 1 コマ、『戦争論 2』に 9 コマ 3 頁以上を割いており、小林が重要視していることを窺わせる。コマ全体に散乱する死体が描かれ、その死体は、頭部、腕、手首など切断され、胴体は切り裂かれている。図左コマには、当該事件を伝えた当時の東京日日新聞の号外が組み込まれ、小林は怒りの表情の日本の民衆を描き足している。



図 104. 通州事件

小林よしのり『戦争論』幻冬舎、2001 年、122 頁

以上の 3 場面が『戦争論』に於いて最も紙面が割かれた「死」の場面である。描かれた行為が残虐か否かも当然であるが、小林の描写が残虐か否かも読者の主観に委ねられることを筆者は否定し得ない。しかし、図 102、103 の前後の場面には、そこに至る過程とその後の死体の状況が、図 104 の前には発砲場面が描かれている。本節に挙げた克明な死の瞬間の描写や生々しい死体の絵は、読者をして嫌悪感を生じさせるであろう。しかし、その嫌悪感は「戦争」に対するものにあらず、敵方、或いは原因者側に対する嫌悪感ではなかろうか。

筆者は、敵方たる米国、中国、或いは原因者として暗示される「白人」に対し嫌悪感を掻き立てる原因として、例に挙げた絵に限定し、画面上に認められる要素から次の四点を指摘したい。即ち、第一に、被害者の顔面の描写、または顔面の損傷が予想される描写がある点、第二に、死因が絵から直接的に想像し得る点、第三に、

描写が写実的たる点、第四に、描かれている被害者が非戦闘員たる点である。

そこで、戦闘要員の死の場面を調査すると、指摘した四要素に於いて先の3場面以上に紙面を割き、且つ残虐性が高いと思われる絵は認められなかった。しかし、その中でも次に挙げる3点の絵は、注目して良からう。まず、図105である。その理由は、紙面が比較的大きく、且つ表情が写実的に描かれているからである。図106は比較的紙面が大きく、直接的死因が明白で、血液が描写されている。図107は顔面描写から表情がわかり、遺体全体の描写が漫画部分と区別され写実的である。

最初の図105は、『戦争論』第16章「自己犠牲の戦争体験と正義」の内の1頁、描かれている人間は全て日本兵である。「敗退期の日本兵の悲惨なさま」を列挙しているため、場所や人物は特定できず、各コマの関連性は無いと判断し得る。⁷¹⁵ 当該頁の前に日本軍の行軍の絵があり、「敗退期の日本兵の／悲惨なさまは／これはもう／筆舌に尽くし難い」という小林の言葉が書かれている。⁷¹⁶ 悲惨な事例として、「足の裏が／破れた／マメだらけで／激痛を／こらえて／行軍」することと「眠ったまま／歩いて／崖から／落ちたりする」ことが同一内にコマで描かれ、次に「ジャングルを通ると／山蛭が落ちてきて／首筋に吸いつく」ことと「身体はシラミだらけで／血を吸われる」ことが同一コマで描かれている。⁷¹⁷ そこに続くコマが図105、即ち、日本兵による日本兵の遺体の一部切断、手榴弾による自決、蟻や秃鷹による遺体の損壊、マラリアに罹患しながらの行軍中の死の絵なのである。中段中央の損壊遺体は、片側だけ残った眼球が正面を見るように描かれており、読者に与える衝撃は大きいものと推測される。5コマ連続で表現された雨中行軍は、下段中央で表情描写があり、読者の感情に訴えかけるであろう。

⁷¹⁵ 小林前掲「自己犠牲の戦争体験と正義」小林前掲『戦争論』、276頁。

⁷¹⁶ 同上。

⁷¹⁷ 同上。



図 106 は、崖を駆け降りる敵兵に対し（図 106、右）、日本兵が対岸から機関銃射撃を加え（図 106、左、上）、「片っ端から／その敵を／なぎ倒し」た場面の 3 コマである。⁷¹⁸ 小林は、「まるで／地獄絵図の／凄惨な／光景…！」と書くが、図 102 から図 105 の各コマと比較し、凄惨さの表現は、控え目ではなかろうか。⁷¹⁹

⁷¹⁸ 小林前掲「痛快な戦争体験」前掲書、261 頁。

⁷¹⁹ 同上。

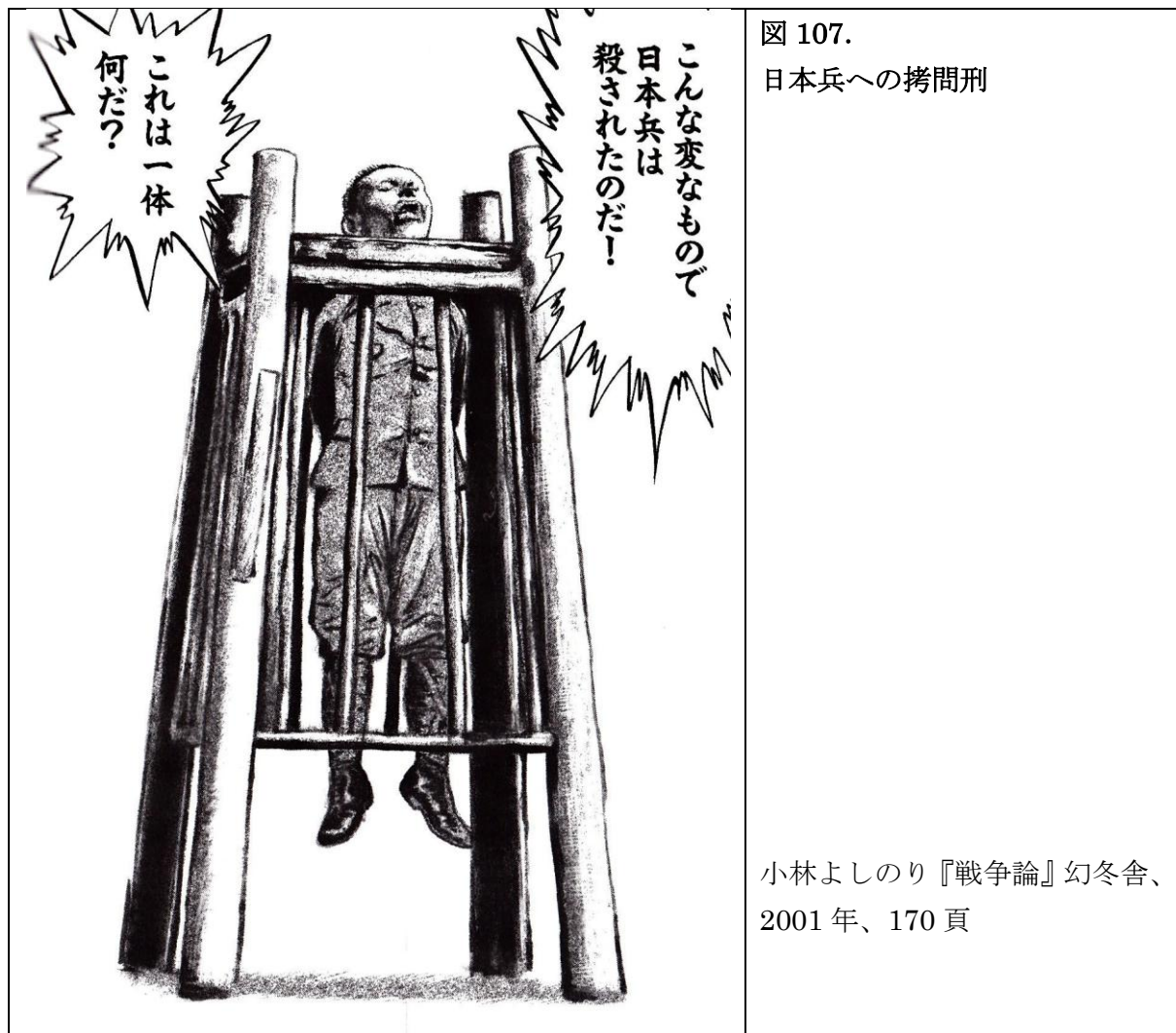


図 107 は、第 11 章「反戦平和のニセ写真を見抜け」の 1 コマである。小林によると、早朝の CNN ニュースが、「支那兵による／日本兵などへの加害行為を第三国人が撮影した／という」写真を報道、図は小林がその「加害行為」を漫画で再現した絵である。⁷²⁰ 小林は被害者を日本軍の軍装で描き、「こんな変なもので日本兵は殺されたのだ！」と断定しているが、CNN が報道した写真では日本軍の軍装は明確に確認されない。⁷²¹ また、CNN の報道に於いて、写真の撮影者、トム・シメン

⁷²⁰ 筆者下線、小林よしのり「反戦平和のニセ写真を見抜け」前掲書、151-171 頁。CNN の報道は、「日本の兵隊とそれに協力した上海の住民」と伝えている。

⁷²¹ 筆者下線、前掲作品。CNN バンコクによる当該レポートは YouTube で確認できるが、妨害と拡散の応酬が継続している。「シナ（中国）人による日本人捕虜の残虐処刑（1996CNN※拡散）」

<https://www.youtube.com/watch?v=0WZ7wXzh8z0&oref=https%3A%2F%2Fwww.youtube>.

氏の息子で、写真の所有者であるジョン・シメン氏は、被写体の被害者が日本人であったか、日本軍に協力した中国人であったのかは断言していない。寧ろ、日本軍に協力した中国人の取り扱いが残酷だったという父の言葉を伝えている。

『靖國論』は、描き下ろし作品2本を所収しているが、当該2作品には「死」の描写が認められない。「死」の描写という観点からの同書の特徴としては、『新ゴーマニズム宣言12』所収の「日本人の魂・終戦自決烈士」を再収し、「終戦」後の航空特攻死1名と自決4名の死を載せている点と、『戦争論2』所収の「1068人の人身御供を戦勝国に差し出した日本」を再収、樺太の真岡郵便局に於ける自決を載せている点を指摘し得る（図108）。⁷²²

前者の自決の中でも、「陸軍少佐 晴気誠命。32歳」の描写は詳細をきわめ、切腹場面4コマ、拳銃発射場面2コマ、遺体3コマ、更に決意の描写に前2頁、遺書などに後1頁を割いている（図109）。後者の遺体描写は1コマ（3分割）だが、前コマが多く、『靖國論』に於ける戦闘要員以外の唯一の自決場面の描写である（図108）。

com%2F&has_verified=1（アクセス日：2014年8月16日）。

⁷²² 小林よしのり「日本人の魂・終戦自決烈士」の初出は「SAPIO」2002年8月21日、9月4日合併号、小学館、2002年。小林よしのり「1068人の人身御供を差し出した日本」の初出は『戦争論2』幻冬舎、2001年、109-136頁。



図 108. 樺太、真岡郵便局交換手の自決

小林よしのり『靖國論』幻冬舎、2005 年、139 頁



図 109. 「陸軍少佐 晴気誠命。32 歳。」

前頁には決意までの詳細描写、次ページに遺書を掲載している。

小林よしのり『靖國論』幻冬舎、2005 年、75 頁

晴気少佐の自決場面は、切腹描写では出血を描き、拳銃発射の描写では陰影のみだが、口から後頭部へ撃ち抜いた絵である。表情描写も克明である。

『戦争論』及び『靖國論』は「死」の描写を避けることなく、積極的に作品に取り込んでいる。写實的描写が多く、嫌悪感を引き起こすものもあるかと思われる。しかし、晴気少佐の自決場面は、壮絶な自決の描写であるが、凄惨というよりは寧ろ荘厳ささえ感じられる表現ではなかろうか。

以上の本節に於ける8つの図を見る限り、戦争を美化していると言い得る絵は認め難い。凄惨な死の描写からは嫌悪感が引き起こされたが、それは戦争に対する嫌悪感であろうか。否、敵方に対する嫌悪感ではなかろうか。その最大の要因としては、味方犠牲者が全て非戦闘要員で、主として女性、或いは子供である点が指摘し得る。

一方、味方戦闘要員が、敵方を殺傷する場面も確認された。しかし、確認された敵方死者は全て戦闘要員である。その中で、最も明瞭に描かれた絵が、本節に挙げた図106である。『戦争論』では、敵味方双方の戦闘要員の描写として、日本機による敵方格納庫への突撃、或いは、米国海軍艦船に対する航空特攻の絵が確認されたが、操縦士の「死」は描写されておらず、敵方の死者も明瞭に描かれていない。その理由は、まず、実際の操縦士の遺体の確認が困難である点、次に、絵の主題が「突撃」、「特攻」であるための表現上の工夫点にあると思われる。しかし、『戦争論』及び『靖國論』の特徴として、戦時に於ける敵方に対する憎悪感を超え、旧敵国に対する憎悪感を惹起する表現と味方の死の荘厳化は指摘されるべきであろう。

6. 結論

松本靈士『宇宙戦艦ヤマト』は「死」の描写を避けつつ、また帝国主義的ナショナリズム、「天皇制」としての「国体」を否定しつつ、殉職を英雄視することを説いている。或る意味では、戦後民主主義下のモデル的漫画作品と言えよう。

小林よしのり『戦争論』各巻及び『靖國論』は、各章、各場面の「公」へのアプローチの仕方次第で「死」の表現方法に差異が認められる。しかし、『戦争論 3』が「死」を直視し、「生」の本質を問うている点は特筆してよい。小林よしのりが描いた「死」は松本零士のそれと比較し、写実的で凄惨である。

松本零士が描いたヤマトは干上がった海底の土を振り払い宇宙へ飛び立った。水木しげるが描いた「足の裏のようなロケット」は土中から掘り出され宇宙へ飛び立った。ヤマトや青年の爾後は如何なる結末を迎えたであろうか。ヤマトは廃艦処分が決定され、「足の裏のようなロケット」で旅立った青年は、帰還後、自殺未遂者と看做された。両作品の結末は読者をして同情に似た寂寥感をもたせるのではなかろうか。

松本零士、水木しげるをしてこのような結末を創作させたものは何であろうか。「否定すべき」戦前と「肯定すべき」戦後の狭間で消失した何物か - 理念で忌避しても忌避し難い空想的「美」 - に対する哀愁ではなかろうか。本章冒頭に吉本隆明を引用したが、吉本はヤマトに「時代や制度や権力や空間概念が変わっても、変わりばえのしない日本的心性の世界」を見るべき旨を書いている。⁷²³ 空想的美とは、例えば、忠臣蔵の討ち入りの夜の雪、或いは会津白虎隊の少年の血に表象され、演劇として反復上演されてきている。それはもはや「日本的心性」なる実証不能の概念を持ち出さざるを得ないものであるが、そこに美を認めるか否かたる問題を措けば、表象されている本質は敗北者の精神性である。

松本零士は『超時空戦艦まほろば』の1コマに「大和と武蔵の魂魄の宿る」艦なる文がある。⁷²⁴ そのまほろばは、船内で戦闘行為を継続させる客船リベンジ・オブ・アース号を撃沈し、また、シブヤン海に沈んでいる帝国海軍の戦艦武蔵に接近する如何なる者も拒否するのである。同作品内に「大和と武蔵の魂魄」の何たるかは明示されていないが、筆者はそこに松本零士の精神性を認めるのである。終戦後

⁷²³ 吉本前掲「『さらば宇宙戦艦ヤマト』の魅力」吉本前掲書、94-101頁。

⁷²⁴ 「大和と武蔵」とは、実在した帝国海軍の戦艦、大和と武蔵を指す。松本前掲「超戦艦まほろば」、190-191頁。

自衛隊への入隊を拒否し貧困生活を甘受した父親を「本当のサムライ」と尊敬し、自身も進駐軍兵士がばら撒いた菓子の食べたさを我慢し、それを下駄で踏みつけた松本である。「サムライ」として、敗者がその精神性の高さや正義を語ることを潔しとしなかったのではあるまいか。ペンネーム「松本零士」の「士」は「サムライ」である。松本は旭日旗を掲揚し国連軍に参加したイージス艦の自衛官に涙を流させ、「まほろばには我々が失くした猛々しさがある！！」と叫ばせている。⁷²⁵

松本は戦死者の精神性を認めるのであるが、徹底して戦前の価値観との断絶を図っている。帝国海軍の戦艦大和をモデルにした漫画を描きながら、その象徴たる菊花御紋章は無い。それは「天皇制」の否定なる単純なものにあらず、帝国主義の否定、武力による国際問題解決の否定、国家間の序列の否定である。

一方、小林よしのりは戦後民主主義による秩序の崩壊に警鐘を鳴らしたが、東日本大震災により日本人の公共心は広く認知された。小林も漫画作品内で東日本大震災時に見られた自己犠牲的行為や復興にあたる献身的精神を称賛している。

小林の「思想漫画」作品にはこのような精神を広く世代を超えて伝承させる可能性があり、その思想に基づくひとびとの自発的行動は、国家主義的ナショナリズムにあらず、市民主義的ナショナリズムに収斂されるであろう。⁷²⁶ 小林は漫画作品に於いて献身的精神を顕彰し、ナショナリズムの高揚を図っているのであるが、アジア・太平洋戦争に於ける死の描写に関する限り、戦争を美化するような描写は認め難い。小林は死を避けて、死の現実を精緻に描写することにより、読者の感情に直接訴えかけているのである。

松本零士は戦艦大和を換骨奪胎し、戦争自体をエンターテインメントに転換したが、それは戦争の美化にあらず、戦争の忌避である。一方、小林よしのりは戦争の現実 - 痛快な勝利、悲惨な敗戦 - を写實的に描き、死を克明に描くことにより読者の身体的思想に直接訴え、思想を促しているのである。

⁷²⁵ 松本前掲作品、225頁。

⁷²⁶ 市民主義的ナショナリズムの負の効果は次章で論ずる。

第七章

近代日本のナショナリズムと「公論」

1. 序論

本稿は小林よしのりの漫画作品「ゴーマニズム宣言」を「思想漫画」として捉え、その特徴を比較対照方法により論証しつつ、小林が論じるところの「公」を解明してきた。小林が論じる「公」とは、一方で領域的にはほぼ国家（主権が及ぶ範囲）と同一であるが、他方で国家自体でも国家が要請する価値観でもない共同体の伝統に基づく価値観と換言し得、空間概念と価値概念の二面性が認められるのである。

小林は「公」を「私」と対立する概念として描いているが、「私」を優先する社会（空間）が一般化すれば「公」と「私」は際限なく同義となり、「私」と「滅私」が対立概念となる。

小林が主張する「公論」の意味は、「滅私の議論」と「公開討論」の二点である。小林は民主主義を論じるにあたり、ナショナリズムの必要性を説き、「ナショナリズム」に対し「国民主義」なる漢字を充てているのであるが、斎藤純一は小林の議論を「公共性論」として捉えた上で、『公共性』をナショナリズムによって再び定義しようとする思潮である」と批判している。⁷²⁷

第二章に於いては、小林よしのり批判の論点を7項目にまとめた。その内、取り上げられた絵の事実性については同章内で解決済みである。また、場面選択の恣意性批判については、漫画作品を創作する際に場面の取捨選択があるのは当然であろう。

次に、小林の漫画作品が、読者の情に訴えるという指摘は正しいが、そもそも漫画は読者の感情に訴えかける視覚メディアである。小林は死の悲惨さを克明に描写

⁷²⁷ 斎藤純一（さいとう じゅにち）：横浜国立大学経済学部教授。斎藤は小林の他に、佐伯啓二、西尾幹二を列举している。斎藤純一『公共性』講談社、2000年、3頁。小林よしのり『『平和』とは『平定』のことである』『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 民主主義という病い』幻冬舎、2016年、137-146頁（参考）。

し、読者の感情に訴えかけており、アジア・太平洋戦争に於いて日本が掲げた理念の正当性は主張するものの、戦争自体（戦争一般、戦争行為）を正当化しているとは言えない。小林は『戦争論 2』に於いて戦争忌避を大前提とした上で絶対平和主義を批判的に漫画化し（図 110）、「『軍国主義』なんか嫌いに決まっている！」と断言する絵を描いており、『戦争論』三部作の意図を説明的に描いた『新戦争論 1』では、「皇軍の無謬性神話」をパロディ調の絵で否定した上、日章旗を背景に日本の陸海軍の軍人たちの顔を暗い影で描写している（図 111）。⁷²⁸ 続くコマでは、アジア・太平洋戦争からシリア・イラク、パレスチナ、ウクライナへと戦争を一般化して、「悲惨である」「むごたらしくて／吐き気がするほどだ」と書いている。⁷²⁹

また、小林は漫画家として「公的に」靖国信仰を表明しているが、靖国信仰自体への批判は小林批判とは言えず、靖国神社が廃止されるべきか否かは本稿の議論の範囲を逸脱する。

最後に、『戦争論』には天皇への論及が無いという旨の批判に対しては、既に『天皇論』三部作が応えている。

『戦争論』以前の小林は世間的にはいわゆる左翼的と理解される傾向があった。小林もその点は意識していたのではなかろうか。しかし、世間に右翼扱いされる可能性を覚悟の上に『戦争論』発表したものであり、後年、明確に日本軍批判を描いた上で戦争一般を否定している。⁷³⁰ その上で、「公」を前面に主張している以上、小林の言う「公」の「公共性」的性格とナショナリズムの関係を解明する必要がある。

⁷²⁸ 活字書籍『新ゴーマニズム宣言「個と公」論』に於いても「軍国主義」並びに「ファシズム」に対する嫌悪感を述べている。小林よしのり「戦争と平和と個人」小林前掲『戦争論 2』、33-61 頁。小林よしのり『新ゴーマニズム宣言「個と公」論』幻冬舎、2000 年、30 頁（参考）。

⁷²⁹ 小林よしのり「戦争の悲惨を知った上での覚悟」小林前掲『新戦争論 1』、251-268 頁。

⁷³⁰ 小林は 1998 年 6 月 7 日、大阪市中之島公会堂で開催された「つくる会」のシンポジウムで、薬害エイズの運動に参加していた当時は、来場者も大体左翼の方だったと述べ笑いを誘っている。小林よしのり「個が公に権利だけを主張している」『新しい歴史教科書を「つくる会」という運動がある』1998 年、扶桑社、213-218 頁（参考）。もし、小林が戦争忌避、軍国主義否定の論述から稿を起していたと仮定したら、そのインパクトは半減していたのではなかろうか。



図 110. 「戦争を考えるということ」

小林よしのり『戦争論 2』幻冬舎、2001年、41 頁



図 111. 日本軍批判と戦争一般否定

上右、パロディによる皇軍の無謬性（天皇神話）批判

上左、「日本」軍批判

下、戦争一般の否定

小林よしのり『新戦争論 1』幻冬舎、2015 年、266 頁

従って、本章に於いては批判の論点を以下の二点に絞り、小林の「公」の主張がその批判に該当するか否か、「ナショナリズム」により再定義されるものか否かを検討する。

1. 国家主義に基づき排他的か
2. 天皇主権、或いは復古的天皇論を主張するか。

2. ナショナリズム

E・ゲルナーはその著書『民族とナショナリズム』に於いて、ナショナリズムを「第一義的には、政治的な単位と民族的単位とが一致しなければならないと主張する一つの政治原理である」と定義している。⁷³¹ その原理は「『普遍主義的』な精神の下に主張され得る。…しかし、実際には…合理的…なものではなかった」。⁷³² 「普遍主義的な精神」は、18世紀のヨーロッパに於いて支配的であった啓蒙主義によるもので、E・ケドゥーリーは、個人の快楽を最大限に実現すべき統治形態として啓蒙専制主義を批判し、その普遍妥当性の主張を「啓蒙専制主義の正式の教義であった」と書いている。⁷³³ ゲルナーは更に国家を定義し、『国家』とは、秩序の強制に（その他にも関与していることがあるとしても）特定の携わる制度、あるいは制度の集合体…そのような機関こそが国家と書き、ナショナリズムと国家の間接的関係を説明している。⁷³⁴ ゲルナーの説に従うと、ナショナリズムと国家主義は同義ではないが、ナショナリズムを具体化する機関が国家であり、その国家の主体性を第一に置く原理が国家主義と言えよう。

日本語の「国家主義」は「国粹主義」とも表現され、1945（昭和20）年の対連合国降伏以来、日本に於いてはその使用が忌避されてきた語句である。忌避の理由

⁷³¹ アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店、2000年、1頁。

⁷³² ゲルナー前掲書、2-3頁。

⁷³³ エリ・ケドゥーリー『ナショナリズム 第2版』學文社、2003年、2頁。

⁷³⁴ 筆者下線、（ ）は著者注、ゲルナー前掲書、7頁。

として、ひとつにはポツダム宣言に依拠した連合国軍最高司令官総司令部の占領政策が指摘し得る。1946（昭和21）年1月4日に発せられた「軍国主義者の追放と超国家主義団体の解散」指令は敗戦国日本に重大な影響を与え、爾来戦後日本に永く影響を及ぼしている。⁷³⁵ 当該指令（memorandum）は米国の「初期対日方針」に述べられた基本政策の一部を実行に移す為のものであった。「国家主義」、「国粋主義」等の漢字語句の使用は、今日なお憚られるところであるが、その一方、片仮名表記による「ナショナリズム」は、幾分中立的な政治用語として今日広く使用されるところである。

3. 幕末から明治期の「公」とナショナリズム

ナショナリズムを定義し、ケドゥーリーは「唯一の正当な統治形態は民族の自治だ」という「19世紀初頭にヨーロッパで創りだされた教義」と書き、又その創出の前提である「ネーションという言葉そのものが、18世紀末までは」無かったと書いている。⁷³⁶

小林よしのりは漫画作品を通し「公」の重要性を訴えており、『戦争論』は読者をして「公」概念を具体的に想像させる為に戦争を例示した。「公」は国家が国民に戦争を要請する理由となるからである。

日本に於ける「公」意識は憲法十七条に既に示唆されており、「公方」の意味が「朝廷」、「天皇」を経て、「将軍」を意味するに至り、「公」概念がナショナリズムと結託するのは近代国家意識が萌芽した幕末である。小林は1998（平成10）年当時から私利私欲を離れ「公」概念を以て近代国家建設に奔走した幕末志士を描いており、武士の断髪を象徴的に描いている（図112）。⁷³⁷

⁷³⁵ SCAPIN 550.

⁷³⁶ ケドゥーリー前掲書、1頁。

⁷³⁷ 小林よしのり「史ニストのお歴々 特別編 わしが『つくる会』を支援するに至るいきさつ」小林前掲『新しい歴史教科書を「つくる会」という運動がある』、163-175頁（参考）。



図 112. 幕末「日本の武士階級」

断髪は単に「己の地位を捨て」る意味にあらず、武士としての身分を捨てる意味である。

小林よしのり『新しい歴史教科書を「つくる会」という運動がある』1998 年、扶桑社、173 頁

2014（平成 26）年には彼等を描いたストーリー漫画『大東亜論』を発表しており、玄洋社・頭山満を英雄的に描いている。⁷³⁸ 同作は現時点三部作で、書名に「論」が付されるものの、筆者が「論シリーズ」と呼称するところの作品群とは構成が異なる。⁷³⁹ 『大東亜論』三部作は「ゴーマニズム宣言 SPECIAL」として刊行されているが、主人公は頭山であり、小林は脇役である。しかし、頭山を中心とし、従来の『ゴーマニズム宣言』と異なるストーリー漫画に精力を傾注する小林の心境を想像するに、創作された頭山の人間像に小林の理想が反映しており、同時に同郷人としての自負があるのではないかと思われる。

近代国民国家創出に於けるナショナリズムとは即ち国家主義と換言し得るのであるが、日本の場合、幕藩体制下から明治国家への移行は、「公」概念の領域的拡大と共に、幕末志士をして脱藩させるなど、旧来の価値観 - 封建制 - との断絶を要求した。その価値観とは藩内の主従関係のみではなく、幕藩体制をも含んだ重層的

⁷³⁸ 小林よしのり『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 大東亜論 巨傑誕生編』小学館、2014 年。翌 2015 年には『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 大東亜論 第二部 愛国志士、決起ス』、2017 年には『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 大東亜論 第三部 明治日本を作った男達』が発表されている。

⁷³⁹ 小林前掲『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 大東亜論 巨傑誕生編』のあとがきの題は「論から物語へ」である。

かつ多元的な封建制である。小林は「日本では、天皇にしろ、時の権力者にしろ、『民のため』『世の安寧のため』と『私心』を捨てて考える『公』が、歴史の中で培われてきた」と言う。⁷⁴⁰ しかし、明治国家の建設は、幕末志士をして単に「私」を否定させるにとどまらず、より高次元の「公」を見出させた点に特徴が認められるのである。⁷⁴¹

三上和夫は幕末に藩意識を越えた「国家」意識を最初に持った藩として福井藩を挙げている。三上によると、その「国家」意識は 18 世紀後半には重商主義を基盤に置く「藩論」の域を出ず、橋本佐内[1834 - 1859]による統一国家論を基軸とした福井藩論も「漸進的に雄藩連合の『徳川統一国家』の構築」を目指したものであった。⁷⁴²

しかし、1859（安政 6）年の橋本佐内失脚後、藩政を主導した横井小楠[1809 - 1869]は「徳川政権の『私政』を廃棄して『公議輿論』による『公共の政』・『統一の政』の樹立」を目指した。⁷⁴³ 三上は横井小楠の指向を「明らかに『公論』による全国的統一国家への政治路線」、「大いに特筆に値する」と評している。⁷⁴⁴

三上によると、横井は挙藩上洛し「国論統一による政局収拾」をはかることを試みたが、国論統一の方法として、『討議の場』をつくり、『道理』にしたがい、あくまで一派に偏しない『公論』を主唱したのである。⁷⁴⁵ 即ち、横井の主唱した「公」とは、私利私欲を離れ、公開の場で討論するという意味である。

横井小楠は措くとし、福井藩が徳川家を中心とした国家の再構成を志向した一方、薩摩藩は武力討幕を志向する。

⁷⁴⁰ 小林前掲「破壊された公」小林前掲『戦争論 3』、155 頁。

⁷⁴¹ 溝口雄三は、中国の「公」が絶対的であるのに対し、日本の「公」は相対的である旨を指摘している。溝口雄三『公私』三省堂、1996 年、50・54 頁（参考）。

⁷⁴² 三上一夫『公武合体論の研究』お茶ノ水書房、1979 年、144 頁。三上によると、橋本佐内は既に幕閣専制体制を「私政」として把握していた。

⁷⁴³ 前掲書、144 頁。

⁷⁴⁴ 同上。

⁷⁴⁵ 三上一夫「福井藩『挙藩上洛計画』にみる横井小楠の『公議論』基調」、日本思想史懇話会『季刊 日本思想史』No.37、ペリかん社、1991 年、46-60 頁。

大久保利通[1830 - 1878]は1867（慶應3）年6月の蓑田伝兵衛宛て書翰に「終に幕府 朝廷を掌握し、邪を以正を討、逆を以順を伐の場合に到り候は案中之勢故、…此上者兵力を備声援を張御決策之色を被_レ顕」と書いており、武力討伐の決意を示唆しているが、同年12月9日に到り、幕府を廃止し、「王政復古の大号令」を発して新政府を樹立した。⁷⁴⁶ 蓑田宛て書翰に於いて大久保は、倒幕の理由として、幕府が薩摩・土佐・宇和島・福井の「四藩之御公論を採用」せず、「勅命奉戴正大公平之道を以」って「皇国之御為に尽力」する様子も無く、「私権」を主張することを挙げていた。⁷⁴⁷ しかし、1868（明治元）年1月23日の大阪遷都建白書に於いては「天賦ノ君道ヲ履行セラレ、命令一タヒ下リテ天下慄動スル処ノ大基礎ヲ立推」、と天皇大権の必要性が説かれている。⁷⁴⁸ その目的は、帝国主義の時代背景に於いて「各国交際永続の法立タス」、「皇威ヲ海外ニ輝シ万国ニ御対立アラセラレ」る為で、国家主義が鮮明に表明されている。⁷⁴⁹ 即ち、大久保の用法では「公」は四藩に限定されるものの、藩を越えた概念である。しかし大久保の用法では、その「公」は国家の制限下に置かれるべきと理解して良いだろう。

官軍、幕軍の全権として、それぞれ江戸城開城交渉に当たった西郷隆盛[1828 - 1977]と勝海舟[1823 - 1899]は如何なる「公」意識を持っていたのであろうか。

勝は1867（慶應3）年、憤言を記し「後来天下之大権は、門望と名分に帰せずして、必ず正に帰せむ。私に帰せずして、必ず公に帰せむ。何ぞ亦、毫も疑を存せむ哉」と老中格稻葉正巳に書き送っており、「私」の対立概念としての「公」を示唆している。⁷⁵⁰

1871（明治4）年、大久保利通に戊辰戦争の際の策略を問われた勝は、「朝家に向かつて勝を求むるにあらず、又、徳川氏の家名を存せしむるに非ず、唯希ふ所は

⁷⁴⁶ 大久保利通「薩藩の出兵倒幕」（大久保利通書翰 蓑田伝兵衛宛て）大久保利謙（編）『近代史資料』吉川弘文館、1965年、42-43頁。

⁷⁴⁷ 大久保前掲書翰。

⁷⁴⁸ 大久保利通「大久保利通の大阪遷都建白書」大久保利謙（編）前掲資料、48-49頁。

⁷⁴⁹ 大久保前掲建白書。

⁷⁵⁰ 勝海舟「解難録」江藤淳（編）『勝海舟全集 1 幕末日記』講談社、273-334頁。

無辜を不殺、外邦の手を不借、天下の公道に処し、公儀のある所に安ぜんと欲するに過ぎざる也」と応えており、大久保に対し、新政府は「公」を実践すべしという勝の信念を示唆していると言える。⁷⁵¹

維新後、勝は明治政府を批判し続けると共に、旧体制の利益を代弁する。その姿勢に、筆者は勝の言行一致を見出す。即ち、勝はネイションに対して忠誠であると共に、徳川家に対しても忠誠であったのである。勝に於いては、「忠」を実現する為の大義名分が「公」なのである。

一方、西郷は明治元年以後の奇妙な行動をとる。西郷は新政府からの諸命令を無視し、又新政府内の職を固辞し、郷里薩摩で隠遁生活を楽しんだ。郷里へ帰った西郷は、「私学校」教育を通じて、西洋の学問のみならず伝統的価値観に基づく道德教育を行う。スティールによると、1874（明治7）年7月以後、薩摩中に作られた「私学校」に於いて「西郷は国家の発展のための道德面での練成が必要であることを強調した」。⁷⁵² しかし、西郷はそれに加えて、「道義に於ては一身を顧みす必す踐み行ふべき事」の如く、道德に基づいた実践行動を説いている。⁷⁵³

西郷は、勝とは対照的に郷党生活を楽しみ、自身を郷党の子弟に捧げた。その結果として、本人の意図は如何にあれ、西郷は反政府武装集団の指導者として明治10（1877）年の西南の役に没する。即ち、西郷を慕う郷土の藩士たちが官軍と戦う事となり、西郷も戦勝の可能性が無い事を覚悟しつつ薩摩藩士の指導者として参戦、自決するのである。西郷の自決は同時に二つの価値観を具現する。即ち、薩摩藩への忠誠心と日本国への忠誠心である。西郷は明治政府に対して従順ではなかったが、彼の死により政府の国内軍事的不安定要因は除去され、延いては国家の安定に繋がった。

西郷の自決は薩摩藩への忠誠心と郷土愛の結果であると通説的に理解し得るが、

⁷⁵¹ 勝海前掲書、273-334 頁。

⁷⁵² M・ウィリアム・スティール『もう一つの近代』ペリカン社、1998 年、189 頁。

⁷⁵³ 西郷隆盛「私学校の二ヶ條」日本史籍協会『西郷隆盛文書』東京大学出版会、1987 年、308-309 頁。

より広義では、幕藩体制の残滓に対する哀惜の情の表現とも言えよう。しかし、同時に彼の自決は、朝廷に対する謝罪と、究極的には政府を超越したところの天下、即ち日本国、に対する忠誠心の表出と理解し得る。⁷⁵⁴ 実際、西南の役以前は、明治政府が唯一日本を代表する政府であるとは認識されていなかったが、国家は政府より高次元の存在として認識されていた。⁷⁵⁵ スティールは、西郷の自決を「意識的に自分自身を『型』として、薩摩の若者に、否、日本の若者に提供した」と説明しているが、それは「道德」を若者の為に可視化したにとどまらず、封建体制の秩序維持概念であった「忠」を近代国家の秩序維持体系に持ち越したという意味を持つ。⁷⁵⁶ 加えて、「最後の武士」の象徴的存在であった西郷の自決は、国内的大規模混乱を回避し、良くも悪くも明治新政府に自信を与える事となった。⁷⁵⁷

勝海舟と西郷隆盛の事例は、幕末から明治初期に現れるナショナリズムには忠誠心の相克が認められる事を示しているものの、忠誠心が私心に発したものにあらず、「公」意識に発していると言える。勝と西郷の相違は「公」概念の相違とも言えよう。彼らの忠誠心の対象が不鮮明ではあるものの、勝の場合は、徳川家、幕府、から国家へ、西郷の場合は島津家、藩、から国家へと、より大きなものへと移行している。

西南戦争の後、世間は西郷を酷評するようになった。福沢諭吉[1835 - 1901]はその著作『丁丑公論』に於いて 1877（明治 10）年当時の世論を「西南の騒動に及び西郷桐野等の官位を剥脱したる其日より之を罵詈譏謗して至らざる所なし其有様は恰も官許を以て人を譏謗する者の如し」と批判している。⁷⁵⁸ 福沢によると、世

⁷⁵⁴ 中国的、普遍的「天下」ではない。

⁷⁵⁵ 例えば、明治 9（1876）年 1 月付の「評論新聞」第六七号掲載の「日本帝国ニ二大政党アリテ両立セサルノ論」に於いては、「今日ノ天下ヲ見ルニ二ノ大党派ヲ為スモノノ如シ、曰ク政府党曰ク鹿児島党是レナリ」の如く、「日本帝国」は「天下」の同義語として使用されている。大久保利謙（編）前掲資料所収。

⁷⁵⁶ M・ウィリアム・スティール『もう一つの近代』ペリかん社、1998 年、189 頁。

⁷⁵⁷ 大久保利通は、明治 10（1877）年 2 月 7 日付伊東博文宛の書翰に「西郷ハ斃ルニモセヨ関セサルニモセヨ同県ニ事有ル日ニハ全国其影響ヲ及ホシ一時天下は瓦解与見ルヨリ外ナシ」と書いている。大久保利謙（編）前掲資料所収。

⁷⁵⁸ 福沢諭吉『明治十年丁丑公論・瘦我慢の説』時事新報社、1902 年、2 頁、国立国会図書館近代デジタルライブラリー、コマ 6/71、<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/783753/1>（アクセス日：2016 年 3 月 3 日）。

論の西郷非難は西郷に大義名分が無いという論拠に立脚していたが、世論の言うところの大義とは新政府に対する大義であり、福沢は「其大義名分は今の政府に對しての大義名分なり天下の道德品行を害したるものに非ず」と書いている。⁷⁵⁹

『丁丑公論』は福沢による西郷擁護の「公論」である。福沢は「西郷氏は政府に抗するに武力を用ひたる者にて余輩の考とは少しく趣を殊にする」、「余は西郷氏に一面識の交もなく、又其人を庇護せんと欲するにも非ずと雖も、特に數日の勞を費して一冊子を記し之を公論と名けたるは、人の爲に私するに非ず、一國の公平を保護せんが爲」と書いており、人（西郷）の為に私的に論ずるにあらず、「一國の公平」の為に論じる故に「公論」と命名したと述べている。従って、没私的かつ「一國の公平」が「公」の要素となっていると言える。⁷⁶⁰ 福沢が世論の立脚する大義名分を「今の政府に對しての」と書いた意図は、世論が「前の政府」、即ち徳川幕府に対する武士としての大義名分を問わなかった矛盾を突く点にある。「大義名分」は福沢も重視しており、同書に「大義名分は公なり」と書いている。⁷⁶¹ 福沢の論理としては、明治維新も西南戦争も西郷の私利私欲によるものではなく、「滅私」である故「大義名分」であり「公」である。福沢は西郷に「今の」政府ないしは国家機構に対する「大義名分」を求めておらず、福沢が主張する公論は大久保的な国家主義(statism)としてのナショナリズムとは明確に異なると共に、世論を批判している点から、ひとびと、国民(people)としてのナショナリズムとも異なる。福沢は国家や国民を超越した「公」の存在を前提にしているのである。

超越的「公」は、「天下の道德」の「天下」と同義である。福沢の西郷擁護の弁に「西郷は天子を弑して天位に代らんと欲する者歟」とあり、「天下の道德」は「天皇制」秩序を意味すると理解して良いだろう。⁷⁶² しかし、福沢の思想は、神権天皇制を主張するものではない。福沢が主張した「天皇制秩序」とは、天皇と自立し

⁷⁵⁹ 同上。

⁷⁶⁰ 前掲書、2-3 頁、コマ 4/71。

⁷⁶¹ 前掲書、4-5 頁、コマ 7/71。

⁷⁶² 前掲書、3 頁、コマ 6/71。

た個が共同して創造する国体である。

しかし国体概念は、昭和期になり現実の天皇の制度をその中に融解させ、国家に不都合な天皇を「君」と認めない「国家主義」に至る。福沢は既にその著書『文明論の概略』に於いて、天皇を「活用」し、文明を進めるべきだと主張しており、福沢の言う「公」が、普遍的「天下」 - といえども国家主権範囲に限定されるが - である事を証明している。⁷⁶³ 沖浦和光による明治政府の政策批判の言を借用すれば、明治日本は「天皇制をはじめとする伝統的な残存物の再生利用を最大限に有効に行」いつつ国体を創造するのである。⁷⁶⁴

4. 祭祀の主体と信教の自由

戦争を題材にした日本の「公」の議論には、無形の「公」概念の背景に、有形の遺族及び国民一般、靖国神社、天皇が存在する。そこで、本節に於いては当該三者の関係を整理したい。

岡本彰夫によると、日本で「神道」なる語句が最初に記された文献は『日本書紀』の用明紀であり、その漢字の典拠となった原典は易経の『彖伝』である。⁷⁶⁵ 岡本は用明紀の「天皇信仏法尊神道（すめらみこと ほとけのみのりをうけたまい かみのみちを とうとびたもう）」の記述に、用明天皇の神仏習合思想を読みとっているのであるが、当該記述には天皇、仏教、神道の三者の分立が明示されている。

⁷⁶⁶

神道の起源は不明だが、原初的時代には神殿は無く、時代が下り俗域と聖域の境

⁷⁶³ 福沢諭吉「文明論の概略抄」伊藤整他（編）日本現代文学全集 2『福澤諭吉・中江兆民・岡倉天心・徳富蘇峰・三宅雪嶺集』講談社、1969年、58-83頁、68頁。

⁷⁶⁴ 沖浦和光（おきうら かずてる）：社会学者、民族学者、桃山学院大学名誉教授。沖浦和光「神聖天皇制と民衆」『天皇の国・賤民の国』河出書房、2007年、178-209頁。（初出：『現代の理論』1989年2月）。

⁷⁶⁵ 岡本彰夫（おかもと あきお）：奈良県立大学客員教授、元春日大社権宮司。岡本彰夫「崇仏と敬神の歴史と東大寺お水取りの今」『歓喜世界』250号、真如苑経学部2016年10月、104-111頁（参考）。

⁷⁶⁶ 岡本前掲著作（参考）。

界に注連縄が張られたことを経て鳥居が設置されるようになった。5世紀の仏教伝来以降その影響を受け祠が設けられるようになったと考えられ、祠の発生は神社神道の起源と見做し得るであろう。

律令制の最後の改革は927（天禄3）年の『延喜式』の編纂である。岡本によると、これに於いて死者の儀礼は仏教に委ねる事が明文化された。⁷⁶⁷ 岡本は「死」は穢れではないが、死体が腐敗することを穢れと考える神道に対し、仏教は死体にも慈悲を向けるものと述べ、日本文化に於いて神仏が習合し、其々役割分担が行われていた旨を説明している。⁷⁶⁸

神社神道の起源が自然発生的な伝統宗教であるのに対し、靖国信仰は近代国家が要請した近代的宗教である。神道に於いては、死者を遠ざけることが仏教との差別化の一過程であった筈だが、国家神道の場合、死者の祭祀を目的にした点が革新的である。また、その死者を祀る神社に天皇が軍服着用で参拝する点も革新的である。つまり軍服着用の天皇は、すめらみことではなく、大元帥である故、用明紀に「天皇信仏法尊神道」と記されたところの天皇とは異質の存在意味が認められるのである。

靖国神社を頂点とする靖国信仰は明治政府創設の国家神道であり、換言すれば、当時の神道系「新興宗教」であるのだが、仏教が神道に乗じて浸透したように、国家神道は従来神社神道に乗じることにより国民に普及したと言えよう。

しかし、本来神仏習合の日本文化に国家神道が発生した場合、死者に関する祭祀の並立現象が生じる。即ち、戦死者の遺家族の信教の自由に基づく祭祀と国家神道による祭祀の二重性が発生するのである。⁷⁶⁹ しかるに、国家神道が解体され、靖国神社が宗教法人法下、単位宗教法人として独立すると、戦死者追悼の主体として、遺族、靖国神社、国家の三者が想定される事態となる。政教分離思想の下、日本国

⁷⁶⁷ 同上。

⁷⁶⁸ 同上

⁷⁶⁹ 筆者が2010年に新潟県南魚沼市所在の墓地を調査したところ、被葬者が軍人或いは軍属で、アジア・太平洋戦争の戦死者たる旨並びに戦闘概略が記された仏式墓碑を複数確認したが、当該事実は国家神道形式の祭祀と仏式の祭祀の並立を示唆する。

憲法第 20 条は、国家及びその機関による宗教教育並びに宗教活動を禁じており、国家による行為としては追悼が限度となるであろうが、遺家族並びに靖国神社の信教の自由は保障されねばならない。

5. 小林よしのりの「ナショナリズム」

日本の近代ナショナリズムを喚起した外的要因は西欧列強のアジア進出である。それに従い、内的には幕閣による諸藩への諮問が契機になった。三上一夫は、福井藩の全国統一国家論を具体化するなかで、1853（嘉永 6）年の「ペリー来航により老中阿部正弘が同年七月一日諸藩に対して外交政策についての諮問を行ったこと」が「端緒的な『公議輿論』の尊重が要請される重要な契機となった」と書いている。⁷⁷⁰ つまり、日本のナショナリズムは、個人の幸福の実現という西欧的啓蒙主義の要請により発生したものではなく、外圧に対応する為の機構として外圧を敏感に感知できた幕府、雄藩の開明的指導者の要請により発生したものと言えよう。

しかし、橋川文三は、外圧による国防体制の要請のみで「超藩的な統合を目指したというだけならば」、「ネーションの登場する余地は認められない」と書いている。⁷⁷¹ 橋川は在郷中間層の経世策が儒教的封制度より国学的平等性を求めたと論じ、ナショナリズムの「天皇神話」との結合を論じているが、更に日本の「家」制度に注目し、戸籍整備という近代国家の要請との結合を指摘、「日本においては、古代的神話と近世的伝統の諸要素が、近代国家の機能に適応しうるネーション形成の契機として利用された」と書いている。⁷⁷² つまり、外的要因が近代国家を要請し、近代国家がそれ相応国民としてのネーションを要請、国民国家の中に神話も伝統も吞噬されたと換言し得る。いずれにせよ、近代日本に於いては、近代国家機構とともに近代的国民意識が形成されたのである。その際の為政者の大義名分が「公」であったと理解してよい。

⁷⁷⁰ 三上前掲『公武合体論の研究』、144 頁。

⁷⁷¹ 橋川文三『ナショナリズム』紀伊国屋書店、1994 年、41 頁。

⁷⁷² 前掲書、172 頁。

一方小林よしのりの「公」意識の覚醒はオウム真理教事件が発端となっている。当該事件と小林の関係については、既に本稿第三章で扱った故詳細は述べないが、当該教団に精神的救済を求めるほどに「個」が浮遊し、「公」意識が低下した社会に小林は不安を感じたのであろう。また、既に教祖や教団の異常性が露見し、坂本弁護士一家拉致の疑惑が濃厚であったにもかかわらず、吉本隆明や中沢新一ら「知識人」が教祖麻原を称賛していた事実に対し、小林ならではの義憤があったのではなかろうか。⁷⁷³ 後に小林は、『ポストモダン』を標榜する学者たちには、時代の価値観すべてを否定するオウムの教義が魅力的に感じられたらしい、「わしは、そういう知識人たちの感覚が不思議でならない」と書いている。⁷⁷⁴

小林は事件の背景に「公」の崩壊を見出すが、現実的にも教団による暗殺の危機にさらされた小林の説く「公」は、その保護手段として国家を要請している。まず、「公」の領域概念として国家を認め、次に「公」の価値概念として「無私」・「滅私」、「おおやけ」を重視する「伝統」を認める。小林の「公」概念とは、伝統価値であるとともに、「公共性」である。従って、橋川の議論を借用すれば、小林の「公論」は「上からの」国家主義に基本を置くものではなく、共同体を基盤にするとも理解できる。小林の主張する伝統も国民国家に吞噬された伝統なのである。つまり、日本古来の伝統を説きつつ、近代国家的公共性を主張する点が認められ、換言すれば、近代国家的に意味変換が行われていると言える。つまり、戦前・戦中の「公共性」と言ってよい。小林は「個」を中心としつつ、家族、集落、郷土、国家へと同心円状に広がる郷土概念と、そこに於いて「個」が「公」と「私」の価値観の内、「公」を選択する日本の伝統を説いているのだが、主体性のある「個」なる概念は、日本に於いては、ヨーロッパ近代主義に夢を仮託した近代国民国家以来の「伝統」では

⁷⁷³ 吉本隆明らの麻原彰晃称賛は第一章 2 節、脚注 77 参照。

⁷⁷⁴ 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、109-110 頁。小林よしのり『戦争論』が西部邁『戦争論』の影響を受けたであろうと本稿第三章にて指摘したが、西部は小林との対談で、人間社会を「フィクションとして語る」「議論の仕方がポストモダンの常套手段になっている」と批判し、「吉本隆明氏を含めて皆それをやる」と吉本批判の言を述べている。小林よしのり・西部邁「責任回避の常習犯－知識人」小林よしのり『新ゴーマニズム宣言 2』小学館、146-155 頁。

なかろうか。⁷⁷⁵

小林の説く「公」が公開性を意味し公開討論の重要性を説く場合、批判されるべき問題は認め難い。しかし、斎藤純一は、それが共同体或いは共同体の利益を意味する場合、或いは「国家に関係する公的なもの」を意味する場合、三者は「互いに抗争する関係にもある」と言う。⁷⁷⁶

小林はオウム真理教との戦いで公開討論や公開性を求めてきており、オウム真理教事件が小林「公」を思考するきっかけになっている点から考慮しても、小林の主張する「公」に公開討論及び公開性の意味が含まれると理解し得る。次に、共同体或いはその利益は、小林が共同体の伝統を第一とし、国家を最大限の範囲としている点から、また、「公」を国家の上位に置いている点から考え、小林の概念では国家との抗争関係は低い。

しかし、同心円状に拡大する郷土概念と一体化した「公」の領域概念は、それ自体に「公」の相対性 - より大きな範囲の前で、より小さな範囲は「私」となる - を含む重層構造を成しており、溝口雄三は、領域概念としての「公」の重層構造を、近代日本の没原理的特性で「第二次世界大戦期の日本国民がかりたてられた滅私奉公の悲劇は、…このような没原理的な特性に由来する」と批判している。⁷⁷⁷

小林の説く価値観は「滅私」であり、アジア・太平洋戦争期の国家への滅私奉公は批判されて然るべきである。溝口が批判する没原理的な特性は、アレントの公共性概念と近代日本の「天皇制国家」が結託した時、公共性の負の側面を顕著に生成する。つまり、「単一民族」神話を採用した「天皇制国家」は天皇を頂点とした擬制家族国家であり、異質な者の存在を前提としていない。従って、原理的には一元的、排他的な帰属を要求しないのだが、現実には当然事として、無自覚にそれを要

⁷⁷⁵ 筆者は近代国民国家の国民の政治参加概念を指している。アレントは、個人の主体的な政治活動への参加を「活動的生活」として評価している。ハンナ・アレント(著)志水速雄(訳)『人間の条件』筑摩書房、1994年(参考)。

⁷⁷⁶ 斎藤純一『公共性』岩波書店、2000年、viii-ix頁

⁷⁷⁷ 溝口は日本の「公」を「おおやけ」と呼称している。溝口雄三『公私』三省堂、1996年、63頁。

求するのである。そのような「公」空間にはハーバマスの、異質の「公共圏」と「公共圏」の中間的、多義的空間の存在する余地が無い。⁷⁷⁸

小林の説く「滅私」は、『天皇論』三部作に於いて強調され天皇の特性を「無私」に求めている。小林は『天皇論』の結びに「天皇は我々の魂の中にある！」「天皇を中心に置いた『支配なき自己統治』こそが日本の国体なのである！」と書き作品を終えているが、そのコマの絵は特徴的である。⁷⁷⁹ 老若男女の「我々」の目は正面を見据え、先頭にひときわ大きく描かれた小林自身も半身の姿勢ながら目は正面、読者を見据える（図 113）。それはもはや小林が非難した「浮遊する個」の集団ではない。画面の上半分には更に大きく衣冠束帯姿の天皇の上半身が半透明に描かれているのだが、顔が描かれていない。従うところ、「支配なき自己統治」とは「公」であり、「我々の魂の中にある」は、後に語られる「公の体现者たる天皇陛下」なる信念の比喻である。⁷⁸⁰

⁷⁷⁸ ユルゲン・ハーバマス（著）細谷貞雄・山田正行（訳）『公共性の構造転換』（第2版）未来社、1994年、（参考）。

⁷⁷⁹ 小林前掲「国民主権は国体にあらず」小林前掲『天皇論』、379頁。

⁷⁸⁰ 堀江正史・小林よしのり「【特別対談】靖国神社と武士の魂」小林前掲『新戦争論 1』、231-250頁、他。



図 113. 顔の無い天皇（1）

右 2 コマが現実を示唆し、左が理想を示唆している。

小林よしのり『ゴーマニズム宣言天皇論』小学館、2009 年、389 頁

しかし、「私」より「公」を選択する国民を想定し、「天皇」に顔が無いというのは心もとない。実態身の天皇を超越した大御心を想定し、昭和天皇の「個人的」意思に従わなかった軍国主義の時代を想起させはしないだろうか。小林がこれまで示した自己の思想転換の正直な告白と皇室、特に天皇に対する畏敬の念から考え、小林は実態身天皇を超越した大身心を具体的に想定しているとは考え難い。顔の無い天皇提示は国民に「公」意識を持つよう説く「公論」運動の手段なのである。しかし、小林は国民 - 或いは大衆 - を信頼している訳ではない。現実的社会は図 113 右の小さい 2 コマに描かれている絵が小林の国民観を端的に示している。即ち、右端コマが無知蒙昧な大衆、次コマが付和雷同の大衆である。小林の言葉を借用するなら、「浮遊する個」の集団である。

従って、小林の説くナショナリズムは君民共同体に依拠した戦前・戦中型の『『公』論ナショナリズム』と言え、日本史上に断続的に表れた理想追求思想である。2016（平成 28）年に至り、小林はその思想を「公民主義」と表現しているが、その理想は社会的には未だに実現していない故に、小林の活動は『『公』論運動』なのである。⁷⁸¹ しかし、そこに描かれた衣冠束帯姿の天皇にも前図同様顔が描かれていない（図 114）。寧ろ、前図と比較すると、黒く影を落とした天皇の顔の描写からより強い天皇否定が感じられるのではあるまいか。

小林の『『公』論ナショナリズム』を国家主義なる文脈で批判するならば、丸山真男が批判したウルトラ・ナショナリズム、即ち「超・国家主義」にあらず、橋川文三が批判した「超国家・主義」である。⁷⁸² 筆者が意味するところは、『『公』論ナショナリズム』が国家より上位に公を想定しているという指摘で、「超国家・主義」とは「国家を超越する公を第一とする思想」という意味である。橋川は「昭和超国家主義の諸相」に於いて、「超国家主義」には「いわゆる超国家主義の中には、たんに国家主義の極端な形態というばかりでなく、むしろなんらかの形で、現実の国家を超越した価値を追求するという形態が含まれていることを言ってもよいであろう」と書き、その明瞭な例として、北一輝の他、石原莞爾と榎藤成卿を挙げ、「昭和維新の論理と心理」に於いては北を「超国家主義の原典」と位置付けている。

783

小林の論じた領域概念としての公が即ち国家である点は、偶然の一致、或いは現時点に於ける限界と理解すべきであり、実際小林も 2002（平成 14）年には調査捕

⁷⁸¹ 丸山真男（まるやま まさお）：政治学者、思想史家、東京大学名誉教授。橋川文三（はしかわ ぶんぞう）：政治学・政治思想史研究者、評論家、明治大学政治経済学部教授。小林よしのり「国民主権への違和感」小林前掲『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 民主主義という病い』、293-307 頁（参考）。

⁷⁸² 丸山真男の批判対象を「超・国家主義」、橋川文三のそれを「超国家・主義」とまとめているのは片山杜秀である。片山杜秀『近代日本の右翼思想』講談社、2007 年（参考）。

⁷⁸³ 橋川文三「昭和超国家主義の諸相」『近代日本政治思想の諸相』未来社、1968 年、191-246 頁、橋川文三「昭和維新の論理と心理」橋川文三・松本三之介『近代日本政治思想史Ⅱ』有斐閣、1970 年（オンデマンド版 2004 年）209-231 頁。

鯨の意義を主張し、「乱獲せず、資源を枯渇させずに、永久利用するための研究を、日本は続けてきた。それは、世界人類のための調査、世界大の『公』のための調査と言える」と書いており、世界規模の「公」の可能性を示唆している。⁷⁸⁴

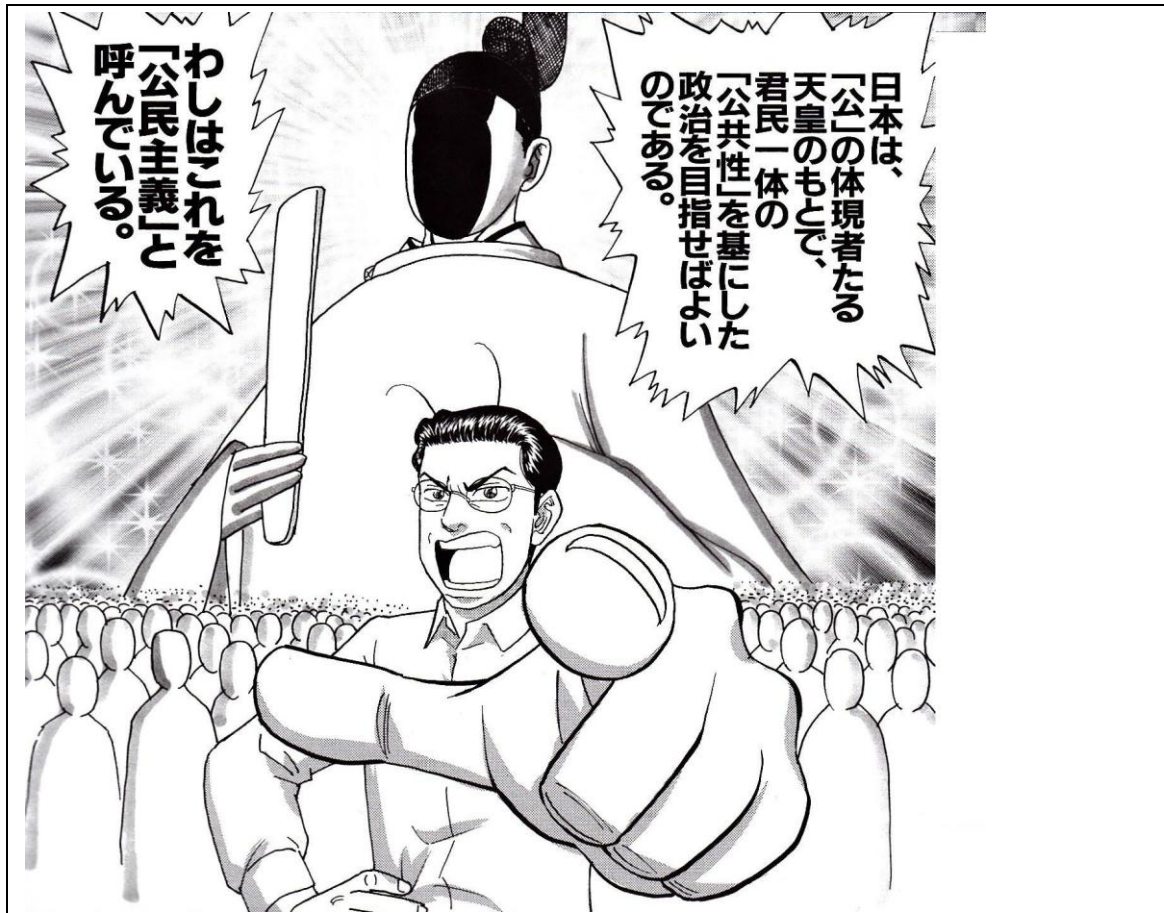


図 114. 顔の無い天皇（２）

「公民主義」には天皇の顔が無いのみならず、個々人も顔が無い。
小林よしのり『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 民主主義という病い』幻冬舎、2016 年、
307 頁

6. 結論

「公」の価値観は共同体（「公」）の内部で水平方向に共有されると共に垂直方向に継承される。小林はこの共有と継承を、十字図（第四章 13 節、196 頁、図 50 参照）を以て反復説明している。日本に於ける「公」の価値観を支える「公」空間の

⁷⁸⁴ 小林よしのり「下関クジラ会議に注目せよ」『わしズム』第 1 号、幻冬舎、2002 年 4 月 25 日、105-120 頁。

構成員は日本人に限定されない。例えば、在日外国人が小林の主張する「公」の価値観を認める場合、在日外国人も「公」の構成員になり得る。実際小林は『新戦争論 1』に「嫌韓のためのデモや、／ヘイトスピーチは、『公共性』を破壊する／サイテーの悪行である！」と書き、外国人排斥を強く非難、「公」の構成員として在日韓国人も視野に入れている。⁷⁸⁵

加えて、「嫌悪や憎悪の／ナショナリズムは、／日本の『公』を／毀損するだけなのだ！」と書き、ナショナリズムの暴走に警鐘を鳴らしている。⁷⁸⁶

また、小林は「皇軍の無謬神話」をパロディ調の絵で批判するとともに、日章旗を背景に日本軍の軍人たちの顔を黒い影で描いていたコマには国家権力を否定する意味が認められるとともに（本章 1 節、311 頁、図 111 参照）「『国』か？／『公』か？／と問われたら、／わしは／『公』につく！」『公』のために／『国』と戦うことだって／あるだろう！」と「公」の至上性への信念を披歴している。⁷⁸⁷

小林はナショナリズム自体が「排外的であって構わない」と書くが、その前提には幕末の欧米列強の植民地支配があり、小林は吉田松陰[1830 - 1859]が「開国攘夷」と「武備恭順」を主唱した点を称賛している。⁷⁸⁸ つまり、小林は欧米列強の侵略に対処すべきナショナリズムとして攘夷の正当性を論じているのである。従って、積極的排外主義を主張しているのではない。

小林の思想 - 「公民主義」と小林は呼称 - は、国家より公を上位に置いており、国家主義に基づいているとは言えない。国家は至高ではなく「公」を実現する手段なのである。つまり、「公」を上位に置くことは即ち公に覚醒した人々を国家機構より上位に置くということである。ナショナリズムの排他性は否定されていないが、小林が主張するナショナリズムは、国家機構を超える人間中心の「超国家・主義」であるので、公に覚醒した人々が共同体の価値観を共有しその維持に貢献する限り

⁷⁸⁵ 小林よしのり「嫌韓本、自己啓発本、「力」本」小林前掲『新戦争論 1』、393-408 頁。

⁷⁸⁶ 小林前掲作品、406 頁。

⁷⁸⁷ 同上。

⁷⁸⁸ 小林よしのり「ナショナリズムの原点」『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 平成攘夷論』、小学館、2007 年、5-36 頁。

論理的には国家が否定される。小林は在日韓国・朝鮮人を擁護するとともに在日に対する差別に断固反対を表明、ヘイト・スピーチを自身の影響であると見做されることに強い不快感を表明しており、反対理由は共同体の維持と考え得る（詳細は次章参照）。共同体の構成員としては当然、国民が想定される。

しかし小林は『新戦争論 1』に於いて「国民のナショナリズム」を明確に否定しており、現代日本のナショナリズムを「そろそろ／戦争^やたいんじゃないか」と「タカ派」を挑発的に批判している（図 115）。⁷⁸⁹ ここで小林が批判する「国民のナショナリズム」とは、人間中心の、大衆による「下からの」「超国家・主義」の暴走である。

小林の「公論ナショナリズム」は、小林自身はそれを「公民主義」と呼称するが、「公」に覚醒した個人と「公」を体現する、或いは体現すべき天皇による、「支配なき自己統治」を理想としている。⁷⁹⁰ 「支配なき自己統治」なる表現はなかなか理想的響きを持つのだが、小林が「天皇を中心に置いた『支配なき自己統治』こそが日本の国体なのである！」と『天皇論』に結語するよう、それはいわゆる国体論の幻想的理想像なのである。⁷⁹¹

⁷⁸⁹ 小林よしのり「戦争の悲惨を知った上での覚悟」小林前掲『新戦争論 1』、267 頁。

⁷⁹⁰ 小林よしのり「国民主権は国体にあらず」小林前掲『天皇論』、357-379 頁。

⁷⁹¹ 前掲作品、379 頁。



図 115. 現代日本のナショナリズム批判

小林よしのり『新戦争論 1』幻冬舎、2015 年、267 頁

小林の述べるよう、領域概念としては「公」が「国家」が最大範囲であるとしても、その構成員たる国民は同時に都道府県民であり、市町村民、且つ諸共同体の構成員であり、重層的に存在し共同体を構成しているのである。⁷⁹²

小林の主張する維持すべき共同体の範囲は、現時点では国内に想定されるのだが、「超国家・主義」的拡大の可能性は否定し得ない。小林も 2012（平成 23）年発表の漫画作品に、現実的には「世界大の『公』はない！」と書いているが、その意図はグローバリズム批判であり、国家以上地球規模以下の領域的「公」概念を否定したわけではない。⁷⁹³

小林の『天皇論』は、公の体现者としての天皇「論」であり、天皇主権を主張す

⁷⁹² 在日外国人は国民でなくとも、地方公共団体の構成員である。

⁷⁹³ 小林よしのり「TPP 非戦論」『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 反 TPP 論』幻冬舎、2012 年、6-61 頁。

るものではない。本章の論考で示したように、横井小楠、勝海舟、西郷隆盛、北一輝、石原莞爾、榎藤成卿などによって示唆されたような、「私心」を否定し、「滅私」と「公」を尊ぶ君民一体の日本的伝統を小林は支持し、それを戦後の状況に対応させて復権しようと試みている。小林は天皇の制度を支持しているが、制度に於ける天皇権威の必要性を説き国民主権の濫用を批判しているのである。「国体」という用語が戦前の日本を想起させるが、今上陛下を否定し得る思想は、復古的というより寧ろ革新的、北一輝的に革新的である。

藤田省三はその『天皇制国家の支配原理』に於いて、「天皇」観念の多様性を「神」、「家父」、「君権」に大別し、これらが同一化することにより天皇制が国民精神に浸透したと指摘したが、「天皇」観念の多様性は支配機構保全の為の安全回路としても機能する。⁷⁹⁴ 「天皇」観念は曖昧なほど支配機構自体の安全性は向上するのである。

支配機構は、政権が管理する限りに於いて公権力を保持する行政機構であるが、行政機構の末端で公権力の濫用、或いは行政機構の意を忖度した地域共同体の暴力として表出する場合がある。天皇に顔を持たせない革新的思想は、重層的共同体社会促進する側面と共同体の暴力性を許容する側面を併せ持つのである。

小林の思想は「上からの」国家主義ではなく、「下からの」国家主義と言え、「公」意識に覚醒した国民（公民）共同体が既存の国家機構を超越する「超国家・主義」を理想とするものである。それは共同体主義に内在する排他性を認めざるをえず、小林の心情とは無関係に排他的暴力性を示す可能性がある。その主張は君民一体の国体論ではあるが、戦前・戦中との相違として国民個々人の「公」的自覚（市民化）の要請が指摘し得る。その現実的統治形式として天皇主権を否定できないが、天皇の主体性は「公民主義」を以て否定される。⁷⁹⁵ おそらくは名目的天皇主権になるのではなかろうか。

⁷⁹⁴ 藤田省三「天皇制国家の支配原理」『天皇制国家の支配原理』未来社、1973年、5-115頁（参考）。

⁷⁹⁵ あくまでも統治「形式」であり、現実的な統治「形態」ではない。

終章

娯楽としての「思想」

- その危険性と可能性 -

たよるべき知的方法が見失われたとき、人々の心は自然に「日本的なるもの」「民族的なるもの」へと回帰しはじめた。それは、久しく日本の知識人が忘却していたものであり、そこにある新しい更生の原理が見いだされるかのようにおもわれたからである。

- 橋川文三 - ⁷⁹⁶

1. 序論

本稿は小林よしのり批判論を基盤に、小林の「思想漫画」を研究し、その特徴と小林の思想を明らかにした。小林は「思想漫画」を通じ「公論」思想を明らかにしている。小林は当該思想を「公民主義」と呼称しており、それは「伝統」に基盤を求める保守主義である。「公民主義」は一種のナショナリズムであるが、明治期に認められたいわゆる「上からの」国家主義ではない。

本稿は小林のナショナリズムを「公論ナショナリズム」と呼称するが、それを賛美するわけではない。「公論ナショナリズム」は君民共同体思想に基づく非強制的な下からの「公民ナショナリズム」という理念なのである。

本章に於いては「公論ナショナリズム」の本質をまとめ、そこから小林「思想漫画」の本質へ遡及することにより結論に達したい。

2. 小林よしのりによるナショナリズム批判

2015（平成 26）年 1 月、『新戦争論 1』が出版された。⁷⁹⁷ 描き下ろし 452 頁で、全体としてアメリカの新保守主義とそれに追従する橋本龍太郎政権以降の日本の新保守主義への批判が展開されている。小林は同書のあとがきに於いて『戦争論』

⁷⁹⁶ 橋川文三「反近代と近代の超克」橋川前掲『近代日本政治思想の諸相』、7-34 頁。

⁷⁹⁷ 小林よしのり『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 新戦争論 1』幻冬舎、2015 年。

は祖父の世代と孫の世代を繋ぐ書物になった」と自負しつつも、「自虐史観は衰退したが、その反動で」「ネット右翼」などの低俗なナショナリズムが横行する時代になったことを嘆き、『差別』への欲望のために愛国心を利用する愚挙が、主婦にまで拡がってしまう現状は、やはり「右傾化」したと言われても仕方が無い」と書いている。⁷⁹⁸ 小林の念頭には、小林の影響を公言するインターネット漫画出身の山野車輪^{やまのしゃりん}の漫画作品『マンガ嫌韓流』（以下、『嫌韓流』）と同シリーズ、並びにインターネット上の差別的言論が置かれている。⁷⁹⁹

小林は、「覚悟なきナショナリズム」を批判し、「当事者意識と覚悟」を問うているのであるが、ここで小林が批判するところのナショナリズムは、付和雷同の大衆的ナショナリズムである。⁸⁰⁰

小林は戦争の全面否定と侵略戦争の両者に反対しつつも、「死ぬのは自衛隊であって、我々ではない…という構えでは、道義なき国家にならざるを得ない」と読者に戦死に対する「当事者意識と覚悟を促す」。⁸⁰¹ しかし、国家或いは共同体の安全は戦争により保障される訳ではない。小林が指摘するよう、インターネット社会に低俗なナショナリズムが横行しているのは事実だが、同時に、侵略戦争、人権侵害がネットで連帯した市民により抑制されつつあるのも他方の事実である。

3. 「公論ナショナリズム」の危険性

小林は『靖国論』で、小泉純一郎の靖国参拝に対し一定の評価をしていたが、『新戦争論 1』では「共同体を崩壊させる」政策をとる小泉の靖国参拝を「支持しなかった」と書いている。⁸⁰² 続けて、「小泉氏もそうだったが／安倍首相も、靖

⁷⁹⁸ 小林前掲書、447 頁。

⁷⁹⁹ 山野車輪『マンガ嫌韓流』晋遊舎、2005 年、同 2 巻 2006 年、同 3 巻 2007 年、同 4 巻 2009 年、『マンガ嫌中国流』2008 年、『マンガ大嫌韓流』2015 年他。小林はインターネット社会の匿名性を利用した山野を批判している。

⁸⁰⁰ 小林前掲『新戦争論 1』、448 頁。

⁸⁰¹ 同上。

⁸⁰² 小林よしのり「靖国神社を守るのか、英霊が守りたかった日本をまもるのか？」小林前掲

国神社を、／『隠れ蓑』『猫だまし』『目くらまし』にして、／亡国政策を推進している」と現政権に続く新保守主義を批判し、13 章を「靖国神社を／守るのではない！」「英霊が／守りたかった／日本を守るのだ！」と結んでいる。小林の言う「英霊が守りたかった日本」とは、かつて「滅私奉公」の「選択」が行われていた共同体である。

藤田省三はその『天皇制国家の支配原理』に於いて、「天皇」観念の多様性を「神」、「家父」、「君権」に大別し、これらが同一化することにより天皇制が国民精神に浸透したと指摘するが、「天皇」観念の多様性は支配機構保全の為の安全回路としても機能する。⁸⁰³「天皇」観念は曖昧なほど支配機構自体の安全性は向上するのである。支配機構は、政権が管理する限りに於いて公権力を保持する行政機構であるが、行政機構の末端で公権力の濫用、或いは行政機構の意を忖度した地域共同体の暴力として表出する場合が認められる。共同体に基盤を置く「公論ナショナリズム」の危険性はここに存するのである。というのも、小林の「公民ナショナリズム」は、ややもすると容易に国家至上主義的なナショナリズムだと誤解され、誤用される危険があるからである。

小林よしのりの社会的影響の実例のひとつとして前節に山野車輪『嫌韓流』を挙げたが、山野はその流行を「『嫌韓流』現象」と自負している。⁸⁰⁴ それは「ネットウヨ」と呼称されるインターネット上の排外主義的言説、いわゆるネット右翼と結託した現象である。漫画作品内での山野の度重なる小林作品への言及やインターネット上の言説の引用は、漫画創作活動として十分許容範囲内にとどまる。しかし、匿名性によりしばしば暴走する仮想空間のナショナリズムは、小林を誤解、誤用する可能性が高く、無自覚に或いはまた確信犯的に小林を利用するのである。山野が「現象」と表現するよう、それは作者の予測を超えて暴走し、作者の次の創作に還元されるのである（図 116）。

書、178-179 頁。

⁸⁰³ 藤田前掲「天皇制国家の支配原理」藤田前掲書、5-115 頁。（参考）。

⁸⁰⁴ 山野車輪『嫌韓流 3』晋遊舎、2007 年、カバー折り返しほか（参考）。

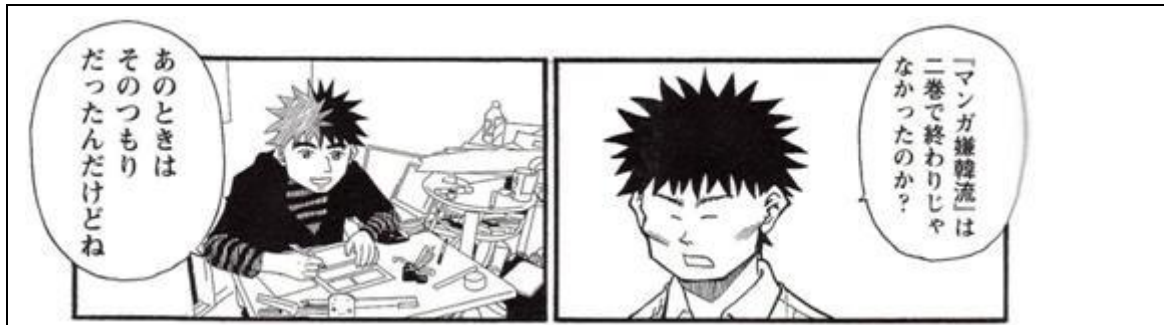


図 116. 「現象」に動機づけられる作者山野

山野車輪『マンガ嫌韓流 3』晋遊舎、2007 年、243 頁

4. 「情の論理」と「思想漫画」

「情の論理」なる語を以て小林よしのりを批判した人物は宮台真司である。⁸⁰⁵

小林よしのりの思想が、保守的であれ革新的であれ、「情」を基盤に成立している点是指摘されている通りで、小林の行動原理と理解して良い。小林の行動原理が「情」にある点は、HIV 訴訟を題材とした作品、「第 14 章、運動の功罪 - 日常へ復帰せよ！」（第四章 6 節参照）に明確に述べられている上、活字書籍でも反復して書かれている。

「情」は小林の行動原理のみならず、小林思想漫画を理解する上で重要な概念である。小林よしのり初期のギャグ漫画、『東大一直線』を分析しても、読者は思想の矛盾、行動の矛盾を親子の情により納得させられる。また、『おぼっちゃまくん』を分析しても、主人公の行動原理は「情」に基づいている。

「思想漫画」が如何なるものであるか、小林の読者には今更不要な議論の感が拭えないが、本稿第一章に於いてその特徴を以下のように指摘した。即ち、「思想漫画」とは、思想性が高いストーリー漫画で、作者の思想が主体的に明示されたものである。しかし、その思想表現に論理矛盾が指摘され、小林自身、理論より感性を重視する旨を明言している。「思想漫画」とは「情」を通じて読者の感性に作者の思想的主張を訴える漫画作品と言える。しかし、最も重要な点は、作者の思考過程

⁸⁰⁵ 本稿第三章 2 節 2 項参照。梅原猛は「感情の論理」を以て日本思想を捉えようとした。

を漫画化することにより、読者をして共に思考させる点である。この点が欠落する場合、「思想漫画」は、思想を紹介や解説する絵解きや思想のパロディとしての「思想漫画」と言えよう。

本稿第五章に於いては、水木しげるを比較対象とし、戦争観と「公」意識を論じた。水木作品も社会性に富むと共に思想性も高い。玉砕戦から生還し、更に戦地で片腕を失った漫画家による漫画作品の説得力は他の追随を許さぬものがある。それだけに水木は世人の発する反戦平和の言語で戦争を語ってはいない。しかし、水木の場合、反戦思想と理解される厭戦感が根底に存する故に、自身の思想過程を漫画化することにより読者をして思想させることが無いのである。⁸⁰⁶

5. 活字表現と画像表現

小林よしのり一連の「ゴーマニズム宣言」に活字が多い点は大きな特徴である。論シリーズに至っては、漫画作品の間に作者の意図や事実関係の説明がなされ、巻末には参考文献リストが添付させるようになる。小林がエッセイ漫画と称していた初期ゴーマニズム宣言当初から、主要登場人物は小林自身であり、余白には短い文章が書かれると共に小林の自画像が小さく描かれている（第一章9節、51頁、図6参照）。このような方法により、小林の意見、主張は明示されているのだが、論シリーズの構成は作品の問題意識自体を洒落とする解釈を最大限に否定し得る。

また、小林「思想漫画」の特徴として活字世界の漫画への取り込みを指摘し得る。例えば、本稿第三章で指摘した高橋哲哉の『靖国問題』の漫画化もさることながら、『天皇論』に反復引用される歌もその類型である。前者は、高橋の著作未読の読者に対し、小林による高橋批判の標準化をもたらす効果があるだろう。また、後者は小林作品に引用させることにより再度文字化され、その多くは画像化されるため、小林の意図する歌解釈が強いイメージを以て固定化される。漫画化されることによ

⁸⁰⁶ 身体的思想活動を指している。つまり、小林作品を読んで小林に反発する可能性は多分に認められるだろうが、水木作品を読んで水木に反発する読者は少なからう。

り小林の思想や歴史解釈が有効に読者の思想に影響する点は、坂本るみ（第三章 2 節 10 項参照）らが指摘する通りである。

小林自身及び小林漫画作品の登場人物の行動論理に「情」が認められる点は指摘したが、画像表現の利点のひとつとして、漫画作品読者の視覚を通し直接感情に訴えかけることが可能な点が指摘されよう。これにより、まず、画像表現は文字表現と比較し、読者に強い印象を与えうる。例えば、活字より「残酷」、「残忍」、或いは「悲惨」、「壮絶」等と書くより、そのような状況の画像を提示する方が強い印象を与えることは一般論としても明白である。本稿第六章 5 節「小林よしのりによる『死』の表現」は、小林の克明な死の描写を扱ったが、本稿の読者諸賢に於かれては小林の画像表現（図 102～109）から如何なる印象を受けられたであろうか。例えば、図 109「陸軍少佐 晴気誠命。32 歳。」は如何であろう。切腹を残忍と見る思考もある故、異論を承知で筆者の印象を述べれば、その印象は「荘厳」である。しかし、12 コマ構成の当該図に形容詞は皆無である。当該節引用全 7 図、49 コマ中、状況描写の形容（動）詞は 1 語、図 106 左下コマの「凄惨な」のみである。⁸⁰⁷しかし、読者諸氏の於かれては、各図から何らかの形容詞で表現し得る印象を受けられたのではなかろうか。⁸⁰⁸

画像表現による印象の比較という観点に立ち、本研究では小林よしのりと松本零士による死の描写を比較した。その結果として、小林は死を直視し、松本はそれを避けている点を指摘したが、当該結果から、小林は戦争の避け難い本質を問うており、戦争賛美には該当しないという結論に到達する。

また、筆者は松本零士の死の描写の特徴として、絵のみを以て死を確認し難い点を指摘した。そこに確証を付与しているものは、吹き出しに書かれた台詞である。従って、台詞にもまた単なる活字による状況描写以上の機能を認める必要がある。例えば、第六章 4 節 2 項「『死』の表現」図 96「サーシャの死」に於ける発見者の

⁸⁰⁷ 「凄惨」は名詞・形容動詞。

⁸⁰⁸ 国文法に於ける形容動詞を含んだ、日本語文法に於ける形容詞。

「なんて／きれいな人だ…！！」、「あ…………／死んでる／！！」という台詞は、驚きと死想起させない美しさを想起させるであろう。⁸⁰⁹「美しい人間の（女性）の容姿をした宇宙人の損傷の無い遺体が発見された」と活字で書くより、読者に強い印象を与えることは明白ではなかろうか。

一方、同項図 98「拳銃自殺」では、「磁力銃で……」という台詞が自殺を暗示し、第 1 コマと第 3 コマの描き文字による擬音語「ガチ」と「ビシッ」が「磁力銃」の構えと発砲（作動）を示唆している。漫画に於ける台詞に加え、擬音語を含むオノマトペは、画像不可分に読者の心象に影響を与えるのである。

従って、漫画表現による読者の心象への影響は当然のものと理解され、小林よしのりの漫画表現に特有のものとして、恰も印象操作であるかのような批判は適当ではない。

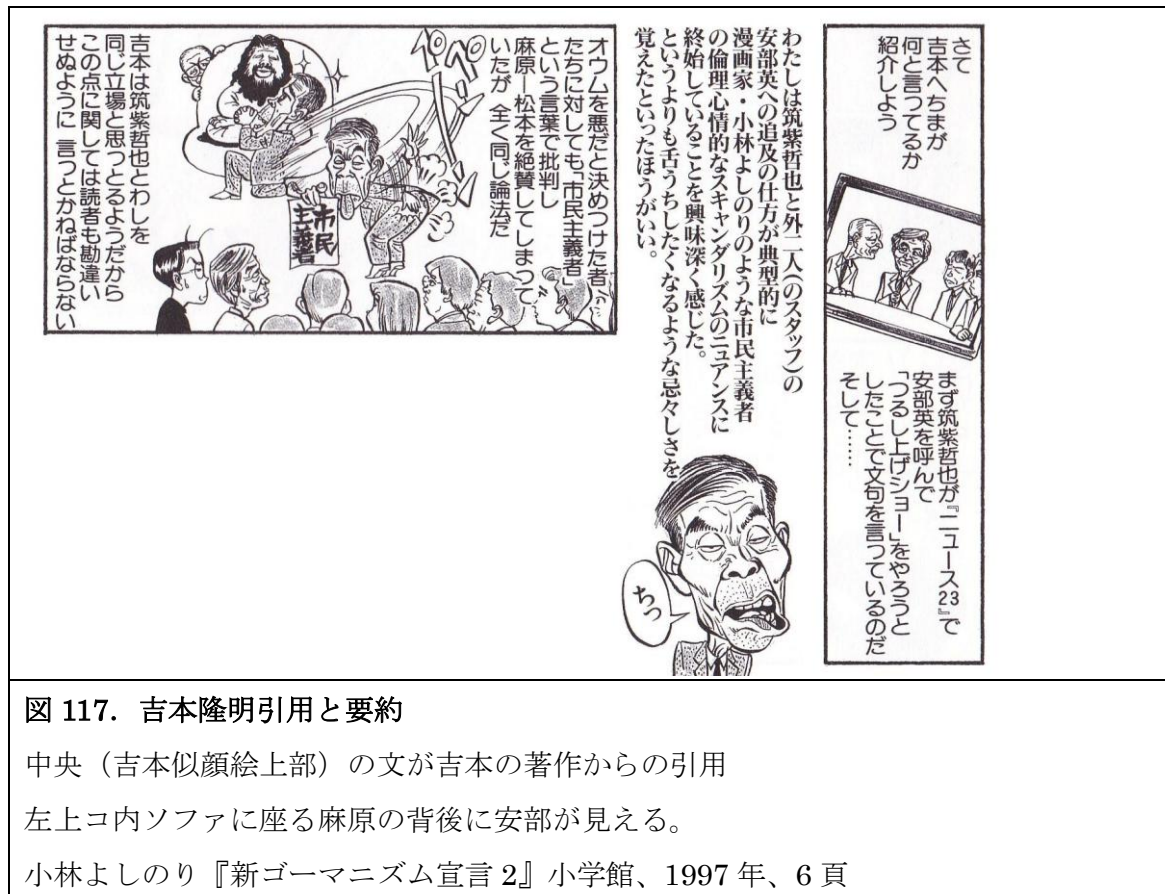
次に、漫画表現に対する批判としてデフォルメ批判が認められる。漫画として論敵を描く手法として、対象にはいかにも論「敵」らしいデフォルメが施されるのであるが、政治家に対する風刺画と異なり、その行動を揶揄する傾向は減少し、対象論敵の文章の引用が目立つ。しかし、読者は吹き出しを読むことにより、小林が問題視する当該論敵の意見を容易に理解することが出来るであろう。

小林が採用する方法は、小林の読者が小林批判論を十分に読む事無く、小林の漫画作品を読むことのみで議論の全体像を把握することを可能にする。例えば、薬害エイズの最大の責任者たる安部英を、小林はテレビ番組で批判を試みたのであるが、吉本隆明は番組司会者とスタッフを批判し、「安部英への追及の仕方が典型的に漫画家・小林よしのりのような市民主義者の倫理的心情的なスキャンダリズムのニュアンス」であると書き、「舌うちしたくなるような忌々しさ覚えた」と言う。⁸¹⁰ 小林は吉本の当該文章を引用し、吉本が舌打ちする似顔絵を添え、続くコマには吉本

⁸⁰⁹ 松本前掲『宇宙戦艦ヤマト 1 イスカンダル遙か』、18 頁。

⁸¹⁰ 小林前掲「知識人・吉本隆明よ勉強しろ！」小林前掲『新ゴーマニズム宣言』、6 頁。安部英（あべ たけし 1916－2005）：医師、元帝京大学副学長。

が「市民主義者」と書いた紙を片手に持ち尻を叩く絵を描いている（図 117）。連続 3 コマで、吉本の麻原彰晃（松本知津夫）や安部英に関する言論が、庶民感覚から遊離した、権威主義、或いはエリート意識に根差したものであると批判する意図が容易に理解し得る。⁸¹¹



6. 「思想漫画」作品の娯楽性

筆者は小林よしのりの漫画作品を漫画たることを大前提に「思想書」と看做すが、その娯楽性を否定するものではない。そもそも娯楽性を否定しては漫画として成立し難い。小林「思想漫画」作品の場合、その娯楽性はまず低俗な言葉遊びに認められる。次に、極端な事例の漫画化である。また、論シリーズに於いては、娯楽性の高い表現部分には異なる画風が採用されており、その部分が読者サービスである事に疑いの余地は無い。即ち、「思想漫画」作品には小林漫画本来の要素であるギャ

⁸¹¹ 同時に小林によるポストモダン批判と理解し得る。

グが挿入されているのである。

次に、「思想漫画」作品の娯楽性として権威に対する挑戦が指摘し得る。小林自身、「そもそも『ゴー宣』は、形骸化した権威への挑戦として始まった」と説明しているが、デビュー作『東大一直線』並びにその続編である『東大快進撃』にその思想的原型が認められる。⁸¹² また、小林が『おぼっちゃまくん』で小学館第 34 回漫画賞を受賞した際、小林に「賞を与えたくなかった年寄りの審査員」に絵をこき下ろされた小林は、自身のスピーチに怒りを込め、更にそのエピソードを漫画化している。⁸¹³ 当該エピソードは、小林が 2016 年に自身の漫画家人生を解説した書籍『ゴーマニズム戦歴』に引用した漫画作品の筆頭を飾り、「わし（小林）が漫画の中で最初に戦った『権威』は、漫画賞の審査員だった」と書いている点から判断し、屈辱的経験が漫画家としての原動力となった以上に、「権威」に対する挑戦が攻撃化し、以降の小林作品の基盤になったと理解して良いだろう。⁸¹⁴ 小林は同書に「攻撃の対象は、主に知識人やマスコミだ」と書いていており、実際、その後の小林作品の内容展開はその言葉通りであるが、留意したい点は、批判対象は形骸化した権威、即ち権威主義であり、攻撃対象が知識人やマスコミである点である。

815

政治漫画は風刺画の系譜に属する似顔絵の一枚画から発展したものである。権威、権威主義に対する庶民の文化として風刺画を現代漫画の原初的なものとして、本稿第一章で指摘したが、小林の「思想漫画」作品が権威主義に挑戦し、時の権力者を揶揄する点は漫画の伝統的な社会批判の在り方と言える。

しかし、一漫画家が知識人や強大権力を掌握したマスコミに対し「攻撃」したところで、その直接的効果は微細に終わる可能性が高い。知識人やマスコミに対する「攻撃」は、「攻撃」自体が目的ではなく、庶民大衆の代理として「攻撃」すると

⁸¹² 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、8 頁。

⁸¹³ 小林前掲書、29 頁。

⁸¹⁴ 小林前掲書、30 頁。

⁸¹⁵ 小林前掲書、8 頁。小林は天皇の権威を伝統に裏付けされた本物の権威と位置づけ、権威と権威主義を区別する。

ころに漫画の大衆娯楽としての本質が認められよう。

しかし、小林「思想漫画」作品に於いてギャグや「攻撃」が特性ではない。現実問題に対する真摯な議論こそが「思想漫画」作品の娯楽なのである。前節に挙げた吉本隆明の漫画化は単なるギャグではなく、吉本の小林批判に対する反論であり、漫画作品としての議論なのである。

論シリーズに於いて小林は、自身の主張を一方的に主張すること無く、対立する議論を取り上げた上でそれに批判を加えている。また、小林自身への批判を紹介し、反論を展開するにとどまらず、自己の非を認め謝罪する場合もある。言葉あそびや風刺画の要素が読者サービスとして加えられているが、それらを除外すると、笑いとは乖離した「思想」が表出する。

事実の導入・紹介に始まり、後に議論が展開され、主人公の小林が結論を述べる構成は、テレビ朝日系列の「ニュースステーション」を皮切りに始まったバラエティ番組化された報道番組、或いは同じくテレビ朝日系列の「朝まで生テレビ」を彷彿させる。⁸¹⁶ いわば、小林よしのりが制作・演出・出演をひとりで行っている「番組」が『ゴーマニズム宣言』、論シリーズなのである。

従って、小林「思想漫画」作品の娯楽性は、作品に挿入された明白なギャグと作品全体の議論展開という二重性を持つと言えるのであるが、先に例挙げたバラエティ報道の他、芸能人が「舞台裏」を漏えいし、私生活の一部を開示し、聖職者が世俗生活を開陳するバラエティ番組は、読者或いは視聴者の娯楽に於ける現実性の追求を反映していると言える。同時に、娯楽（エンターテインメント）に於いて創作（フィクション）と現実（リアリティ、ノンフィクション）の境界が曖昧化したとも言える。議論の娯楽性について小林は、「深く考えることも娯楽になるという驚きをあなたは体験するだろう」と漫画で読者に語りかけており、読者の積極的思考作用

⁸¹⁶ ニュースステーション：1985年～2004年、テレビ朝日とオフィス・トゥー・ワンの共同制作番組。朝まで生テレビ：1987年～、テレビ朝日制作の討論番組。

による小林の創作内容と現実社会の境界の曖昧化が示唆されている。⁸¹⁷ 小林よしのりの「思想漫画」作品は、その意味に於いて先駆的なのである。

小林は『戦争論』の内容が、「戦前の日本＝悪の／押しつけキャンペーン」より市場原理に適合した旨を自負しているが、小林の主張内容のみならば、小林自身が既に「大東亜戦争肯定論」である旨を明言しているよう、斬新なものとは言い難い。

818 寧ろ娯楽に現実性を求める市場傾向との適合性が認められるのではなかろうか。⁸¹⁹

7. 結論：成熟社会に於ける「思想漫画」の危険性と可能性

漫画は庶民の文化、大衆文化である。権威や権力を風刺する行為は、健全な大衆の文化のひとつである。即ちそれは、権威・権力を論理的に批判するのではなく、読者の感情に訴え、笑わせるものである。従って、漫画作品に表現された小林よしのりの思想理解は、読者による「情」の理解にかかっている。この「情」が共有される空間として、共同体が想定されているのである。つまり、小林漫画作品に於いては、伝統的価値観の共有空間としての郷土が想定され、その最大限の領域が国家（国土と換言し得る）とされているのである。

小林の想定が正しいか否か、正否の基準を地球市民的絶対平和主義に求めるならば、小林の想定は閉鎖的であり、否である。しかし、実効性を基準とするならば、正である。共同体は、直ちに国家に換言されるものではない。地域社会から同心円状に拡大する公共意識の有効空間の限界域を、小林は現時点で国家の主権範囲と想定しているに過ぎず、現実には重層的共同体が多元的に存在することより、伝統的価値観が共同体毎に明確に分離される訳ではない。

⁸¹⁷ 当該コマ（漫画）は「ゴーマンかましてよかですか？」の次コマであり、それ自体の娯楽性が高い。小林前掲「ゴーマニズム戦記－新読者のために」小林前掲『新ゴーマニズム宣言 7』、34-35 頁。

⁸¹⁸ 小林よしのり『『戦争論』批判に答えて・情報と人格』前掲書、78 頁。

⁸¹⁹ 『戦争論』については、小林は右翼と見做されて漫画家として失敗するリスクを覚悟したのであるから、市場傾向との適合性は偶然的適合、不作為的適合も含むと理解されたい。

従って、小林が主張する思想はパトリオティズムであり、国家主義はそこから導出される副産物に過ぎない。例えば、震災の復興に共同体精神を見出す場合、従来の共同体（郷土）が壊滅している状況に於いてパトリオティズムはナショナリズムに置換される。つまり、パトリを再生する為のナショナリズムである。パトリの再生、或いはまた、パトリの創造 - 過去の存在を想定する場合の共同体再生 - には、国家主義的ナショナリズムは低下し、必然的に文化ナショナリズムの形式が採用されることとなる。⁸²⁰ 第七章で詳しく論じたように、小林は自身の主張を国家的ナショナリズムと差別化、「公民主義」と呼称し、その在り方を日本「古来」の伝統に求めているのである。

姜尚中は、戦前、庶民のパトリオティズムを国家意識まで引き上げることが重要問題であり、戦後国家を支える程の共同体意識の消滅を「総力戦をサボタージュするようなパトリオティズムは、すでに実体としてはなくなってしまっている」と、パトリオティズムとナショナリズムの階層性を前提に現代日本社会を論じているが、小林は「そういう状況のなかで、ある種のフィクションとしての、幻想としてのパトリオティズムを創り出した」のである。⁸²¹

小林よしのりの「公民主義」と呼称するところの「公論ナショナリズム」は、姜がその衰退を指摘した庶民の意識に作用する思想であり、運動である。庶民の意識とは、即ち庶民感情であり、知識人に信奉されたような純粹思想ではない。橋川文三はインテリゲンチアによる「理論信仰」（丸山真男）を批判し「現実への密着はますます希薄化した」と書いたが、生活者市民たる庶民感情は現実への密着を必要とし、感情的作用を希求しているのではなかろうか。⁸²² 小林のナショナリズム

⁸²⁰ 筆者の念頭には 2011 年 3 月 11 日発生 of 東日本大震災からの復興がある。物理的に郷土が被災し、避難生活を余儀なくされた人々の従来の共同体は崩壊した。故に筆者は「郷土」、「共同体」を総括し「パトリ」なる語句を用いる。また、被災地外から救援活動に派遣された公務員が、被災地での活動継続を希望し転職する例は下からの市民的ナショナリズムと理解し得るが、上からの国家主義的ナショナリズムではなかろう。

⁸²¹ 姜前掲「東北アジアの戦後史と日本のネオナショナリズムー小林よしのり『台湾論』を手がかりに」、203 頁。

⁸²² 橋川文三『昭和維新試論』朝日新聞社、1984 年、252-253 頁。

は、「人間永遠の感情として非歴史的に存在するパトリオティズム」を基盤にした「下から」のナショナリズムなのである。⁸²³ 戦後の昭和天皇による行幸啓に於ける奉迎市民、近年では今上による被災地訪問に於ける被災者の反応は庶民の感情依存性を示唆しており、「天皇」を「公」とし共同体「日本」に直結する小林の議論は、感情を論じた点に於いても、漫画という表現により感情を描いた点に於いても、庶民の身体的思想から遊離した言論社会に一石を投じたと言えるのではなかろうか。

しかし、小林の説く「公」が、「滅私」を日本古来の伝統価値として想定し、現代の「公共性」と置換する場合、筆者は違和感を禁じえない。その違和感とは、日本古来の神道と戦没者の顕彰という近代国家の要請の二者から創生された靖国信仰を、日本古来の伝統と呼ぶことへの違和感と共通のものである。小林の理念には、靖国神社同様の二面性 - 伝統性と現代性 - が認められる。靖国神社がその二面性を「神道」で結合させている一方、小林の場合は「公」が郷党的共同体と現代国家を結合させているのである。

小林が「公民主義」と呼称するところの人々を中心にしたナショナリズムは「上からの」国家主義的ナショナリズムを否定する。つまり、国権主義の否定である。小林は漫画により国家権力を非難し、共同体「日本」を描き、天皇が統べることを説いている（図 118）。しかし、「伝統文化」を媒体に「天皇」と「公」・「公共性」を直接的に関係づけると、⁸²³「天皇」は「公」や「公共性」に吞噬される危険性がある。

日本の文化ナショナリズムが天皇中心になる点は広く指摘される通りであり、小林の思想も『天皇論』三部作により文化ナショナリズムの系譜に配して良いであろう。しかし、小林のナショナリズムの危険性は、これも第六章で指摘したところだが、天皇さえも排除する可能性を秘めている点にある。小林は「天皇のお言葉に反しても、日本の伝統を強制する悪役に徹していこうと思っている」、「逆族の汚名を

⁸²³ 橋川前掲『ナショナリズム』、21 頁。

着るかもしれないなあ…」と書き、「日本の伝統」と天皇の思想が矛盾する場合、「日本の伝統」を優先し、天皇と敵対する可能性を暗示している。⁸²⁴



図 118. 国家・天皇・公

国家主義を否定し、天皇と「公」を、歴史を媒体に直結している。

小林よしのり『新戦争論 1』幻冬舎、2015 年、405 頁

日本の文化ナショナリズムは「伝統」の中心に天皇を置くのであるが、今上（現天皇）の思想が日本の天皇としてふさわしくないとする思想、或いはまた今上の理念・思想より高次の大御心を想定する思想は、国家的危機状況に於いてたびたび出現している。⁸²⁵ 過去に存在した「はず」の理想的共同体を創造し、理想的天皇像を追及する、大衆のナショナリズムの危険性は象徴天皇制国家に於いて常に問われねばならないだろう。

小林は自己の従来活動を「公論」運動に収斂させ、自己の思想を「公民主義」

⁸²⁴ 小林前掲「国民主権は国体にあらず」小林前掲『天皇論』、368 頁、370 頁。

⁸²⁵ 例えば秩父宮擁立運動や白川宮擁立・新日本建設運動。共に未遂に終わる。橋川文三は前者の思想の原典を北一輝としている。

に収斂させている。小林の言う「公論」には、滅私の議論と公開討論の意味が認められ、後者の意味に於いては、リベラルを標榜する論者も小林の主張を認めざるを得ないだろう。しかし、大衆による公論が『『現』天皇抜きナショナリズム』を経由し「天皇を創造するナショナリズム」になる危険性があることは歴史が証明しているところである。実際、小林は『天皇論』に於いて天皇の公的存在性を論じ、国体論に帰結している。国体論に於いては国体に不適合の天皇は排除されるのである。⁸²⁶

『戦争論』に於ける小林の思想は、吉本隆明や高橋哲哉が主張する平和主義を否定するものである。しかし、本研究は、小林が人間の死の意味を問い、個人の生命を超越した価値観を議論している点を明確にした。小林はアジア・太平洋戦争に於ける戦死の意味を論じているが、戦争自体を称賛、推進、肯定しているとは言い難い。イラク戦争に対しては『戦争論 2』に於いて明確に反対の立場を表明するとともに、戦争忌避が当然至極とする漫画表現に続き『『軍国主義』なんか嫌いに決まっている!』と断言している。⁸²⁷ 小林は生命を超越した価値を議論すべく、「大東亜戦争肯定論」を掲げ、議論の手段として現実主義を示唆するに過ぎない。従来の一国平和主義が国際社会に於いて認められなかった現実を前に、米国のイラク攻撃を是とする日本政府の立場を支持する者を、小林は「親米ポチ」或いは「ポチ・ホシュ」と蔑称しており、小林の思想が反米である点は間違いない。⁸²⁸

小林の基本理念に戦争否定があり、小林は『『国家』という秩序の枠組みを守るためあえてイスラム原理主義の『テロ』は許さぬという立場を取る』と言う。⁸²⁹ テ

⁸²⁶ ここでの「国体論」とは、日本の独自性を強調した吉田松陰的な国体論であり、松陰の国体論を批判した山県太華的国体論を意味するものではない。橋川文三「国体論の連想」『橋川文三著作集 2』筑摩書房、1989年、119-151頁（参考）。

⁸²⁷ 小林よしのり「戦争と平和と個人」小林前掲『戦争論 2』、33-61頁。同時多発テロに於けるテロへの一定の理解を示した「同時多発テロはアイデンティティー・ウォーである」は『戦争論 2』の仕上げ段階で急遽描かれ第1章として挿入された旨、2016年発表の『ゴーマニズム戦歴』に記述がある。

⁸²⁸ つくる会の活動に参加していた多くの論者が「親米ポチ」、「ポチ・ホシュ」とされる。同会を辞し、小林と共に反米を主張する論者が西部邁である。

⁸²⁹ 小林よしのり「同時多発テロはアイデンティティー・ウォーである」小林前掲『戦争論 2』、

ロに対する一定の理解とは、反逆精神に対する同情と換言し得る。「テロに／走らざるを得ない／近代兵器なき／貧しい民族にも／守りぬきたい／文明と／アイデンティティーが／あるのではないか？」と疑問を投じる小林の台詞には、小林の行動原理を示唆する二句のキーワードが認められる。⁸³⁰ 即ち、「貧しい民族」と「守りぬきたい文明」である。⁸³¹ 小林は後年『戦争論 2』の創作活動により興奮状態であったところに同時多発テロの報道に接し、「テロリスト側に感情移入してしまうのも当然だろう」と懐古しているが、超大国米国に対しテロ以外に対抗手段を持ちえない弱小民族に心情的理解を示す小林の態度は、厚生省に対し訴訟を起こした青少年に肩入れしたときの小林を彷彿させる。⁸³²

イスラム原理主義のテロを否定する理由として、小林は現行秩序の維持を挙げており、その限りに於いて国家主義を採用している。この点に於いて小林の主張には矛盾が認められ、小林自身、苦渋の選択である旨を描いている（図 118）。

反米を掲げ、白人、アングロサクソン、プロテスタントを拒絶するならば、その全てが混在する既存の国家秩序（国家間秩序＝国際秩序）を正面から否定してしかるべきではなかろうか。⁸³³ 既存の国際秩序を尊重する「常識」内に辛うじてとどまる言論は、或る種の「政治的」判断に基づくものと推測されよう。⁸³⁴

24 頁。

⁸³⁰ 前掲作品、22 頁。

⁸³¹ 同上。「文明」は「文化」の誤用ではなかろうか。

⁸³² 小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、272 頁。

⁸³³ 小林の用語では「WASP」、「ホワイト・アングロ・サクソン・プロテスタント」。小林よしのり、西部邁はそれに対し嫌悪感を公言している。

⁸³⁴ 小林は、思想と政治を分離すべきとする田久保忠衛、八木秀次、西尾幹二に対し、政治に対する思想の従属であると批判している。小林よしのり「さらば『つくる会』、思想を語るために。」小林前掲『新ゴーマニズム宣言 11 テロリアンナイト』、251-258 頁及び小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、293-300 頁（参考。）



図 119. 苦渋の選択

小林よしのり『戦争論 2』幻冬舎、2001年、24 頁

小林の判断基準は道義の有無が重要な位置を占め、小林には道義を主張する弱小者に味方する傾向が認められる。その基準には、アジア・太平洋戦争に於ける日本の道義性を誇る小林の思想に水脈を通じるものがある。

アジア・太平洋戦争は、国際法上の戦争である故、テロとは峻別されるべきであるが、国際秩序維持を目的に「ビンラディンに共感を覚えつつ」「あえて」テロに反対を表明するという小林の主張は、テロ擁護との批判を受けても致し方あるまい。

835

小林は個人が私的利害にとらわれず、公開の議論により共同体を維持することを主張しており、国家主義が主眼ではない。個人が道義に従い行動する社会を理想としているのである。その主張を漫画というメディアを通じ、直接読者に訴えるのであるが、読者は必ずしも小林の意図するところを理解する訳ではない。寧ろ、小林が、たびたび「漫画も理解できぬ知識人」を指摘するよう、誤解、曲解、珍解が想

835 小林前掲「同時多発テロはアイデンティティー・ウォーである」小林前掲『戦争論 2』、24 頁。

定されてしかるべきであろう。

実際、小林の権威主義に対する挑戦は、その直接的効果論は措くとしても、弱小者による自己主張、批判、反論の「声をあげる」、という日本の社会変化と同調した。⁸³⁶ 陋習打破を推進する意味に於いて、小林の挑戦的漫画作品は評価されて良いだろう。殊に、言論の自由に対する脅威に対し漫画を以て戦う姿勢は大いに評価されてしかるべきではなかろうか。⁸³⁷ しかし、一方で小林の創作形式を模したと思しき漫画作品が登場し、それに反対する漫画作品まで認められる。その一例が、前者ではローゼンバウムが水木しげるの対極に位置させる山野車輪の『嫌韓流』、後者では金城模による『嫌日流』である。

両作品ともに内容的に思想性が高いとはいえないが、小林よしのりの「思想漫画」の特徴との形式的類似点が認められる。⁸³⁸

形式的類似点の特徴を以て、「政治漫画第三領域の新形式」或いは「エッセイ漫画の新形式」として新たな範疇を設定するならば、『戦争論』以降の後期『ゴーマニズム宣言』論シリーズ、山野『嫌韓流』、金『嫌日流』は同一範疇に分類されるのではなかろうか。⁸³⁹

小林は『嫌韓流』をはじめとするネット右翼、ヘイト・スピーチの類に対する影響を指摘され、不快感を表明しているが、現実的に小林の『ゴーマニズム宣言』が山野の『嫌韓流』に影響を与え、山野の『嫌韓流』への反論として金の『嫌日流』が生じている。小林の「公論」の持つ二つの側面の一方、即ち「公開討論」を前提

⁸³⁶ 初期ゴーマニズム宣言に於いて、既に小林はセクハラに対し声をあげるべき旨を描いている。また、石原慎太郎をはじめに『No と言える…』なる書籍が同時期に流行。

⁸³⁷ 天皇制をめぐる出版社の自主規制に対する代表的挑戦作として、「かば焼きの日」がある。また、小林は、中沢啓治『はだしのゲン』を高く評価しており、同書を学校図書館から撤去すべしとの意見には、言論の自由を理由に反対している。

⁸³⁸ 社会問題（時事問題）の漫画化、主人公による明確な意見表明、作者が漫画の登場人物、独立性の高い個別作品の集合性、集合作品（書籍）としての出版目的、用語解説、批判対象書籍の画像引用または描写、引用文献リスト

⁸³⁹ ストーリー漫画と活字書籍は除外する。また、類似点は形式に限定するものであり、思想的影響を指摘するものではない。『嫌韓流』、『嫌日流』に小林的「情の論理」は認め難く、庶民の批判精神の表現である風刺性が低い。前者には少数派非難の言説が多分に認められ、後者は前者に対する反論の絵解きにとどまる。

とするならば、小林の意図の如何にかかわらず、漫画作品を以て社会問題を論じ、持論を主張し、他者を批判する行為自体は否定し得ないであろう。何故なら、論者の目的が「公」の為か否かの客観的判断基準が無いからである。実際小林も 2015（平成 27）年発表の『新戦争論 1』に於いて自身がネット右翼の原因と見做される傾向を漫画化し、不本意ながらも甘受している（図 120）。⁸⁴⁰



しかし、思想的影響を措き、形式的影響を指摘するならば、従来の漫画作品とは異なる、複合形式により社会問題を漫画化した言論主体の作品の登場たる意味に於いて、小林の影響は指摘されてしかるべきではなかろうか。

従って、小林よしのり「公論ナショナリズム」は、小林の意図如何にかかわらず、別種のナショナリズム推進者、或いはその利用を試みる政治的組織や個人に利用される可能性が存するのである。

⁸⁴⁰ 2016 年発表の自叙伝『ゴーマニズム戦歴』では、SEALs との対談冒頭「ネトウヨも安倍政権も小林よしのりがつくった」、「『戦争論』を描いたことを反省せよ」などと謝罪を求められたから、大いにたまげた」と書いている。小林前掲『ゴーマニズム戦歴』、5 頁。

しかし、筆者は小林の「公論ナショナリズム」が地球市民的公論運動に発展する可能性も併せて指摘したい。小林自身は領域的概念としての「公」の現実的限界を一応国家と想定しており、福沢諭吉的な限界がある。小林の議論は旧来の国体論の焼き直しとも捉えられ、思想的には全体性への回帰思想である。その全体性とは伝統的共同体の性質と換言し得る。しかし、それは従来 of 国体論と構造的には同じだが、現代との結合たる意味に於いて、質的には異なる思想ではなかろうか。立脚する共同体が既に変質しているのであるから、質的に異ならざるを得ない。小林の「思想漫画」が世界に普及し、「個」が主体的に滅私的公を選択するとき、国家をも超越した「公」も出現し得る。例えば、「イスラム国」の戦士による自爆テロは、「個」が主体的に滅私的公を選択していると理解し得るし、イスラムとは本質的に国家を超越した大概概念である。⁸⁴¹ 小林は国家範囲を超越した「公」の可能性を『私』の外側から／地域→国→世界／の範囲で／伸縮可能」と書き示唆しているが、国と世界の中間的範囲を想定することが現状としては妥当であろう。⁸⁴² 小林よしのりの表現手段が漫画であるからこそ、言語表現以上に国家の範囲を超越する可能性は高い。

小林の「公論ナショナリズム」は「上から」国家主義を否定している。国家構成員たる国民（人々）が自立した個を自覚するとき、国家は相対化され、人々は国家を超越し得る。故に筆者は、国家を超越するという意味をも以て小林の「公論ナショナリズム」を「超国家・主義」と呼称し、小林自身は国家を否定する意味を以て「公民主義」と命名したと言えよう。

国家を超越した個々人が共同体を形成することは既成事実であり - 例えば、イスラム社会 - 現実的には既存の国民国家体制と共存し、重層的共同体社会を形成している。また、国家を超越した共同体が国民国家を建設した事実 - 例えば、イスラエ

⁸⁴¹ イスラムの概念は国民国家の概念以上に広大であり、国境なる概念で世界を分断することはイスラムの理念と合致しない。

⁸⁴² 小林前掲「朝ナマ史上初！大東亜戦争肯定派の勝ち」（本稿第三章 13 節参照）。

ル - は指摘するまでもなかろう。⁸⁴³ 従って、小林はその思想を「公民主義」と呼称するが、実際は国権主義を否定した一種の国家主義、全体主義的思想性を孕む保守主義と言える。

しかし、現実の日本社会の潮流は「公民主義」とは逆行するが故に小林は「思想漫画」で社会に問うていると言えよう。

小林の「思想漫画」を娯楽として消費する高度消費社会では人々は現実性（リアリティ）を求めるようになった。人々は公的言語に満足せず、個人の私的言語を求めるようになった。例えば、アイドルタレントが恋愛を公然と話すことが大衆受けし、国会議員が天皇のお言葉に対し公然と不満を述べる。従来公的と考えられた領域に、私的言語が氾濫しているのが現状である。しかし、このような状況下に於いて小林の「思想漫画」が思想としての影響が懸念される限り、社会は健全なわけではなかろうか。小林の語るリアリティが娯楽として消費されるのみならば健全であろう。しかし、現実を冷笑し、インターネット社会に於いては匿名で批難、中傷、ヘイト・スピーチまがいの言論がまかり通る現代の状況は、小林の『戦争論』以来の目標 - 公論の立ち上げ - には逆効果であったと言えまいか。仮想空間に安住を求めつつ攻撃性を強める人々の姿は、オウム真理教に救いを求めた信者たちの姿に似てはいないか。自己の存在意義を求めイスラム国を目指した国立大学の大学生の姿は、オウムに救いを求めた林郁夫元医師や青山吉伸元弁護士の子「エリート」の姿に似てはいないか。⁸⁴⁴ 筆者は近年、小林よしのりの「思想漫画」に対する社会の反応に成熟社会のニヒリズムを認めつつ、仮想空間、私の領域、小林的な表現をすればお天道様に見えない場所で、小林の意に反し生成する負の効果を危惧するものである。

つまるところ、小林の内なる敵は現代日本のニヒリズムと言えるのではないだろ

⁸⁴³ 既成の国民国家体制（国際秩序）への挑戦としてはイスラム国（ISS）も指摘し得る。

⁸⁴⁴ 林郁夫：元医師、オウム真理教幹部「治療省大臣」、地下鉄サリン事件実行犯、死刑確定。
青山吉伸：元弁護士、オウム真理教幹部「法務大臣」、懲役 12 年実刑、刑期満了。

うか。⁸⁴⁵ しかし、小林の語りが批判対象にある限り、現代日本はその思想的健全性を喪失していない。むしろ、小林が無視されるような閉鎖的「公」空間 - 「公」の大義名分を掲げつつ、そこに賛同しない者を排除する、いわゆる「村」社会的空間 - の出現こそ憂慮すべきではなかろうか。

「思想漫画」は小林よしのりが「言論漫画」を以て理想を語る小林の「理想漫画」である。しかし、それは、高橋哲哉が指摘するよう、「異質な他者の排除」に向かう危険性を多分に有するのである。⁸⁴⁶ 伝統的「公」は本質的に排除の論理を内包するからである。⁸⁴⁷

小林は戦争の全面否定と侵略戦争の両者に反対しつつも、「死ぬのは自衛隊であって、我々ではない…という構えでは、道義なき国家にならざるを得ない」と読者に戦死に対する「当事者意識と覚悟を促す」。⁸⁴⁸ しかし、国家或いは共同体の安全は戦争により保障される訳ではない。小林が指摘するよう、インターネット社会に低俗なナショナリズムが横行しているのは事実だが、同時に、侵略戦争や人権侵害がネットで緩やかに連帯した市民（人々）により抑制されつつあるのも他方の事実である。ここに於いて、ネット社会の匿名性は問題にならないだろう。

小林は積極的に市民的公共性を主張している訳ではないが、自身の老後に漫画を描く「才能が枯れたら、公園の草むしりをしながら、子供たちを見守りたい」と書き、その想像図を描いている。⁸⁴⁹ そこに描かれた若い女性や子供たちは無名の市民 - 庶民で、幼児から草を受け取ろうとする老人は天下国家を論じる漫画家小林よしのりではなく、一市民となった小林善範である（図 121）。⁸⁵⁰

⁸⁴⁵ 「内」とは、小林の内面性ではなく、最大範囲を国内とした各共同体の内側の意味である。

⁸⁴⁶ 高橋前掲書、159 頁。

⁸⁴⁷ 共同体的な「公」には包括と排除の力が併存する。

⁸⁴⁸ 同上。

⁸⁴⁹ 小林よしのり「嫌韓本、自己啓発本、『力』本」小林前掲『新戦争論 1』、407 頁。

⁸⁵⁰ 政治的存在としての一市民ではなく、一小市民である。



図 121. 市民的「公」

小林よしのり『新戦争論 1』幻冬舎、2015 年、408 頁

付録

ゴーマニズム宣言の引用歌一覧

歌	所収歌集、作者など	掲載書名、掲載頁
君が代は 千代に八千代に さざれ石の 巖となりて 苔のむすまで	国歌	天皇論 p7、9、20 ほか描き文字一部分
わが君は 千代にましませ さざれ石の いはほとなり て 苔のむすまで	古今和歌集	天皇論 p18
大和には 群山あれど と りよろふ 天の香具山 登 り立ち 国見をすれば 国 原は 煙立ち立つ 海原は 鷗立ち立つ うまし国そ 蜻蛉島 大和の国は	万葉集、舒明天皇御製	天皇論 p53
ふりつもる み雪にたへて いろかへぬ 松ぞ をし き 人もかくあれ	1946 (S21) 年、昭和天皇御 製	天皇論 p90 昭和天皇論 p172、316、340
身はいかに なるともいく さ とどめけり ただたふ れゆく 民をおもひて	1945 (S20) 年、昭和天皇御 製	天皇論 p113 昭和天皇論 p112、339
フサケイユルキクサ ミグ ルイクサアトゥ クリカイ シガイシ ウムイカキティ	1975 (S50) 年、今上陛下御 製の琉歌	天皇論 p136
花よおしゆげやん 人知ら ぬ魂 戦ないらぬ世よ 肝 に願て	1975 (S50) 年、今上陛下御 製の琉歌	天皇論 p140
思はざる 病となりぬ 沖 縄を たづねて果たさむ つとめありしを	1987 (S62) 年、昭和天皇御 製	天皇論 p142 昭和天皇論 p341
精魂を 込め戦ひし 人未 だ 地下に眠りて 島は悲 しき	1994 (H6) 年、今上陛下御 製の栗林忠道への返歌	天皇論 p145

国のため 重き務めを 果たし得で 矢弾尽き果て 散るぞ悲しき	1945 (S20) 年、栗林忠道辞世の句	天皇論 p145
神風の伊勢の海の大石にや い這ひ廻へる 細螺の 細 螺の 吾子よ 吾子よ 細 螺の い這ひ廻れり 撃ち てし止まむ 撃ちてし止ま む	日本書紀、神武天皇御製	天皇論 p223
人々の 幸願ひつつ 国の 内 めぐりきたりて十五年 経つ	2004 (H16) 年、歌会始、今 上陛下御製	天皇論 p267
うち続く 田は豊かなる 緑にて 実る稲穂に 姿う れしき	1997 (H9) 年、歌会始、今 上陛下御製	天皇論 p268 昭和天皇論 p201
世をさおまり 民やすかれ と 祈るこそ 我が身につ きぬ 思ひなりけれ	続後捨遺和歌集巻 16 雑中、 後醍醐天皇御製	天皇論 p276
この世をば わが世とぞ思 ふ 望月の 欠けたること も なしと思へば	小右記、藤原道長	天皇論 p346
新嘗の み祭果てて 還り ます 君のみ衣 夜気冷え びえし	1979 (S54) 年、皇后陛下御 歌	天皇論 p377
神まつる 昔の手ぶり 守 らむと 旬祭に発たす 君 をかしこむ	1994 (H6)、皇后陛下御歌	天皇論 p377
人の世の 非情に耐へる 人知れず 民のためにと 祈る天皇	2009 (H21) 年、小林よしの り	天皇論 p378

海行かば 水漬く屍 山行 かば 草生す屍 大君の 辺にこそ死なめ かへりみ はせじ	万葉集、大伴家持（一部）	昭和天皇論 p9
爆撃に たふれゆく民の 上をおもひ いくさとめけ り 身はいかならむとも	1945（S20）年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p112
国がらを ただ守らんと いばら道 すすみゆくとも いくさとめけり	1945（S20）年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p112
大君の 深き恵に 浴みし 身は 言いのこすへき 片 言もなし	1942（S17）・1945（S20） 年、阿南惟幾	昭和天皇論 p156
風さゆる み冬は過ぎて まちにまちし 八重桜咲く 春となりけり	1952（S27）年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p199
うち続く 田は豊かなる 緑にて 実る稲穂の 姿う れしき	1997（H9）年、歌会始、今 上陛下御製「姿」	昭和天皇論 p201
あつさつよき 磐城の里の 炭山に はたらくひとを をゝしとぞ見し	1947（S22）年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p217
あさまおろし つよきふも とに かへりきて いそし む田人 たふとくもあるか	1947（S22）年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p222
みほとけの 教まもりて すくすくと 生ひ育つべき 子らにさちあれ	1949（S24）年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p230
海の底の つらきにたへて 炭ほると いそしむ人ぞ たふとかりける	1949（S24）年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p232

思はざる 病となりぬ 沖 縄を たづねて果たさむ つとめありしを	1987 (S62) 年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p242
たかきやに のぼりて見れ ば 煙立つ 民のかまどは にぎわいにけり	新古今和歌集、伝・仁徳天皇 御製	昭和天皇論 p244
やすらけき 世を祈りしも いまだならず くやしくも あるか きざしみゆれど	1988 (S63) 年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p274、342
天皇の 遠の朝廷と しな ぬひ筑紫の国は 賊守る鎮 への城ぞと聞しめす…	万葉集	昭和天皇論 p298
韓衣 裾にとりつき 泣く 子らを 置きてぞ来ぬや 母なしにして	万葉集	昭和天皇論 p298
熟田津に 舟乗りせむと 月待てば 潮もかなひむ 今は漕ぎいでな	万葉集、額田王	昭和天皇論 p305
秋の田の 刈穂の庵の 苦 をあらみ わが衣手は 露 にぬれつつ	後撰集、小倉百首、天智天皇 御製	昭和天皇論 p309
一枝も こころして吹け 沖つ風 わが天皇の めて ましし森そ	1929 (S4) 年、南方熊楠	昭和天皇論 p325
雨にふける 神島を見て 紀伊の国の生みし 南方熊 楠を思ふ	1962 (S37) 年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p326
あかげらの 叩く音する あさまだに 音たえてさび し うつりしならむ	1988 (S63) 年、昭和天皇御 製	昭和天皇論 p343
四方の海 みなはらからと 思ふ世に など波風の た ちさわぐらむ	1904 (M37) 年、明治天皇御 製「四海兄弟」	新天皇論 p10 戦争論 2 p429 戦争論 3 p243

帝雛 たみのむすめも に ぎはいぬ	江戸時代、俳諧雑巾	新天皇論 p50
なにごとの おはしますか は 知らねども かたじけ なさに 涙こぼるる	西行法師	新天皇論 p52
てのひらに 君のせましし 桑の実の その一粒に 重 みのありて	1959 (S34) 年、皇后陛下御 歌「常盤松の御所」	新天皇論 p76
うつつにし 言葉の出です 仰ぎたる この望の月 思 ふ日あらむ	1993 (H5) 皇后陛下御歌「月」	新天皇論 p75
ひさかたの 天の戸開き 高千穂の 嶽に天降りし すめろぎの 神の御代より 櫛弓を 手握り持たし 眞 鹿児矢を 手挟み添えて 大久米の ますらたけを先 に立て 靱取り負せ 山川 を 盤根さくみて 踏みと おり 国まぎしつつ ちは やぶる 神をことむけ ま つろはぬ 人をも和し 掃 き清め 仕奉りて あきづ 島 大和の国の 橿原の畝 傍の宮に 宮柱 太知り立 てて 天の下 知らしめし ける すめろぎの 天の日 嗣と つぎて来る 君の御 代御代隠さはぬ 明き心を すめらべに 極め尽して 仕え来る…	日向国風土記逸文 (…以下が 省略の為、大伴家持の古歌の 引用なし)	新天皇論 p386
あわて者、小便したいままで 行き	特攻隊員 (福地貴、伊熊二 郎、及川肇、遠山善雄)	戦争論 p357

諸共と、思えばいとしこの風	特攻隊員（福地貴、伊熊二郎、及川肇、遠山善雄）	戦争論 p357
死するともなほ死するとも 我が魂よ永久にとどまり御 国まもらせ	「桜花」特別攻撃隊・緒方襄 命	戦争論 p369
身はたとへ太平洋に水漬く とも留め置かまし大和魂	1941（S16）年 12 月 8 日海 軍飛行兵曹長・真珠湾攻撃 隊、長井泉命	戦争論 2 p472
今更におどろくべきもあら ぬなりかねて待ちこしこの 度の旅	1941（S16）年 12 月 8 日海 軍飛行兵曹長・真珠湾攻撃 隊、長井泉命	戦争論 2 p472
かへらじと思ふこゝろのひ とすじに玉と砕けて御国ま もらん	菊地誠命「辞世」	戦争論 2 p524 （靖国論 p182 再収）
桜花と散り九段に還るを夢 に見つ鉄艦堵らん我は征く なり	浅川又之命「辞世の歌」	戦争論 2 p524 （靖国論 p182 再収）
一誠の捨身の気魂今ぞ知れ 武士の道に清く散るらん	一誠隊・陸軍少尉・相川清司	戦争論 2 p524 （靖国論 p182 再収）
血にそみし操縦棹を握りし め男命の生き甲斐ぞしる	入江千之助	戦争論 3 p256
人知れず海の藻屑と消えゆ るとも国の為にはおしまざ りけり	相川清司	戦争論 3 p257
かくすれば国難突破出来る ならいかでや軽きわが生命 かな	渡里修一	戦争論 3 p258
腰の朱ざやは何するものぞ、 人を切る為殺す為人生意気 に感じては 朝つゆの命何 ものぞ	深堀直治	戦争論 3 p291

数ならぬ身にはあれども国 のため捧げまつらむ空のま もりに	市原哲雄	戦争論 3 p292
わが後につづかむ者の多数 あればとはにゆるがじ皇御 国は	山本卓実	戦争論 3 p293
今年なり今年こそはとおも ふなり若き桜と咲き散るこ の年	芝崎茂	戦争論 3 p296
身も魂も皇国のものにして 我と言う字は在りてなきも の	吉田信太郎	戦争論 3 p297
兄も行け我も果てなむ君の 辺に悉々果てなむ我が家の 風	緒方襄	戦争論 3 p299
国敗れ つみ人となり 死 ぬる身は 世界平和の杭と なるなり	片岡正雄 兵曹長	靖国論 p144
モンテンルパの夜は更けて つのる思いにやるせない 遠い故郷しのびつつ 涙に曇る月影に 優しい母の夢を見る (以下省略)	1952 (S27) 年、作詞：代 田銀太郎、作曲：伊藤正康、 歌唱：渡辺はま子『ああモ ンテンルパの夜は更けて』	靖国論 p16
天地正大ノ気 粹然トシテ 神州ニ鍾ル (以下省略)	藤田東湖『天文祥正氣ノ歌ニ 和ス』	戦争論 2 (靖国論再収)
天皇は 神にまさねば私に 病いやせと じかにのたま ふ	永井隆	昭和天皇論 p231

文献目録

I. 一次資料

1. 漫画作品

(1) 小林よしのり

- ・『小林よしのりのゴーマンガ大事典』イースト・プレス、1993 年
- ・『小林よしのりの異常天才大事典』イースト・プレス、1993 年
- ・『おぼっちゃまくん』(1～6 巻) 幻冬舎、2002 年
- ・「下関クジラ会議に注目せよ」『わしズム』第 1 号、幻冬舎、2002 年 4 月 25
- ・『ゴー宣 PREMIUM 修身論』マガジンハウス、2010 年
- ・『本家・ゴーマニズム宣言』(1～2 巻) ワック、2010～2011 年
- ・『(戦後 70 年特別企画) 卑怯者の島』小学館、2015 年

『SAPIO』『SPA!』連載

- ・『ゴーマニズム宣言』(1～8 巻) 扶桑社、1993～1995 年
- ・『ゴーマニズム宣言』(9 巻) 双葉社、1996 年
- ・『新・ゴーマニズム宣言』(1～15 巻) 小学館、1996～2006 年
- ・『ゴー宣・暫』(1～2 巻) 小学館、2007 年
- ・『ゴーマニズム宣言 NEO』(1～2 巻) 小学館、2008～2009 年

『わしズム』『WILL』連載

- ・『ゴーマニズム宣言 EXTRA 1』幻冬舎、2004 年
- ・『ゴーマニズム宣言 EXTRA 挑戦的平和論 上巻』幻冬舎、2005 年
- ・『ゴーマニズム宣言 EXTRA 挑戦的平和論 下巻』幻冬舎、2005 年
- ・『ゴーマニズム宣言 EXTRA パトリなきナショナリズム』小学館、2007 年
- ・『ゴーマニズム宣言 NEO1』小学館、2008 年
- ・『ゴーマニズム宣言 NEO2 日本のタブー』小学館、2009 年

SPECIAL

- ・『ゴーマニズム宣言 差別論スペシャル』解放出版社、1995 年
- ・『新・ゴーマニズム宣言スペシャル 脱正義論』幻冬舎、1996 年
- ・『新・ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論』幻冬舎、1998 年
- ・『新・ゴーマニズム宣言 SPECIAL 「個と公」論』幻冬舎、2000 年※
- ・『新・ゴーマニズム宣言 SPECIAL 台湾論』小学館、2000 年
- ・『新・ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論 2』幻冬舎、2001 年
- ・『新・ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論 3』幻冬舎、2003 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL よしりん戦記』小学館、2003 年
- ・『新・ゴーマニズム宣言 SPECIAL 沖縄論』小学館、2005 年
- ・『新・ゴーマニズム宣言 SPECIAL 靖國論』幻冬舎、2005 年
- ・『ゴー宣 SPECIAL いわゆる A 級戦犯』幻冬舎、2006 年
- ・『新・ゴーマニズム宣言 SPECIAL 平成攘夷論』小学館、2007 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL パール真論』小学館、2008 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 天皇論』小学館、2009 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 昭和天皇論』幻冬舎、2010 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 新天皇論』小学館、2010 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 国防論』小学館、2011 年

- ・『ゴーマニズム宣言スペシャル・反 TPP 論』幻冬舎、2012 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 脱原発論』小学館、2012 年
- ・『ゴーマニズム宣言スペシャル AKB48 論』幻冬舎、2013 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 大東亜論 巨傑誕生篇』小学館、2014 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 新戦争論 1』幻冬舎、2015 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 大東亜論第二部 愛国志士、決起ス』小学館、2015 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 民主主義という病い』幻冬舎、2016 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 天皇論 平成 29 年』小学館、2017 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 大東亜論第三部 明治日本を作った男達』小学館、2017 年
- ・『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 新・墮落論』幻冬舎、2018 年

(2) 水木しげる

- ・「ああ天皇とボクの五十年」『漫画半分』創刊第 1 号、面白半分、1976 年 11 月 20 日
- ・「戦争と日本」『小学六年生』2 月号、小学館、1991 年
- ・『ゲゲゲの鬼太郎』(1～7 巻) 筑摩書房、1994 年
- ・『コミック昭和史』(1～8 巻) 講談社、1994 年
- ・『鬼太郎の地獄めぐり』(水木しげるコレクション 1) 角川書店、1995 年
- ・『ねずみ男とゲゲゲの鬼太郎』(水木しげるコレクション 2) 角川書店、1995 年
- ・『雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎』(水木しげるコレクション 3) 角川書店、1995 年
- ・『ゲゲゲの森の鬼太郎』(水木しげるコレクション 4) 角川書店、1995 年
- ・『天界のゲゲゲの鬼太郎』(水木しげるコレクション 5) 角川書店、1995 年
- ・『総員玉砕せよ!』講談社、1995 年
- ・「阿部の奉連想」『ビッグゴールド』2 月号、小学館、1996 年
- ・『完全版マンガ水木しげる伝』(上・中・下) 講談社、2004～2005 年
- ・『墓場鬼太郎 - 貸本漫画復刻版』(1～6 巻) 角川書店、2006～2007 年
- ・『水木しげる 魍魎 貸本・短編名作選 地獄・地底の足音』集英社、2009 年、
- ・『カランコロン漂泊記』小学館、2010 年
- ・『姑娘』講談社、2010 年
- ・『白い旗』講談社、2010 年
- ・『敗走記』講談社、2010 年
- ・『私はゲゲゲ - 神秘家水木しげる伝』角川書店、2010 年 (初版『神秘家水木しげる伝』角川書店、2008 年)
- ・『水木しげるの古代出雲』角川書店、2012 年

(3) 松本零士

- ・松本零士『宇宙戦艦ヤマト』(1～2 巻) 秋田書店、1992 年
- ・松本零士『超時空戦艦まほろば』(1～2 巻) 小学館、1998 年
- ・松本零士『新 宇宙戦艦ヤマト』(1～2 巻) 小学館、2001 年

2. 著書・著述

(1 - 1) 小林よしのり

- ・「個が公に権利だけを主張している」小林よしのり (編)『『新しい歴史教科書を「つくる会」という運動がある』扶桑社、1998 年
- ・「史ニストのお歴々 特別編 わしが『つくる会』を支援するに至るいきさつ」小林よしのり (編)『『新しい歴史教科書を「つくる会」という運動がある』扶桑社、1998 年

- ・『新・ゴーマニズム宣言 SPECIAL 「個と公」論』幻冬舎、2000 年※
- ・『ゴー外！！1』アスコム、2004 年
- ・『誇りある沖縄へ』小学館、2008 年
- ・『世論という悪夢』小学館、2009 年
- ・「田母神論文を補強、擁護する！」『わしズム』29 号、2009 年 3 月 25 日、小学館
- ・『ゴー宣道場』WAC、2011 年
- ・『ゴーマニズム戦歴』KK ベストセラーズ、2016 年

（1 - 2）小林よしのり他

- ・小林よしのり・竹内義和『オウム的！』ファンクス、1995 年
- ・小林よしのり・鈴木邦夫『皇室タブー』と表現の自由』『ゴーマニズム宣言 3』扶桑社、1994 年（初出「創」1993 年 10 月号）。
- ・小林よしのり・竹田青嗣・橋爪大三郎『ゴーマニズム思想講座戦争・正義・国家論』径書房、1997 年
- ・小林よしのり・井沢元彦『朝日新聞の正義』小学館、1998 年
- ・小林よしのり他『国家と戦争』飛鳥新社、1999 年
- ・小林よしのり・田原総一郎『戦争論争戦』文化社、1999 年
- ・小林よしのり「ひたすら英霊のため、祖父の世代のために」高橋史朗・新しい歴史教科書をつくる会『新しい歴史教科書誕生！！』PHP 研究所、2000 年（初出：『正論』1998 年 12 月号）
- ・小林よしのり「テロリアンナイト、ブルカ脱ぐか物語」『新ゴーマニズム宣言 11 テロリアンナイト』幻冬舎、2002 年。（初出『正論』2002 年 5 月号所収、『思想』は『政治』の前に沈黙せねばならぬのか）
- ・小林よしのり・西部邁『反米という作法』小学館、2002 年
- ・小林よしのり・大高未貴「余はいかにして世界初の思想漫画、『ゴー宣』を始めしか？」『ゴーマニズム宣言 SPECIAL よしりん戦記』小学館、2003 年
- ・小林よしのり・金森由利子「著者・小林よしのり語る。 “『戦争論 3』は、こう読め！”」『わしズム』7 号、平成 2003 年 7 月 25 日、幻冬舎
- ・小林よしのり・新保信長「仕事も恋愛も人生も人をおそれるな！」『新ゴーマニズム宣言 14 勝者の余裕』小学館、2004 年
- ・小林よしのり・西部邁「高橋哲哉先生、『日本が滅亡してもよい』とまで言い切ればどうか！」『本日の雑談 7』飛鳥新社、2005 年 8 月
- ・小林よしのり・堀部正史『武士ズム』小学館、2008 年
- ・小林よしのり「わしの中の宗教心と近代主義をどう折衷するかが問題だ」渡邊直樹（編）『私と宗教』平凡社、2011 年
- ・堀江正史・小林よしのり「【特別対談】靖国神社と武士の魂」小林よしのり『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 新戦争論 1』幻冬舎、2015 年

（2）水木しげる

- ・『のんのんばあとオレ』筑摩書房、1990 年（初版 1977 年）
- ・『水木しげるの娘に語るお父さんの戦記』河出書房、1992 年
- ・『トペトロとの 50 年』扶桑社、1995 年
- ・『水木しげるのラバウル戦記』筑摩書房、1997 年
- ・『ねばけ人生』（新装版）筑摩書房、1999 年（初版 1982 年）
- ・『水木サンの幸福論』日本経済新聞社、2004 年
- ・『ゲゲゲの人生 わが道を行く』日本放送出版協会、2010 年
- ・『水木さんの「毎日を生きる」』角川書店、2011 年
- ・水木しげる「水木しげる出征手前手記」『新潮』2015 年 8 月号、新潮社
- ・水木しげる・岩佐陽一「水木しげるインタビュー」水木しげる『水木しげるの連合艦隊』徳

間書店、2011 年

- ・水木しげる・呉智英「幻想感覚と現実感覚 1」水木しげる（著）呉智英（編）『異界への旅 2』中央公論社、1996 年

（3）松本零士

- ・『遠く時の輪の接する処』東京書籍、2008 年

Ⅱ. 二次資料

1. 漫画作品

- ・いしいひさいち『現代思想の遭難者たち』講談社、2002 年
- ・おざわゆき『あとかたの街』（1～5 巻）講談社、2014～2015 年
- ・おざわゆき『凍りの掌 シベリア抑留記』（1～6 巻）講談社、2015 年
- ・金城模（キム・ソンモ）『マンガ嫌日流』晋遊舎、2007 年
- ・今日マチ子『あつあみの神様』集英社、2013 年
- ・今日マチ子『いちご戦争』河出書房、2014 年
- ・小泉吉宏『ブッタとシッタカブッタ 1』メディアファクトリー、2003 年
- ・こうの史代『夕風の街 桜の国』双葉社、2004 年
- ・ジョージ秋山『マンガ中国入門』飛鳥新社、2005 年
- ・鈴木みそ『僕と日本が震えた日』徳間書店、2014 年
- ・中沢啓治『はだしのゲン』（1～10 巻）汐文社、1984～1987 年
- ・竜田一人『いちえふ』（1～3）講談社、2015 年
- ・富田英三（編）『漫画ルポ穴場ニッポン』集団形星、1962 年
- ・樋口雅一『まんがキリスト教の歴史』いのちのことば社、2006 年
- ・むらかわみちお（著）西崎義展（原作）『宇宙戦艦ヤマト 2199』角川書店、2012 年
- ・山野車輪『マンガ大嫌韓流』晋遊舎、2015 年
- ・山野車輪『マンガ嫌韓流』（1～4 巻）晋遊舎、2005～2009 年
- ・山野車輪『マンガ嫌中国流』晋遊舎、2008 年

2. 著書

- ・アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店、2000 年
- ・アンヌ・モレリ（著）永田千奈（訳）『戦争プロパガンダ 10 の法則』思想社、2002 年
- ・飯島勲『小泉官邸秘録』日本経済新聞社、2006 年
- ・家永三郎『太平洋戦争』岩波書店、1967 年
- ・石子順『漫画は戦争を忘れない』新日本出版社、2016 年
- ・石坂啓『正しい戦争』集英社、1991 年
- ・茨木正治『「政治漫画」の政治分析』芦書房、1997 年
- ・茨木正治（編）『マンガジャンル・スタディーズ』臨川書店、2013 年
- ・上杉聡『脱戦争論 - 小林よしのりとの裁判を経て』東方出版、2000 年
- ・上杉聡『脱ゴーマニズム宣言 - 小林よしのりの「慰安婦」問題 新装改訂版』東方出版、2002 年
- ・エリ・ケドゥーリー『ナショナリズム 第 2 版』學文社、2003 年
- ・大江志乃夫『靖国神社』岩波書店、1984 年
- ・大塚英志『少女たちの「かわいい」天皇』角川書店、2003 年
- ・大隈重信『開國五十年史 上巻』原書房、1970 年（復刻原本明治 40 年発行）
- ・大日方純夫・山田朗他『君たちは戦争論で死ぬるか - 小林よしのり『戦争論』批判』大月書店、1998 年
- ・岡田斗司夫・FREEex『僕らの新しい道徳』朝日新聞、2013 年
- ・小熊英二『＜民主＞と＜愛国＞』新曜社、2005 年
- ・片山杜秀『近代日本の右翼思想』講談社、2007 年

- ・姜尚中『愛国の作法』朝日新聞社、2006年
- ・姜尚中『東北アジア共同の家をめざして』平凡社、2001年
- ・姜尚中『反ナショナリズム』教育史料出版会、2003年
- ・北田暁大『嗤う日本のナショナリズム』日本放送出版協会、2005年
- ・久保井規夫『日本の侵略とアジアの子供』明石書店、1996年
- ・呉智英(編)『小林よしのり論序説ゴーマニズムとは何か』出帆新社、1995年
- ・小山昌宏『戦後「日本マンガ」論争史』現代書館、2007年
- ・斎藤純一『公共性』講談社、2000年
- ・清水勲『年表 日本漫画史』臨川書店、2007年
- ・ジャクリーヌ・ベルント『マンガの国ニッポン - 日本の大衆文化・視聴文化の可能性』花伝社、2007年
- ・昭和天皇巡幸編纂委員会『昭和天皇巡幸』創芸社、2012年
- ・ジョンダ・W・ダワー（著）猿谷要（監修）斎藤元一（訳）『容赦なき戦争』平凡社、2001年
- ・世界平和研究所『中曽根内閣史 2 日々の挑戦』丸の内出版、1996年
- ・高嶋伸欣『ウソとホントの戦争論 - ゴーマニズムをのりこえる』学習の友社、1999年
- ・高橋哲哉『国家と犠牲』日本放送出版協会、2005年
- ・高橋哲哉『靖国問題』筑摩書房、2005年
- ・田久保忠衛・小森義久『反米論を撃つ』恒文社、2003年
- ・田原総一郎・西部邁・姜尚中『愛国心』講談社、2003年
- ・竹内一郎『手塚治虫＝ストーリーマンガの起源』講談社、2006年
- ・竹内オサム『戦後マンガの50年史』筑摩書房、1995年
- ・竹内オサム・西原麻里『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2016年
- ・司修『戦争と美術』岩波書店、1992年
- ・遠山茂樹・藤原彰・今井清一『昭和史』岩波書店、1959年
- ・中沢啓治『はだしのゲン わたしの遺書』朝日学生新聞社、2012年
- ・夏目房之介『マンガと「戦争」』講談社、1997年
- ・西部邁『戦争論』日本文芸社、1991年
- ・西部邁『14歳からの戦争論』ジョルダン、2009年
- ・橋川文三『昭和維新試論』朝日新聞社、1984年
- ・橋川文三『ナショナリズム』紀伊国屋書店、1994年
- ・秦郁彦『靖国神社の祭神たち』新潮社、2010年
- ・林房雄『大東亜戦争肯定論』番町書房、1970年（改訂初版）
- ・ハンナ・アレント（著）志水速雄（訳）『人間の条件』筑摩書房、1994年
- ・副田義也『現代マンガ論』日本経済新聞社、1975年
- ・富士書苑『大東亜戦争写真史』（1～8巻）富士書苑、1954年
- ・藤田東湖（著）塚本勝義（訳註）『弘道館記述義』岩波書店、1940年
- ・ベネディクト・アンダーソン（著）白石さや・白石隆（訳）『増補 想像の共同体 - ナショナリズムの起源と流行』NTT出版、
- ・堀江邦夫（文）水木しげる（絵）『福島原発の闇』朝日新聞出版、2011年
- ・前川恵司『朝日新聞元ソウル特派員が見た「慰安婦虚報」の真実』小学館、2014年
- ・丸山真男『日本の思想』岩波書店、1961年
- ・三上一夫『公武合体論の研究』お茶の水書房、1979年、144頁
- ・三島由紀夫『文化防衛論』筑摩書房、2006年
- ・水木悦子・赤塚りえ子・手塚るみ子『ゲゲゲの娘、レレレの娘、らららの娘』2010年、文芸春秋
- ・水野良太郎『漫画文化の内幕』河出書房新社、1991年

- ・溝口雄三『公私』三省堂、1996年、63頁。
- ・武良布枝『ゲゲゲの女房』実業之日本社、2010年
- ・山田朗『歴史修正主義の克服 - ゆがめられた戦争論を問う』高文研、2001年
- ・吉村和真（編）『マンガの教科書』臨川書店、2008年
- ・吉本隆明『吉本隆明全マンガ論』小学館クリエイティブ、2009年
- ・吉本隆明『超「戦争論」』（上、下）アスキーコミュニケーション、2002年
- ・吉本隆明『私の「戦争論」』筑摩書房、2002年
- ・吉本隆明・梅原猛他・中沢新一『日本人は思想したか』新潮社、1995年
- ・晋遊舎『マンガ嫌韓流公式ガイドブック』晋遊舎、2006年
- ・晋遊舎『嫌韓流 2014』晋遊舎、2014年
- ・ユルゲン・ハーバマス（著）細谷貞雄・山田正行（訳）『公共性の構造転換』（第2版）未来社、1994年
- ・四方田犬彦『漫画原論』筑摩書房、1994年
- ・リンダ・ハッチオン（著）辻麻子（訳）『パロディの理論』未来社、1993年
- ・渡邊直樹（編）『私と宗教』平凡社、2011年
- ・M・ウィリアム・スティール『もう一つの近代』ペリかん社、1998年
- ・M・ウィリアム・スティール『幕末から明治の風刺画』国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館、2012年

3. 論文

- ・浅田喬二「東アジアの『帝国』日本」『「帝国」日本とアジア』芳川弘文館、1994年
- ・岡本彰夫「崇仏と敬神の歴史と東大寺お水取りの今」『歓喜世界』250号、真如苑経学部 2016年 10月
- ・沖浦和光「神聖天皇制と民衆」『天皇の国・賤民の国』河出書房、2007年（初出『現代の理論』1989年2月）
- ・勝海舟「解難録」江藤淳（編）『勝海舟全集 1 幕末日記』講談社、1976年
- ・姜尚中『「戦争論」の虚妄』宮台真司・姜尚中他『戦争論妄想論』教育資料出版会、1999年
- ・呉智英「戦争とマンガ」夏目房之介・竹内オサム（編）『マンガ学入門』ミネルヴァ書房、2009年
- ・桐山秀樹「ゴーマニズムの原点は、密教『理趣経』にあり」呉智英（編）『小林よしのり論序説 - ゴーマニズムとは何か』出帆新社、1995年（初出「週刊現代」1993年12月18日号）
- ・呉智英「水木しげるの最高傑作は『水木しげる』である」水木しげる他『水木しげる 80の秘密』角川書店
- ・後藤乾一「『大東亜戦争』の意味」矢野暢『講座東南アジア学 10 東南アジアと日本』弘文堂、1991年
- ・西郷隆盛「私学校の二ヶ條」日本史籍協会『西郷隆盛文書』東京大学出版会、1987年
- ・庄司潤一郎「戦後の日本における歴史認識：太平洋戦争を中心として」『防衛研究所紀要』4巻3号、防衛庁、2002年3月
- ・庄司潤一郎「日本における戦争呼称に関する問題の一考察」『防衛研究所紀要』13巻3号、2013年3月
- ・高根英博「元祖ヘイト・スピーチ、小林よしのり『戦争論』」季報「唯物論研究」刊行会『季報唯物論研究』130号、2015年2月
- ・千葉眞「市民社会・市民・公共性」佐々木毅・金泰昌（編）『公共哲学 5 国家と人間と公共性』東京大学出版会、2002年
- ・趙景達「ユートピアなき世代の国家主義」『世界』656号、岩波書店、1998年12月1日
- ・中谷いづみ「ナショナリズムの語りと新自由主義：排外主義と小林よしのり『戦争論』」『社会学』42号、日本社会文学界、2015年
- ・橋川文三「国体論の連想」『橋川文三著作集 2』筑摩書房、1989年
- ・橋川文三「昭和維新の論理と心理」橋川文三・松本三之介『近代日本政治思想史Ⅱ』有斐

- ・橋川文三「昭和超国家主義の諸相」『近代日本政治思想の諸相』未来社、1968年
- ・橋川文三「反近代と近代の超克」『近代日本政治思想の諸相』未来社、1968年
閣、1970年（オンデマンド版 2004年）
- ・春山明哲「靖国神社とはなにか：資料研究の視座からの序論」国立国会図書館、2006年
- ・林雅行「自由主義史観の病理（12完）特攻を一時の感情で語る愚挙 - 小林よしのり「戦争論」批判」『統一論評』414号、統一論評新社、2000年2月
- ・福井健太「メガヒットを創る物語の力」京都精華大学情報館「KINO」Vol.01、78 - 81頁、河出書房新社、2006年4月30日。
- ・福沢諭吉「文明論の概略抄」伊藤整他（編）日本現代文学全集2『福澤諭吉・中江兆民・岡倉天心・徳富蘇峰・三宅雪嶺集』講談社、1969年
- ・藤田省三「天皇制国家の支配原理」『天皇制国家の支配原理』未来社、1973年
- ・三上一夫「福井藩『挙藩上洛計画』にみる横井小楠の『公議論』基調」日本思想史懇話会『季刊 日本思想史』No.37、ペリかん社、1991年
- ・宮崎哲弥「死とは『非意味』『非価値』なものである」小林よしのり（編）『わしズム』8号、幻冬舎、2003年9月25日
- ・宮台真司「『情の論理』を捨て、『真の論理』を構築せよ」宮台真司他『戦争論妄想論』教育史料出版会、1999年
- ・山崎行太郎「マンガ右翼・小林よしのりへの宣戦布告 - マンガで「政治」や「歴史」を語る「マンガ右翼・マンガ保守」の時代は終わった！！」『月刊日本』133号、K&Kプレス、2008年5月
- ・山崎豊子「『靖国批判』の中の北京」文藝春秋『文藝春秋に見る昭和史3』文藝春秋、1988年
- ・林建良「靖国を訴えた台湾の女性国会議員の背後関係」『正論』平成15年9月号、産経新聞社、2003年9月

4. 新聞

石橋湛山「靖国神社廃止の儀、難きを忍んで敢えて提言す」東洋経済新報 1945年10月13日号「社論」

「宗教・こころ - 吉本隆明氏に聞く（1）弓山達也氏と対談」『産経新聞』（東京夕刊・宗教面）、1995年9月5日

5. インターネット上の資料

雨宮処凛「水木しげるさんの死～なぜ「戦争反対」とは決して言いません」だったのか。の巻」『雨宮処凛がゆく！』www.magazine9.jp/article/amamiya/24461/（アクセス日：2018年5月22日）

伊吹早織「小林よしのりが立憲民主党を応援する理由【演説全文】」BuzzFeedJAPAN、2017年10月14日、<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20171014-00010005-bfj-pol>（アクセス日：2017年10月15日）

おくたま経済新聞「『おぼっちゃまくん』のDVDボックスが発売になったぶあ～～～い！うれちんこ♪」おくたま経済新聞、2013年4月17日、otakei.okutama.net/archives/2013041703.html（アクセス日：2018年1月18日）

外務省「国・地域」、「大韓民国、日韓両外相共同記者発表、平成27年12月28日」、www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/na/kr/page4_001664.html（アクセス日：2017年6月27日）

宮内庁「おことば・記者会見」、「デンマーク・スペイン・ポルトガルご訪問に際し（平成16年）」<http://www.kunaicho.go.jp/okotoba/02/gaikoku/gaikoku-h16az-europe.html>（アクセス日：2016年3月3日）

小林よしのり「BLOG あのな、教えてろか。」「共謀罪の強行採決は国柄破壊である」2017年6月14日 <https://yoshinori-kobayashi.com/13288/>（アクセス日：2017年7月24日）

さいたま市「観光・スポーツ・文化」www.city.saitama.jp/004/005/002/003/001/002/index.html（アクセス日：2017年7月16日）

佐藤丈一「自民総裁選：安倍氏、就任時の靖国参拝に含み」、毎日新聞、2012年9月15日、記事、毎日jp、
<http://web.archive.org/web/20121023131944/http://mainichi.jp/select/news/20120915k0000m010121000c.html>（アクセス日：2012年9月15日）

首相官邸「総理演説等」<http://www.kantei.go.jp/jp/koizumispeech/2001/0813danwa.html>（アクセス日：2017年5月4日）

首相官邸「追悼・平和懇談会」
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tuitou/kettei/021224houkoku.html>（アクセス日：2017年5月4日）

塚田洋「日誌 - 反日デモと日中の動き」海外立法調査室・課・外交防衛課『調査と情報』483号、2005年5月27日、国立国会図書館、19頁、
<http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/issue/0483.pdf>（アクセス日：2017年5月4日）

福沢諭吉『明治十年丁丑公論・瘦我慢の説』時事新報社、1902年、国立国会図書館近代デジタルライブラリー、コマ6／71、<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/783753/1>（アクセス日：2016年3月3日）

フジテレビ「NONFIX」<http://www.fujitv.co.jp/nonfix/library/2004/434.html>（アクセス日：2016年4月8日）

松本零士オフィシャルサイト、Profile, <http://leijimatsumoto.jp/profile>（アクセス日：2016年6月29日）

靖国神社「境内のご案内（鎮魂社）」<http://www.yasukuni.or.jp/precincts/chinreisha.html>（アクセス日：2014年7月19日）

靖国神社「境内のご案内（元宮）」<http://www.yasukuni.or.jp/precincts/motomiya.html>（アクセス日：2014年7月19日）

靖国神社「境内のご案内（靖国偕行文庫）」<http://www.yasukuni.or.jp/archives/index.html>（アクセス日：2014年7月19日）

靖国神社「祭事のご案内」<http://www.yasukuni.or.jp/schedule/mitama.html>（アクセス日：2014年7月19日）

靖国神社前掲「祭事のご案内（みたままつり）」
<http://www.yasukuni.or.jp/schedule/mitama.html>（アクセス日：2014年7月19日）

靖国神社「靖国神社について」『靖国神社』<http://www.yasukuni.or.jp/history/detail.html>（アクセス日：2014年7月19日）

靖国神社「遊就館」<http://www.yasukuni.jp/~yusyukan/>（アクセス日：2014年7月19日）

HIV 訴訟を支える会役員会「小林さんは自分から代表を降りられました」

<http://www.bekkoame.ne.jp/~yamadan/mondai/ans/sg04.html> (アクセス日：2012 年 5 月 1 日)

MdN Design Interactive 特集記事、取材・文：草野恵子 <http://www.mdn.co.jp/di/articles/2806/> (アクセス日：2016 年 6 月 29 日)

NHK 戦争証言アーカイブス「証言」所収「水木しげるさん」

http://cgi2.nhk.or.jp/shogenarchives/shogen/movie.cgi?das_id=D0001130006_00000、(アクセス日：2014 年 4 月 8 日)。

NHK 戦争証言アーカイブス「澤邊邦雄さん」

http://cgi2.nhk.or.jp/shogenarchives/shogen/movie.cgi?das_id=D0001100607_00000、(アクセス日：2014 年 4 月 8 日)。

NHK 戦争証言アーカイブス「山口政七さん」

http://cgi2.nhk.or.jp/shogenarchives/shogen/movie.cgi?das_id=D0001100560_00000、(アクセス日：2014 年 4 月 8 日)。

「シナ（中国）人による日本人捕虜の残虐処刑（1996CNN※拡散）」

https://www.youtube.com/watch?v=0WZ7wXzh8z0&oref=https%3A%2F%2Fwww.youtube.com%2F&has_verified=1 (アクセス日：2014 年 8 月 16 日)

6. その他

- ・岩佐陽一「解説 鬼太郎のベトナム戦記」水木しげる『鬼太郎のベトナム戦記』徳間書店、2010 年
- ・岩佐陽一「『鬼太郎のベトナム戦記』原作者水木しげる氏インタビュー『いまから考えると、ねェ？』」水木しげる『鬼太郎のベトナム戦記』徳間書店、2010 年
- ・大久保利通「大久保利通の大阪遷都建白書」大久保利謙（編）『近代史資料』、吉川弘文館、1965 年
- ・大久保利通「薩藩の出兵倒幕」（大久保利通書翰 蓑田伝兵衛宛て）大久保利謙（編）『近代史資料』、吉川弘文館、1965 年
- ・大久保利通「明治 10（1877）年 2 月 7 日付伊東博文宛の書翰」大久保利謙（編）『近代史資料』、吉川弘文館、1965 年
- ・北井亮「偉大なる平凡人」小林よしのり『ゴー宣・暫 1』小学館、2002 年
- ・国立国会図書館調査立法考査局『靖国神社資料集』国立国会図書館、1976 年
- ・高光一也「20 イナンジョンの戦」陸軍省報道部監修『大東亞戦異争陸軍作戦記録畫 解説』陸軍美術協會 1943 年
- ・武士田忠「『桃太郎』解説」齋藤五百枝画・千葉幹夫文『桃太郎』講談社、2001 年
- ・谷萩那華雄、無題、陸軍省報道部監修『大東亞戦異争陸軍作戦記録畫 解説』陸軍美術協會、1943 年、2 - 3 頁
- ・全国出版協会出版科学研究所『出版指標年報 2016 年版』全国出版協会出版科学研究所、2016 年
- ・明治 9（1876）年 1 月付「評論新聞」第六七号掲載「日本帝国ニ二大政党アリテ両立セサルノ論」大久保利謙（編）『近代史資料』、吉川弘文館、1965 年

外国語文献

著書

Mosse, George L *Fallen Soldiers*. New York: Oxford University Press, 1990. (邦訳: ジョージ・L・モッセ著・宮武実知子訳『英霊』柏書房、2002年)

論文

Fred Halliday 'Nationalism' John Baylis and Steve Smith "The Globalization of World Politics" Oxford University Press, 2001. p.p.521 - 538

Homma Mitsunori. *Political Pathology and Japanese War Guilt: Debate over the Shōwa Tennō*. Master Thesis, Minamiuonuma: International University of Japan, 2010.

Roman Rosenbaum 'Introduction' "Manga and The Representation of Japanese History" pp.1 - 17, Oxford: Routledge, 2013

Shibuichi, Daiki. "The Yasukuni Shrine Dispute and The Politics of Identity in Japan: Why All the Fuss?" *Asian Survey Vol. XLV, No.2, March/April 2005* (University of California), 2005: pp.197 - 215

Shields, James Mark. "'Land of kami, land of the dead' Paligenesis and the aesthetics of religious revisionism in Kobayashi Yoshinori's 'Neo - Gomanist Manifesto: On Yasukuni'." In *Manga and the Representation of Japanese History*, by Roman Rosenbaum, pp.189 - 216. Oxford: Routledge, 2013

新聞

Howard W. French "Japan's Resurgent Far Right Tinkers With History" *New York Times*, 2001年3月25日

Robert Sibley "Nothing stand still: Advance reading offsets romantic images of Japan: [Final Edition]," *The Ottawa Citizen*, Eggheads & Intelligentsia, 2004年8月22日

インターネット上の資料

Matthew Penney "Abe and History – The Kobayashi Yoshinori Interview 安倍晋三の歴史認識 - 小林よしのりとの対談" *The Asia - Pacific Journal: Japan Focus*, 2013年6月3日、<https://apjif.org/-Matthew-Penney/4760/article.html> (アクセス日: 2018年4月5日)

Rumi Sakamoto, Will you go to war? Or will you stop being Japanese?: nationalism and history in Kobayashi Yoshinori's *Sensoron*, Rev6 頁 *The Asia - Pacific Journal: Japan Focus*, 2008年1月1日、<https://apjif.org/-Rumi-SAKAMOTO/2632/article.html> (アクセス日: 2018年6月日)

U. S. Department of State "Foreign Terrorist Organizations"
<https://www.state.gov/j/ct/rls/other/des/123085.htm> (アクセス日: 2016年5月7日)

胡楠「日本右翼漫画家痛批安倍拜鬼: 简直让人哭笑不得」中国新闻网、2014年2月8日、www.chinanews.com/hb/2014/02-08/5813294.shtml (アクセス日: 2018年5月28日)

あとがき

本論文の完成までに千葉眞特任教授、ウィリアム・スティール名誉教授、ツベタナ・クリステワ教授、菊池秀明教授、また大学院事務グループの渡辺千里氏をはじめ職員の方々には、各氏各様なかたちで心労をおかけしたことを特に記し謝辞に代えたい。ひとえに筆者の不徳に発するところである。

審査に当られた教授方の見解と筆者の意見は必ずしも一致した訳ではない。無論、筆者の意見は国際基督教大学の見解ではなく、本稿内容の責任は筆者一人に帰す。

教授方からは主に次のような御意見を頂戴した。即ち、読者に二者択一を迫る小林のやり方に未来はあるのか、小林の思想には戦前の君臣関係が残っているのではないか、流動的な小林の意見は思想と言えるのか、吉本隆明は麻原彰晃を評価していない、水木しげるは戦争反対である、というものである。

本稿は研究の特性上、小林よしのり氏、水木しげる氏、松本零士氏、山野車輪氏他漫画家各氏による作品からの引用と先行諸研究の批判で成立しており、漫画家各氏、各著作者の業績を抜きにして成立し得ない。あらためて敬意を表したい。尚、本文中では漫画家各氏も研究対象として敬称を省略させて頂いた。

執筆にあたり、スティール先生には貴重なコレクション画像の使用を快諾頂いた。株式会社幻冬舎、株式会社水木プロダクションには、其々問い合わせに対し丁寧な回答を頂いた。会津若松市立会津図書館に於かれては、資料撮影を快諾、撮影場所まで提供頂いた。Museum of World War Two Boston には複数の詳細画像を提供頂いた。また、筆者が修士課程で在学した国際大学大学院・松下図書館に引き続き調査研究に協力頂いていることは感謝に堪えない。

最後に誠に残念なことだが、本稿執筆中の2015年11月、水木しげる氏が他界された。末筆ながら謹んで追悼の意を表したい。合掌

2018（平成30）年6月8日
本間光徳